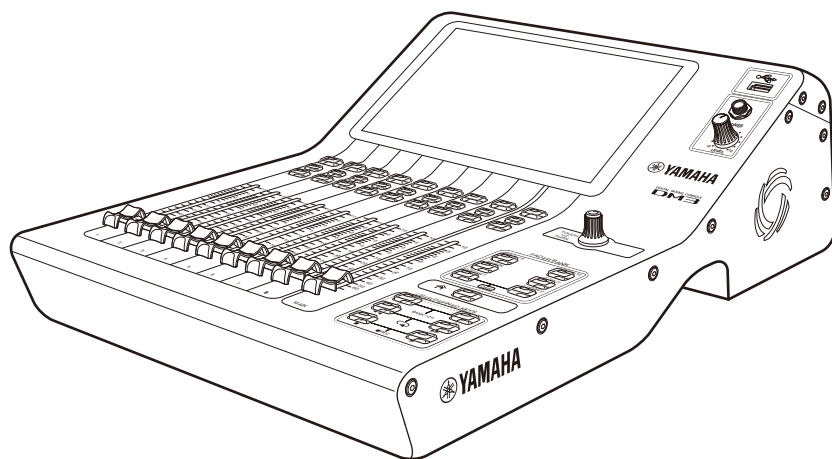




デジタルミキシングコンソール

DM3 DM3 STANDARD (DM3S)



リファレンスマニュアル

JA

目次

はじめに 11

製品について	11
マニュアルの構成について	12
表記について	13
ユーティリティソフトウェアの構成について	14
ファームウェアのアップデート	15
商標	16

各部の名称と機能 17

トップパネル	17
トップパネルの概要	17
ディスプレイと[TOUCH AND TURN]ノブ	19
チャンネルストリップセクション	20
[MAIN] (メイン) セクション	21
[FADER BANK] (フェーダーバンク) セクション	22
[USER DEFINED KEYS] (ユーザーディファインドキー) セクション	23
[HOME]キー	24
[PHONES] (ヘッドホン) セクション	25
USB端子	26
リアパネル	27
サイドパネル	30

接続 31

アナログ接続	31
アナログ入力の接続	31
アナログ出力の接続	33

Danteネットワーク接続	34
I/Oデバイスとの接続	34
DanteのAuto Setup機能について	35
デジチェーン接続	36
スター接続	38
リダンダント接続	40

画面の概要 **43**

画面の見方	43
画面の基本操作	45
画面の共通操作	48
メニュー	48
SOFT KEYBOARD画面	50
ボタン/スライダの操作	52

画面の機能と名称 **55**

ツールバー	55
SCENE画面	57
SCENE画面	57
SCENE EDIT画面	60
FADE TIME画面	61
METER画面	63
RECORDER画面	67
RECORDER (TITLE LIST) 画面	67
RECORDER (INPUT/OUTPUT) 画面	72
RECORDER PATCH画面	74
PLAYBACK PATCH画面	75
MONITOR画面	77
MONITOR (CUE/MONITOR) 画面	77
MONITOR (OSCILLATOR) 画面	80

SETUP画面	83
SETUP画面	83
USER DEFINED KEYS画面	86
SAVE/LOAD画面	89
LOAD SELECT画面	92
PREFERENCE画面	94
CUSTOM FADER BANK画面	101
MIDI (Setup) 画面	103
MIDI (Program Change) 画面	105
MIDI (Control Change) 画面	108
WORD CLOCK画面	111
RECALL SAFE画面	113
BUS SETUP画面	115
MUTE GROUP ASSIGN画面	117
PATCH画面	119
DANTE (Setup) 画面 (DM3のみ)	121
DANTE PATCH画面	124
DANTE PATCH LIBRARY画面	126
DANTE AUTO SETUP画面	131
DANTE (I/O Device)画面	134
CH LINK画面	136
CH LINK SET画面	139
BRIGHTNESS画面	140
NETWORK (For Mixer Control) 画面	142
NETWORK (For Device Control) 画面 (DM3のみ)	144
TIME画面	146
LOG画面	148
ABOUT画面	149
CONSOLE LOCK画面	151
LOGIN画面	152
LOGIN画面	152
CONSOLE LOCK画面	155
USER ACCOUNT画面	156
ACCESS PERMISSION画面	158

HOME画面	159
<hr/>	
HOME画面について	159
SELECTED CHANNELセクション	162
SELECTED CHANNELセクションについて	162
CH1-16、ST IN、FX RTN1-2	163
FX BUS1-2	165
MIX1-6	166
MATRIX1-2	168
ST L/R	170
CH STRIPセクション	172
CH Stripセクションについて	172
CH1-16、ST IN、FX RTN1-2	173
FX BUS1-2	175
MIX1-6、MATRIX1-2	176
ST L/R	177
FADERセクション	178
DAW REMOTE画面	179
<hr/>	
DAW REMOTE画面について	179
チャンネル専用画面	183
<hr/>	
INPUT画面	183
INPUT CH PATCH画面	188
EQ画面	190
DYN1 (GATE/DUCKING) 画面	196
DYN2 (COMP) 画面	199
DELAY画面	202
FX画面	204
EFFECT TYPE画面	207
SEND TO画面	208
ASSIGN画面	210

CH VIEW画面	212
CH VIEW画面について	212
CH1-16、ST IN、FX RTN1-2	214
MIX1-6	217
FX BUS1-2	219
MATRIX1-2	221
STEREO	223
CH NAME画面	225
GEQ画面	227
OUTPUT画面	230
OUTPUT CH PATCH画面	233
SEND FROM画面	235
ライブラリー画面	238
その他の固定表示エリア	243
<hr/>	
SENDS ON FADERエリア	243
ADMINエリア	245
CHANNEL NAMEエリア	246
メンテナンス画面	248
<hr/>	
メンテナンス画面について	248
Initialize All Memory画面	249
Initialize Current Memory画面	251
Initialize Dante画面 (DM3のみ)	252
Input Port Trim画面	253
Output Port Trim画面	254
Fader Calibration画面	255

画面の操作	256
SCENE画面	256
シーンを保存する	256
シーンを呼び出す	258
シーンを編集する	259
シーンのフェードタイムを設定する	260
RECORDER画面	263
録音の入力を設定する	263
録音する	265
USBストレージの再生	266
再生の出力を設定する	267
MONITOR画面	268
CUEの音声をチェックする	268
MONITORの音声をチェックする	269
オシレーターを設定する	271
SETUP画面	273
[USER DEFINED KEYS]に機能を割り当てる	273
CUSTOM FADER BANKを設定する	275
CUSTOM FADER BANKを呼び出す	276
入出力のパッチ	277
チャンネルのリンクを設定する	278
リコールセーフ機能を使う	279
ミュートグループに割り当てるチャンネルを選ぶ	281
LOGIN画面	283
ゲストユーザーにアクセス制限をかける	283
HOME画面	284
チャンネルの設定をコピーして他のチャンネルにペーストする	284
DAW REMOTE画面	288
USB MIDIのポートを設定する	288

チャンネル専用画面	289
マニュアルモードでEQを操作する	289
1-knobモードでEQを操作する	291
HPFを設定する	294
GATE/DUCKINGを設定する	295
マニュアルモードでコンプレッサーを操作する	296
1-knobモードでコンプレッサーを操作する	297
エフェクトを設定する	298
MIX/MATRIX BUSへの送り量を設定する	300
FX BUSへの送り量を設定する	302
フェーダーでFX/MIX/MATRIX BUSへの送りを操作する	304
GEQを使う	305
フェーダーでGEQを操作する	306
ミュートセーフを設定する	307
アウトプットチャンネル (MIX、STEREO) からMATRIXへのセンドレベル設定をする	308
プリセットをリコールする	309
プリセットを編集する	310
メンテナンス画面	311
メンテナンス画面の表示と操作のしかた	311
フェーダーを調整する	312
再調整が必要なフェーダーが見つかった場合の対処方法	314

DM3 Editor **315**

DM3 Editorについて	315
Editorの各部の名称	316
メニューバー	318
Fileメニュー	318
Manage Library/Scene画面	320
Ch Names画面	323
Setupメニュー	326
Windowメニュー	328
Helpメニュー	329

Editorのエリア	330
HOME/LIBRARY/CH NAMESエリア	330
CONNECTエリア	331
FADER BANKエリア	332
FXエリア	333
MUTEエリア	334
MENUエリア	335
SENDS ON FADERエリア	336
CH STRIPエリア	337
MAIN/FX RTN/ST IN STRIPエリア	339

Editorの操作 **340**

Editorの操作概要	340
Editorの起動時の操作	341
Editorと本体の同期	342
Editorのオフラインエディット機能	345

付録 **346**

パラメーター	346
SAVE/LOADの対象データ	346
USER DEFINED KEYSに割り当てられる機能	348
コントロールチェンジにアサインできるパラメーターリスト	351
エフェクトパラメーター	352
Dante Auto Setupの対応モデル	360
Dante Auto Setupのパッチ	361
入出力パッチの初期値	364
解説	365
Danteについて	365
1-knob EQモードの仕組み	367
1-knob COMPモードの仕組み	368
Port to Port機能について	369

資料	370
製品仕様	370
メッセージ一覧	376
トラブルシューティング	381
MIDIデータフォーマット	382
チャンネルネームに使用できる言語	384
DM3 Editorショートカットキー	385
データリスト	387
ブロックダイアグラム	388

はじめに

製品について

DM3シリーズの違いについて

DM3はDanteオーディオネットワークに対応しています。DM3 STANDARDはスタンドアローンでのみ使用できます。

お知らせ

イラストは特にことわりがない場合、DM3のものを使用しています。

使用対象者

本製品は、ホールやイベントのPAシステムでミキシング操作ができる方を対象としています。

使用目的

本製品は、バンドによる生演奏やコーポレートイベント、音楽制作で複数の音源ソースをミキシングするために使用します。

マニュアルの構成について

DM3シリーズのマニュアルは、ヤマハプロオーディオのウェブサイトからPDF形式でダウンロードできます。HTML形式のマニュアルを閲覧することもできます。

<https://www.yamahaproaudio.com/>

■ 取扱説明書

主にパネル上の各部の名称と基本的な操作について説明しています。

■ DM3シリーズリファレンスマニュアル（本書）

主に機能の詳細や応用的な操作について説明しています。また、本体の設定や操作をコンピュータ上で行うソフトウェア（DM3 Editor）の操作について説明しています。

<https://manual.yamaha.com/pa/mixers/dm3/rm/>

■ DM3 Editorインストールガイド

DM3 Editorのインストール手順について説明しています。

<https://manual.yamaha.com/pa/mixers/dm3/ig/>

■ DM3 StageMixユーザーガイド

DM3シリーズをワイヤレスコントロールするiPad アプリケーションについて説明しています。

<https://manual.yamaha.com/pa/mixers/dm3/ug/>

表記について

- DM3シリーズのリファレンスマニュアルでは、パネル上にあるスイッチ類を“キー”と呼びます。また、パネル上のコントロールノブは、すべて“ノブ”と呼んでいます。ノブには、最小値から最大値まで回転するものと、エンドレスで回転するものがあります。
- ディスプレイ上に表示される仮想のボタンは“ボタン”、ノブ類は“ノブ”と呼んでいます。パネル上の操作子は、画面内に表示される仮想のボタンやノブ類と区別するために、名称を[]でくくって表記します（例：[CUE]キー）。操作子によっては、[]の前にセクション名などを表記する場合があります（例：USER DEFINED KEYS [A]キー）。

ユーティリティーソフトウェアの構成について

DM3シリーズには、各種ユーティリティーソフトウェアが用意されています。ソフトウェアの詳しい情報については、ヤマハプロオーディオのウェブサイトに掲載されています。

<https://www.yamahaproaudio.com/>

ダウンロードの方法やインストール、詳しい設定などについては、上記ウェブサイトやダウンロードしたプログラムのインストールガイドをご参照ください。

■ DM3 Editor

本体の設定や操作をコンピューター上で行うソフトウェアです。本体設定のバックアップや、本体がない場所でのセットアップも行えます。

■ DM3 StageMix

DM3シリーズのシステムをワイヤレスコントロールするiPadアプリケーションです。ミキシングエンジニアはステージ上の演奏者のポジションなど、システムから離れたところで直接パラメーターを操作できるようになります。

■ DM3 MonitorMix

DM3シリーズのMIXセンドをワイヤレスコントロールするスマートデバイス向けのソフトウェアです。

■ Yamaha Steinberg USB Driver

DM3シリーズとコンピューターを接続するためのドライバーソフトウェアです。最大18イン/18アウトのオーディオ信号を、DAWソフトウェアとやり取りしたり、DAWソフトウェアをリモートコントロールします。

■ ProVisionaire Control

設置環境や運用方法にあわせたコントロールパネルの作成と、機器のリモートコントロールが可能なWindows用ソフトウェアです。

■ ProVisionaire Touch

設置環境や運用方法にあわせたコントロールパネルの作成と、機器のリモートコントロールが可能なiPadアプリケーションです。

ファームウェアのアップデート

DM3シリーズは、操作性向上や機能の追加、不具合の修正のために、本体のファームウェアをアップデートできる仕様になっています。

ファームウェアのアップデートに関する情報は、下記ウェブサイトに掲載されています。

<https://www.yamahaproaudio.com/>

アップデートの手順や本体の設定については、ウェブサイトを用意されているファームウェアアップデートガイドをご参照ください。

商標

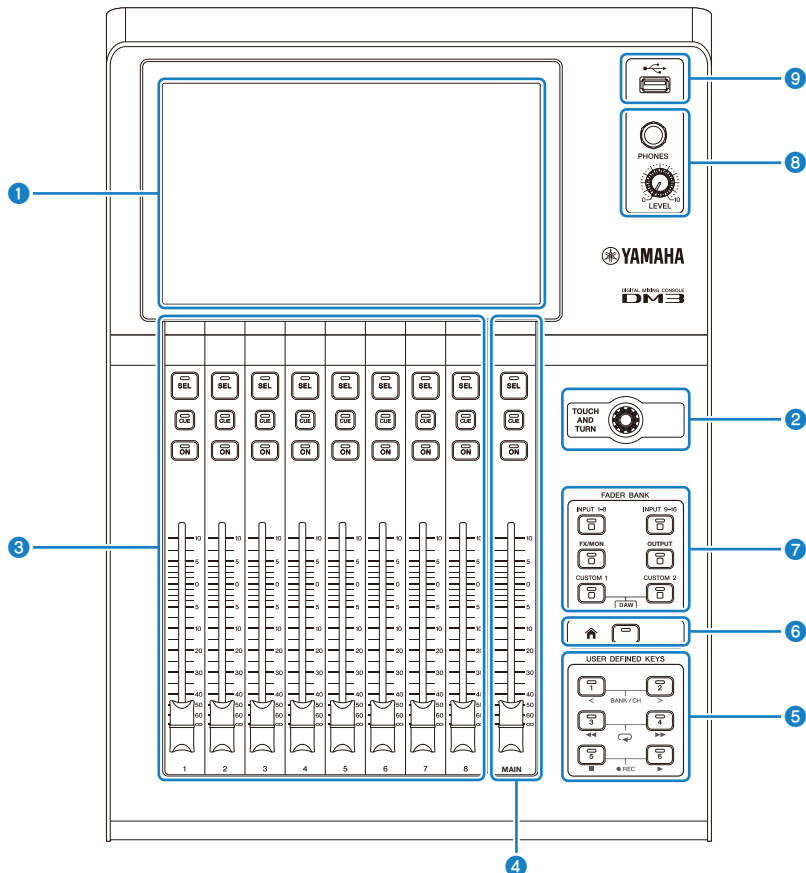
- 本説明に掲載されているイラストや画面は、すべて説明のためのものです。
- ソフトウェアおよび本説明を使用した結果とその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Mac、iPadは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- Mackie ControlおよびHUIは、LOUD Technologies Inc.の登録商標または商標です。
- 本説明に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
- DynaFontは、DynaComware Taiwan Inc.の登録商標です。

各部の名称と機能

トップパネル

トップパネルの概要

DM3シリーズのトップパネルの機能と名称について説明します。



1 ディスプレイ

ディスプレイの表示を直接タッチして操作します。(19ページ)

2 [TOUCH AND TURN] (タッチアンドターン) ノブ

選択されたパラメーターを調節するときに使用します。(19ページ)

③ チャンネルストリップセクション

従来のアナログミキサーのチャンネルモジュールに相当する部分です。現在選ばれているチャンネルの主要なパラメーターを操作します。(20ページ)

④ [MAIN] (メイン) セクション

主にSTEREOチャンネルのパラメーターを操作するセクションです。(21ページ)

⑤ [USER DEFINED KEYS] (ユーザーディファインドキー) セクション

任意に割り当てた機能を操作するキーです。タップテンポやブックマークなど、いくつかのよく使用する機能は初期設定で割り当てられています。(23ページ)

⑥ [HOME]キー

HOME画面に戻ります。(24ページ)

⑦ [FADER BANK] (フェーダーバンク) セクション

パネル上のフェーダー割り当てを切り替えます。(22ページ)

⑧ [PHONES] (ヘッドホン) セクション

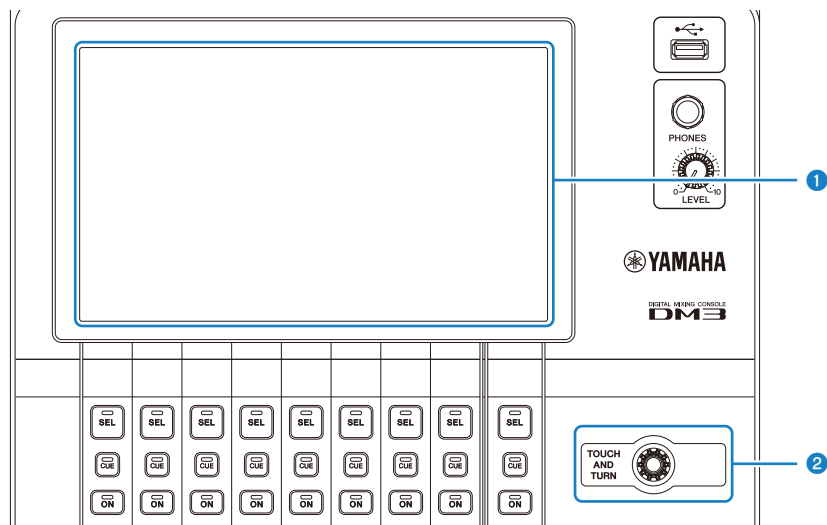
MONITORセレクトで選択された信号、またはCUE信号をヘッドホンでモニターします。(25ページ)

⑨ USB端子

USBストレージデバイスを接続するための端子です。(26ページ)

ディスプレイと[TOUCH AND TURN]ノブ

ディスプレイの表示を直接タッチして操作します。[TOUCH AND TURN]ノブを使って、パラメーターを直感的に操作できます。



① ディスプレイ

画面をタッチ/ダブルタッチするほか、スライド、スワイプ、ピンチイン/ピンチアウトの操作ができます。

② [TOUCH AND TURN] (タッチアンドターン) ノブ

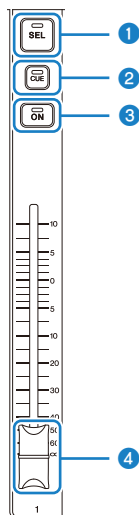
ディスプレイで選択したパラメーターを操作します。

関連リンク

「画面の基本操作」 (45ページ)

チャンネルストリップセクション

チャンネルストリップセクションは、従来のアナログミキサーのチャンネルモジュールに相当する部分で、現在選ばれているチャンネルの主要なパラメーターを操作します。CUSTOM FADER BANK画面で割り当てるチャンネルをカスタマイズできます。



① [SEL]キー

操作するチャンネルを選ぶキーです。このキーを押して点灯させると、そのチャンネルがディスプレイで操作対象として選ばれます。ステレオのチャンネルでは、[SEL]キーを押すたびにL/Rのチャンネルが交互に選ばれます。

② [CUE]キー

CUEでモニターするチャンネルを選ぶキーです。CUEがオンのときに点灯します。

③ [ON]キー

チャンネルのオン/オフを切り替えます。オンのチャンネルは、キーが点灯します。SENDS ON FADERモードでは、そのチャンネルから現在選ばれているMIX BUS、FX BUS、MATRIX BUSに送られる信号のオン/オフを切り替えます。

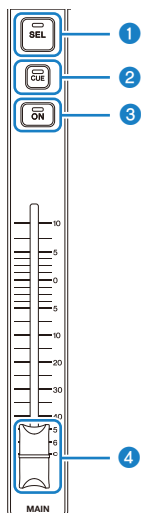
④ フェーダー

チャンネルの信号レベルを調節します。SENDS ON FADERモードでは、そのチャンネルから現在選ばれているMIX BUS、FX BUS、MATRIX BUSへのセンドレベルを調節します。

[MAIN] (メイン) セクション

[MAIN]セクションは、主にSTEREOチャンネルのパラメーターを操作するセクションです。CUSTOM FADER BANK画面で、割り当てるチャンネルをカスタマイズできます。

通常のFADER BANK、またはMAINが割り当てられたCUSTOM FADER BANKを使用する場合、SENDS ON FADERモードではSEND MAINを操作します。



① [SEL]キー

STEREOチャンネルを操作対象として選ぶキーです。[SEL]キーを押すたびに、操作の対象としてL/Rのチャンネルが交互に選ばれます。

② [CUE]キー

STEREOチャンネルをCUEでモニターするためのキーです。CUEがオンのときに、LEDが点灯します。

③ [ON]キー

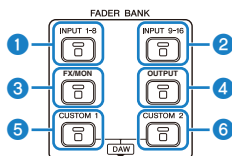
STEREOチャンネルのオン/オフを切り替えます。オンのときは、キーが点灯します。SEND MAINとして動作する場合、SENDS ON FADERモードでは、送り先のバスのオン/オフを切り替えます。

④ フェーダー

STEREOチャンネルの出力レベルを調節します。SEND MAINとして動作する場合、SENDS ON FADERモードでは、送り先のバスへのセンドレベルを調節します。

[FADER BANK] (フェーダーバンク) セクション

[FADER BANK]セクションでは、パネル上のフェーダー割り当てを切り替えます。選択中のキーが点灯します。



1 [INPUT 1-8]キー

チャンネルストリップセクションにINPUT 1-8のチャンネルが表示されます。

2 [INPUT 9-16]キー

チャンネルストリップセクションにINPUT 9-16のチャンネルが表示されます。

3 [FX/MON]キー

チャンネルストリップセクションにST IN、FX RTN 1-2、FX 1-2、MONITOR、STEREOが表示されます。

4 [OUTPUT]キー

チャンネルストリップセクションにMIX 1-6、MATRIX 1-2のチャンネルが表示されます。

5 [CUSTOM 1]キー

6 [CUSTOM 2]キー

チャンネルストリップセクションと [MAIN]セクションにCUSTOM FADER BANKが表示されません。

[CUSTOM 1]キーと[CUSTOM 2]キーを同時に押すと、パネル上のフェーダー割り当てが DAW REMOTE BANKに切り替わり、DAW REMOTE画面がディスプレイに表示されます。チャンネルストリップセクションや[USER DEFINED KEYS]を使用して、DAWソフトウェアをリモート制御できます。

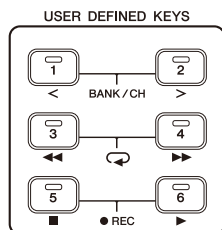
関連リンク

- ・「CUSTOM FADER BANK画面」 (101ページ)
- ・「CUSTOM FADER BANKを設定する」 (275ページ)
- ・「CUSTOM FADER BANKを呼び出す」 (276ページ)
- ・「DAW REMOTE画面について」 (179ページ)
- ・「USB MIDIのポートを設定する」 (288ページ)

[USER DEFINED KEYS] (ユーザーディファインドキー) セクション

任意に割り当てた機能を実行するキーです。

タップテンポやブックマークなど、よく使用する機能は初期設定で割り当てられています。



お知らせ

- [FADER BANK]セクションでDAW REMOTE BANKを選択した場合は、DAW REMOTE BANKの機能が固定で割り当てられます。
- DAW REMOTE BANKを選択するには、[FADER BANK]セクションで[CUSTOM 1]キーと[CUSTOM 2]キーを同時に押します。

関連リンク

- 「USER DEFINED KEYS画面」 (86ページ)
- 「[USER DEFINED KEYS]に機能を割り当てる」 (273ページ)

[HOME]キー

[HOME]キーを押すと、ディスプレイがトップのホーム画面に戻ります。



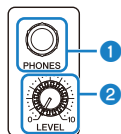
ホーム画面で[HOME]キーを押すと、PREFERENCE画面のKey Functionで設定されている内容で表示が切り替わります。

関連リンク

- 「HOME画面について」 (159ページ)
- 「PREFERENCE画面」 (94ページ)

[PHONES] (ヘッドホン) セクション

MONITORセレクトで選択された信号、またはCUE信号をヘッドホンでモニターできます。



① [PHONES]端子

ヘッドホンを挿入する端子です。

② [LEVEL]ノブ

[PHONES]端子から出力される信号のレベルを調節します。

USB端子

USB端子は、USBストレージデバイスを接続するための端子です。



DM3の内部データの保存や読み込みに使用するほか、USBストレージデバイスに保存されているオーディオファイルを再生したり、ミキサーの出力をオーディオファイルとして録音できます。

お知らせ

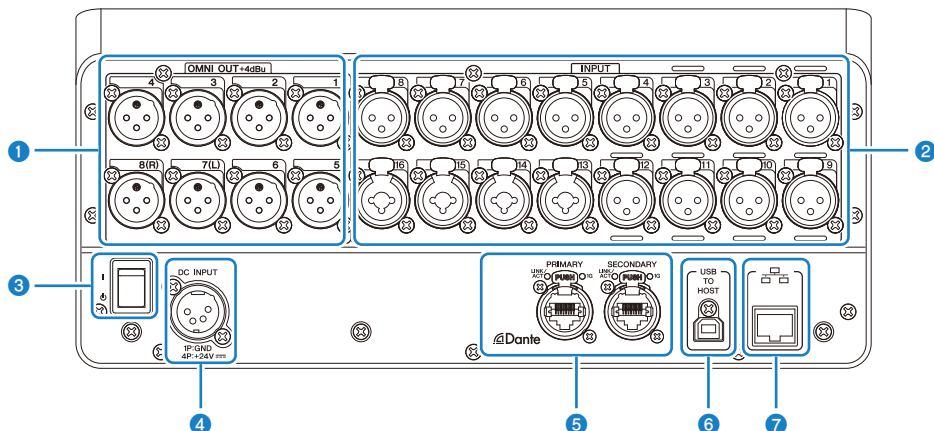
- サポートしているフォーマット形式は、FAT32です。
- セーブ/ロード/デリートなどデータのアクセス中は、画面の上部にACCESSインジケータが表示されます。表示中は、USBストレージデバイスを抜いたり、本体の電源を切ったりしないでください。USBストレージデバイスがこわれたり、本体やUSBストレージデバイス内のデータがこわれたりするおそれがあります。
- USBストレージデバイスには、誤ってデータを消してしまわないようにするため、ライトプロテクトできるものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にセーブする場面などは、お使いの前にUSBストレージデバイスのライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。
- USBストレージデバイスを取り外す際は、ツールバーのUSBストレージ取り外しボタンをタッチしてください。取り外しのメッセージが表示されてからUSBストレージデバイスを取り外してください。

関連リンク

- 「ツールバー」 (55ページ)
- 「RECORDER画面」 (67ページ)
- 「SAVE/LOAD画面」 (89ページ)

リアパネル

DM3シリーズのリアパネルの機能と名称について説明します。



① [OMNI OUT]端子

アナログ音声信号を出力するXLR-32タイプの出力端子です。主にMIXチャンネルとSTEREOチャンネルの信号を出力するのに使用します。

② [INPUT]端子

マイクや楽器を接続します。

• 1～12:

XLR-31タイプの入力端子です。

• 13～16:

XLRタイプ、TRSフォーンタイプの両プラグに対応したコンボ端子です。

③ 電源スイッチ

スイッチが (|) 上の場合、電源がオンになります。

スイッチが (⊖) の場合、電源がスタンバイになります。

ご注意

- 電源スイッチは、最後の操作後10秒以上経過してからスタンバイにしてください。本製品は、スタンバイ直前の状態を保存し、電源オンのときに再現します。
- 電源スイッチをスタンバイにしてから再度オンにする場合は、6秒以上の間隔を空けてください。連続して電源スイッチのオン/オフをすると、誤動作の原因になることがあります。

4 [DC INPUT]端子

付属の電源アダプターを接続します。まず本製品と電源アダプターを接続し、次に電源プラグをコンセントに差し込みます。



警告

- 電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードをほかの製品に使用しないでください。故障、発熱、火災などの原因になります。付属の電源コードは日本国内専用(125V まで)です。



注意

- 電源コードを接続したり、取り外す前に必ず電源スイッチをスタンバイにしてください。
- 電源を切った状態(電源がスタンバイの状態)でも微電流が流れています。本製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

5 Dante PRIMARY/SECONDARY端子 (DM3のみ)

Tio1608-DなどのI/Oデバイスをはじめ、Danteオーディオネットワークと接続するための端子です。コネクタはNeutrik社製etherCON CAT5eと適合するRJ-45コネクタをお使いください。

ご注意

- 電磁干渉防止のためには、STP (Shielded Twisted Pair) ケーブル(シールド付きツイストペアケーブル)をお使いください。STPケーブルは、コネクタの金属部分とケーブルのシールド部分を導電テープなどで確実に接触させてください。

お知らせ

Dante ネットワーク内では、ネットワークスイッチのEEE機能(*)を使用しないでください。EEE機能に対応したスイッチ間では、消費電力の相互設定が自動で調整されますが、相互設定の調整が正しく機能しないスイッチもあります。これにより、Dante ネットワーク内の不適切な場面でスイッチのEEE機能が有効になってしまう可能性があり、クロック同期性能が悪化して音声途切れる場合があります。そのため、以下の点にご注意ください。

- マネージドスイッチを使用する場合、Dante を使用するすべてのポートのEEE機能をオフにしてください。EEE機能がオフにできないスイッチは使用しないでください。
- アンマネージドスイッチを使用する場合、EEE機能に対応したスイッチを使用しないでください。これらのスイッチはEEE機能をオフにできません。

*EEE (Energy Efficient Ethernet) 機能: ネットワークのトラフィックが少ないときにイーサネット機器の消費電力を減らす技術。グリーンイーサネットや IEEE802.3az とも呼ばれます。

6 [USB TO HOST]端子

USBタイプBの端子です。

USBケーブルでコンピューターと接続することで、最大18 イン/18 アウト、96 kHz/32ビットのオーディオインターフェースとして機能します。また、USB-MIDIによるDM3シリーズのコントロールと、DAWソフトウェアのリモートコントロールができます。

コンピューターとの通信にはYamaha Steinberg USB Driverのインストールが必要です。

ご注意

- USBケーブルは、3m未満のものをご使用ください。
- USBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けて行ってください。

7 ネットワーク端子

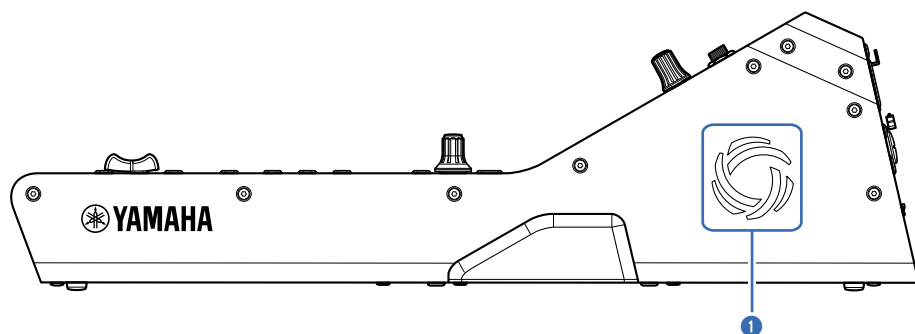
イーサネットケーブル（CAT5e以上を推奨）を使用して、コンピューターと接続するRJ-45端子です。

ご注意

- 電磁干渉防止のためには、STP（Shielded Twisted Pair）ケーブル（シールド付きツイストペアケーブル）をお使いください。

サイドパネル

DM3シリーズのサイドパネルの機能と名称について説明します。



① 通風孔

内部の温度上昇を防ぐために冷却用ファンが装備されています。本体内部の温度が高くなると、ファンが自動で回転します。通風孔は、左右両方にあります。



注意

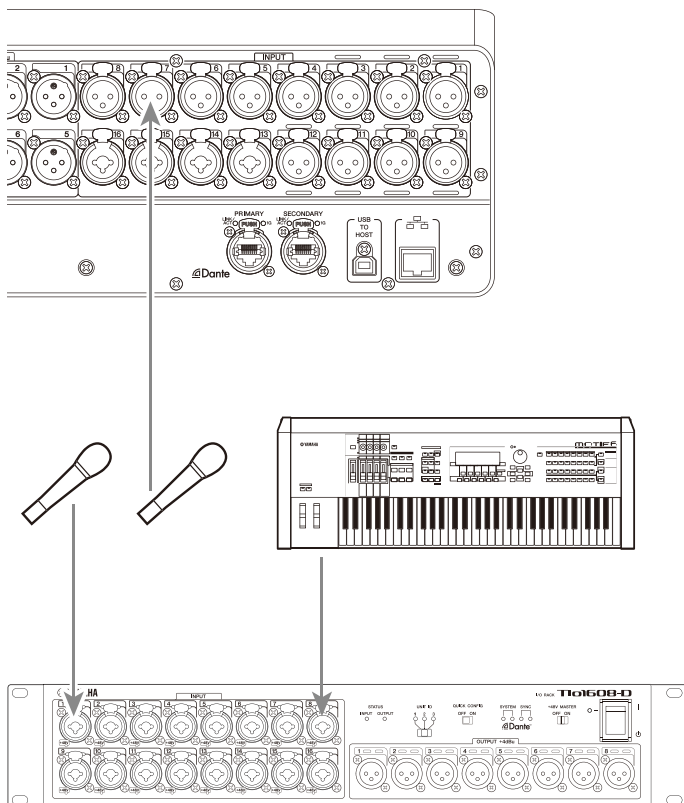
本製品の通風孔（放熱用スリット）をふさがないでください。通風孔をふさぐと、製品内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。

接続

アナログ接続

アナログ入力の接続

DM3シリーズやI/OデバイスのINPUT端子には、主にマイクやラインレベル機器を接続します。



Tio1608-D

パッチを切り替えるには、SETUP画面→PATCH画面で設定します。INPUT画面→INPUT CH PATCH画面からもパッチを切り替えられます。

接続 > アナログ接続

関連リンク

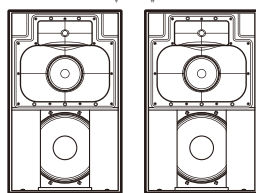
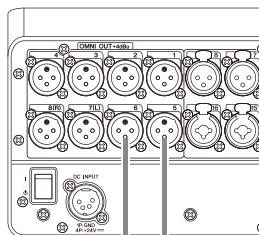
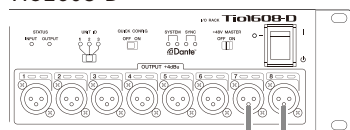
- 「PATCH画面」 (119ページ)
- 「INPUT CH PATCH画面」 (188ページ)
- 「入出力パッチの初期値」 (364ページ)

アナログ出力の接続

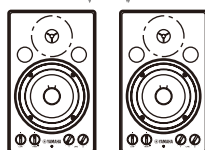
DM3シリーズのOMNI OUT端子とI/OデバイスのOUTPUT端子には、アウトプット系チャンネル（MIX、MATRIX、STEREO(L/R)）の出力信号、モニター信号（MONITOR OUT L/Rチャンネル）、INPUTチャンネルのダイレクト出力信号などがパッチできます。

DM3シリーズのトップパネルには、モニター用のPHONESアウト端子が装備されており、モニターソースとして選んだ信号を常時モニターできます。また、MONITOR OUT L/Rチャンネルを任意の出力端子に割り当てれば、同じ信号を外部スピーカーでモニターすることもできます。

Tio1608-D



Main speaker



Monitor speaker

パッチを切り替えるには、SETUP画面→PATCH画面で設定します。OUTPUT画面→OUTPUT CH PATCH画面からもパッチを切り替えられます。

関連リンク

- ・「PATCH画面」（119ページ）
- ・「OUTPUT CH PATCH画面」（233ページ）
- ・「入出力パッチの初期値」（364ページ）

Danteネットワーク接続

I/Oデバイスとの接続

DM3とI/Oデバイス（Tio1608-Dなど）の接続には、デジチェーン接続と、スター接続の2つのオプションがあります。

また、主回線（PRIMARY）と副回線（SECONDARY）の2つのポートを備えた機器同士では、万が一の障害に強いリダンダント接続ができます。

DM3では特定のI/O機器を対象に、Danteのパッチを簡単に設定するAuto Setup機能を使用できます。

関連リンク

- ・「Danteについて」（365ページ）
- ・「DanteのAuto Setup機能について」（35ページ）
- ・「デジチェーン接続」（36ページ）
- ・「スター接続」（38ページ）
- ・「リダンダント接続」（40ページ）

DanteのAuto Setup機能について

DM3のAuto Setup機能は、Danteネットワーク上の対象機器に対するDanteパッチをDM3が自動で行う機能です。

Dante Controllerのような外部ソフトウェアを使うことなく、DM3本体で簡単に対象機器とのパッチを設定することができます。

Auto Setup機能が対象とするDante機器は関連リンクを参照してください。

関連リンク

- 「Dante Auto Setupの対応モデル」 (360ページ)
- 「Dante Auto Setupのパッチ」 (361ページ)

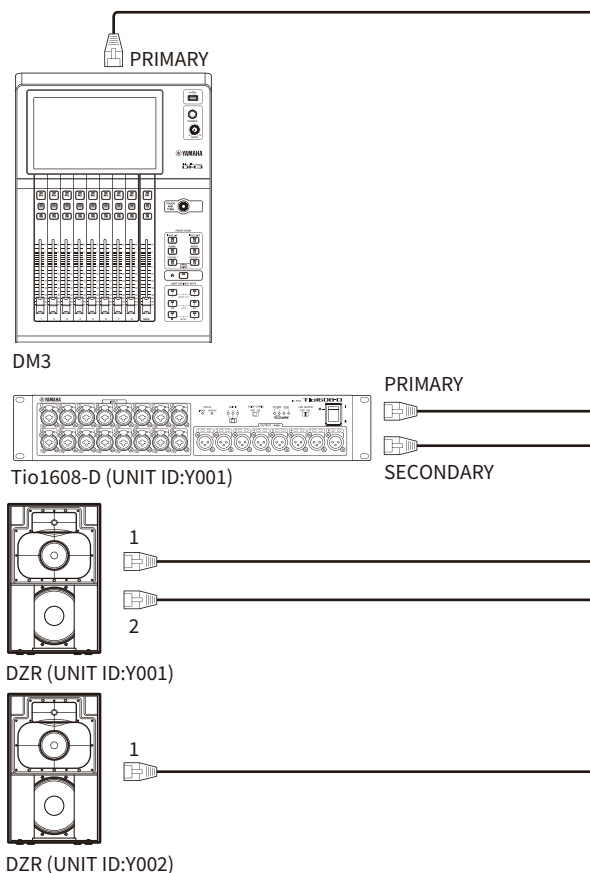
デジチェーン接続

デジチェーンとは、機器を数珠つなぎにする接続方法です。ネットワーク構築が簡単で、ネットワークスイッチも不要です。接続機器の台数が少ない簡単なシステムのときに使用します。

接続する機器が多くなるとレイテンシーも大きくする必要があります。また、ケーブルの断線などによりシステムに障害が発生すると、ネットワークがそこで分断され、その先の機器との伝送ができなくなります。

■ AUTO SETUPを使用したDM3とI/Oデバイスの接続例

DM3とI/OデバイスのDante端子を使って、以下のように接続します。

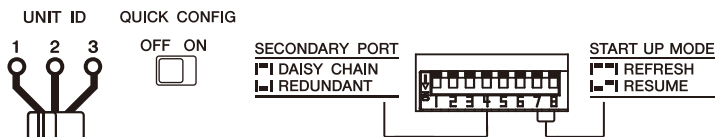


■ I/Oデバイスの設定

DM3のAUTO SETUPを使用してTio1608-D、DZR-D/DXS-XLF-Dと接続する場合、以下のよう
に設定します。

[Tio1608-Dの設定]

- UNIT ID = 1
- SECONDARY PORT = DAISY CHAIN
- START UP MODE = REFRESH
- QUICK CONFIG = OFF



[DZR-D/DXS-XLF-Dの設定]

- UNIT ID = 1-8の任意のID
- MODE (DANTE MODE) = STANDARD

AUTO SETUPを使用しない場合は、Dante Controllerを使用して、それぞれのI/Oデバイ
スの説明に従って設定してください。

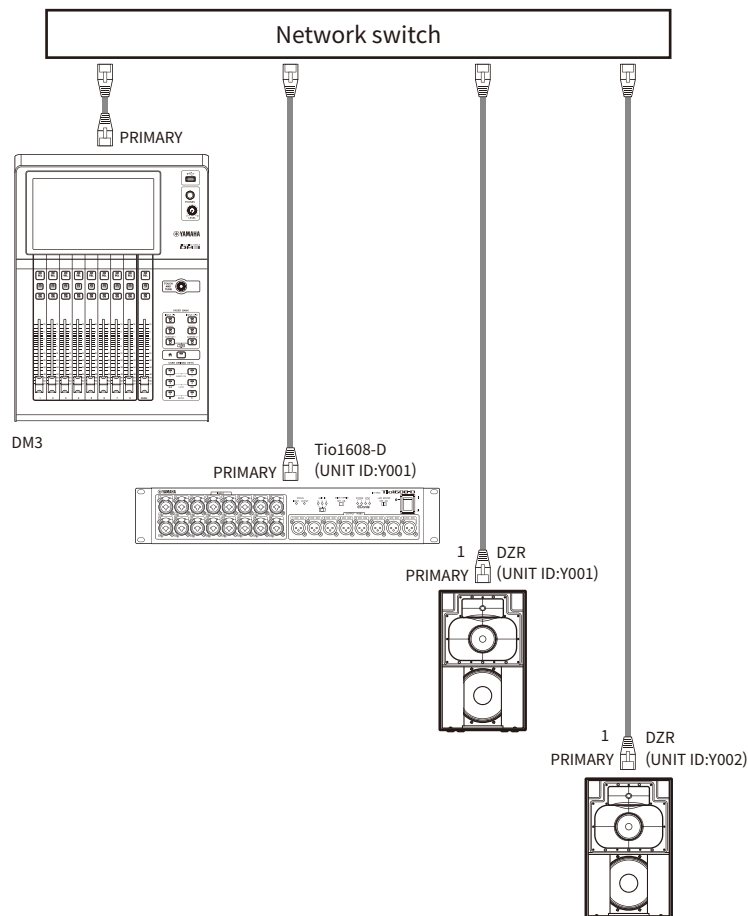
DZR-D/DXS-XLF-DのUNIT IDは、DZR-D/DXS-XLF-D本体のDANTE SETUP画面で設定しま
す。

スター接続

スター接続とは、ネットワークスイッチを中心に機器を接続する方法です。ギガビットイーサネットに対応したネットワークスイッチを使うことで、幅広い帯域が必要な大規模ネットワークにも対応します。ネットワークスイッチには、ネットワークを制御/監視するためのさまざまな機能（任意のデータ回線のクロック同期や音声の伝送を優先させるQoSなど）が盛り込まれているものをおすすめします。

■ AUTO SETUPを使用したDM3とI/Oデバイスの接続例

DM3とI/OデバイスのDante端子を使って、以下のように接続します。

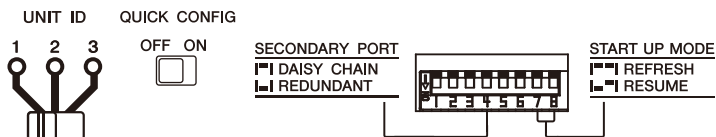


■ I/Oデバイスの設定

DM3のAUTO SETUPを使用してTio1608-D、DZR-D/DXS-XLF-Dと接続する場合、以下のよう
に設定します。

[Tio1608-Dの設定]

- UNIT ID = 1
- SECONDARY PORT = DAISY CHAIN
- START UP MODE = REFRESH
- QUICK CONFIG = OFF



[DZR-D/DXS-XLF-Dの設定]

- UNIT ID = 1-8の任意のID
- MODE (DANTE MODE) = STANDARD

AUTO SETUPを使用しない場合は、Dante Controllerを使用して、それぞれのI/Oデバイ
スの説明に従って設定してください。

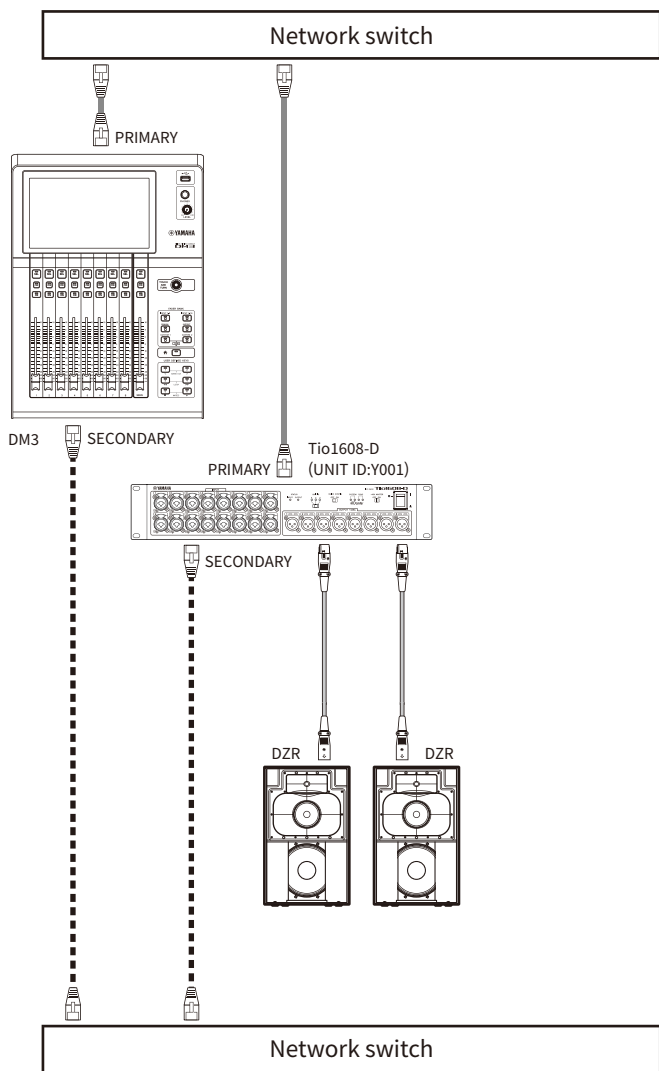
DZR-D/DXS-XLF-DのUNIT IDは、DZR-D/DXS-XLF-D本体のDANTE SETUP画面で設定しま
す。

リダンダント接続

リダンダント接続とは、主回線(PRIMARY)と副回線(SECONDARY)の2回線で構成されたネットワークです。通常はPRIMARY回線で通信していますが、PRIMARY回線に断線などのトラブルが発生した場合は、自動的に通信がSECONDARY回線に切り替わります。スター接続のときに、この方法で接続することによって、デジチェーンで構築されたネットワークよりも、ネットワーク障害に強い環境を構築できます。

■ AUTO SETUPを使用したDM3とI/Oデバイスの接続例

DM3とI/OデバイスのDante端子を使って、以下のように接続します。



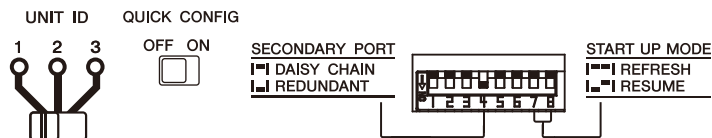
■ I/Oデバイスの設定

DM3のAUTO SETUPを使用してTio1608-D、DZR-D/DXS-XLF-Dと接続する場合、以下のよう
に設定します。

[Tio1608-Dの設定]

- UNIT ID = 1

- SECONDARY PORT = REDUNDANT
- START UP MODE = REFRESH
- QUICK CONFIG = OFF



[DZR-D/DXS-XLF-Dの設定]

- UNIT ID = 1-8の任意のID
- MODE (DANTE MODE) = STANDARD

AUTO SETUPを使用しない場合は、Dante Controllerを使用して、それぞれのI/Oデバイスの説明に従って設定してください。

DZR-D/DXS-XLF-DのUNIT IDは、DZR-D/DXS-XLF-D本体のDANTE SETUP画面で設定します。

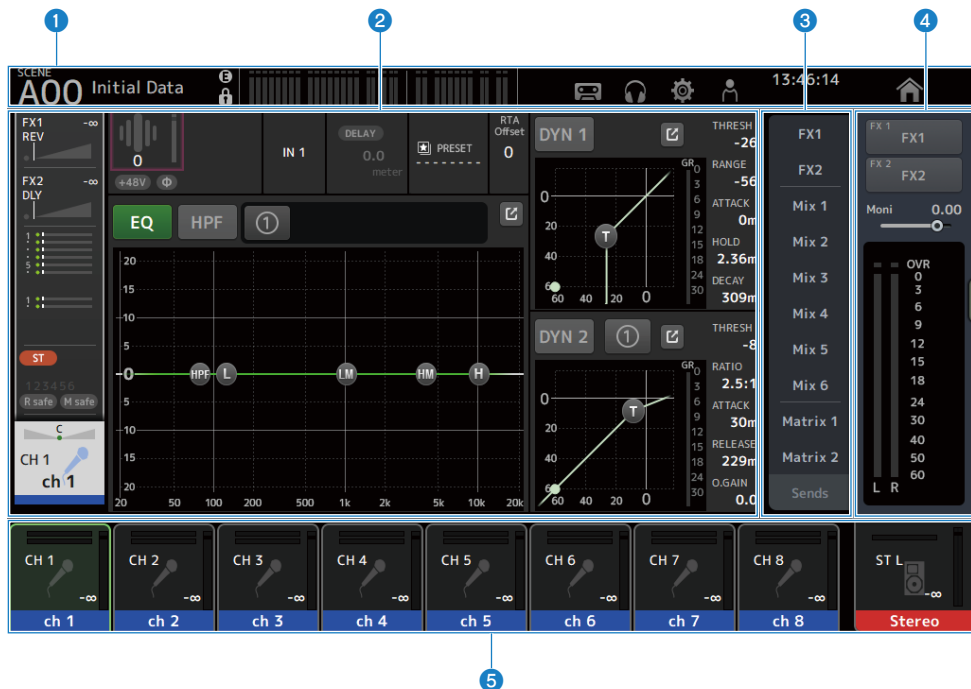
お知らせ

- HAリモートはSECONDARY側から操作できません。
- DZR-D/DXS-XLF-DのDanteにはSECONDARYの機能がありません。

画面の概要

画面の見方

本体のディスプレイは、大きく5つのエリアに分かれます。



- 1 ツールバー (55ページ)
- 2 メインエリア
- 3 SENDS ON FADERエリア (243ページ)
- 4 ADMINエリア (245ページ)
- 5 Channel Nameエリア (246ページ)

■ メインエリアの表示内容

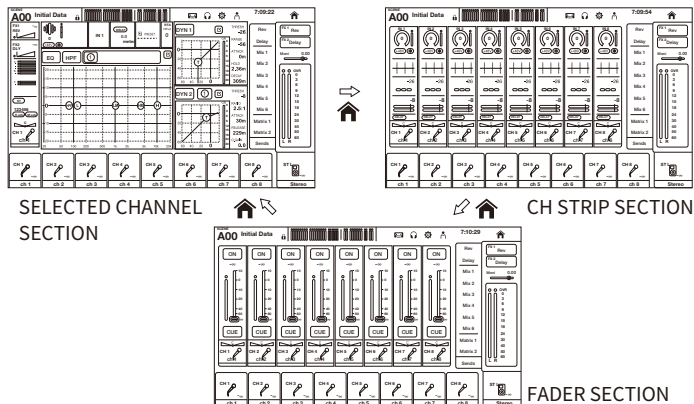
アイコンの選択やチャンネルの選択に応じて、メインエリアの表示内容が切り替わります。

HOME画面では、チャンネルの設定状態を一括して表示します。(159ページ)

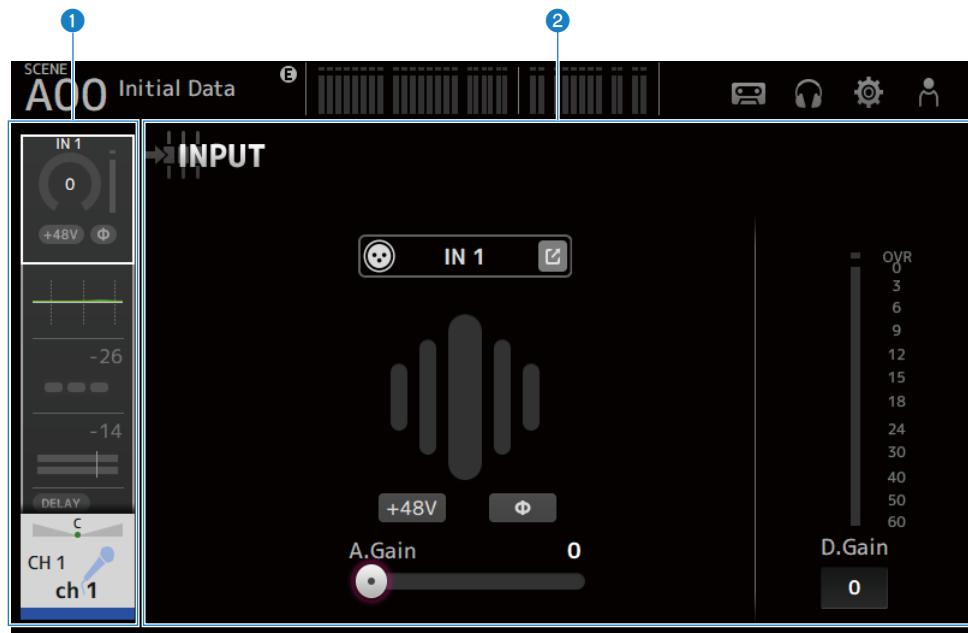
画面の概要 > 画面の見方

HOME画面は、8チャンネル単位、または1チャンネル単位で表示する3種類の画面があります。

[HOME]キー/HOMEボタンを押すたびに表示が切り替わります。



専用画面では、選択したチャンネルの詳細の設定をします。



- 1 ナビゲーションエリア
- 2 詳細エリア

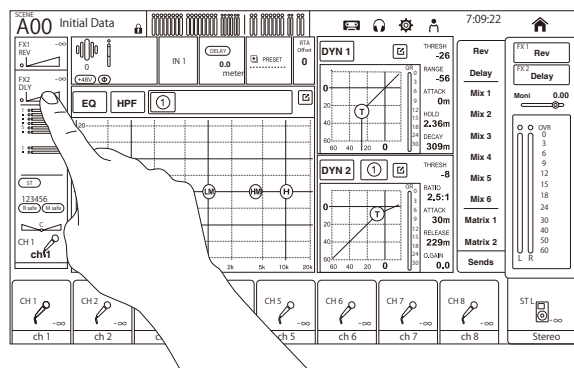
画面の基本操作

ディスプレイの表示を直接タッチして操作します。パラメーターを微調整するときは、[TOUCH AND TURN] ノブも使用できます。タッチ/ダブルタッチのほか、スライド、スワイプ、ピンチイン/ピンチアウトといった操作ができます。

■ 画面を切り替える

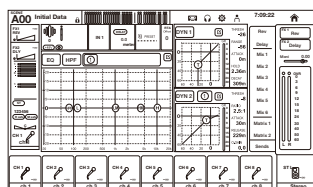
画面上のボックスをタッチすると専用の画面に切り替わります。

HOMEボタン/[HOME]キーを押すと、HOME画面に戻ります。

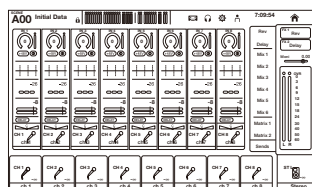


お知らせ

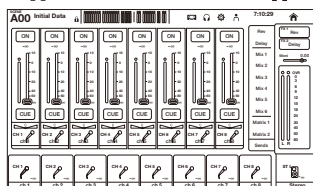
SETUP画面→PREFERENCE画面にある、Key Function→[HOME] KeyでHOME画面に表示する内容を選択できます。複数の項目を選択した場合は、HOMEボタン/[HOME]キーを押すたびに表示が切り替わります。



SELECTED CHANNEL SECTION



CH STRIP SECTION

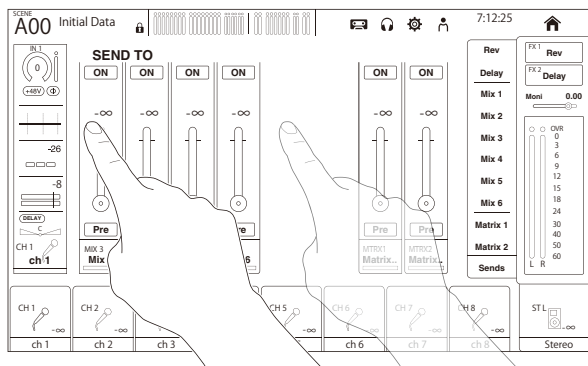


FADER SECTION

■ スクロールする

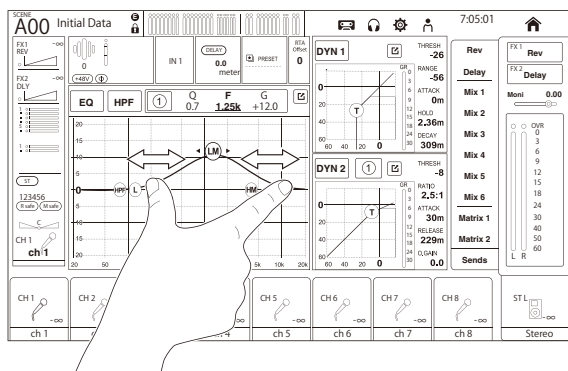
スクロールバーが出ている画面などでは、画面を上下または左右にスライドすると、続きの画面が表示されます。

スワイプすると、素早くスクロールできます。



■ EQのQを操作する

EQ画面で、マニュアルモードのときはハンドルを選択してピンチイン/ピンチアウトすると、選択されたハンドルのQ操作ができます。

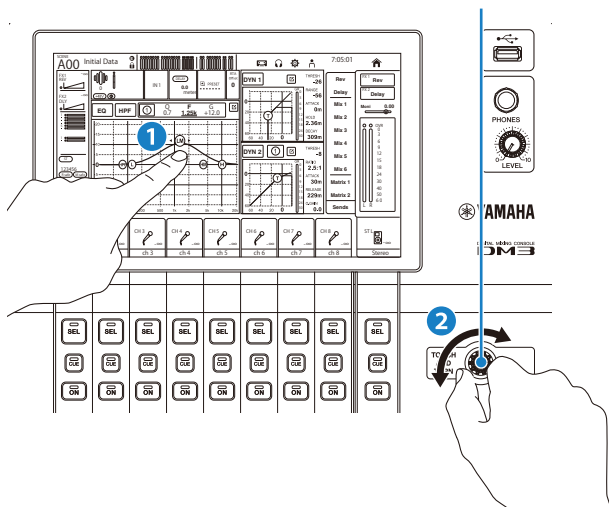


お知らせ

複数のパラメーターをひとつのノブで操作する1-knobモードのときはこの操作ができません。画面上部にあるモード切り替えボタンでマニュアルモードを選択してください。

■ [TOUCH AND TURN]ノブによるパラメーターの操作について

次の図のように、操作するパラメーターをタッチして選択 (1) したあと、[TOUCH AND TURN]ノブを操作 (2) します。選択されているパラメーターにはピンク色の枠が表示されます。



お知らせ

1-knobモードについて

- EQとコンプレッサーについては、複数のパラメーターを[TOUCH AND TURN]ノブで簡単に操作できる"1-knobモード"が用意されています。1-knobモードが有効な場合は、各パラメーターを個別に操作できません。1-knobモードのオン/オフはEQ、コンプレッサーの各画面で切り替えできます。

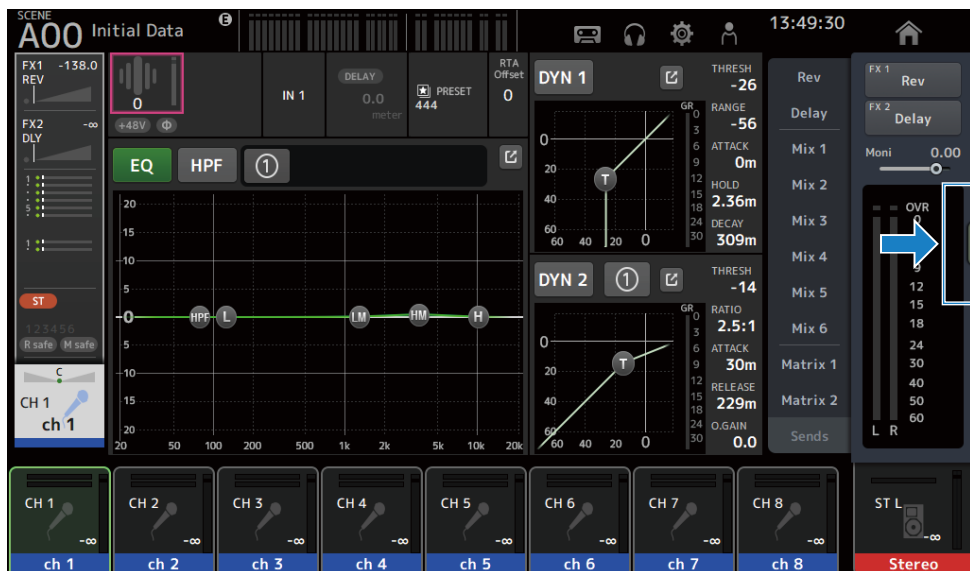
画面の共通操作

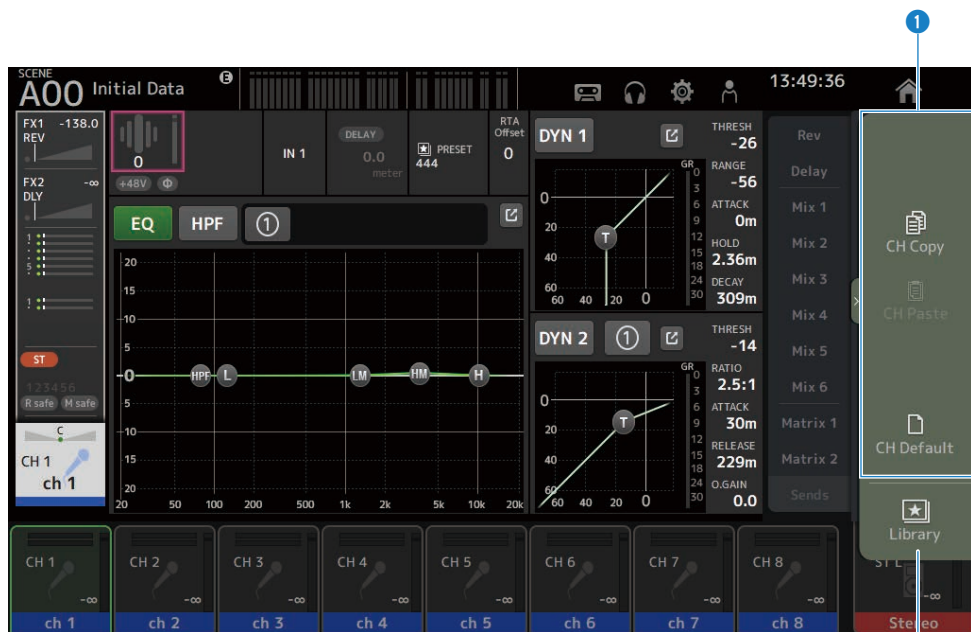
メニュー

画面右端のメニュースワイプインジケータを左にスワイプして、メニューを表示します。

表示している画面で操作できるメニューを表示します。

メニューの内容は、表示している画面によって変わります。表示されるメニューの内容については、各画面の説明をご参照ください。





① メニュー

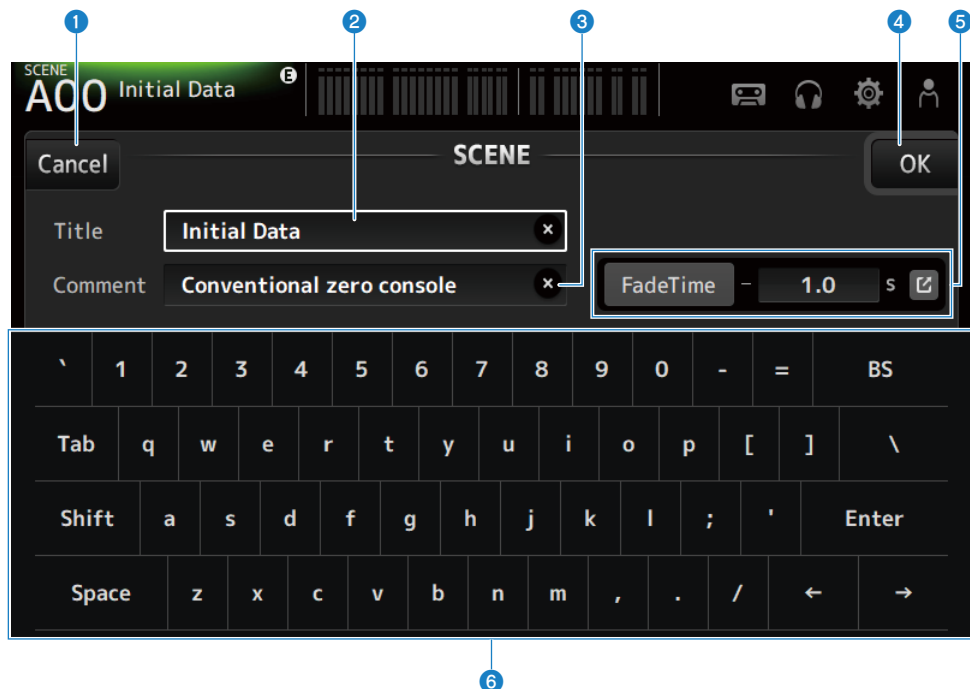
メニューの内容は、表示している画面によって異なります。表示されるメニューの内容については、各画面の説明をご参照ください。

② Libraryボタン

Libraryボタンをタッチすると、チャンネルプリセットライブラリー画面を表示します。

SOFT KEYBOARD画面

SOFT KEYBOARD画面では、タイトル名やコメントを編集します。画面によって表示される内容は異なります。シーンを保存するときに表示されるSOFT KEYBOARD画面を例に説明します。



1 Cancelボタン

編集を無効にし、元の画面に戻ります。

2 Title欄

シーンの名称を入力します。

3 Comment欄

付加情報を入力します。

4 OKボタン

編集結果を保存します。

5 Fade Time設定

シーンで使用するフェードタイムのオン/オフと、フェードタイムを設定します。右端にあるボタンをタッチすると、FADE TIME画面に移動します。

6 キーボード

タッチした文字を入力します。

ボタン/スライダーの操作

■ クローズボタン

タッチすると、現在の場面を閉じます。



■ OKボタン

現在の状態で設定します。



■ Cancelボタン

操作を中止し、前の画面に戻ります。



■ クリアボタン

入力した情報を消去します。



■ ジャンプボタン

関係する画面を表示します。



■ スライダー

タッチするとピンク色で点滅し、操作できる状態になります。

ディスプレイのスライダーをドラッグして設定できますが、[TOUCH AND TURN]ノブを回しても設定できます。



■ パンスライダー

タッチするとピンク色で点滅し、[TOUCH AND TURN]ノブで操作できる状態になります。



■ バランスライダー

タッチするとピンク色で点滅し、[TOUCH AND TURN]ノブで操作できる状態になります。



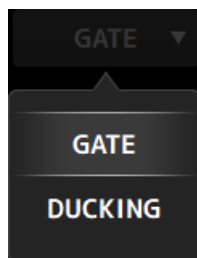
■ 編集マーク

キーボード画面など、情報を編集する画面を表示します。



■ メニュー

「▼」マークがあるボタンをタッチすると、メニューを表示します。



■ テキストボックス

数値を入力するテキストボックスでは、タッチするとピンク色で点滅し、設定変更可能状態になります。

ピンク色で点滅しているときにタッチすると、数値を入力する画面を表示します。

[TOUCH AND TURN]ノブを回しても設定できます。

テキストを入力するテキストボックスでは、タッチするとSOFT KEYBOARD画面が開きません。



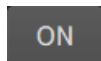
■ オン/オフ

タッチして、機能の有効（オン）/無効（オフ）を切り替えます。

オンの状態（例）：



オフの状態（例）：



画面の機能と名称

ツールバー

ツールバーには、頻繁に使用する機能や、システム設定をする画面へのアイコンが用意されています。メインエリアの表示を切り替えても、ツールバーは常に表示します。



- ① **SCENE画面を表示します。**（57ページ）
- ② **METER画面を表示します。**（63ページ）
- ③ **ステータスインジケータ**
下記の3つの場合に、ステータスを表示します。
 - **ACCESS:**
USB端子に接続したUSBストレージデバイスにアクセス中
 - **OSC:**
オシレーターがオンになっている
 - **DAW:**
DAWとUSB-MIDI接続されている
- ④ **RECORDER画面を表示します。**（67ページ）
- ⑤ **MONITOR画面を表示します。**（77ページ）
- ⑥ **SETUP画面を表示します。**（83ページ）
- ⑦ **LOGIN画面を表示します。**（152ページ）
- ⑧ **現在時刻を表示します。**
- ⑨ **USBストレージ取り外しボタン**
USBストレージデバイスが接続されているときに表示されます。
USBストレージデバイスを取り外す前にタッチしてください。
- ⑩ **HOME画面を表示するHOMEボタンです。**（159ページ）
トップパネル上の[HOME]キーと同じ機能です。

お知らせ

- 各アイコンをタッチするとメインエリアの表示が切り替わります。
- 再度同じアイコンをタッチするか、右上のクローズボタン[×]をタッチすると元の画面に戻ります。

SCENE画面

SCENE画面

SCENE画面は、ミキサーの設定を保存した「シーン」を管理する画面です。

また、シーンを呼び出すときには、特定の設定の呼び出しを除外することもできます（リコールセーフ）。

The screenshot shows the SCENE screen interface. At the top, there's a header with 'SCENE A02 General Band' and a level meter. Below that, two buttons labeled 'SCENE A' and 'SCENE B' are visible. The main area contains a table of scene data. At the bottom, there are three buttons: 'Store', 'Recall', and 'Edit'. Numbered callouts 1 through 5 point to specific elements: 1 points to the scene list, 2 points to the 'SCENE A/B' buttons, 3 points to the 'Store' button, 4 points to the 'Recall' button, and 5 points to the 'Edit' button.

No.▲	Title	Fade Time	Lock	Date	Information
▶ A00	Initial Data	1.0s	🔒	05/27/2020 10:47:39	Comment
A01	Init data 1-knob	1.0s	🔒	06/22/2020 14:22:18	Rock/pop Band Set
A02	General Band	1.0s FADE		06/22/2020 14:22:28	
A03	Band w Horn	1.0s		06/22/2020 14:22:35	
A04	Jazz Combo set	1.0s		06/22/2020 14:22:42	

- ① シーンリスト切り替えボタン
表示するシーンリストを切り替えます。

② シーンリスト

保存されたシーンをリスト表示します。

リストの項目名をタッチすると、タッチした項目の内容でソートします（Informationを除く）。

シーンをタッチすると選択できます。選択したシーンはハイライト表示になり、保存、呼び出し、編集の対象になります。

現在呼び出しているシーンの先頭には、緑の三角マークが付きます。

Fade Time欄には、Fade Time機能が有効かどうかと、設定時間が表示されます。

鍵アイコンの欄をタッチすると、鍵アイコンが付いたり消えたりします。鍵アイコンを付けると、上書きを禁止できます。

Date欄には、最後に保存した日時が表示されます。

③ Storeボタン

現在のミキサーの設定をシーンリストで選択されている番号のシーンに保存します。

タッチすると、タイトルとコメントを編集する画面を表示します。

④ Recallボタン

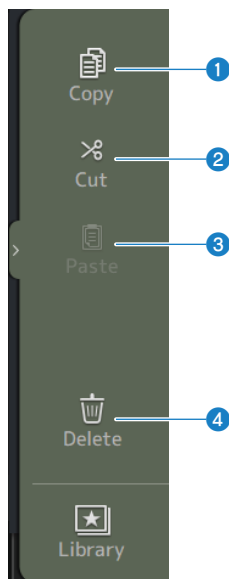
シーンリストで選択しているシーンを呼び出します。

⑤ Editボタン

タッチすると、タイトルとコメントを編集する画面を表示します。

■ SCENE画面のメニュー

SCENE画面右端のメニュースワイプインジケータを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。



1 Copy

選択しているシーンの設定をコピーします。

2 Cut

選択しているシーンの設定を切り取ります。

3 Paste

現在選択している行に、コピーや切り取りしたシーンをペーストします。

4 Delete

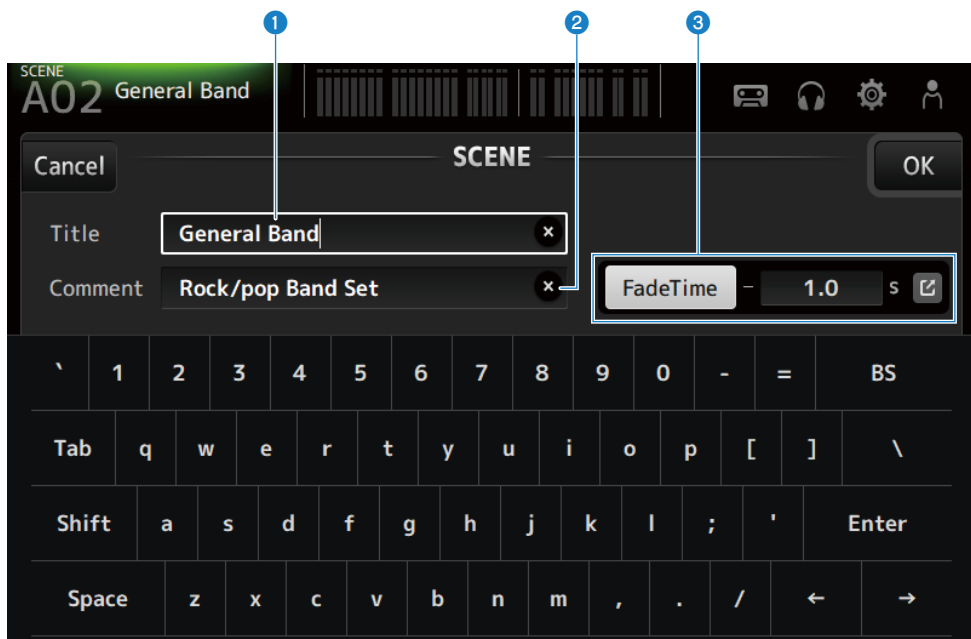
選択しているシーンを削除します。

関連リンク

- ・「SCENE EDIT画面」 (60ページ)
- ・「FADE TIME画面」 (61ページ)
- ・「シーンを保存する」 (256ページ)
- ・「シーンを呼び出す」 (258ページ)
- ・「シーンを編集する」 (259ページ)
- ・「シーンのフェードタイムを設定する」 (260ページ)

SCENE EDIT画面

SCENE EDIT画面は、シーンのタイトル、コメント、フェードタイムを設定する画面です。



① Titleテキストボックス

シーンの名称を入力します。

② Commentテキストボックス

シーンの付加情報を入力します。

③ Fade Time設定

シーンで使用するフェードタイムのオン/オフと、フェードタイムを設定します。ジャンプボタンをタッチすると、FADE TIME画面を表示します。

テキストボックスをタッチして、フォーカスされた状態では、[TOUCH AND TURN]ノブを使用できます。

関連リンク

「シーンを編集する」 (259ページ)

FADE TIME画面

FADE TIME画面では、シーンのフェードタイムを反映するチャンネルを、個別にオン/オフできます。

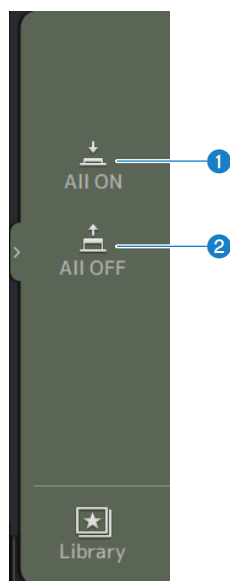


① チャンネルボタン

フェードタイムを反映するチャンネルを個別にオン/オフします。チャンネルをオンにすると白く表示されます。

■ FADE TIME画面のメニュー

FADE TIME画面右端のメニュースワイプインジケータを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。



① All ON

すべてのチャンネルのフェードタイムをオンにします。

② All OFF

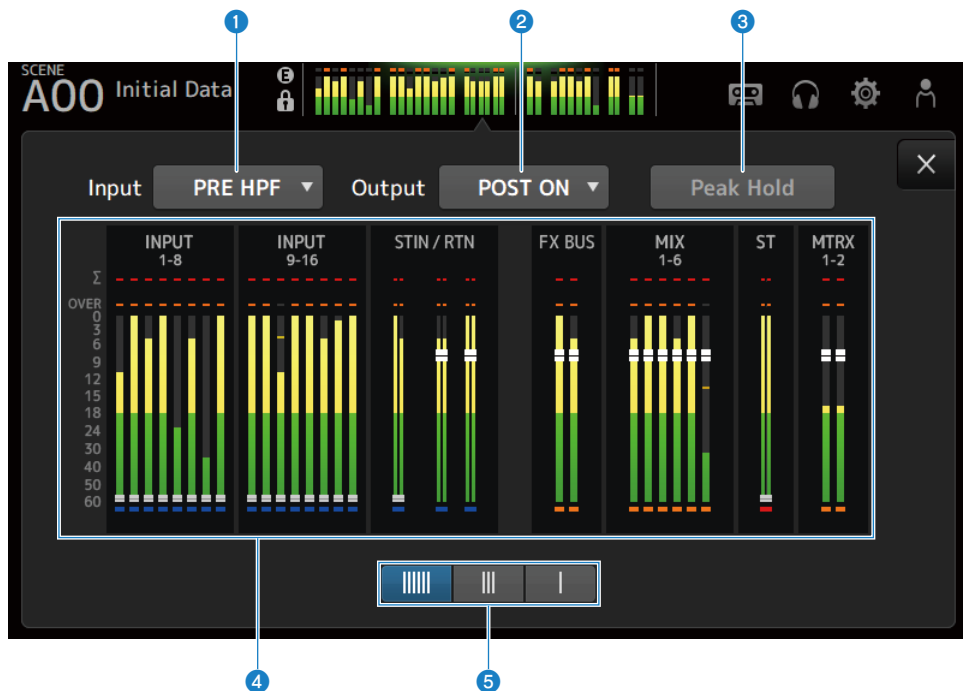
すべてのチャンネルのフェードタイムをオフにします。

関連リンク

「シーンのフェードタイムを設定する」 (260ページ)

METER画面

METER画面では、すべてのチャンネルの入出力レベルを表示したり、レベルメーターのメーターポイント（レベルを検出する位置）を切り替えたりできます。



1 入力メーターポイント選択メニュー

入力レベルを計測するポイントをメニューから選択します。

- **PRE HPF :**
ヘッドアンプの直後（HPFの直前）
- **PRE FADER :**
フェーダーの直前
- **POST ON :**
[ON]キーの直後

② 出力メーターポイント選択メニュー

出力レベルを計測するポイントをメニューから選択します。

- **PRE EQ :**
EQの直前
- **PRE FADER :**
フェーダーの直前
- **POST ON :**
[ON]キーの直後

③ Peak Holdボタン

オンにすると、各メーターのピークが保持されます。オフにすると、それまで保持されていたピークレベルの表示がクリアされます。Peak Holdボタンのオン/オフは、インプット系/アウトプット系チャンネルの両方に影響します。

お知らせ

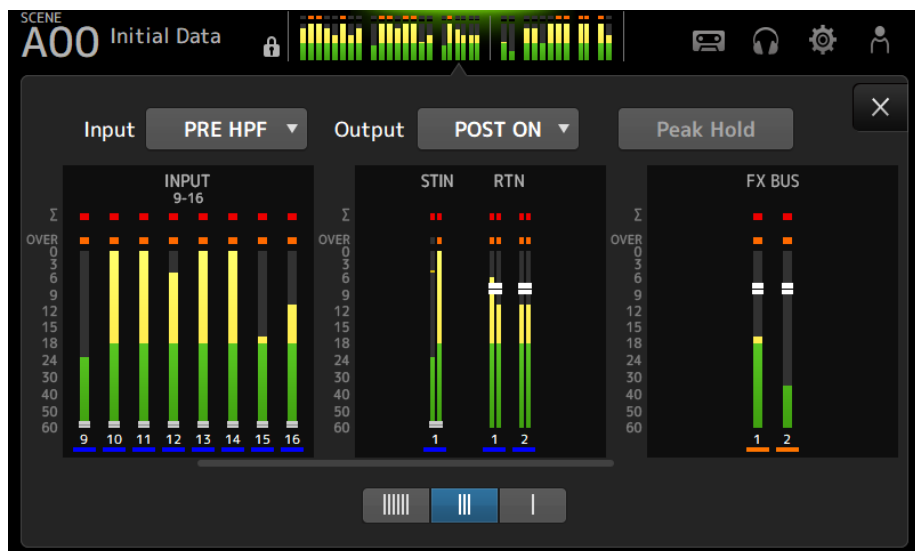
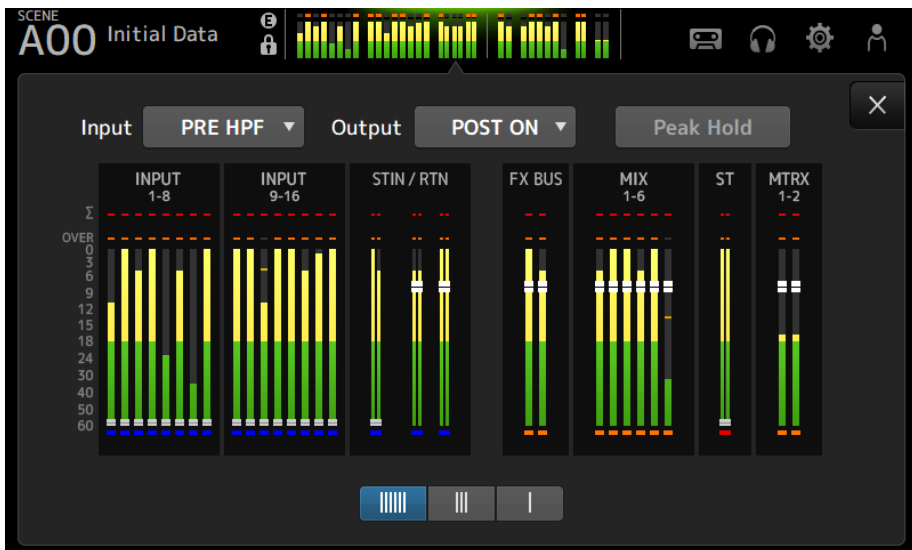
[USER DEFINED KEYS]に、Peak Holdボタンのオン/オフを切り替える機能を割り当てることもできます。

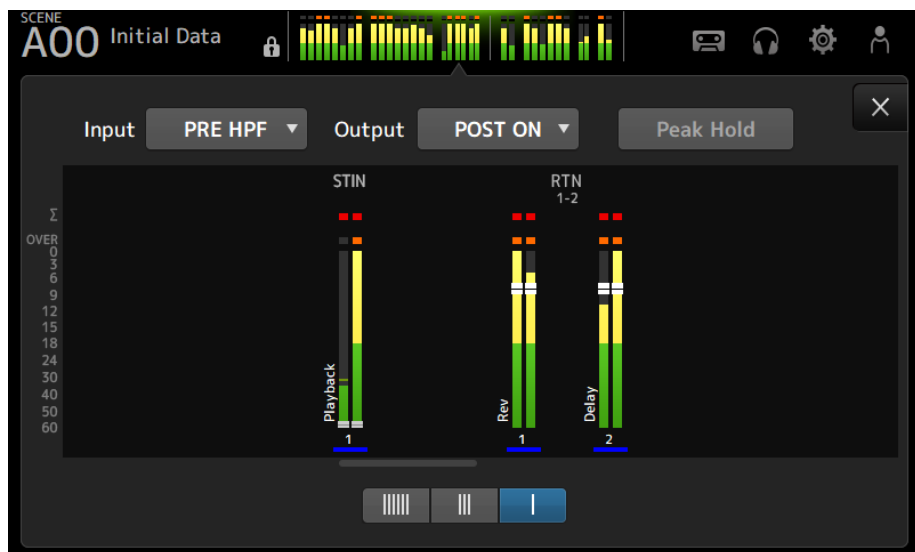
④ メーター

チャンネルの入力または出力レベルを表示します。

5 メーター表示切り替えボタン

表示するメーターの本数を切り替えます。3種類の表示があります。





関連リンク

「USER DEFINED KEYS画面」 (86ページ)

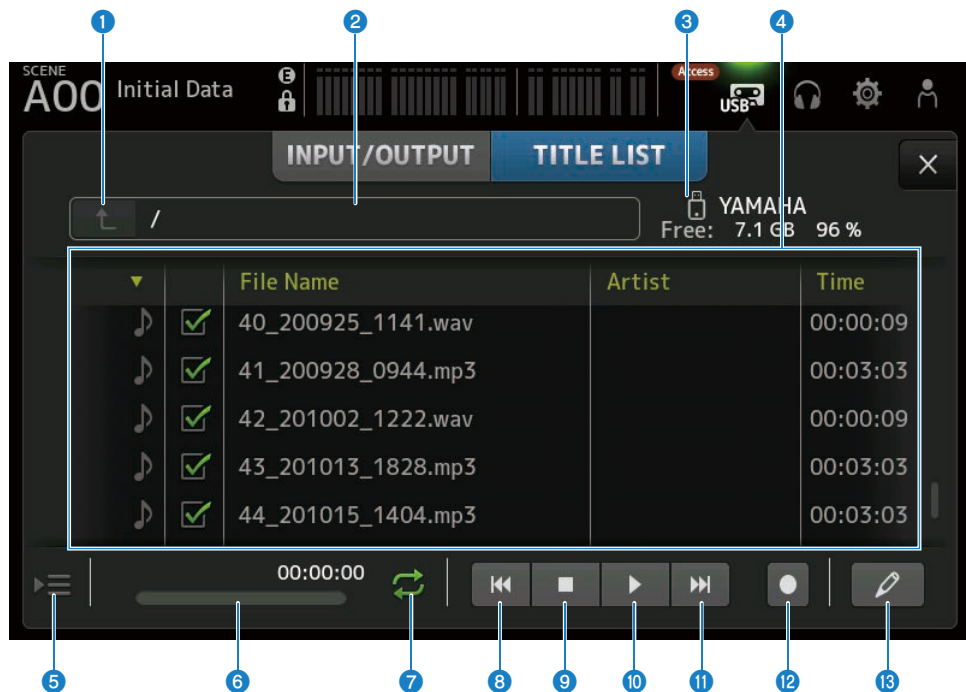
RECORDER画面

RECORDER (TITLE LIST) 画面

RECORDER (TITLE LIST) 画面では、USB端子に接続したUSBストレージデバイスの曲ファイル（BGMや効果音）を再生したり、2MIXソース（STEREOチャンネルやMIXチャンネル）をUSBストレージデバイスに録音できます。

お知らせ

- 録音と再生は同時に行えません。
- 録音中の信号をINPUTチャンネルに入力することはできません。
- 使用できるUSBストレージデバイスはFAT32でフォーマットされたものだけです。必要に応じて（トップパネル右側の）USB端子に接続してSAVE/LOAD画面のメニューからフォーマットをしてください。
- 録音にはHDD、SSDなど書き込み速度の速いUSBストレージデバイスをご使用ください。また、十分な書き込み速度で録音できるUSBストレージデバイスかどうか、事前に録音をお試しください。
- 再生できるMP3ファイルは、サンプルレート44.1 kHzまたは48 kHz、ビットレートが128 kbps～320 kbpsのものです。VBR（可変ビットレート）のファイルも再生できますが、曲の長さや経過時間が正しく表示されません。
- 録音できるMP3ファイルは、サンプルレート48 kHz、ビットレートが128 kbps/256 kbps/320 kbpsです。
- 録音できるWAVファイルは、リーダークロックが96 kHzの場合には、96 kHz、24-bitまたは48 kHz、24-bit、リーダークロックが48 kHzのときは48 kHz、24-bitです。
- フォルダー数含めて150を超える場合は曲名リストに表示されません。150曲を超える場合は、フォルダーを分けてご使用ください。
- 録音時の1データの最長サイズは2 GBまでです。長時間録音を継続する場合、2 GBを超えると複数のデータに分割されます。



① ディレクトリー移動ボタン

カレントディレクトリーを1階層上に移動します。

② カレントディレクトリー情報

USBストレージデバイスのカレントディレクトリーのパスを表示します。

③ USBストレージデバイス情報

USBストレージデバイスのボリューム名を表示します。

USBストレージデバイスの空き容量を残量とパーセントで表示します。

4 曲名リスト

カレントディレクトリー内の曲ファイルを表示します。

リストの項目名をタッチすると、タッチした項目の内容でソートします。

曲ファイル名をタッチすると選択でき再生、一時停止、編集ができます。

チェックボックスが有効な場合は、全曲再生時、再生の対象のファイルになります。

File Name欄にはファイル名を表示します。

Artist欄にはアーティスト情報を、Time欄には曲の長さを表示します。

フォルダー数含めて150を超える場合は、曲名リストにファイルが表示されず⑤～⑬の操作はできません。

この場合、「Recorder supports a maximum of 150 items in a folder. Please remove some files from this folder to continue.」と表示されます。

5 再生自動追従設定ボタン

全曲再生時の曲に応じて曲名リスト内のハイライト表示が追従する機能のオン/オフを切り替えます。オンの状態で別のファイルを選択するとオフに切り替わります。

6 曲ファイル情報表示インジケータ

MP3ファイルの再生中は、ファイルのビットレートと再生位置を表示します。

WAVファイルの再生中は、ファイルのサンプルレートと再生位置を表示します。

MP3ファイルの録音中は、ビットレートと録音経過時間を表示します。

WAVファイルの録音中は、サンプルレートと録音経過時間を表示します。

7 プレイモード設定ボタン

ループ再生機能を設定します。

タッチするたびに、機能が切り替わります。



1曲を1度再生します (SINGLE)。



1曲を繰り返し再生します (SINGLE REPEAT)。



曲名リストでチェックがオンになっている全曲を1度再生します (ALL)。



曲名リストでチェックがオンになっている全曲を繰り返し再生します (ALL REPEAT)。

8 PREVIOUSボタン

タッチすると、曲の先頭または前曲の先頭に再生位置を移動します。

9 停止ボタン

録音/再生を停止します。

10 再生/一時停止ボタン

曲の再生/一時停止をします。

11 NEXTボタン

次曲の先頭に再生位置を移動します。

12 録音ボタン

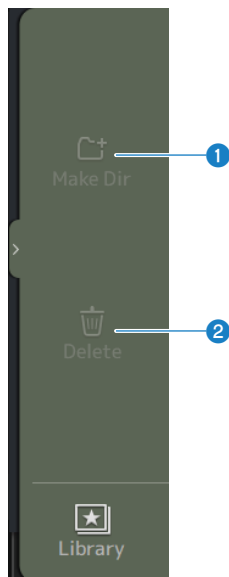
録音待機状態にします。フォルダー内のオーディオファイル数がフォルダー数含め150を超える場合は録音ボタンは操作できません。

13 ファイル名編集ボタン

ファイル名を編集するSOFT KEYBOARD画面を表示します。

■ RECORDER画面のメニュー

RECORDER画面右端のメニースワイプインジケータを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。



① Make Dir

カレントディレクトリーに新規ディレクトリーを作成します。フォルダー内のオーディオファイル数がフォルダー数含め150を超える場合はMake Dirは操作できません。

② Delete

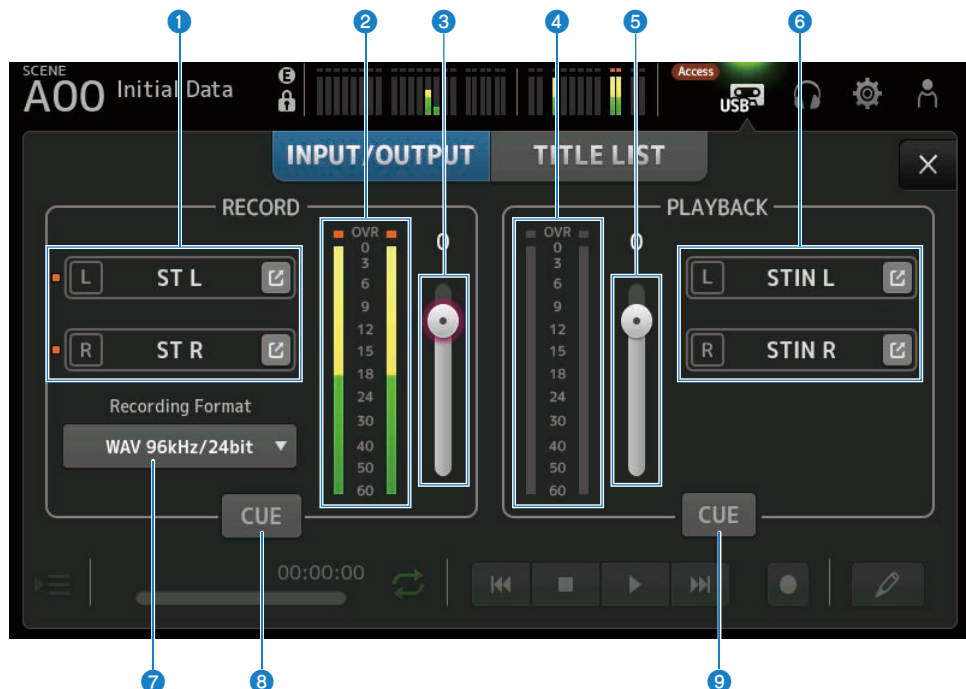
選択されているファイルを削除します。

関連リンク

- 「録音する」 (265ページ)
- 「USBストレージの再生」 (266ページ)

RECORDER (INPUT/OUTPUT) 画面

RECORDER (INPUT/OUTPUT) 画面では、RECORDERの入出力を操作します。



1 録音ソース選択ボタン

録音するチャンネルが表示されます。録音ソースのレベルがオーバーしている場合、インジケータが点灯します。

ジャンプボタンをタッチすると、RECORDER PATCH画面が表示されます。

2 録音レベルメーター

録音レベルを表示します。

3 録音レベルスライダー

録音レベルを設定します。

4 再生レベルメーター

再生レベルを表示します。

5 再生レベルスライダー

再生レベルを設定します。

6 再生チャンネル選択ボタン

USBストレージデバイスの音声データを再生するチャンネルを選択します。
ジャンプボタンにタッチすると、PLAYBACK PATCH画面が表示されます。

7 録音フォーマット選択メニュー

タッチすると表示されるメニューから、録音するフォーマットを選びます。
以下の録音フォーマットの中から選択します。

- MP3 48 kHz/128 kbps
- MP3 48 kHz/256 kbps
- MP3 48 kHz/320 kbps
- WAV 48 kHz/24 bit
- WAV 96 kHz/24 bit

お知らせ

WAV 96 kHz/24 bitは、リーダークロックが96 kHzの場合にのみ選択できます。

8 録音CUEボタン

録音ソースのCUEのオン/オフを切り替えます。

9 再生CUEボタン

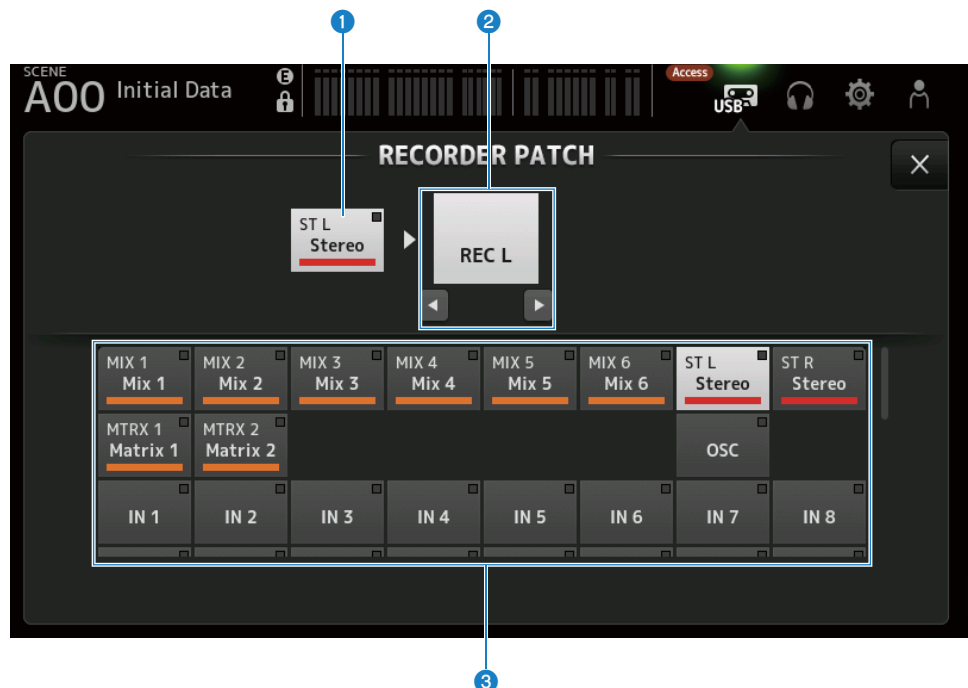
再生ソースのCUEのオン/オフを切り替えます。

関連リンク

- 「USBストレージの再生」 (266ページ)
- 「録音の入力を設定する」 (263ページ)
- 「再生の出力を設定する」 (267ページ)

RECORDER PATCH画面

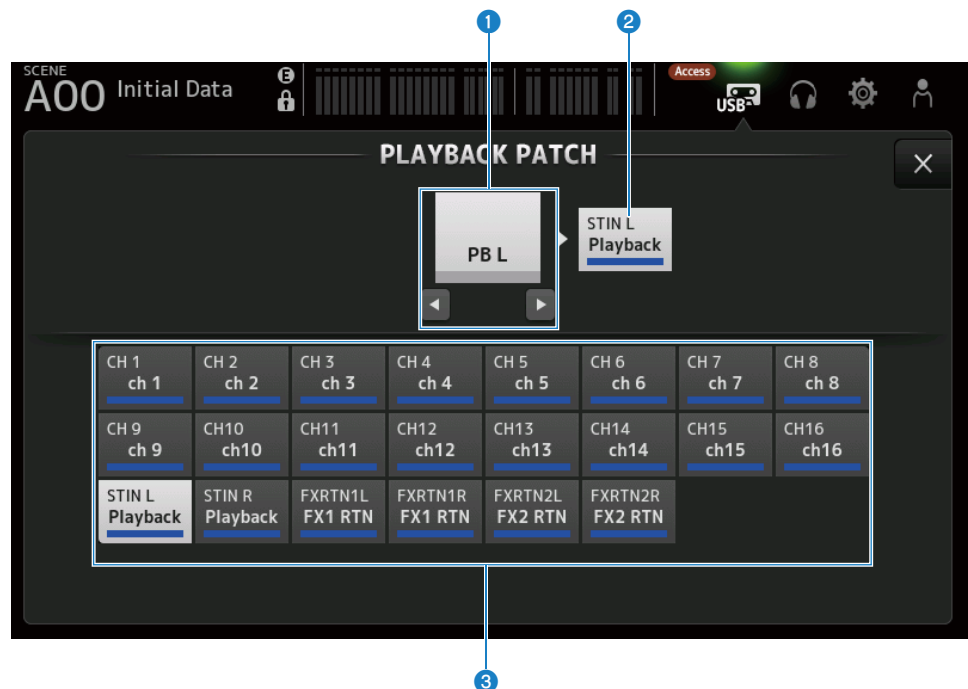
RECORDER PATCH画面では、録音するチャンネルを選択します。



- 1 録音ソースチャンネルネーム**
録音するチャンネル名が表示されます。
- 2 パッチ先ポートネーム**
パッチ先のRECORDER INPUTポート名が表示されます。
左右ボタンでL/Rの選択が切り替わります。
- 3 録音ソースチャンネルボタン**
録音するチャンネルを選択します。

PLAYBACK PATCH画面

PLAYBACK PATCH画面では、USBストレージデバイスの音楽データを再生するチャンネルを設定します。



1 PLAYBACKポートネーム

パッチ元のPLAYBACKポート名が表示されます。
左右ボタンでL/Rの選択が切り替わります。

2 パッチ先チャンネルネーム

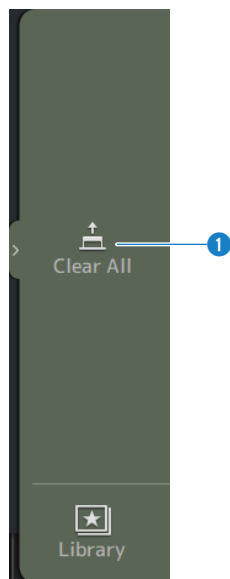
パッチ先のチャンネル名が表示されます。

3 パッチ先チャンネル選択ボタン

パッチ先のチャンネルを選択します。

■ PLAYBACK PATCH画面のメニュー

PLAYBACK PATCH画面右端のメニュースワイプインジケータを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。



1 Clear All

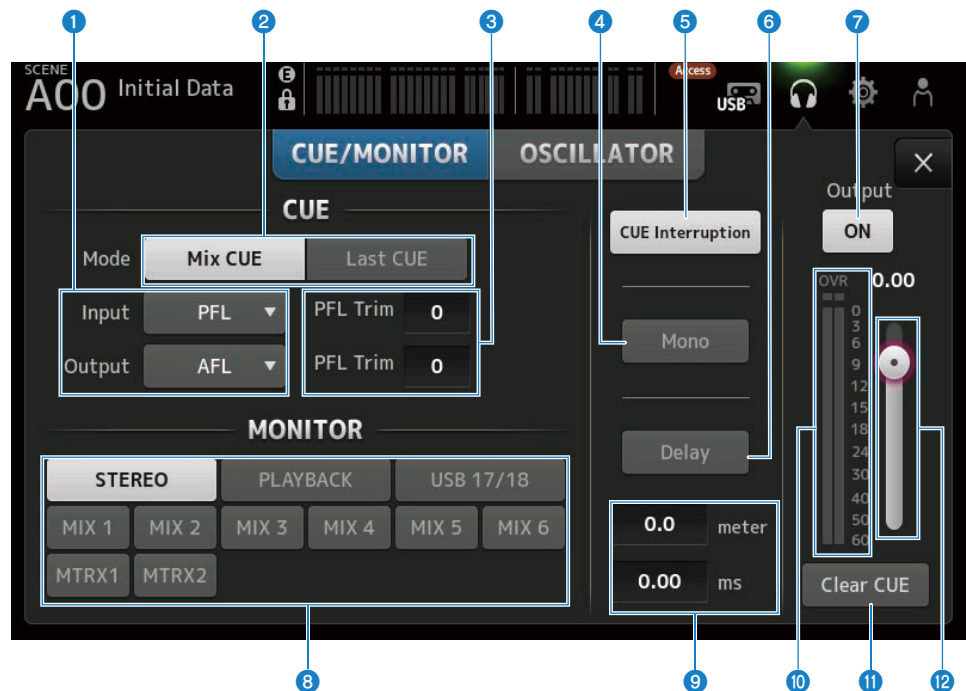
パッチを解除（Noneに設定）します。

MONITOR画面

MONITOR (CUE/MONITOR) 画面

MONITOR (CUE/MONITOR) 画面では、ヘッドホンやニアフィールドモニターで確認する信号の操作をします。

常時モニターするソースの選択や、モニター音のモノラル化、ディレイを操作します。また、個々のチャンネルをモニターするCUE機能を操作します。



1 CUEポイント選択ボタン

チェックする位置を選択します。

- PFL :
フェーダーの直前
- AFL :
フェーダーの直後
- POST PAN :
パンの直後

2 CUE Modeボタン

CUEのモードを切り替えます。

- **Mix CUE :**

複数チャンネルのCUEが有効になります。

- **Last CUE :**

最後に操作したチャンネルだけCUEが有効になります。

3 PFL Trim設定テキストボックス

PFLを選択したときのCUEモニターの音量を調節します。設定範囲は-30 dB~+20 dBです。タッチすると、それぞれの数値を入力する画面を表示します。

4 Monoボタン

オンにすると、モニター信号がモノラルになります。

5 Cue Interruptionボタン

モニターの出力にCUEが割り込むかどうかを切り替えます。

6 Delayボタン

モニター信号を遅延させます。

FOHスピーカーからミキサーが離れていてモニタースピーカーと時間が合っていない場合などに使用します。

7 モニターアウトプットボタン

モニター出力のオン/オフを切り替えます。

[PHONES]端子にはこの設定にかかわらず信号が出力されます。

8 モニター選択ボタン

モニターソースを選択します。

9 ディレイ設定テキストボックス

ディレイを、frame (フレーム)、meter (メートル)、sample (サンプル)、feet (フィート) のいずれかと、ms (ミリ秒) で指定できます。

PREFERENCE画面→Other→Display Delay Scaleで表示する単位を選択できます。

タッチすると、それぞれの数値を入力する画面を表示します。

10 モニターレベルメーター

モニター信号のレベルを表示します。

11 Clear CUEボタン

CUEを一括してクリアします。

画面の機能と名称 > MONITOR画面

⑫ モニターレベルスライダー

モニターの出力レベルを設定します。

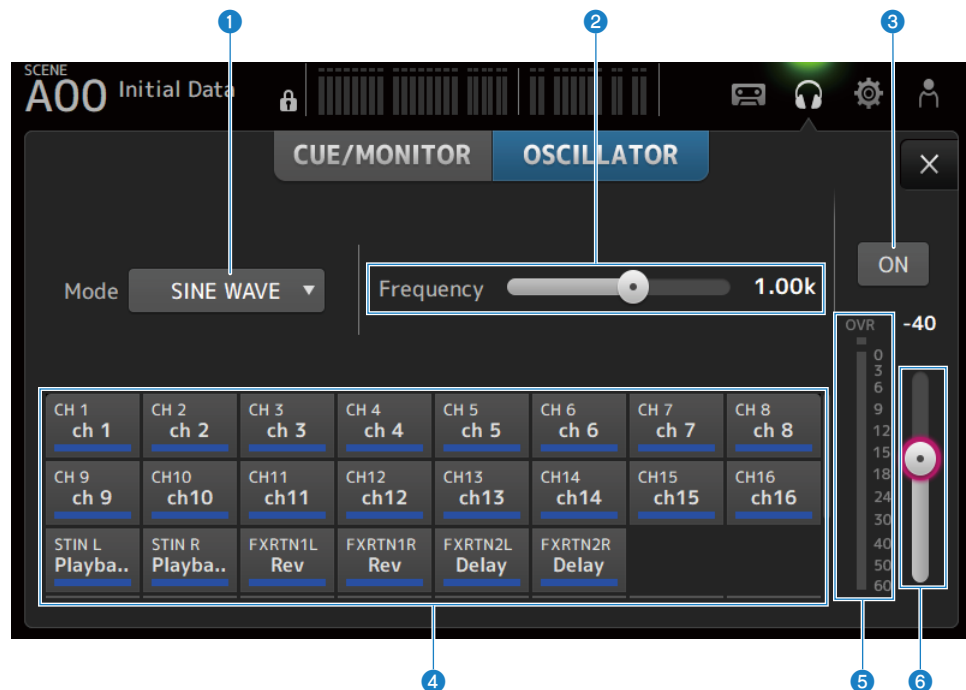
[PHONES]端子にはこの設定にかかわらず信号が出力されます。

関連リンク

「CUEの音声をチェックする」 (268ページ)

MONITOR (OSCILLATOR) 画面

MONITOR (OSCILLATOR) 画面では、オシレーターの設定状況を確認したり、オシレーターのオン/オフを切り替えたりします。DM3シリーズにはサイン波やピンクノイズを任意のチャンネルに出力するオシレーターが内蔵されており、外部機器のチェックや会場の特性をテストするのに利用できます。



1 オシレーターモードボタン

使用するオシレーターを次の3つから選択します。

- **SINE WAVE** :
サイン波を連続的に出力します。
- **PINK NOISE** :
ピンクノイズを連続的に出力します。
- **BURST NOISE** :
ピンクノイズを断続的に出力します。

② パラメーターフィールド

オシレーターモードに応じて、設定できるパラメーターが表示されます。

オシレーターモードがSINE WAVEのとき、Frequency（オシレーターの周波数）を設定します。

オシレーターモードがBURST NOISEのとき、Width（ノイズの長さ）とInterval（ノイズとノイズの間隔の長さ）を設定します。

オシレーターモードがPINK NOISEのときは、何も表示されません。

③ オシレーター出力ボタン

オシレーターの出力のオン/オフを切り替えます。オンにすると、オシレーターの信号がアサインボタンで選んだインプットチャンネルやバスに送ります。

④ オシレーターアサインボタン

オシレーターの出力信号を送るチャンネルを選択します。ボタンをタッチして個々のチャンネルを指定します（複数選択可）。

⑤ オシレーター出力レベルメーター

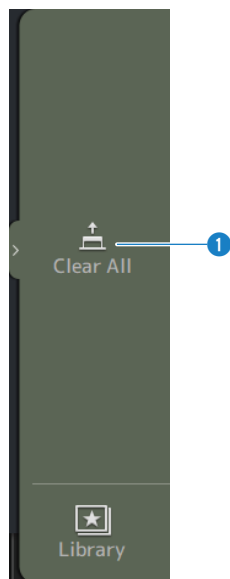
オシレーターの出力レベルを表示します。

⑥ オシレーター出力レベルスライダー

オシレーターの出力レベルを調節します。

■ MONITOR（OSCILLATOR）画面のメニュー

MONITOR（OSCILLATOR）画面右端のメニュースワイプインジケータを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。



① Clear All

すべてのアサインを一括で解除します。

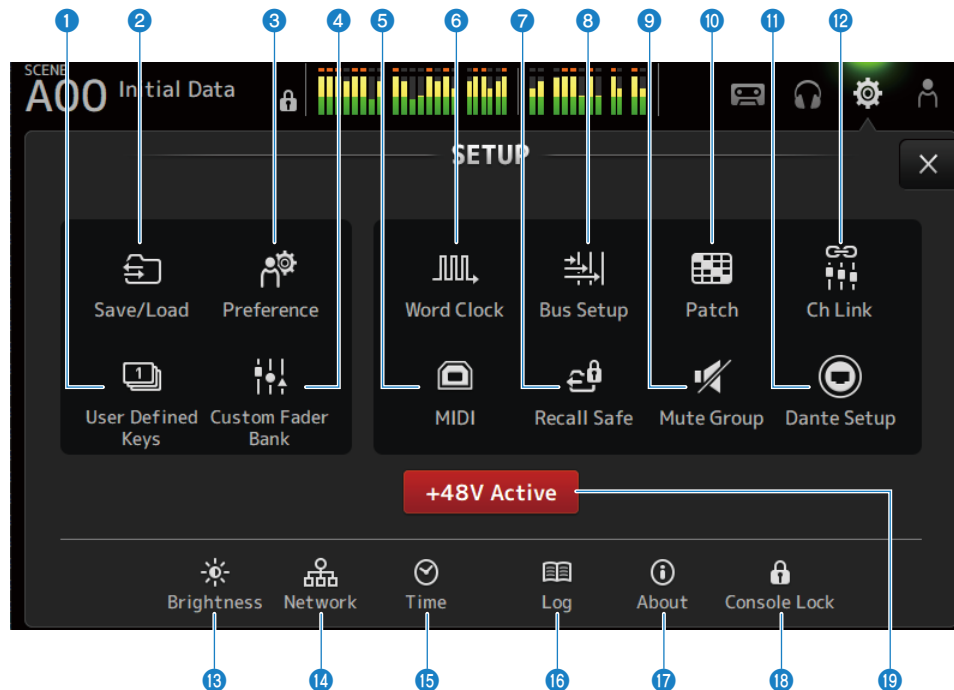
関連リンク

「オシレーターを設定する」 (271ページ)

SETUP画面

SETUP画面

SETUP画面では、ミキサー全体の設定やパッチの設定、リコールセーフの設定、ユーザーデファインドキーのアサイン、カスタムフェーダーバンクの設定、その他プリファレンスなどの設定をします。



- 1 User Defined Keysアイコン**
USER DEFINED KEYS画面を表示します。(86ページ)
- 2 Save/Loadアイコン**
SAVE/LOAD画面を表示します。(89ページ)
- 3 Preference アイコン**
PREFERENCE画面を表示します。(94ページ)
- 4 Custom Fader Bankアイコン**
CUSTOM FADER BANK画面を表示します。(101ページ)

- 5 **MIDIアイコン**
MIDI画面を表示します。(103ページ)
- 6 **Word Clockアイコン**
WORD CLOCK画面を表示します。(111ページ)
- 7 **Recall Safeアイコン**
RECALL SAFE画面を表示します。(113ページ)
- 8 **Bus Setupアイコン**
BUS SETUP画面を表示します。(115ページ)
- 9 **Mute Groupアイコン**
MUTE GROUP ASSIGN画面を表示します。(117ページ)
- 10 **Patchアイコン**
PATCH画面を表示します。(119ページ)
- 11 **Dante Setupアイコン (DM3のみ)**
DANTE SETUP画面を表示します。(121ページ)
- 12 **Ch Linkアイコン**
CH LINK画面を表示します。(136ページ)
- 13 **Brightnessアイコン**
BRIGHTNESS画面を表示します。(140ページ)
- 14 **Networkアイコン**
NETWORK画面を表示します。(142ページ)
- 15 **Timeアイコン**
TIME画面を表示します。(146ページ)
- 16 **Logアイコン**
LOG画面を表示します。(148ページ)
- 17 **Aboutアイコン**
ABOUT画面を表示します。(149ページ)
- 18 **Console Lockアイコン**
CONSOLE LOCK画面を表示します。(155ページ)

19 +48V Activeボタン

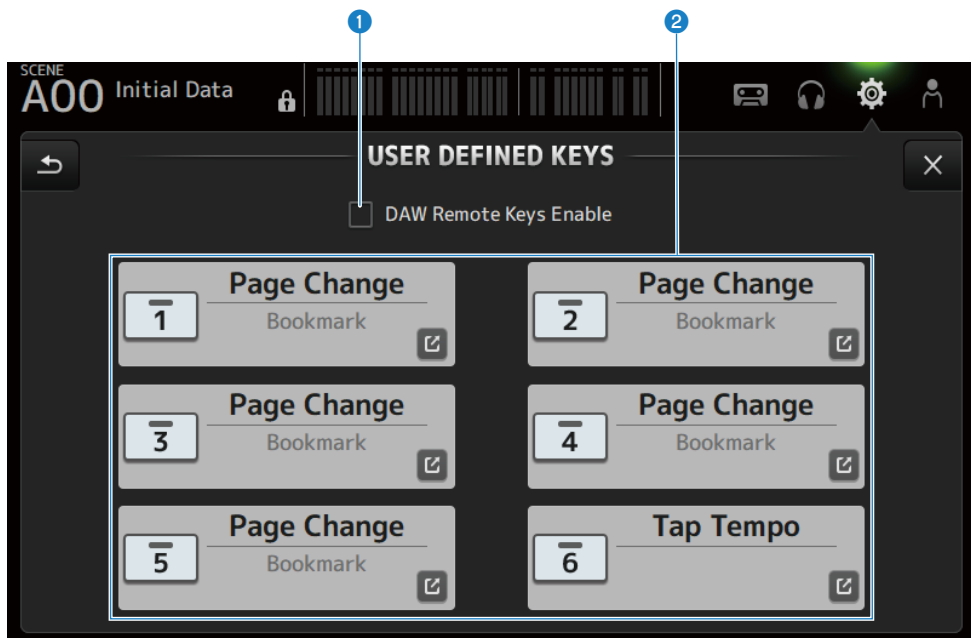
本体のファンタム電源全体のオン/オフを切り替えます。

お知らせ

このボタンがオフのときは、各チャンネルのINPUT画面にある+48Vボタンをオンにしても、ファンタム電源は供給されません。

USER DEFINED KEYS画面

USER DEFINED KEYS画面では、[USER DEFINED KEYS]に割り当てる機能を設定します。



① DAW Remote Keys Enableチェックボックス

オンにすると、[USER DEFINED KEYS]がDAW REMOTE BANKの機能に固定されます。DAW REMOTE BANK時は、[USER DEFINED KEYS]にアサインできません。

お知らせ

DAW REMOTE BANKのときの各キーの機能

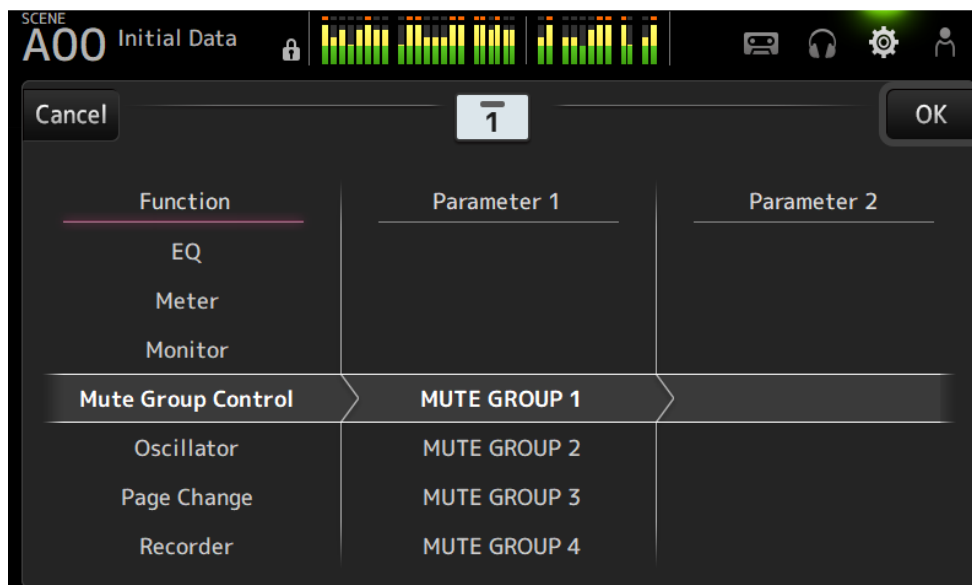
- [1]キー：
DAWのバンク、またはチャンネルを1つ戻す
- [2]キー：
DAWのバンク、またはチャンネルを1つ進める
- [3]キー：
DAWの再生を早戻しする
- [4]キー：
DAWの再生を早送りする
- [5]キー：
DAWの再生と録音を停止する
- [6]キー：
DAWの再生を開始する
- [1]+[2]キー：
[1]、[2]キーのバンク、チャンネルを切り替える
- [3]+[4]キー：
DAWのループモードをオン/オフする
- [5]+[6]キー：
DAWの録音を開始する

② KEYS設定ボタン (1-6)

タッチすると、[USER DEFINED KEYS]に割り当てる機能を選択する画面（機能選択画面）を表示します。

■ 機能選択画面

Functionの機能を選択すると、Parameter 1の選択候補を表示し、Parameter 1の機能を選択すると、Parameter 2の選択候補を表示します。選択した機能に続く機能の選択候補がない場合は、Parameter 1またはParameter 2の選択候補を表示しません。

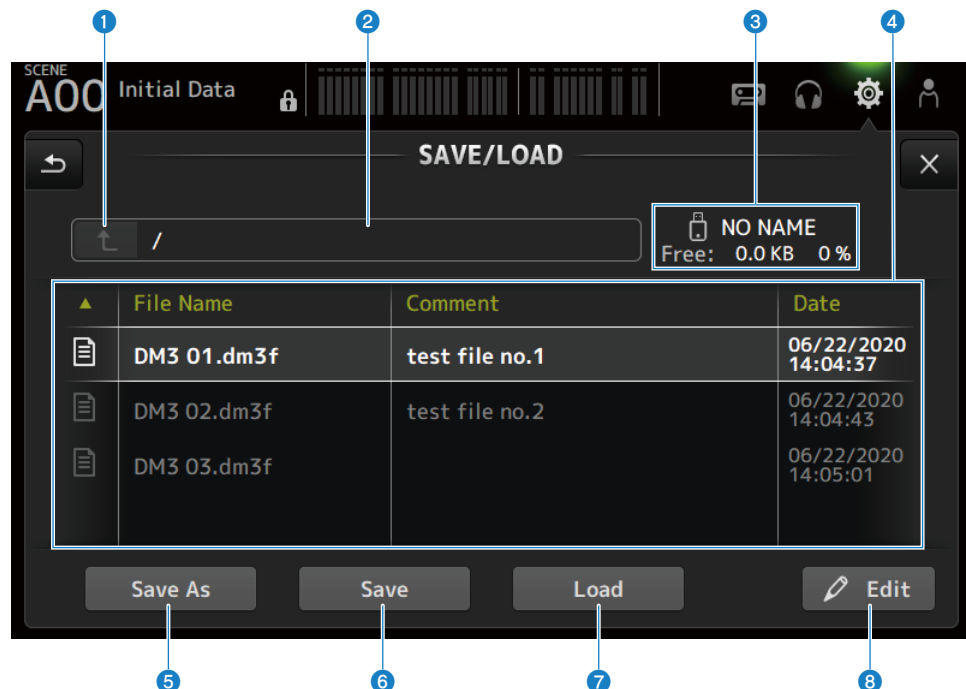


関連リンク

- ・「[USER DEFINED KEYS]に機能を割り当てる」 (273ページ)
- ・「USER DEFINED KEYSに割り当てられる機能」 (348ページ)

SAVE/LOAD画面

SAVE/LOAD画面には、保存されているファイルやサブディレクトリーが表示されます。



1 ディレクトリー移動ボタン

カレントディレクトリーを一つ上のディレクトリーに移動します。
カレントディレクトリーが一番上の階層の場合は、グレーアウトします。

2 カレントディレクトリー表示

現在のディレクトリー（カレントディレクトリー）のパスが表示されます。

3 ボリューム名表示

USBストレージデバイスのボリューム名と空き容量が表示されます。

空き容量を取得している間は、“Calculating Size”のメッセージが表示され、USBストレージデバイスへのアクセスを伴う操作はできません。

接続するUSBストレージデバイスの容量によって、空き容量の取得にかかる時間が異なります。大容量のUSBストレージデバイスを接続した場合、空き容量の取得に3分以上かかることがあります。

4 ファイルリスト

USBストレージデバイスに保存されているファイルやサブディレクトリーが表示されます。反転した行は、操作対象として選ばれていることを表わしています。

ファイルリストの以下の項目名をタッチすると、リストが並び替わります。タッチすることにより並び替え順が昇順と降順に切り替わります。

- **File Name :**

ファイル名またはディレクトリー名と、そのタイプを示すアイコンが表示されます。

- **Comment :**

シリーズのファイルに入れたコメントが表示されます。

- **Date :**

ファイルの「更新日時」が表示されます。

5 Save Asボタン

DM3シリーズの内部設定を一括して新しいファイルとして保存します。

6 Saveボタン

DM3シリーズの内部設定を一括して上書き保存します。

7 Loadボタン

選択しているDM3シリーズ設定ファイルをロードします。

TFシリーズの設定ファイルをロードできます。ロードするとDM3シリーズ用に変換されます。

CONSOLE LOCK画面に表示する画像ファイル(png、bmp、jpg、jpegファイル)もロードできます。

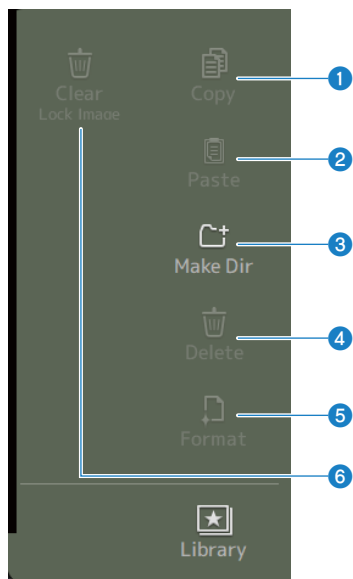
Loadボタンを押すと、LOAD SELECT画面が表示されます。

8 Editボタン

ファイル名、コメントを編集するSOFT KEYBOARD画面を表示します。

■ SAVE/LOAD画面のメニュー

SAVE/LOAD画面右端のメニュースワイプインジケーターを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。



1 Copy

選択しているファイルをコピーします。

2 Paste

カレントディレクトリーにファイルをペーストします。

3 Make Dir

ディレクトリーを新たに作成します。

4 Delete

選択しているファイルを削除します。

5 Format

接続しているUSBストレージデバイスを初期化します。

6 Clear Lock Image

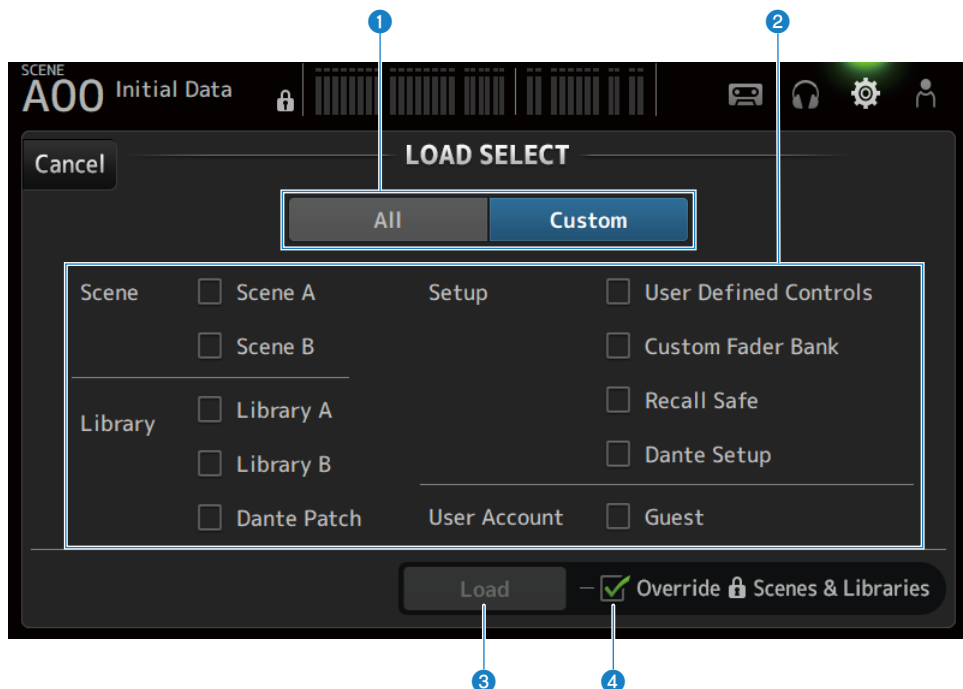
CONSOLE LOCK画面に表示する画像を解除します。

関連リンク

「SAVE/LOADの対象データ」 (346ページ)

LOAD SELECT画面

LOAD SELECT画面では、DM3シリーズの設定ファイルをロードするときに、ロードする内容を設定します。



1 All/Custom選択ボタン

ロード対象のデータを切り替えます。Allのときはすべてのデータがロードされます。Customのときは、ロード対象を選択するチェックボックスが表示されます。

2 ロード対象選択チェックボックス

ロードしたい項目にチェックを入れます。

User Accountチェックボックスは、AllとCustomのどちらにも表示されます。

3 Loadボタン

タッチすると設定データをロードします。

4 Override Protected Scenes & Librariesチェックボックス

オンにすると、設定データをロードしたときにプロテクトをかけたシーンとライブラリーも消去されます。プロテクトをかけたシーンやライブラリーを残しておきたいときは、このチェックを外してオフにします。

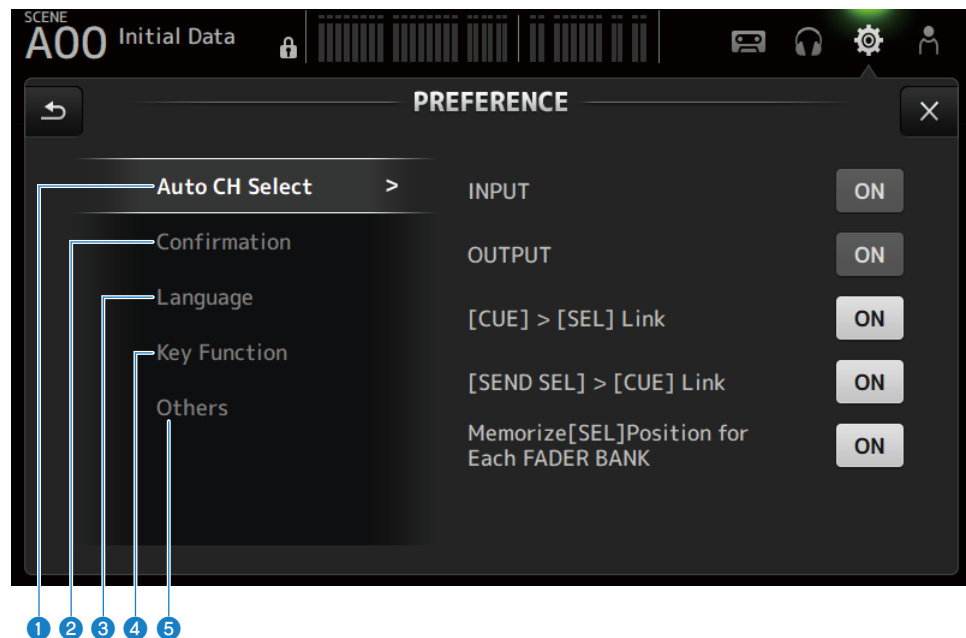
画面の機能と名称 > SETUP画面

関連リンク

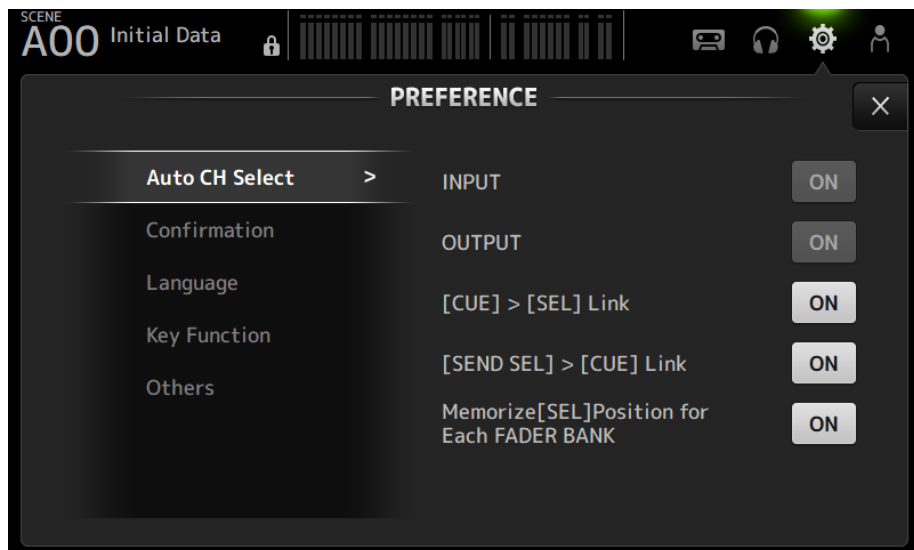
「SAVE/LOADの対象データ」 (346ページ)

PREFERENCE画面

PREFERENCE画面では、画面の表示や[SEL]キーの連動のオン/オフなどの操作環境に関する設定を、ユーザーの好みに合わせて設定します。



① Auto CH Selectセクション



• INPUT/OUTPUT :

あるチャンネルの[ON]キーやフェーダーを操作したときに、そのチャンネルを選択状態にするかどうかを設定します。

インプットチャンネルとアウトプットチャンネルを個別に設定できます。

• [CUE] > [SEL] Link :

CUEをオンにしたチャンネルを選択状態にするかどうかを設定します。

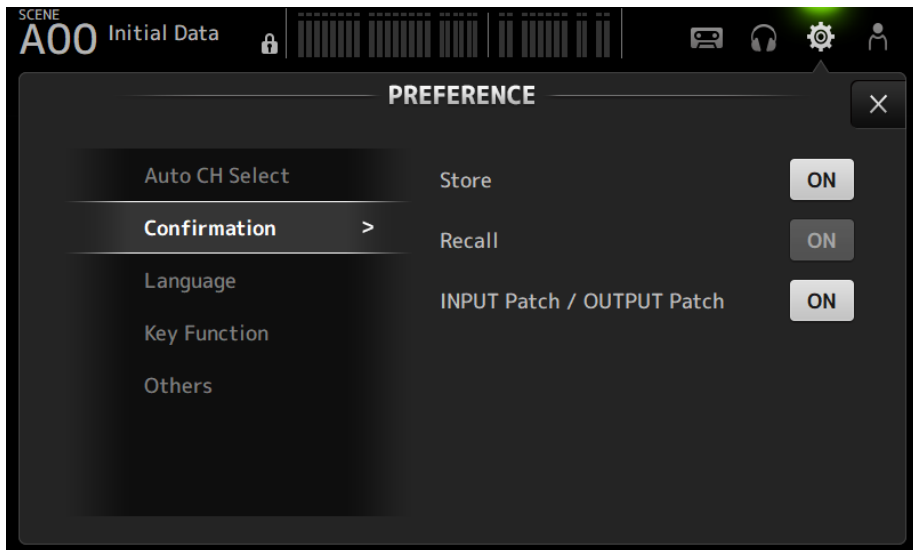
• [SEND SEL] > [CUE] Link :

SENDS ON FADERモードのチャンネル選択とCUEを連動させるかどうかを設定します。

• Memorize[SEL] Position for Each FADER BANK :

フェーダーバンク毎にチャンネルの位置を記憶させるかどうかを設定します。

② Confirmationセクション



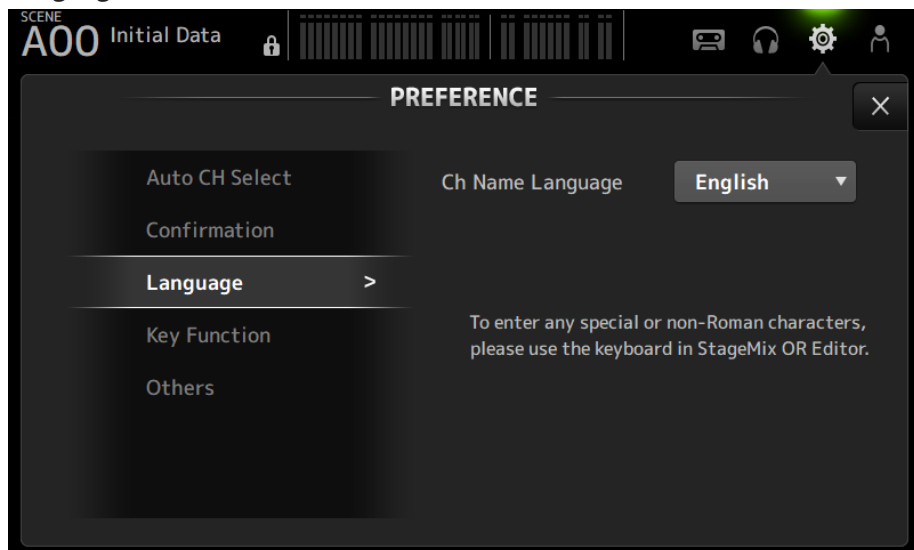
- **Store/Recall :**

オンにすると、それぞれストア/リコール操作のときに、確認のメッセージが表示されます。

- **INPUT Patch/OUTPUT Patch :**

オンにすると、パッチを変更するときに、確認のメッセージが表示されます。

③ Languageセクション

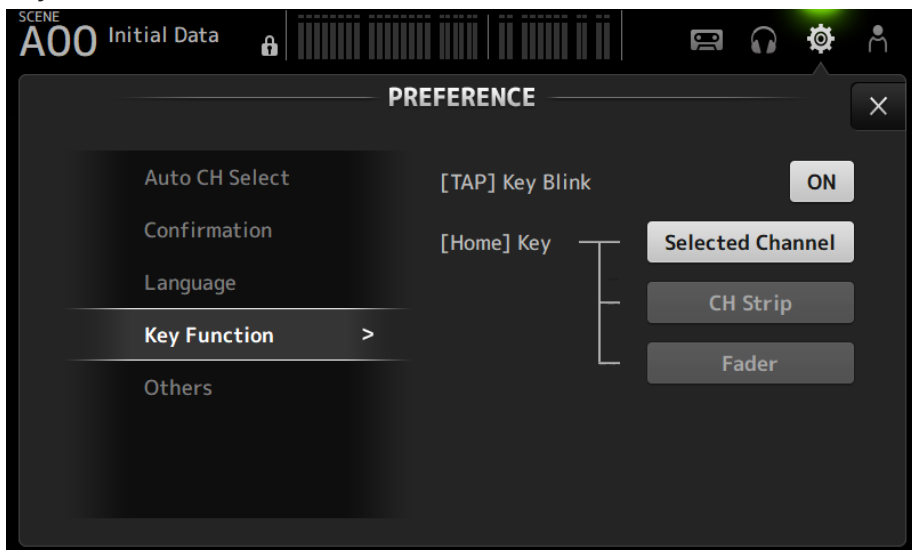


- **Ch Name Language :**
チャンネル名に使用する言語を選択します。

お知らせ

英語以外を入力する場合は、DM3 EditorやDM3 StageMixを使用します。

4 Key Functionセクション



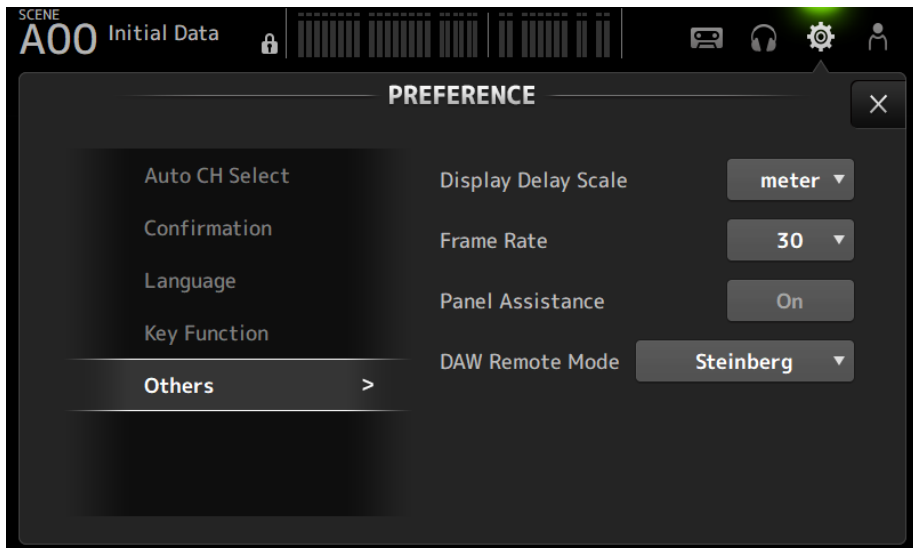
- **[TAP] Key Blink :**

Tap Tempoをアサインした[USER DEFINED KEYS]キーの点滅をオン/オフします。オフの状態でもタップテンポを入力できます。

- **[HOME] Key :**

トップパネルの[HOME]キー、またはディスプレイのHOMEボタンを押したときに表示するHOME画面のセクションを選択します。[HOME]キー/HOMEボタンを押すたびに、オンになっているセクションが順番に表示されます。

5 Othersセクション

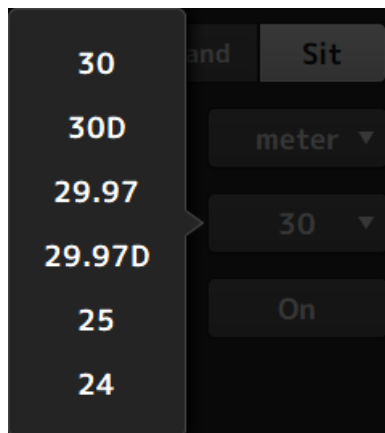


- **Display Delay Scale :**

DELAYボックスに表示するディレイタイムの単位を、sample（サンプル）、frame（フレーム）、meter（メートル）、feet（フィート）、ms（ミリ秒）から選択します。

- **Frame Rate :**

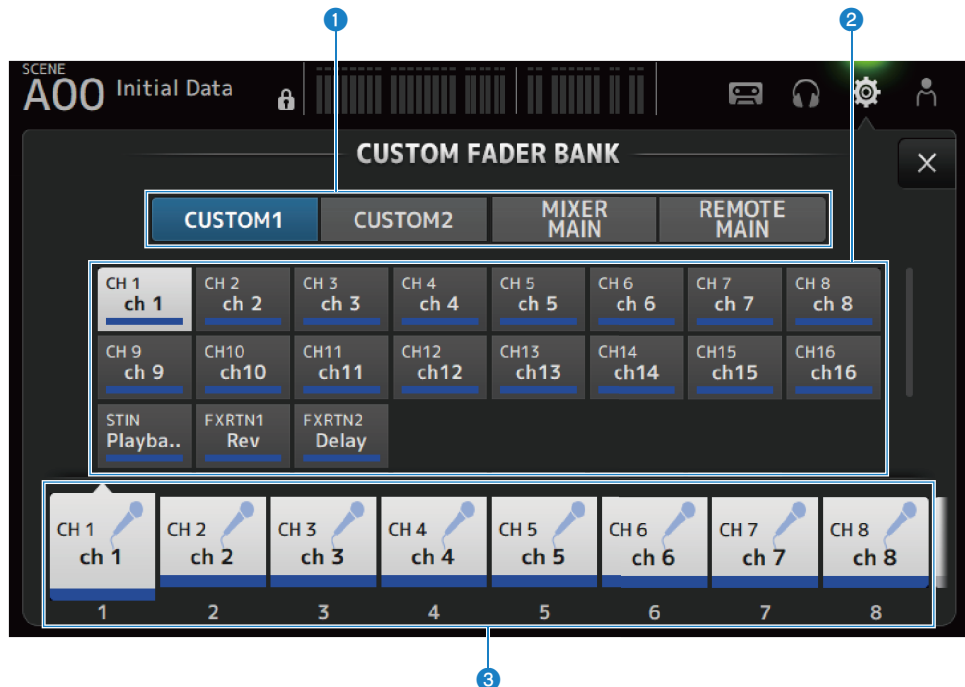
frame単位でのディレイ設定のフレームレートを選択します。



- **Panel Assistance :**
Brightnessを低く設定した場合に、パネルのLEDが薄く光ります。
- **DAW Remote Mode :**
DAW REMOTE BANKのオートメーションモードを、Steinbergモード、Otherモード（主にProTools）から選択します。

CUSTOM FADER BANK画面

CUSTOM FADER BANKは、チャンネルの割り当てを自由に設定できるフェーダーバンクです。2つのCUSTOM FADER BANKを使用できます。また、通常のFADER BANKとDAW REMOTE BANK時の[MAIN]フェーダーの割り当てを設定します。



① CUSTOM FADER BANK選択ボタン

設定するCUSTOM FADER BANK、またはMAINを選択します。

CUSTOM1とCUSTOM2は、すべてのフェーダーに自由にチャンネルを割り当てられます。

MIXER MAINは、通常のFADER BANK時の[MAIN]フェーダーの割り当てを設定します。

REMOTE MAINは、DAW REMOTE MAIN時の[MAIN]フェーダーの割り当てを設定します。

② チャンネルボタン

③で選択したフェーダーに割り当てるチャンネルを選択します。

[MAIN]フェーダーにMAINを割り当てると、SENDS ON FADER時にSENDメインになります。

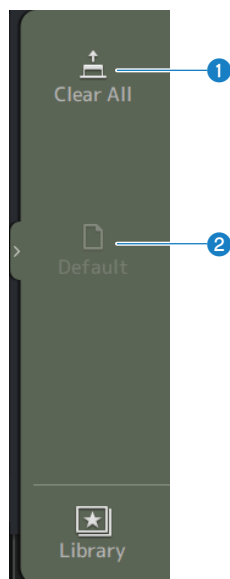
Noneを選択すると、割り当てなしになります。

③ フェーダーボタン

チャンネルを割り当てるフェーダーを選択します。

■ CUSTOM FADER BANK画面のメニュー

CUSTOM FADER BANK画面右端のメニュースワイプインジケータを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。



① Clear All

フェーダーに対するすべてのアサインを、一括で解除（Noneに設定）します。

② Default

フェーダーに対するすべてのアサインを、一括で初期設定に戻します。

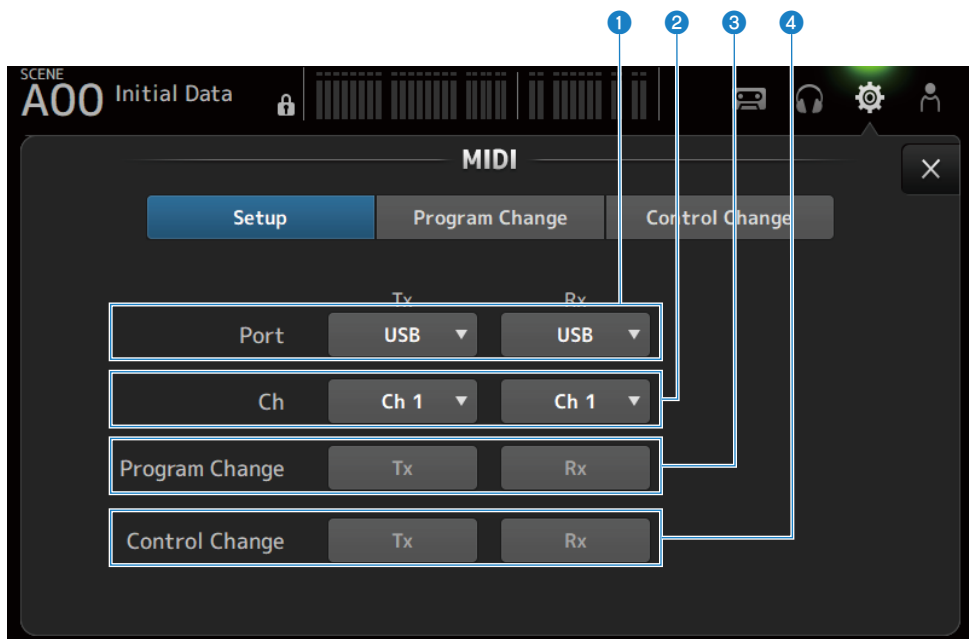
関連リンク

- ・「CUSTOM FADER BANKを設定する」 (275ページ)
- ・「CUSTOM FADER BANKを呼び出す」 (276ページ)

MIDI (Setup) 画面

MIDIの入出力を設定する画面です。

送信 (Tx) 、受信 (Rx) ごとに設定します。



1 Port選択ボタン

MIDIを送受信するポートを選択します。

- **USB:**
USBポート
- **OFF:**
使用しない

お知らせ

ここで設定するMIDIのポートは、コンピューターでは以下のように表示されます。

- **シーン、フェーダー、チャンネルのオン/オフ制御用のポート**
Windows : Yamaha DM3-1
Mac : Yamaha DM3 Port1
- **DAW REMOTE 用のポート**
Windows : Yamaha DM3-2
Mac : Yamaha DM3 Port2

② Ch選択ボタン

MIDIを送受信するチャンネルを選択します。

Ch1-16から選択します。

③ Program Change選択ボタン

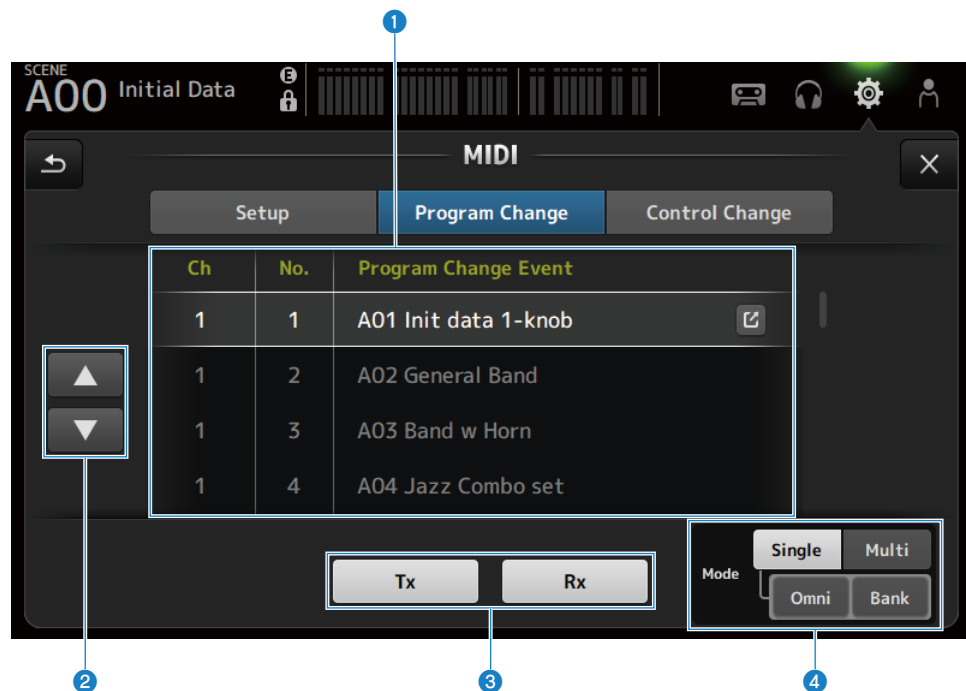
プログラムチェンジの送受信をオン/オフします。

④ Control Change選択ボタン

コントロールチェンジの送受信をオン/オフします。

MIDI (Program Change) 画面

MIDIのプログラムチェンジにシーンメモリーを割り当てる画面です。



1 プログラムチェンジリスト

プログラムチェンジに割り当てられたシーンをリスト表示します。

- **Ch:**
チャンネル番号を表示します。
SingleかつBankのModeを選択した場合は、バンク番号を表示します。
- **No:**
プログラムチェンジ番号を表示します。
- **Program Change Event:**
プログラムチェンジに割り当てられたシーンのタイトルを表示します。
タッチすると、シーン選択画面を表示します。

2 アップ/ダウンボタン

プログラムチェンジリストのチャンネルまたはバンクをアップ/ダウンします。

③ プログラムチェンジ選択ボタン

プログラムチェンジの送受信をオン/オフします。

Setup画面のプログラムチェンジ選択ボタンと同じ機能です。

④ Mode選択ボタン

• Single :

Setup画面で設定したMIDIチャンネルで送受信するモードです。

SingleでかつOmniを選択した場合は、すべてのMIDIチャンネルのプログラムチェンジを受信します。

送信はSetup画面で設定したMIDIチャンネルのみです。

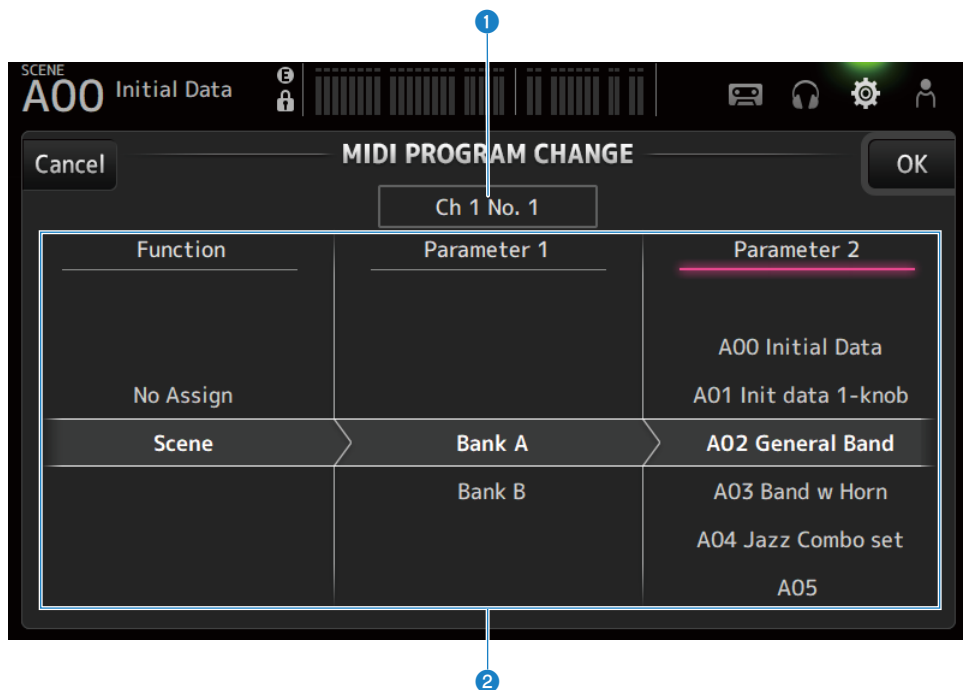
Singleでかつ、Bankを選択した場合は、コントロールチェンジのBank Selectを送受信しません。

• Multi :

すべてのMIDIチャンネルで送受信するモードです。

■ シーン選択画面

シーン選択画面は、プログラムチェンジにシーンメモリーを割り当てる画面です。



① プログラムチェンジ表示

シーンを割り当てるプログラムチェンジのMIDIチャンネル番号とプログラムチェンジ番号を表示します。

SingleかつBankを選択した場合は、バンク番号とプログラムチェンジ番号を表示します。

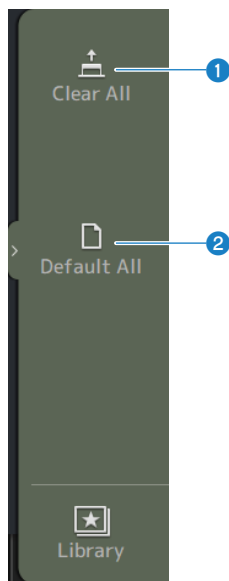
② シーンリスト

プログラムチェンジに割り当てるシーンを選択します。

シーンを割り当てない場合は、FunctionでNo Assignを選択します。

■ MIDI PROGRAM CHANGE画面のメニュー

MIDI PROGRAM CHANGE画面右端のメニュースワイプインジケータを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。



① Clear All

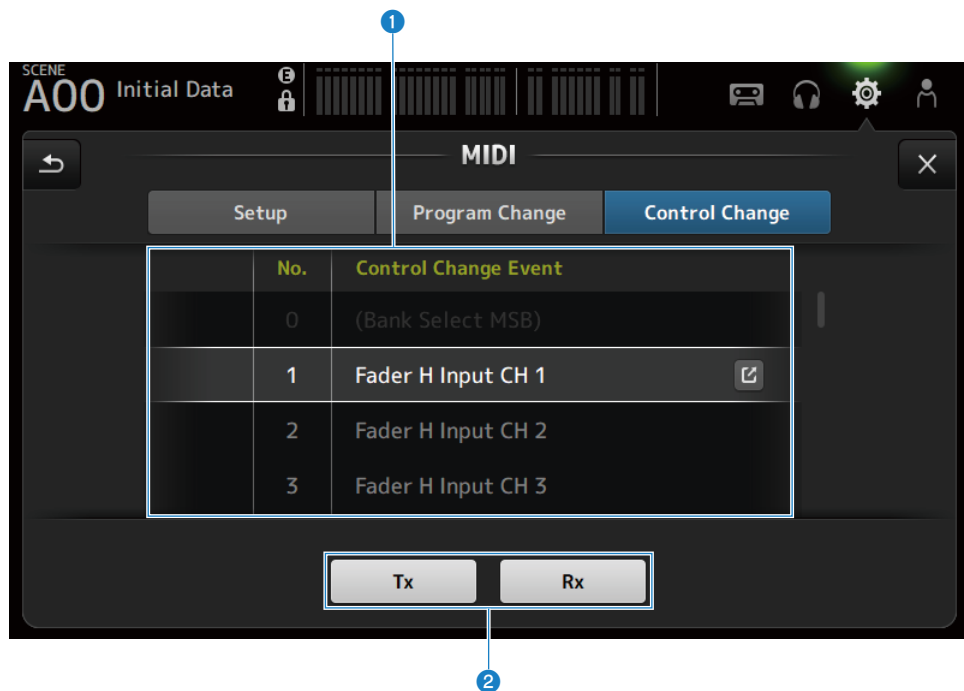
プログラムチェンジに割り当てたシーンをすべて解除します。

② Default All

プログラムチェンジの割り当てを初期状態に設定します。

MIDI (Control Change) 画面

MIDI Control Change画面は、コントロールチェンジにフェーダー、[ON]キーを割り当てる画面です。



① コントロールチェンジリスト

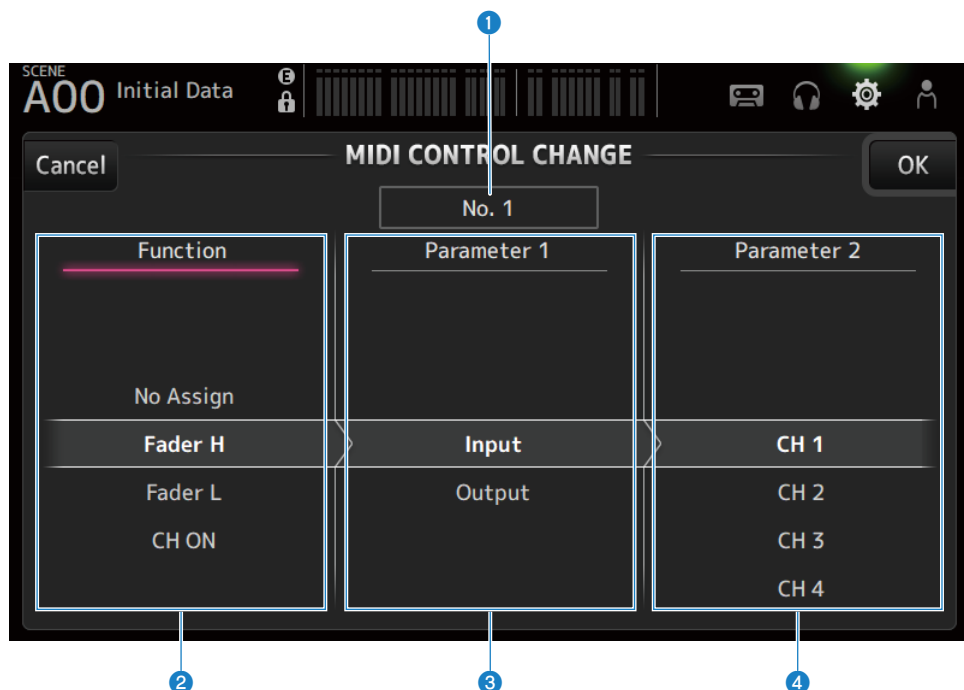
- **No.:**
コントロールチェンジ番号を表示します。
- **Control Change Event:**
コントロールチェンジに割り当てられたパラメーターを表示します。
タッチすると、MIDI CONTROL CHANGE選択画面を表示します。

② コントロールチェンジ選択ボタン

- コントロールチェンジの送受信をオン/オフします。
Setup画面のControl Change選択ボタンと同じ機能です。

■ MIDI CONTROL CHANGE選択画面

MIDI CONTROL CHANGE画面は、コントロールチェンジにパラメーターを割り当てる画面です。



1 コントロールチェンジ表示

パラメーターを割り当てるコントロールチェンジのコントロール番号を表示します。

2 Function

コントロールする機能を選択します。

コントロールチェンジにパラメーターを割り当てない場合は、No Assignを選択します。

3 Parameter 1

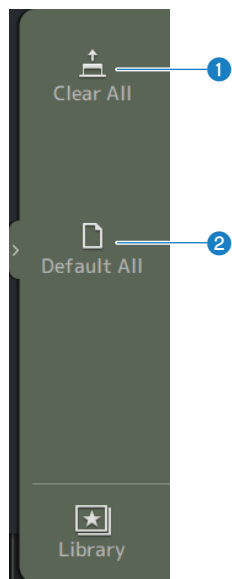
入力チャンネルか出力チャンネルを選択します。

4 Parameter 2

チャンネル番号を選択します。

■ MIDI CONTROL CHANGE画面のメニュー

MIDI CONTROL CHANGE画面右端のメニュースワイプインジケータを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。



① Clear All

コントロールチェンジに割り当てた設定をすべて解除します。

② Default All

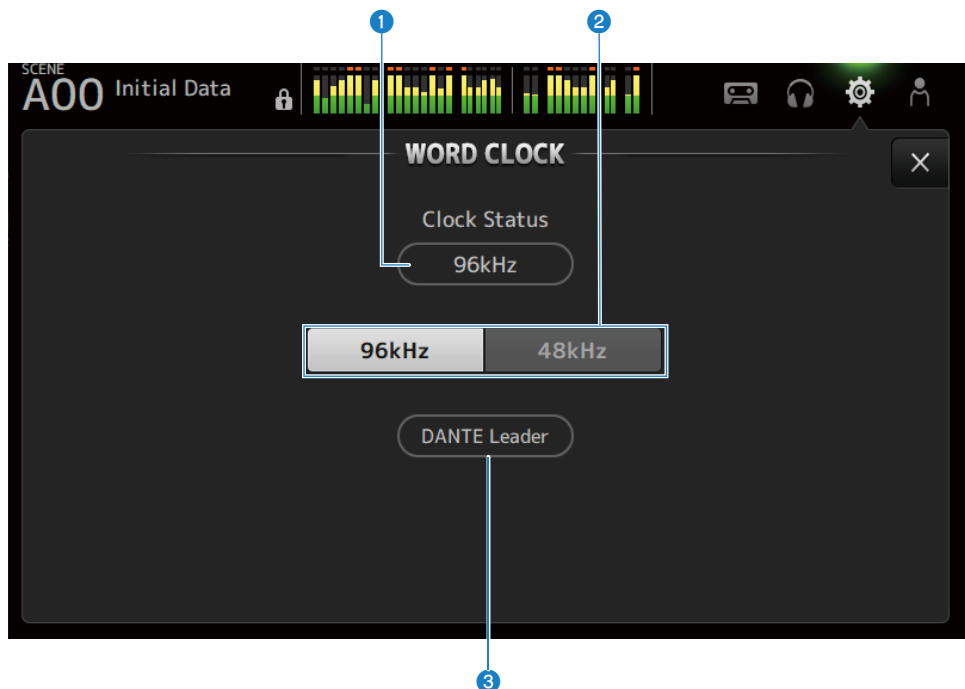
コントロールチェンジの割り当てを初期状態に設定します。

関連リンク

「コントロールチェンジにアサインできるパラメーターリスト」 (351ページ)

WORD CLOCK画面

WORD CLOCK画面は、DM3シリーズのワードクロックを設定する画面です。



① リーダークロック周波数

現在のリーダークロックの状態を表示します。

- **96 kHz :**
96 kHzで同期している状態
- **48 kHz :**
48 kHzで同期している状態
- **Unlock :**
同期が外れている状態

② リーダークロック選択ボタン

リーダークロックとして使用する周波数を選択する。

③ Danteクロックステータス表示 (DM3のみ)

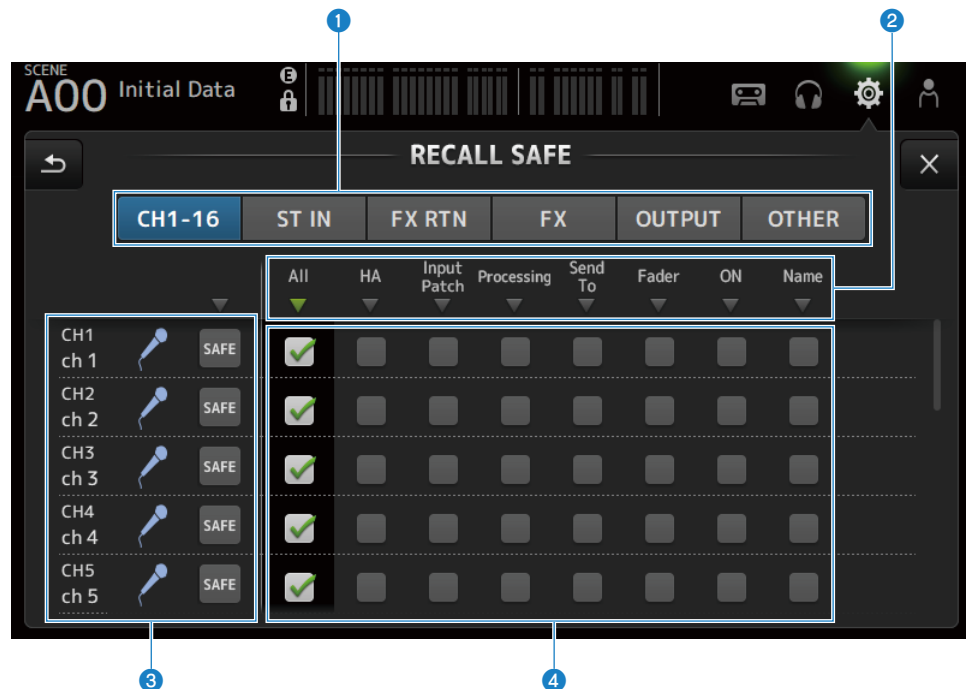
Danteオーディオネットワーク内でクロックリーダーやクロックフォロワーになっているときに表示されます。

お知らせ

- Dante ControllerからDevice Lockがかけられているときは、リーダークロックを変更できません。
- Dante Domain Manager(DDM)のドメインにエンロールしているときは、リーダークロックを変更できません。
- AES67 ModeがEnabledの場合は、リーダークロックを48 kHzから96 kHzに変更できません。

RECALL SAFE画面

RECALL SAFE画面ではシーンをリコールしたときのリコールセーフを設定します。リコールセーフとは、特定のパラメーター/チャンネルをリコール操作から除外する機能です。



1 設定対象チャンネル切り替えボタン

リコールセーフを設定するチャンネルタイプを選択します。

選択したチャンネルタイプに応じて、SAFEパラメーター表示が変わります。

2 SAFEパラメーター表示

▼ボタンをタッチすると、選択しているチャンネル種別の全チャンネルのSAFEパラメーターのオン/オフが切り替わります。

▼ボタンは、すべてのSAFEパラメーターがオンの場合に緑色になります。また、一部のSAFEパラメーターがオンの場合は青色、すべてのパラメーターがオフの場合は灰色で表示します。

3 チャンネル情報表示

チャンネルID、チャンネル名、アイコンを表示します。

SAFEボタンをタッチすると、そのチャンネルのリコールセーフのオン/オフを切り替えます。

オンのときは、SAFEパラメーター切り替えボタンで選択したパラメーターがシーンリコールされなくなります。

4 SAFEパラメーター切り替えボタン

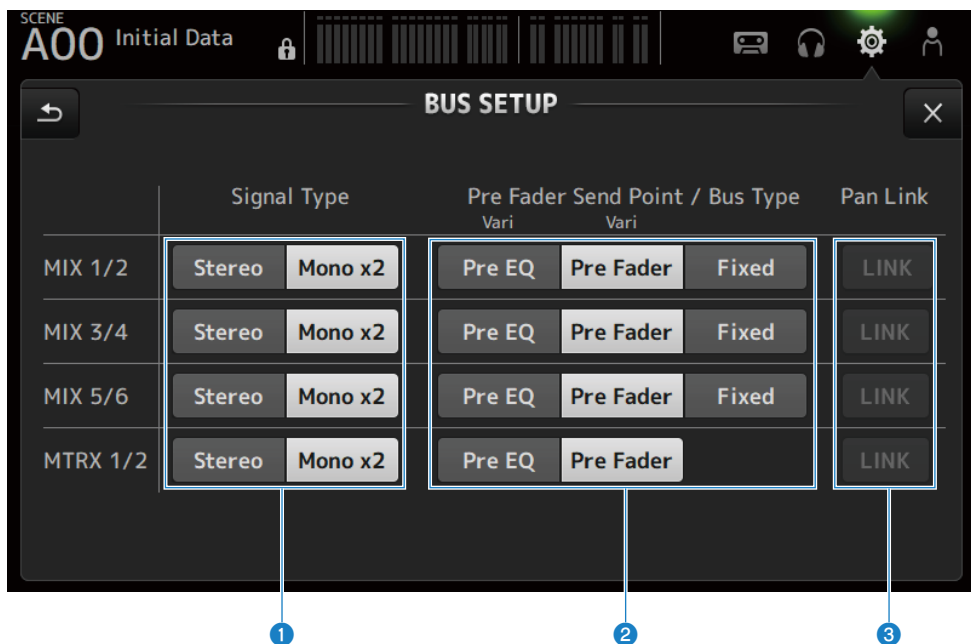
SAFEパラメーターのオン/オフを切り替えます。オンにしたパラメーターがリコールセーフの対象となります。

関連リンク

「リコールセーフ機能を使う」 (279ページ)

BUS SETUP画面

BUS SETUP画面は、バスの基本設定（ステレオ/モノラルの切り替え、Pan Linkなど）を変更します。変更した内容は、シーンに保存されます。



① シグナルタイプ切り替えボタン

2バスごとに信号の処理方法を選択します。バスごとにStereo（奇数/偶数番号の順に並んだ2つのバス単位で主要パラメーターを連動させる）、またはMono x2（モノラル x 2チャンネルとして使用する）を選択します。

② Pre Fader Send Point/Bus Type切り替えボタン

MIX BUS/MATRIX BUSへのセンドで、センドレベルが可変のVariと、センドレベルが固定のFixedを選択します。

Variは、Send Preをオンにしたときのセンドポイントを選択します。

- Pre EQ :

EQの直前

- Pre Fader :

フェーダーの直前

MATRIX BUSでは、Fixedを選択できません。

③ Pan Linkボタン

Pan Linkのオン/オフを切り替えます。

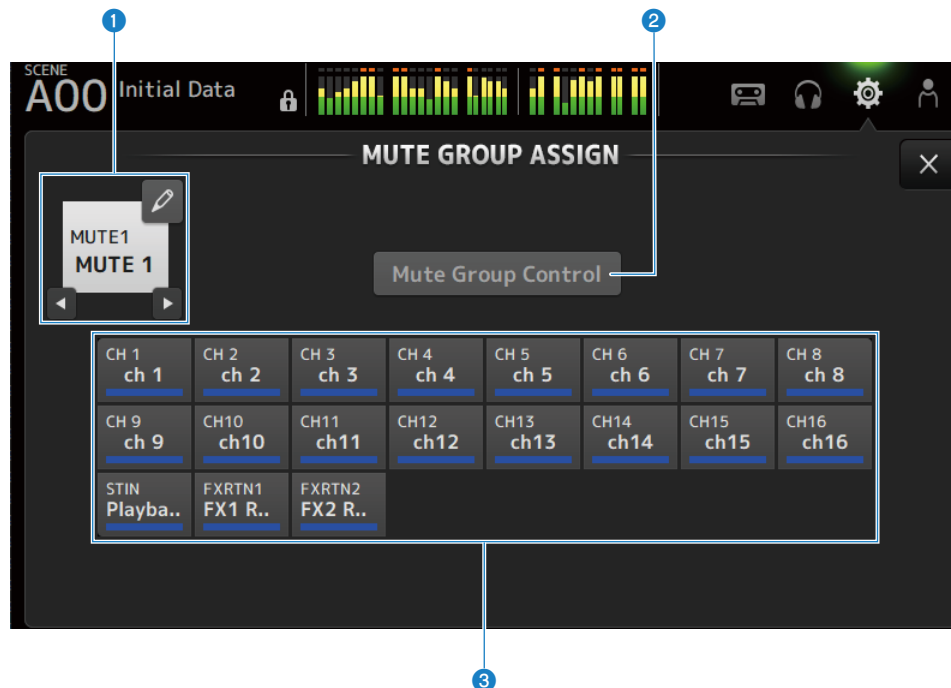
このボタンは、Signal TypeがStereoの設定になっている場合に表示します。ボタンがオンのときは、チャンネルから該当する2つのバスへ送られる信号のパンが、STEREO BUSへ送られるパンと連動します。

MUTE GROUP ASSIGN画面

MUTE GROUP ASSIGN画面では、入力チャンネルのミュートグループを設定します。

DM3シリーズでは、6個のミュートグループを使用できます。ミュートグループは、複数のチャンネルのミュートのオン/オフを一括して切り替える機能です。

複数のチャンネルを同時にカットアウトしたいときなどに利用できます。複数のグループに同じチャンネルを混在させることもできます。



1 ミュートグループ名

設定するミュートグループ名を表示します。

右上のジャンプボタンをタッチするとミュートグループの名前を編集できます。

◀▶ボタンをタッチすると、ミュートグループを切り替えます。

2 Mute Group Controlボタン

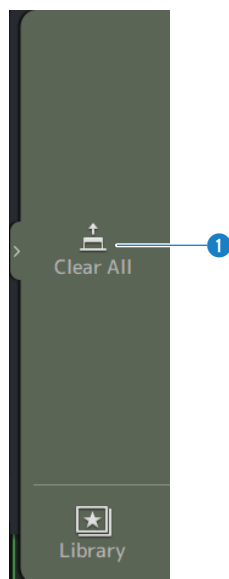
表示しているミュートグループのオン/オフを切り替えます。このボタンがオフのときは、該当するミュートグループが無効になります。

3 チャンネル選択ボタン

ミュートグループに割り当てる入力チャンネルを選択します。

■ MUTE GROUP ASSIGN画面のメニュー

MUTE GROUP ASSIGN画面右端のメニュースワイプインジケータを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。



① Clear All

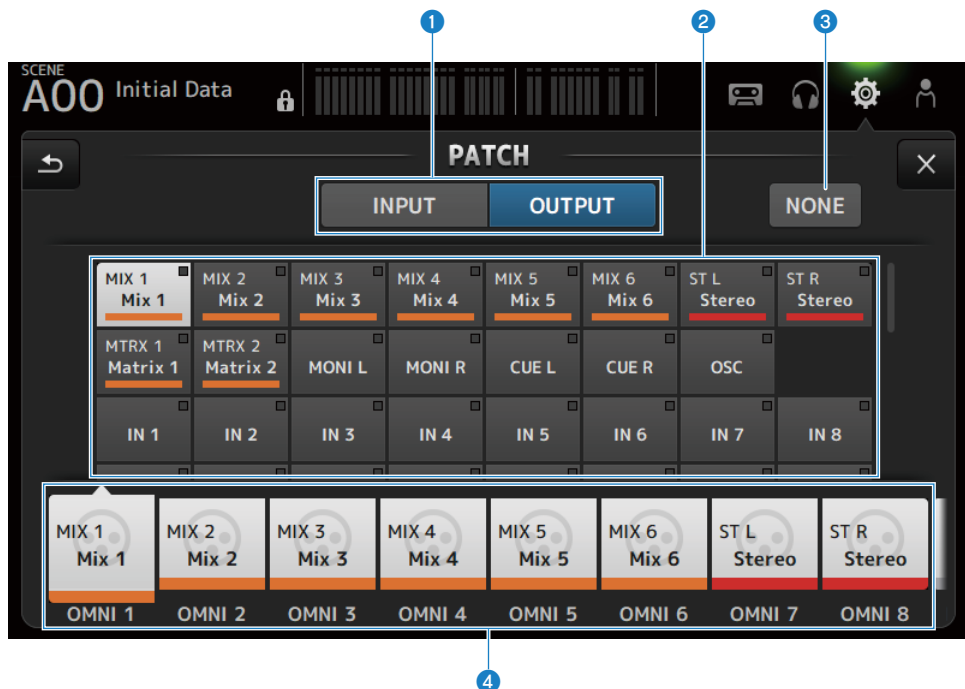
ミュートグループに割り当てたチャンネルをすべて解除します。

関連リンク

- ・「ミュートグループに割り当てるチャンネルを選ぶ」 (281ページ)
- ・「ミュートセーフを設定する」 (307ページ)

PATCH画面

PATCH画面では、インプットチャンネルにパッチするポートを設定したり、アウトプットポートにパッチするチャンネルを設定します。



1 INPUT/OUTPUT切り替えボタン

入力と出力の設定を切り替えます。

2 パッチ元ボタン

INPUTの場合、**4**で選択したインプットチャンネルにパッチするソースポートを選択します。
OUTPUTの場合、**4**で選択したアウトプットポートにパッチするソースチャンネルを選択します。

Noneを選択すると、何もパッチされません。

3 NONEボタン

パッチするソースポート、ソースチャンネルの選択を解除します。

4 パッチ先ボタン

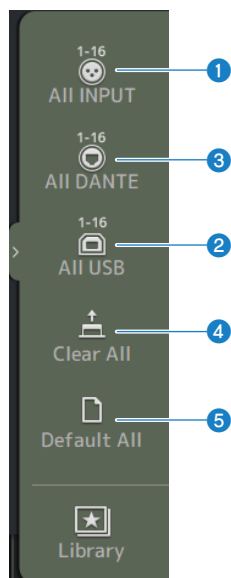
INPUTの場合は、パッチ先となるインプットチャンネルを選択します。

OUTPUTの場合は、パッチ先となるアウトプットポートを選択します。

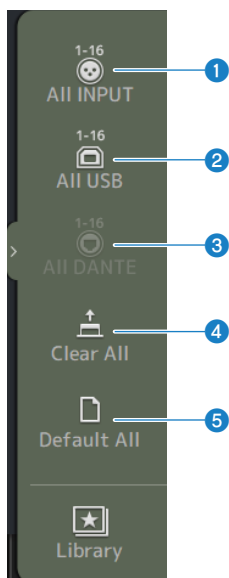
■ PATCH画面のメニュー

PATCH画面右端のメニュースワイプインジケータを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。

DM3の場合



DM3 STANDARDの場合



① All INPUT

INPUTの場合、入力ソースを[INPUT]端子に一括で切り替えます。

② All USB

INPUTの場合、入力ソースを[USB TO HOST]端子に接続したコンピューターからの接続に一括で切り替えます。

③ All DANTE (DM3のみ)

INPUTの場合、入力ソースをDante機器からの入力に一括で切り替えます。

④ Clear All

すべてのパッチを一括で解除 (Noneに設定) します。

⑤ Default All

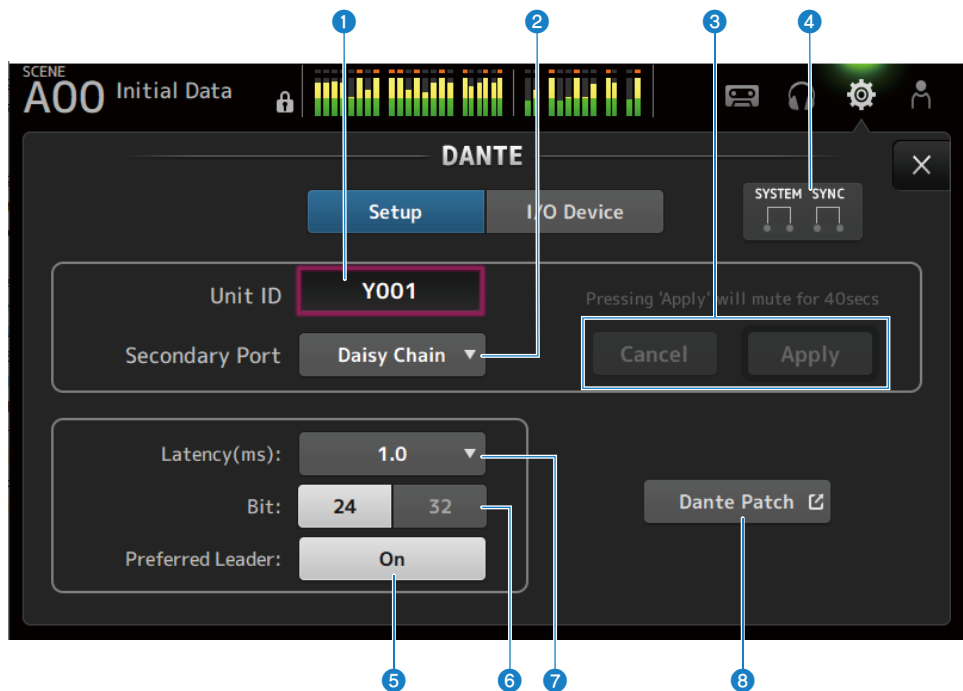
すべてのパッチを一括で初期設定に戻します。

関連リンク

- ・「入出力のパッチ」 (277ページ)
- ・「入出力パッチの初期値」 (364ページ)

DANTE (Setup) 画面 (DM3のみ)

DANTE (Setup) 画面では、Danteオーディオネットワークの環境を設定します。
画面タイトルの下のSetupボタンを押すとDANTE (Setup) 画面が表示されます。

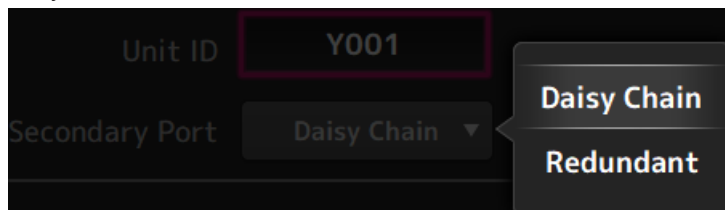


1 Unit IDテキストボックス

[TOUCH AND TURN]ノブでUnit IDを設定します。範囲はY000~Y01Fです。
Applyボタンをタッチすると設定が反映されます。

2 Secondary Port選択ボタン

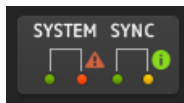
Secondary Portの機能を選択します。
Daisy Chain、Redundantから選択します。



3 Cancel、Applyボタン

Unit ID、Secondary Portの設定が変更されると操作が有効になります。設定変更をキャンセルまたは反映するのに使用します。

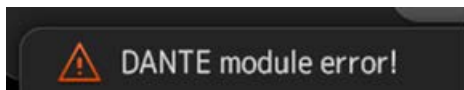
4 SYSTEM、SYNCインジケータ



DM3のDanteの状態を表示します。

エラー、警告、インフォメーションがある場合、対応するアイコンが表示されます。

タッチすると画面下部にメッセージが表示されます。



5 Preferred Leaderボタン

Preferred Leaderをオン/オフします。

Onにすると、Danteオーディオネットワーク内でリーダーになる優先順位が上がります。Offにすると、Danteオーディオネットワーク内でリーダーになる優先順位が下がります。

お知らせ

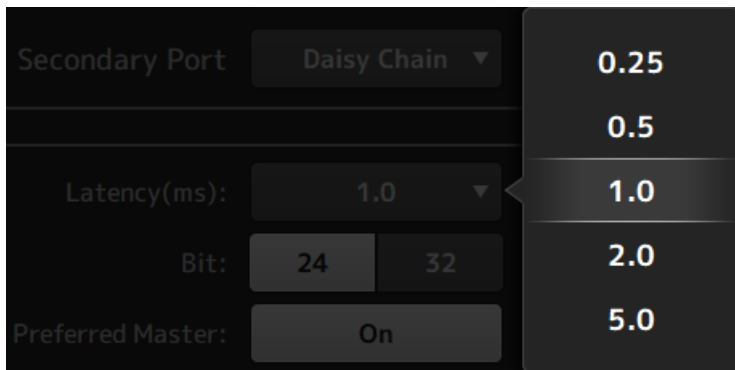
- Onに設定している機器がDanteオーディオネットワークの中で1台の場合、その機器がリーダーになります。
- Onに設定している機器がDanteオーディオネットワークの中に複数いる場合、その内どれか1台がリーダーになります。
- すべての機器がOffに設定されている場合、I/Oデバイスを含んだすべてのDanteデバイスの中のどれか1台がリーダーになります。

6 Bit選択ボタン

24-bitか、32-bitを選択します。

7 Latency選択ボタン

DanteのLatencyを選択します。



8 Dante Patchボタン

タッチすると、DANTE PATCH画面が表示されます。

お知らせ

- Preferred Leaderの初期設定はOnです。また、常時起動させる機器のPreferred LeaderのみをDante Controllerでオン（他をすべてオフ）にして、リーダーを明示的に指定することもできます。
- Dante ControllerによってDevice Lockがかけられているとき、またはDante Domain Manager(DDM)のドメインにエンロールされているときは、Latency、Bit、Preferred Leaderの設定を変更できません。
- Dante Domain Managerのドメインにエンロールされている場合は DANTE PATCH画面を開くことができません。また、NETWORK画面のFor Device ControlのIPアドレスとPreferred Leaderで表示されるIPアドレスのサブネットが異なる場合もDANTE PATCH画面を開くことができません。

関連リンク

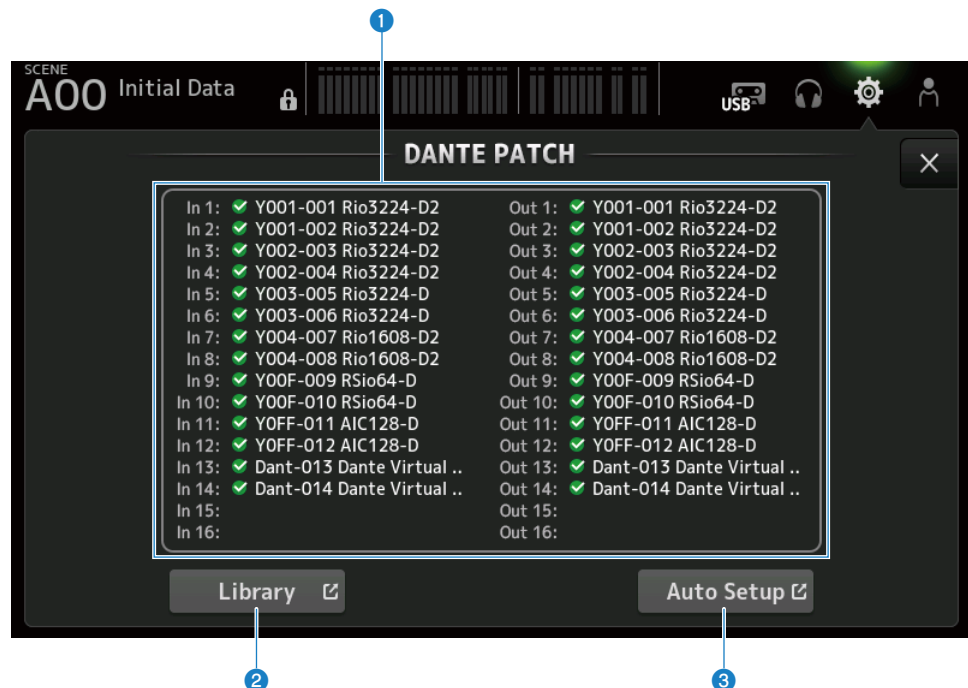
- 「Danteについて」 (365ページ)
- 「DANTE PATCH画面」 (124ページ)

DANTE PATCH画面

DANTE PATCH画面は、現在のDanteのパッチ状態を表示、設定する画面です。

Danteのパッチライブラリーの読み込みと特定のI/Oデバイスを対象として自動設定もできます。

Dante Domain Managerのドメインにエンロールされている場合は DANTE PATCH画面を開くことができません。また、NETWORK画面のFor Device ControlのIPアドレスと Dante Controllerで表示されるIPアドレスのサブネットが異なる場合もDANTE PATCH画面を開くことができません。



1 Danteパッチ表示

現在のDanteのパッチ状態を表示します。



設定済



オフライン



エラー

② Libraryボタン

Danteのパッチライブラリーを読み込みます。

タッチするとDANTE PATCH LIBRARY画面が表示されます。

③ Auto Setupボタン

特定のI/Oデバイスを対象に自動設定をします。

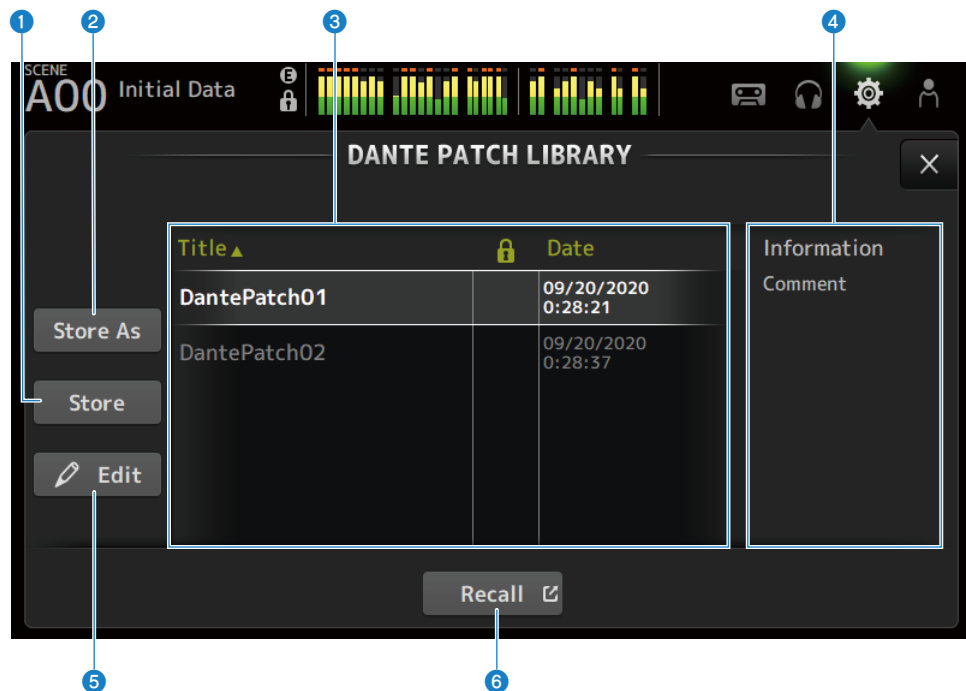
タッチするとAUTO SETUP画面が表示されます。

関連リンク

- ・「DANTE PATCH LIBRARY画面」 (126ページ)
- ・「DANTE AUTO SETUP画面」 (131ページ)

DANTE PATCH LIBRARY画面

DANTE PATCH LIBRARY画面は、Danteのパッチライブラリーを読み込んだり保存したりする画面です。



1 Storeボタン

3で選択したライブラリーを現在のDanteパッチで上書き保存します。
鍵アイコンが表示されている場合、上書き保存できません。

2 Store Asボタン

現在のDanteパッチを、パッチライブラリーとして追加保存します。
タッチするとSOFT KEYBOARD画面を表示します。

3 Danteパッチライブラリーリスト

DM3シリーズ本体に保存されているDanteパッチライブラリーをリスト表示します。

4 Information表示

3のリストで選択したライブラリーのコメントを表示します。

5 Editボタン

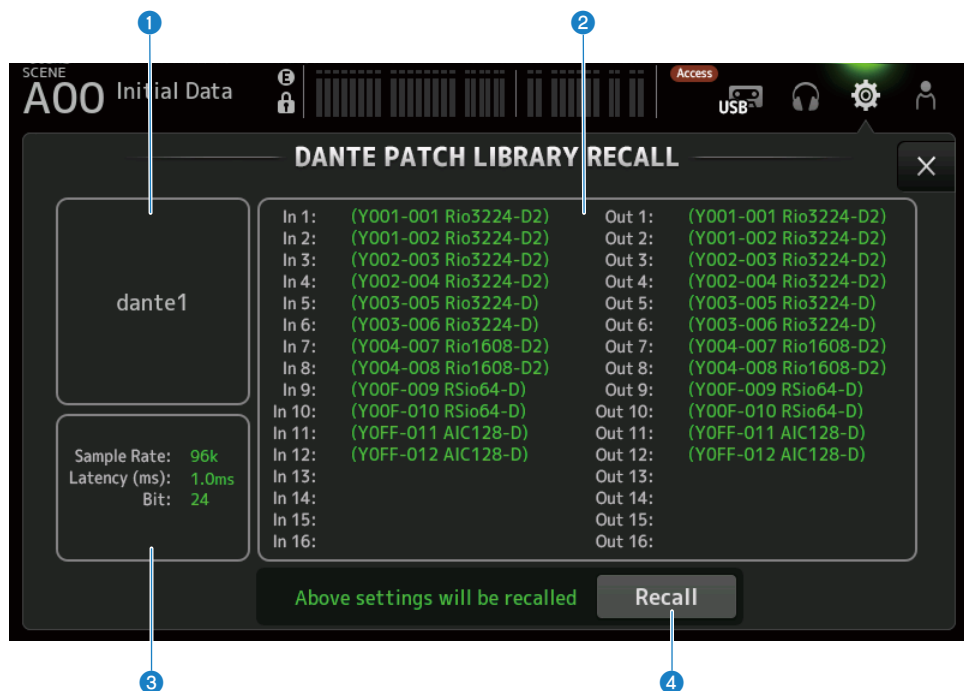
③のリストで選択したライブラリーのタイトルとコメントを編集します。
タッチするとSOFT KEYBOARD画面を表示します。

6 Recallボタン

③のリストで選択したライブラリーを読み込みます。
タッチすると、DANTE PATCH LIBRARY RECALL画面を表示します。

■ DANTE PATCH LIBRARY RECALL画面

DANTE PATCH LIBRARY RECALL画面は、Danteパッチライブラリーを読み込む画面です。



1 ライブラリータイトル

ライブラリーのタイトルを表示します。

2 Danteパッチ表示

Danteパッチされる機器を表示します。

パッチ先が実際に存在する項目は、ユニットID、ポート番号、機器名を緑色で表示します。
パッチ先がDante オーディオネットワーク内に存在しない項目は、グレーで表示します。

3 Danteセットアップ表示

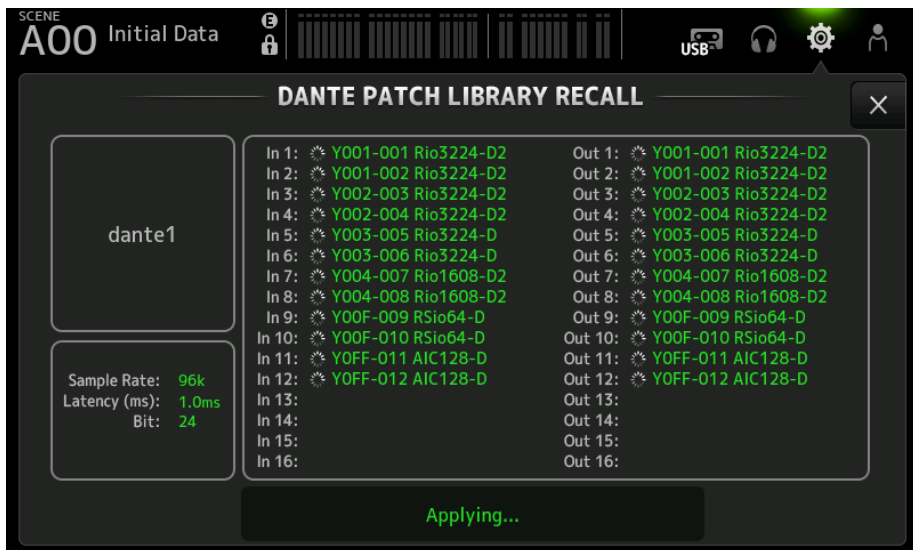
パッチ先の機器に適用するDante設定を表示します。

4 Recallボタン

ライブラリーのDanteパッチを読み込みます。

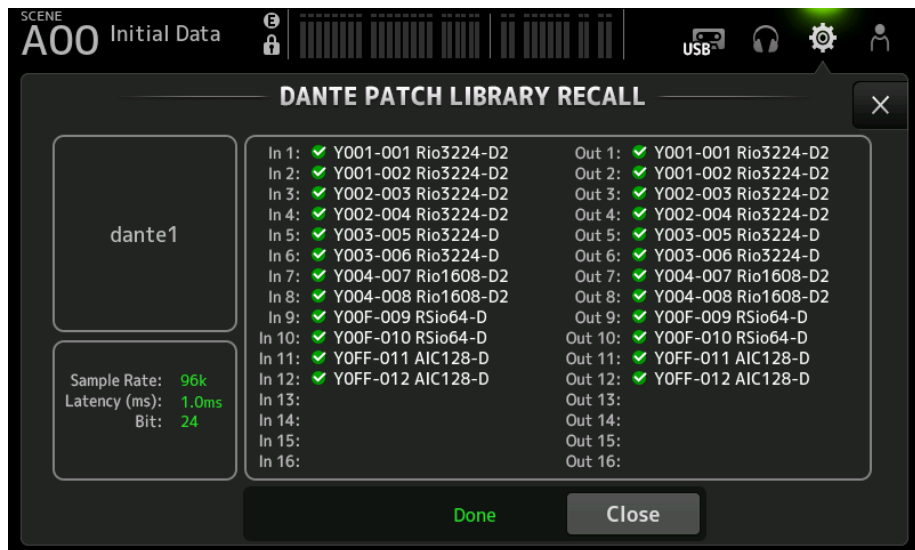
各項目に対して、設定状態を表示します。

読み込み中は下記の例のようにステータスが表示されます。



読み込みが完了すると下記の例のようにステータスが表示されます。

Closeボタンをタッチして画面を閉じます。



ステータスのアイコンの種類は下記の通りです。



設定中



設定済み



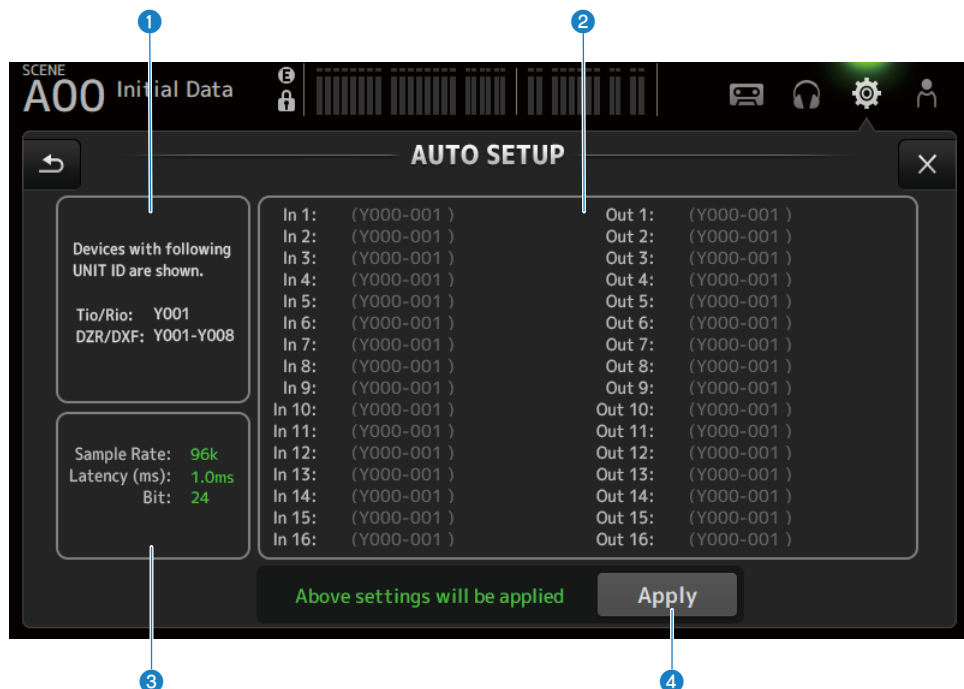
タイムアウト



設定失敗

DANTE AUTO SETUP画面

DANTE AUTO SETUP画面では、DM3のSample RateやLatency、Bitの値を自動で設定し、特定の機器を対象に自動でパッチします。



① 自動セットアップデバイス

AUTO SETUPの対象機器を表示します。

② DANTEパッチ表示

自動でパッチされる機器の候補を表示します。

パッチできるポートは、ユニットID、ポート番号、機器名が緑色で表示されます。

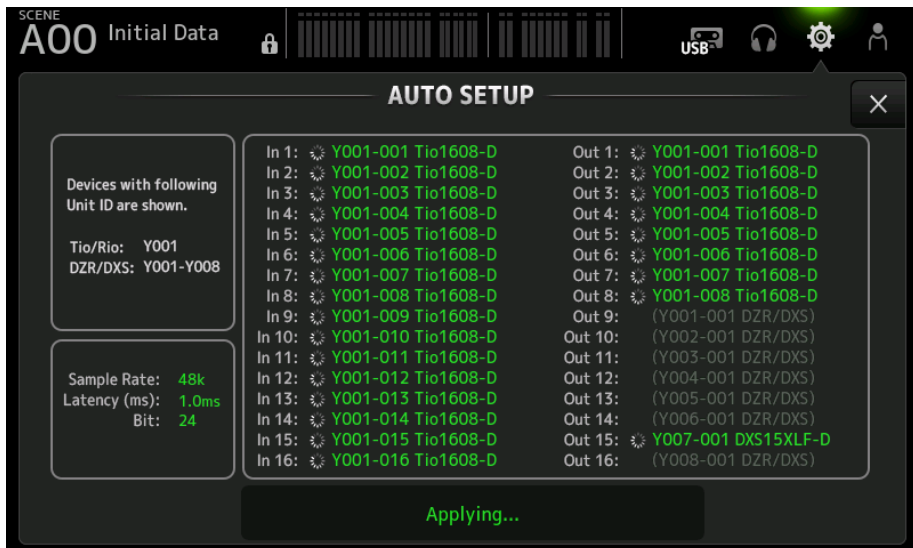
③ DANTEセットアップ表示

パッチ先のI/O機器に設定するSample Rate、Latency、Bitの値を表示します。

4 Applyボタン

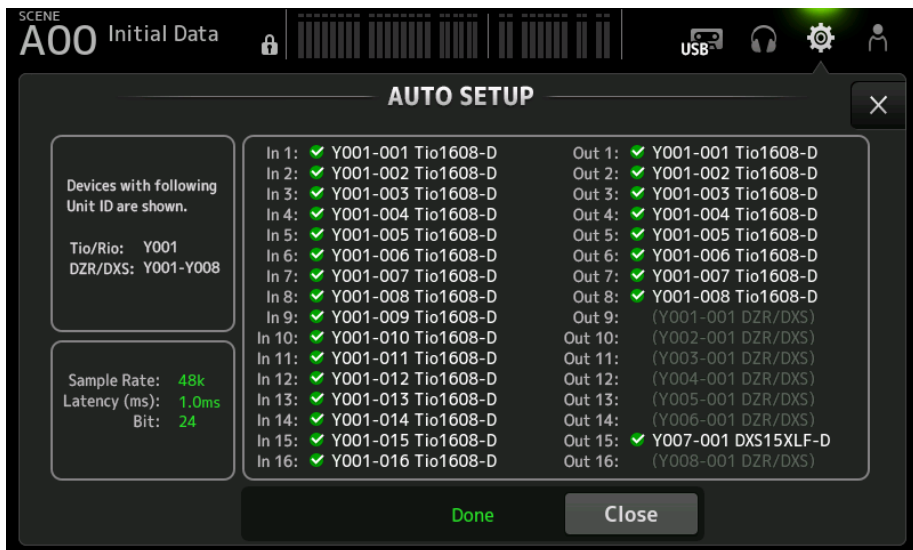
自動セットアップを開始します。

読み込み中は下記の例のようにステータスが表示されます。



読み込みが完了すると下記の例のようにステータスが表示されます。

Closeボタンをタッチして画面を閉じます。



画面の機能と名称 > SETUP画面

ステータスのアイコンの種類は下記の通りです。



設定中



設定済み



タイムアウト



設定失敗

お知らせ

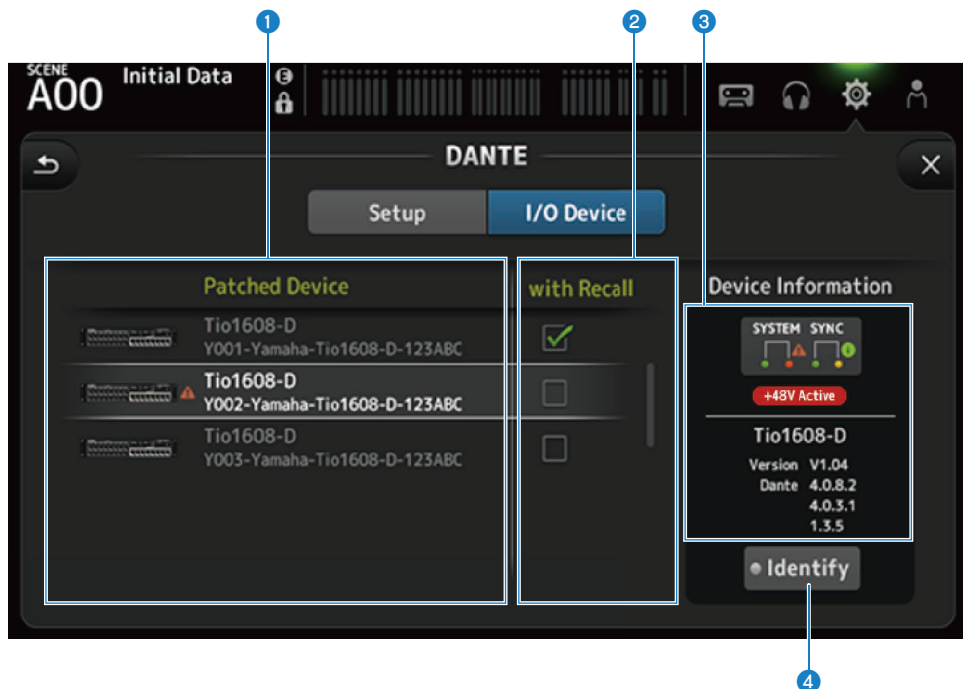
Tio1608-Dはリーダークロック周波数96kHzでの接続に対応していません。DM3のリーダークロック周波数が96kHzの状態を対象機器にTio1608-Dが表示される場合、リーダークロック周波数を48kHzに変更するかどうかを確認するダイアログが表示されます。OKボタンをタッチすると、DM3のリーダークロックが48kHzに設定されます。

関連リンク

- 「Dante Auto Setupの対応モデル」 (360ページ)
- 「Dante Auto Setupのパッチ」 (361ページ)

DANTE (I/O Device)画面

DANTE (I/O Device)画面では、DM3にDanteパッチされたリモートHA対応機器の設定をします。



1 Patch Deviceリスト

DM3にDanteパッチされたリモートHA対応機器のリストを表示します。

2 With Recallチェックボックス

リモートHA対応機器に対して、With Recall機能をオン/オフします。

③ Device Information表示

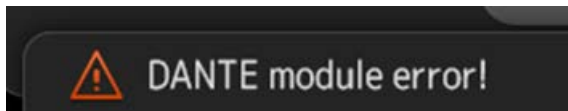
Patch Deviceリストで選択した機器の情報を表示します。



System/Syncインジケータ :

機器のDanteの状態を表示します。

エラー、警告、インフォメーションがある場合、インジケータにアイコンが表示されます。インジケータをタッチすると画面の下部にメッセージが表示されます。



+48V Active インジケータ :

機器の+48V Activeの情報を表示します。

その他にモデル名、バージョン番号を表示します。

④ Identifyボタン

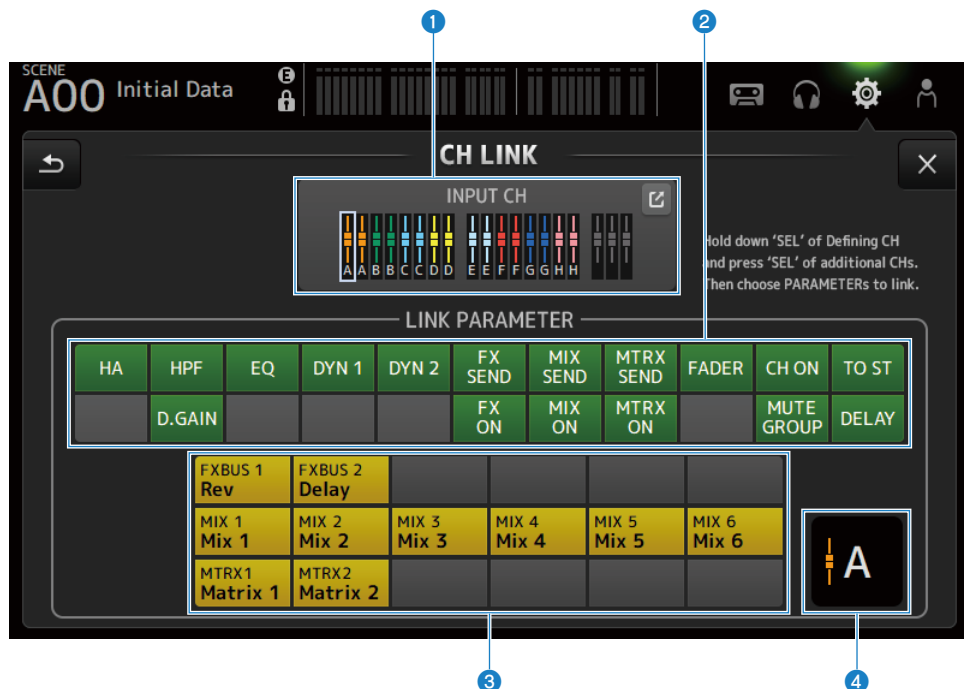
ボタンをタッチしている間、接続先の機器のLEDが点滅します。

お知らせ

- 接続先の機器にSystem/Syncのエラー、警告、インフォメーションがある場合は、機器のアイコンの右側に赤い▲アイコンが表示されます。
- リモートHAに対応した機器は下記の通りです。
 - ・Tio1608-D
 - ・Rio1608-D
 - ・Rio3224-D
 - ・Rio1608-D2
 - ・Rio3224-D2
 - ・Ri8-D
 - ・DM3

CH LINK画面

CH LINK画面では、インプットチャンネルのチャンネルリンクを設定します。



1 リンクグループ

インプットチャンネルの各リンクグループを色とラベルで表示します。
ジャンプボタンをタッチすると、CH LINK SET画面を表示します。

2 リンクパラメーターボタン

リンクするパラメーターをグループごとに設定します。1の枠が選択しているチャンネルです。

ボタンをタッチして連動するパラメーターを選択します。

SENDパラメーターは連動するバスを選択できます。

画面の機能と名称 > SETUP画面

ボタン	連動するパラメーター
HA	HAゲイン設定
HPF	ハイパスフィルター設定
D.GAIN	デジタルゲイン設定
EQ	EQ設定
DYN1	GATE/DUCKING設定
DYN2	COMP設定
FX SEND	FXセンド設定
FX ON	FX ON設定
MIX SEND	MIXセンド設定
MIX ON	MIX ON設定
MTRX SEND	MTRXセンド設定
MTRX ON	MTRX ON設定
FADER	FADER設定
CH ON	チャンネルのON設定
MUTE GROUP	MUTE GROUP設定
TO ST	TO ST設定
DELAY	DELAY設定

お知らせ

- CH1-16とST IN/FX RTNの間ではEQはリンクしません。
- Dante機器のHAゲインはリンクしません。

③ リンクバスボタン

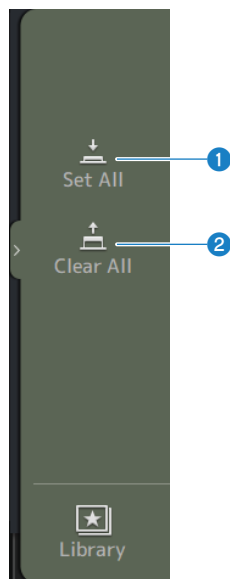
連動するバスを選択します。

④ リンクグループ

選択しているチャンネルのリンクグループを表示します。

■ CH LINK画面のメニュー

CH LINK画面右端のメニュースワイプインジケータを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。



① Set All

すべてのリンクパラメーターを一括で選択します。

② Clear All

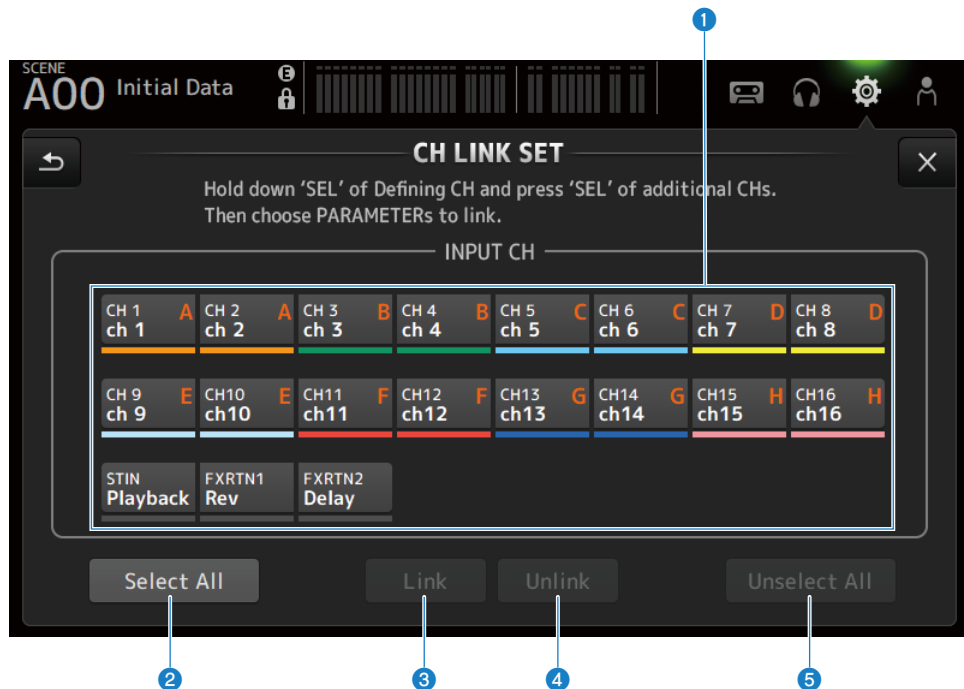
すべてのリンクパラメーターを一括で選択解除します。

関連リンク

「チャンネルのリンクを設定する」 (278ページ)

CH LINK SET画面

CH LINK SET画面では、リンクするチャンネルグループを設定します。



① チャンネル選択ボタン

タッチすると、選択状態（青）と未選択状態（グレー）が切り替わります。
チャンネルのリンクグループをラベルとバーの色で表示します。

② Select Allボタン

すべてのチャンネルを一括で選択します。

③ Linkボタン

選択したチャンネルをリンクします。

④ Unlinkボタン

選択したグループのリンクを解除します。

⑤ Unselect Allボタン

すべてのチャンネルを一括で選択解除します。

BRIGHTNESS画面

BRIGHTNESS画面は、タッチスクリーン、トップパネルのLED、チャンネルネームエリアの輝度を設定します。輝度の設定は、バンクA/Bの2種類を保存しておき、必要に応じて切り替えることができます。



1 バンク切り替えボタン

Bank A/Bに記憶している輝度の設定を切り替えます。

- BANK A:
BANK Aの輝度で表示します。
- BANK B:
BANK Bの輝度で表示します。

2 Power Saving Mode選択ボタン

省電力モードに切り替わる時間を設定します。

30秒、2分、5分、10分、15分、なし（Never）から選択できます。

3 Panel輝度調整スライダー

トップパネルのLEDの輝度を調整します。

- 1~10:

暗い場所でキートップの印刷が読みやすいように低い輝度で補助点灯します。

補助点灯は、PREFERENCE画面→OthersのPanel Assistanceがオンのときに使用できます。

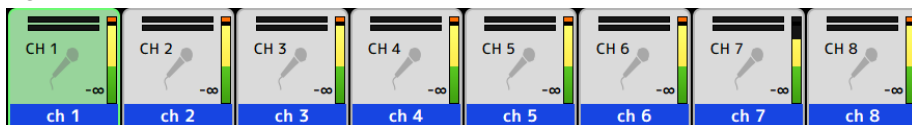
- 11~20:

明るい場所でのコントラストを強調するために補助点灯はありません。

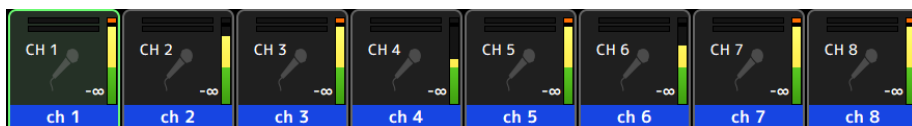
4 Appearance選択ボタン

チャンネルネームエリアの色をLight、Darkから選択できます。

Light



Dark



5 Screen輝度調整スライダー

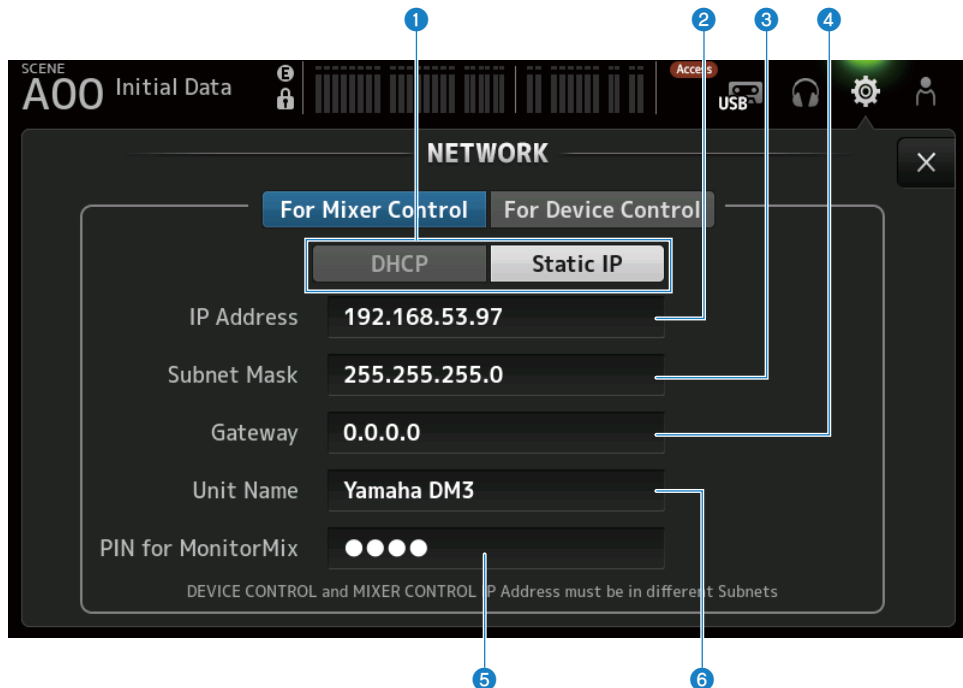
タッチスクリーンの輝度を調整します。

NETWORK (For Mixer Control) 画面

NETWORK (For Mixer Control) 画面では、DM3シリーズのNETWORK端子を使ってコンピューターやiOS機器と接続するときに必要となるネットワークアドレスを設定します。接続するコンピューターやネットワークに合わせて設定してください。

お知らせ

LANに接続する場合の設定方法は、DM3 Editorのインストールガイドをご参照ください。



1 IPアドレス取得方法ボタン

IPアドレスの取得方法を選択します。

- **DHCP:**
IPアドレスをDHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) で自動的に取得します。
- **Static IP:**
IPアドレスを自分で設定します。

2 IP Address

インターネットやLAN内で、個々の装置を識別するアドレスを設定します。

3 Subnet Mask

ネットワークで使用するIPアドレスのうち、ネットワークを識別するネットワークアドレスに何ビットを使用するかを定義します。

4 Gateway

ネットワーク内部で、媒体やプロトコルが異なるデータを相互変換する機器（ゲートウェイ）を特定するアドレスを設定します。

5 PIN for MonitorMix

MonitorMixアプリケーションで、DM3シリーズ本体に接続するときに入力するPIN（4桁の数字パスワード）を設定します。

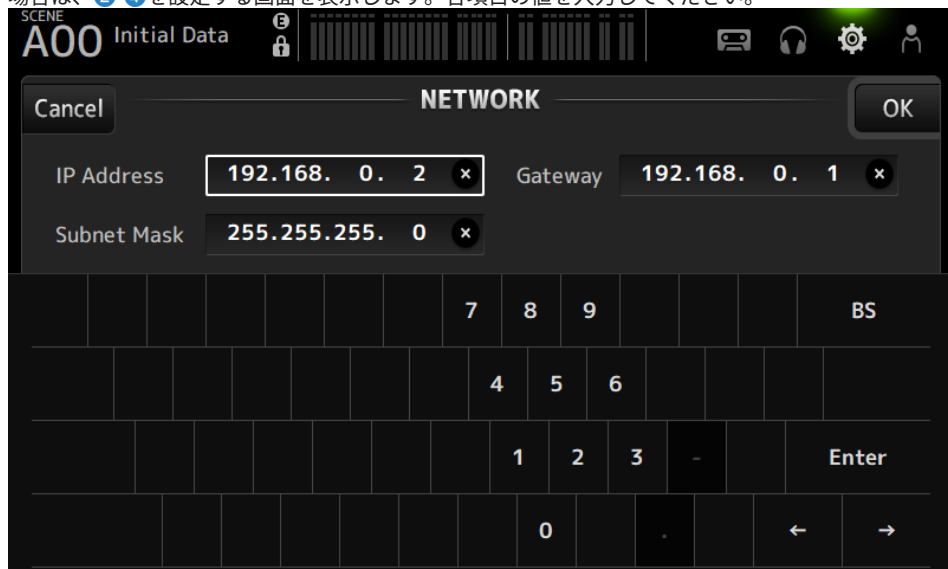
MonitorMixとは、演奏者がステージ上からモニターバランスを調節するためのアプリケーションです。

6 Unit Name

ネットワーク内で表示する名前を設定します。

お知らせ

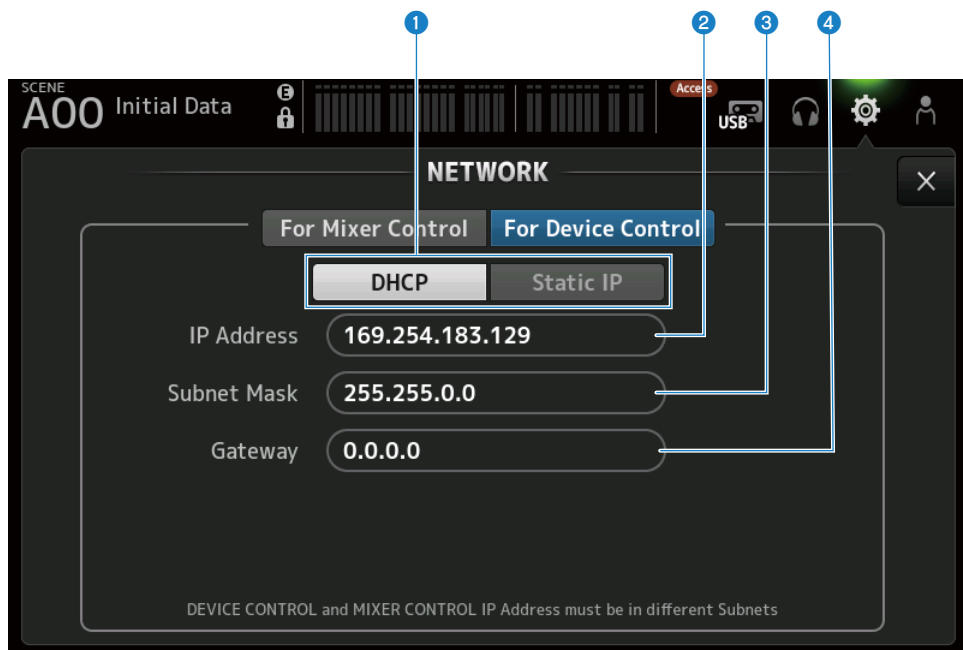
- IPアドレス取得方法ボタンでDHCPを選択した場合、**2-4**の設定は不要です。Static IPを選択した場合は、**2-4**を設定する画面を表示します。各項目の値を入力してください。



- For Mixer ControlとFor Device Controlで異なるサブネットを設定してください。

NETWORK (For Device Control) 画面 (DM3のみ)

NETWORK (For Device Control) 画面では、Danteオーディオネットワーク上の機器をコントロールするときに必要なネットワークアドレスを設定します。



① IPアドレス取得方法ボタン

IPアドレスの取得方法を選択します。

- **DHCP :**
IPアドレスをDHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) で自動的に取得します。
- **Static IP :**
IPアドレスを自分で設定します。

② IP Address

Danteオーディオネットワーク内で個々の装置を識別するアドレスを設定します。

③ Subnet Mask

Danteオーディオネットワークで使用するIPアドレスのうち、ネットワークを識別するネットワークアドレスに何ビットを使用するかを定義します。

4 Gateway

Danteオーディオネットワーク内部で、媒体やプロトコルが異なるデータを相互変換する機器（ゲートウェイ）を特定するアドレスを設定します。

お知らせ

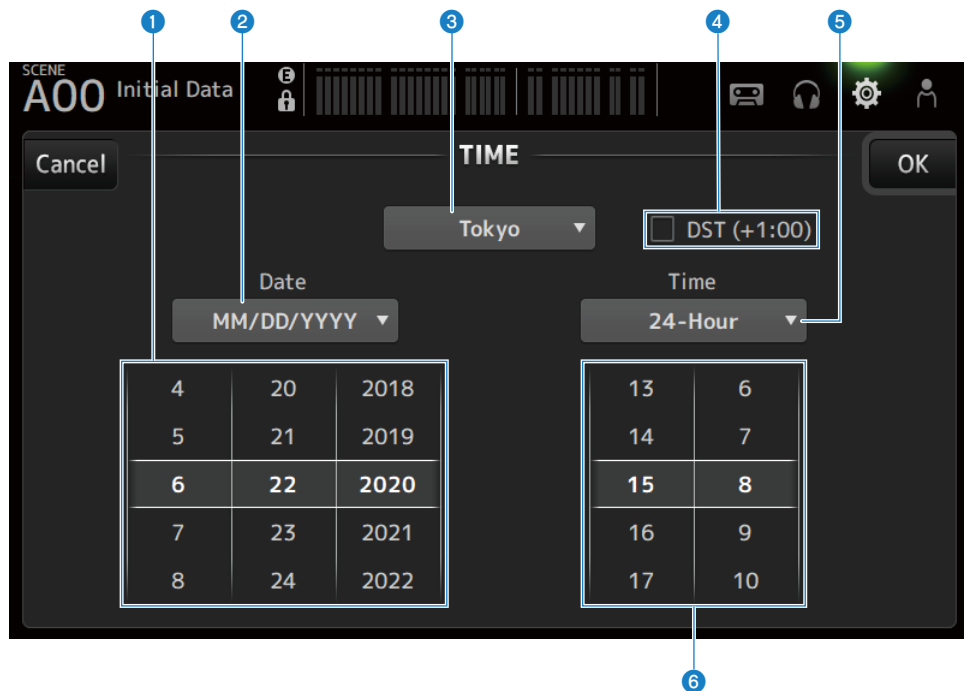
- IPアドレス取得方法ボタンでDHCPを選択した場合、②-④の設定は不要です。Static IPを選択した場合は、②-④を設定する画面を表示します。各項目の値を入力してください。

The screenshot shows the 'NETWORK' configuration screen in a dark theme. At the top left, it says 'SCENE A00 Initial Data'. There are icons for a lock, signal strength, and other system indicators. The main area has 'Cancel' and 'OK' buttons. Below them are three input fields: 'IP Address' with the value '192.168. 0. 2', 'Subnet Mask' with '255.255.255. 0', and 'Gateway' with '192.168. 0. 1'. Each field has a small 'x' icon to clear the input. Below the input fields is a numeric keypad with buttons for digits 0-9, a 'BS' (backspace) button, and an 'Enter' button.

- For Mixer ControlとFor Device Controlで異なるサブネットを設定してください。
- For Device Controlで設定したIPアドレスとDante Controller上で確認できるDM3のPRIMARYポートのIPアドレスのサブネットが異なる場合、DM3はDanteオーディオネットワーク上の機器を発見できなくなります。そのため、現在のDanteのパッチ状態の表示、DanteのAuto Setup機能、Danteのパッチライブラリーの自動設定機能、リモートHA機能を使用できません。この状態でDanteのパッチを設定する場合は、Dante Controllerを使用してください。またこのとき、DANTE(Setup)画面のDante Patchボタンをタッチすると、サブネットの設定が異なることを示すメッセージが画面下部に表示されます。

TIME画面

TIME画面は、本体に内蔵された時計の日時設定、および日付/時刻の表示方法を選びます。ここで設定した日付と時刻は、シーン保存時などのタイムスタンプに影響します。



1 日付設定

内蔵時計の日付を設定します。

2 日付表示フォーマット

内蔵時計の日付の表示方法を選択します。

表示方法は次の中から選択できます。

- **MM/DD/YYYY** :
月/日/西暦年
- **DD/MM/YYYY** :
日/月/西暦年
- **YYYY/MM/DD** :
西暦年/月/日

3 地域

時刻を表示する地域を設定します。

④ DST (+1:00)

サマータイムを設定します。

オンにすると、現在時刻を1時間進めます。

⑤ 時刻表示フォーマット

内蔵時計の時刻の表示方法を選択します。

- **24-Hour :**

時刻を0~23時で表示

- **12-Hour :**

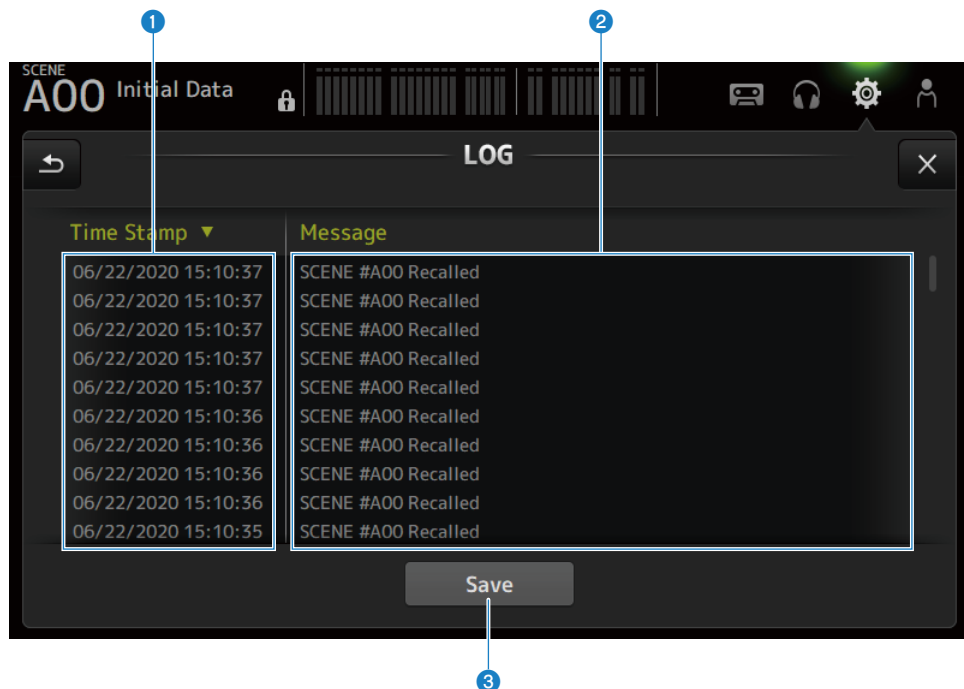
時刻をAM0~AM11時、PM0~PM11時で表示

⑥ 時刻設定

内蔵時計の時刻を設定します。

LOG画面

LOG画面は、本機を操作して表示されたメッセージと、その日付、時刻の履歴を表示します。



1 Time Stamp

メッセージが表示された日付、時刻の一覧を表示します。
リストの項目名をタッチすると、日付、時刻順でソートします。

2 Message

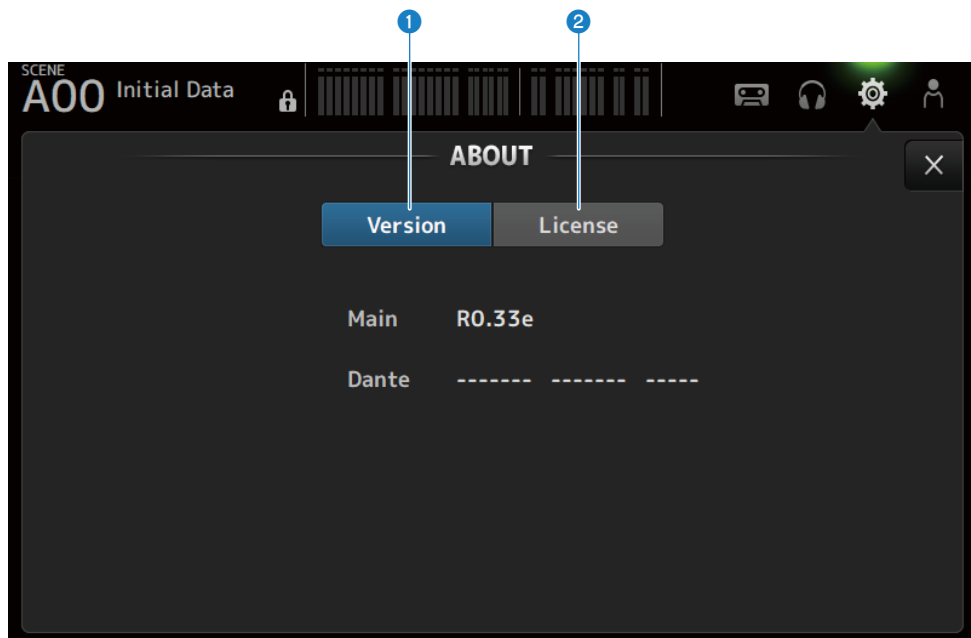
メッセージの一覧を表示します。
リストの項目名をタッチすると、アルファベット順でソートします。

3 Saveボタン

履歴をUSBストレージデバイスに保存します。
USBストレージデバイスを装着していない場合、このボタンは無効です。

ABOUT画面

ABOUT画面は、システムソフトウェアのバージョンとライセンスを表示します。



① Versionボタン

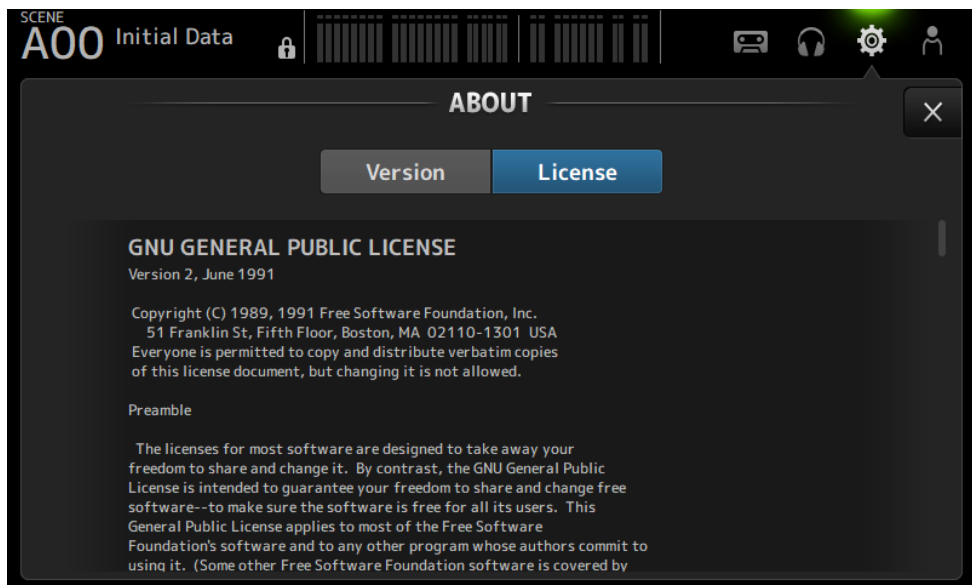
システムソフトウェアのバージョンを表示します。

お知らせ

DM3 STANDARDは、Danteのバージョンを表示しません。

② Licenseボタン

システムソフトウェアのライセンスを表示します。



CONSOLE LOCK画面

CONSOLE LOCK画面は、誤操作を防ぐために、一時的に本体の操作を禁止できます。
コンソールをロックするには、CONSOLE LOCKアイコンをタッチします。
LOGIN→CONSOLE LOCKと同じ機能です。

関連リンク

「CONSOLE LOCK画面」 (155ページ)

LOGIN画面

LOGIN画面

LOGIN画面では、DM3シリーズ本体のアクセス制限を設定します。
Guestが操作できるパラメーターを制限することで、不用意な誤操作を防止できます。



① ログインユーザー選択アイコン

ログインユーザー選択アイコンをタッチして、ログインするユーザーを切り替えます。
ユーザー名やコメントもアイコン内に表示されます。

■ Administrator（管理者）

すべての機能を使用できます。

Guestのアクセス制限を操作できるのは管理者だけです。

Administratorには、パスワードだけが設定できます。

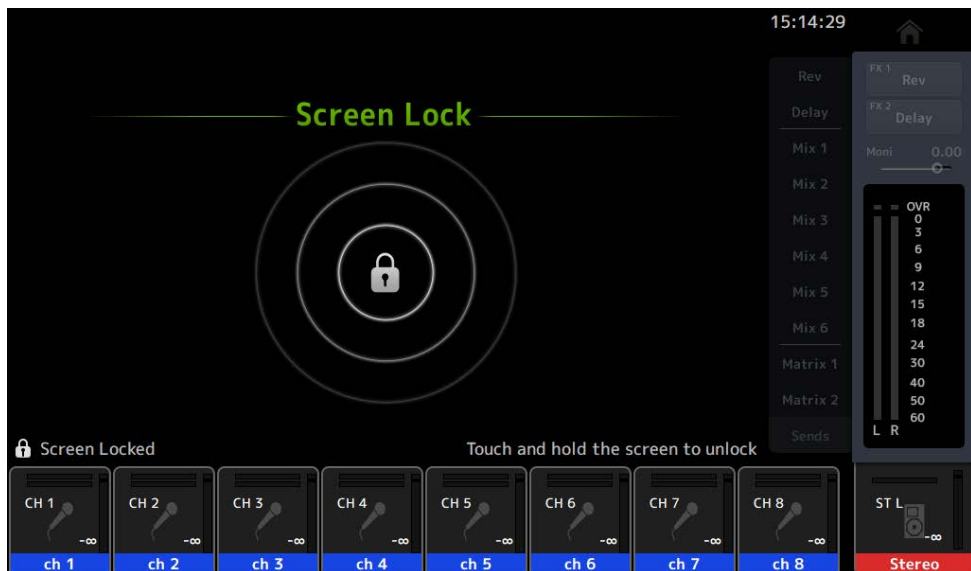
■ Guest (ゲスト)

Guestでログインすると、Screen Lock画面が表示され、タッチスクリーンの操作が禁止されます。トップパネルの操作は管理者が許可した範囲で使用できます。

トップパネルの操作制限は、ACCESS PERMISSION画面で行います。

Guestには、アクセス制限とコメントを設定できます。

GuestからAdministratorにログインするには、Screen Lock画面を長押しします。



お知らせ

- 工場出荷時は管理者パスワードが設定されていません。
- 他のユーザーの操作を制限したい場合は、必ず管理者パスワードを設定してください。
- Administrator(管理者)がログインした状態で電源を切った場合、次回電源を入れたときに同じパスワードの入力を求められます。Guestでログインしたい場合はパスワードを入力する画面でキャンセルボタンを押して、表示されるLOGIN画面からGuestを選択してください。

② Console Lockアイコン

タッチすると、Administrator(管理者)のパスワードを入力する画面が表示されます。正しいパスワードが入力されると、CONSOLE LOCK画面が表示されます。

③ User Accountアイコン

タッチするとUSER ACCOUNT画面が表示されます。

画面の機能と名称 > LOGIN画面

関連リンク

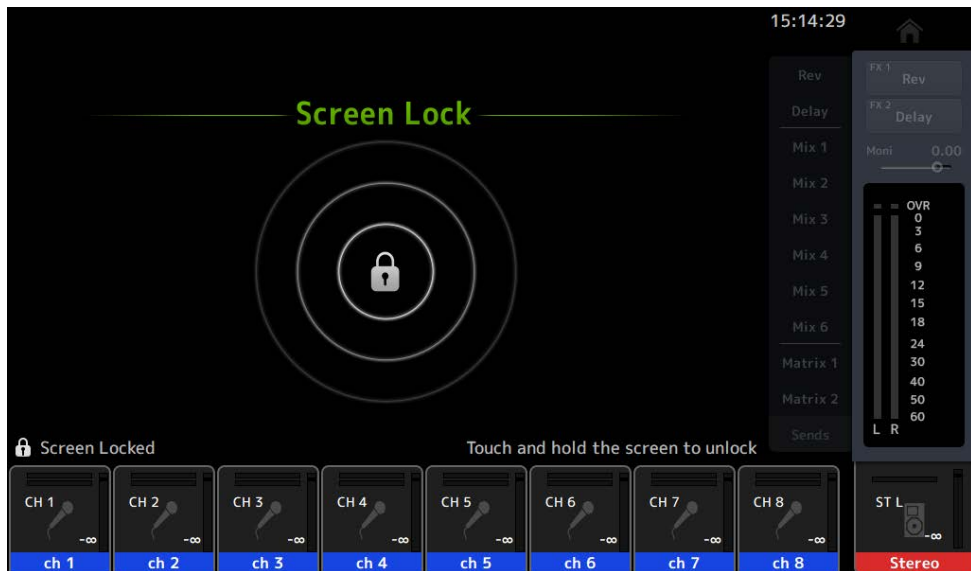
- 「ACCESS PERMISSION画面」 (158ページ)
- 「ゲストユーザーにアクセス制限をかける」 (283ページ)

CONSOLE LOCK画面

CONSOLE LOCK画面は、誤操作を防ぐために、一時的に本体の操作を禁止できます。

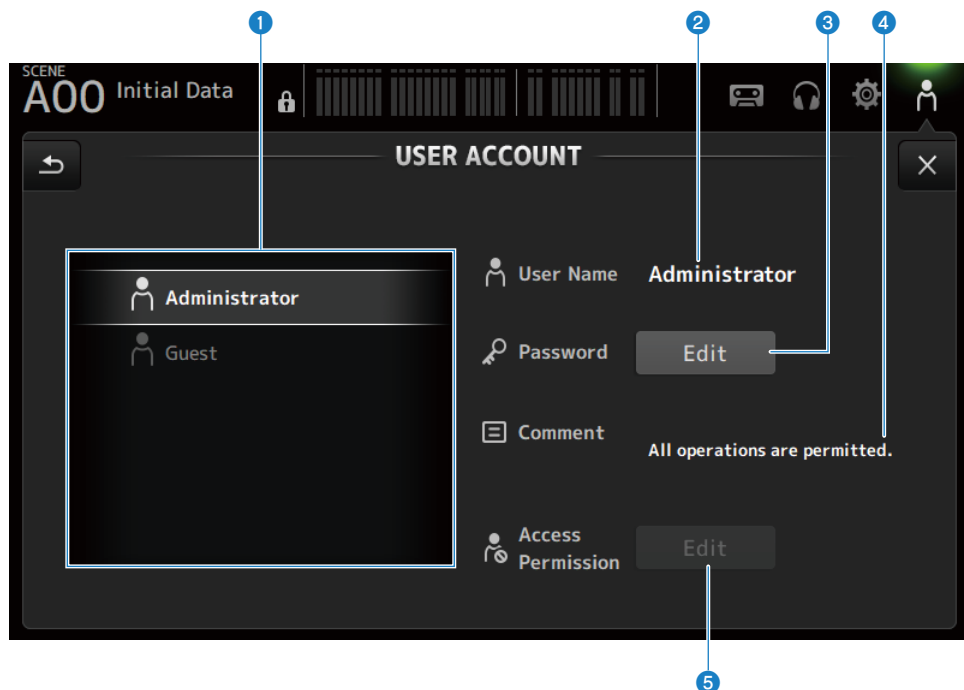
CONSOLE LOCK画面の表示中は、すべての操作子が操作できなくなります。

CONSOLE LOCKを解除するには、CONSOLE LOCK画面を長押しします。パスワードを入力する画面が表示されたら、ログインしているユーザー、または管理者のパスワードを入力してください。



USER ACCOUNT画面

USER ACCOUNT画面は、管理者のパスワードやGuestユーザーのアクセス制限を操作します。



1 ユーザー選択エリア

アクセス制限の設定を編集するユーザーを選択します。
選択したユーザーの情報が右側に表示されます。

2 User Name

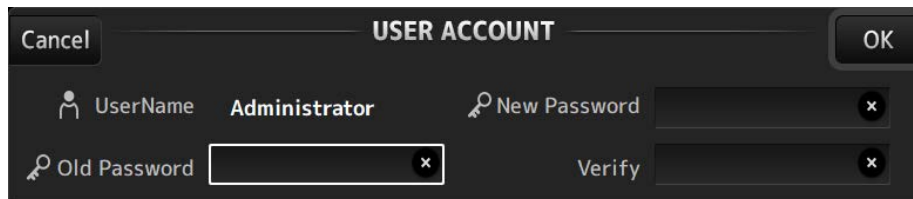
アクセス制限の設定を編集するユーザー名が表示されます。

3 Password Editボタン

Administrator(管理者)のパスワードを設定します。Guestにパスワードはありません。

ユーザー選択エリアでAdministratorを選択して、Editボタンをタッチすると、パスワードを設定するSOFT KEYBOARD画面が表示されます。

はじめてパスワードを設定する場合は、New Passwordテキストボックスに入力してから、確認のためVerifyテキストボックスに再入力します。設定したパスワードを変更する場合は、Old Passwordテキストボックスに現在のパスワードを入力してから、新しいパスワードを設定します。



4 Commentテキストボックス

LOGIN画面に表示するコメントです。

ユーザー選択エリアでGuestを選択すると、Guestのコメントを編集できます。テキストボックスをタッチすると、コメントを入力するSOFT KEYBOARD画面が表示されます。

5 Access Permission (アクセス制限) Editボタン

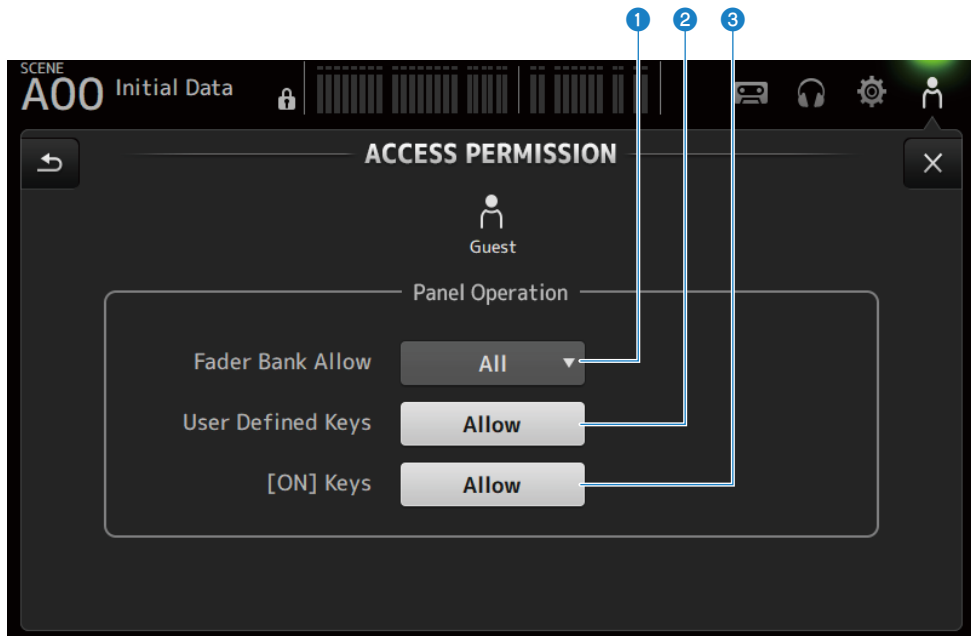
Guestユーザーのアクセス制限を設定します。

ユーザー選択エリアでGuestを選択して、EditボタンをタッチするとACCESS PERMISSION画面が表示されます。

ACCESS PERMISSION画面

ACCESS PERMISSION画面は、アクセスを許可するパラメーターを選択して、Guestユーザーのアクセス制限を設定します。

管理者権限でログインしたときのみ表示されます。



1 Fader Bank Allow選択ボタン

Guestに操作を許可するフェーダーバンクを設定します。

- **All** :
DAW REMOTE以外のフェーダーバンクの操作ができます。
- **Custom 1** :
Custom 1のみ操作ができます。
- **Custom 2** :
Custom 2のみ操作ができます。
- **Custom 1/2** :
Custom 1および2の操作ができます。

2 USER DEFINED KEYSボタン

[USER DEFINED KEYS]キーの操作を許可/禁止します。

3 [ON] Keys

チャンネルストリップの[ON]キーの操作を許可/禁止します。

HOME画面

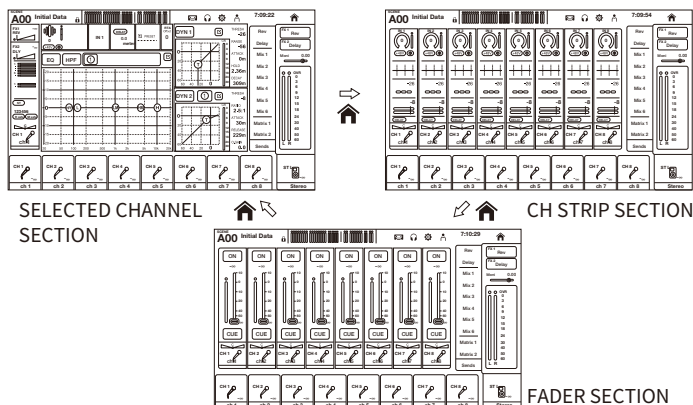
HOME画面について

HOME画面は、チャンネルの設定状態を一括して表示する画面です。トップパネルの [HOME] キーまたは画面のHOMEボタンを押して表示します。

HOME画面には、下記の3種類のセクションがあります。

- SELECTED CHANNELセクション
- CH STRIPセクション
- FADERセクション

HOME画面に表示するセクションは、SETUP画面→PREFERENCE画面にある、Key Function→[HOME] Keyで選択できます。複数のセクションを選択した場合は、[HOME]キー/HOMEボタンを押すたびに表示されるセクションが切り替わります。

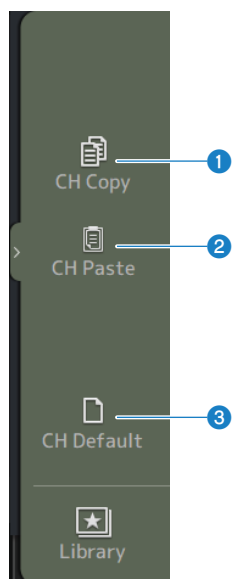


お知らせ

DAW REMOTEを使用している間は、DAW REMOTE画面が表示されます。

■ HOME画面のメニューについて

HOME画面右端のメニュースワイプインジケータを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。



1 CH Copy

選択しているチャンネルの設定をコピーします。

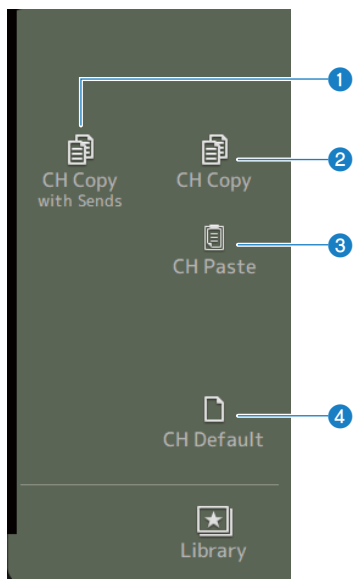
2 CH Paste

選択しているチャンネルに、コピーしたチャンネルの設定をペーストします。

3 CH Default

選択しているチャンネルの設定を初期化します。

■ MIX/MATRIXチャンネル、FX BUSの場合



① CH Copy with Sends

選択しているチャンネルの設定をセンドも含めてコピーします。

② CH Copy

選択しているチャンネルの設定をコピーします。

③ CH Paste

選択しているチャンネルに、コピーしたチャンネルの設定をペーストします。

④ CH Default

選択しているチャンネルの設定を初期化します。

関連リンク

「チャンネルの設定をコピーして他のチャンネルにペーストする」 (284ページ)

SELECTED CHANNELセクション

SELECTED CHANNELセクションについて

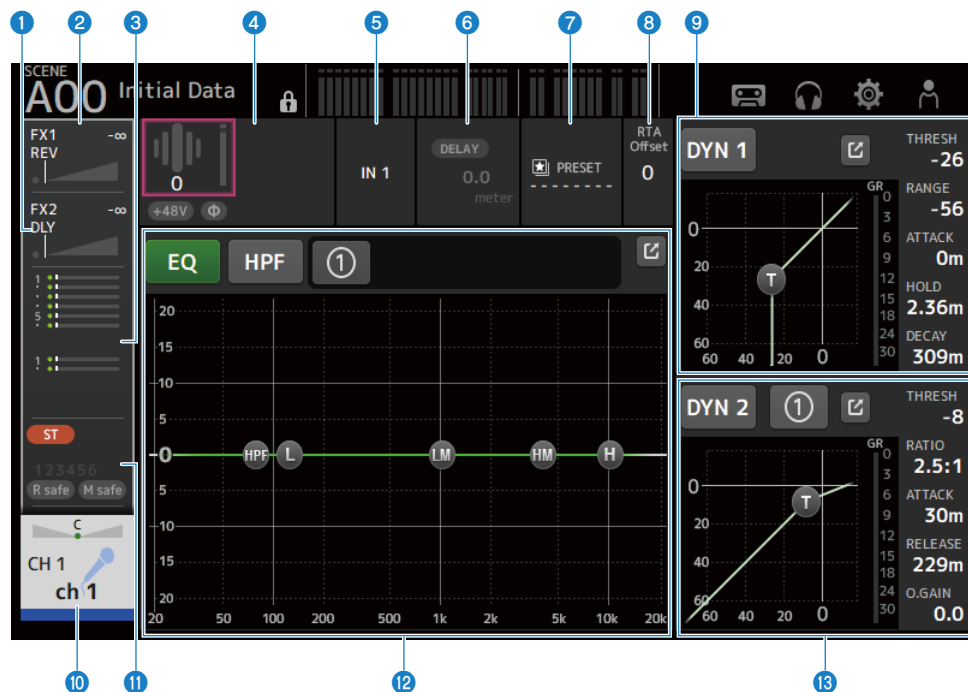
SELECTED CHANNELセクションは、選択されているチャンネルのパラメーターを一括で表示、設定する画面です。トップパネルの[HOME]キー、または画面内のHOMEボタンを押すことで表示されます。

お知らせ

SETUP画面→PREFERENCE画面にある、Key Function→[HOME] KeyでHOME画面に表示する内容を選択できます。

CH1-16、ST IN、FX RTN1-2

CH1-16、ST IN、FX RTN1-2チャンネルのSELECTED CHANNELセクションについて説明します。



① FX2画面を表示します。(204ページ)

② FX1画面を表示します。(204ページ)

③ SEND TO画面を表示します。(208ページ)

④ HAの状態を表示します。

タッチしてフォーカスした状態で[TOUCH AND TURN]ノブを回すと、ゲインを調節できます。フォーカスした状態でタッチするとINPUT画面を表示します。(183ページ)
ステレオチャンネルでは2つのHAが表示されます。

⑤ 入力ポートを表示します。

フォーカスした状態でタッチするとINPUT画面を表示します。(183ページ)

⑥ DELAY画面を表示します。(202ページ)

⑦ LIBRARY画面を表示します。(238ページ)

8 RTA Offsetを設定します。

RTAの感度を調整します。タッチするとフォーカスされ、[TOUCH AND TURN]ノブで操作できます。

9 チャンネルのDYN1を設定します。

ジャンプボタンをタッチするとDYN1画面を表示します。(196ページ)

10 CH VIEW画面を表示します。(212ページ)

11 ASSIGN画面を表示します。(210ページ)

12 チャンネルのEQを設定します。

1-knobボタンで1-knobモードとマニュアルモードを切り替えます。

1-knob EQモードのタイプ選択やフィルタータイプの切り替えはEQ画面で設定します。

ジャンプボタンをタッチするとEQ画面を表示します。(190ページ)

13 チャンネルのDYN2を設定します。

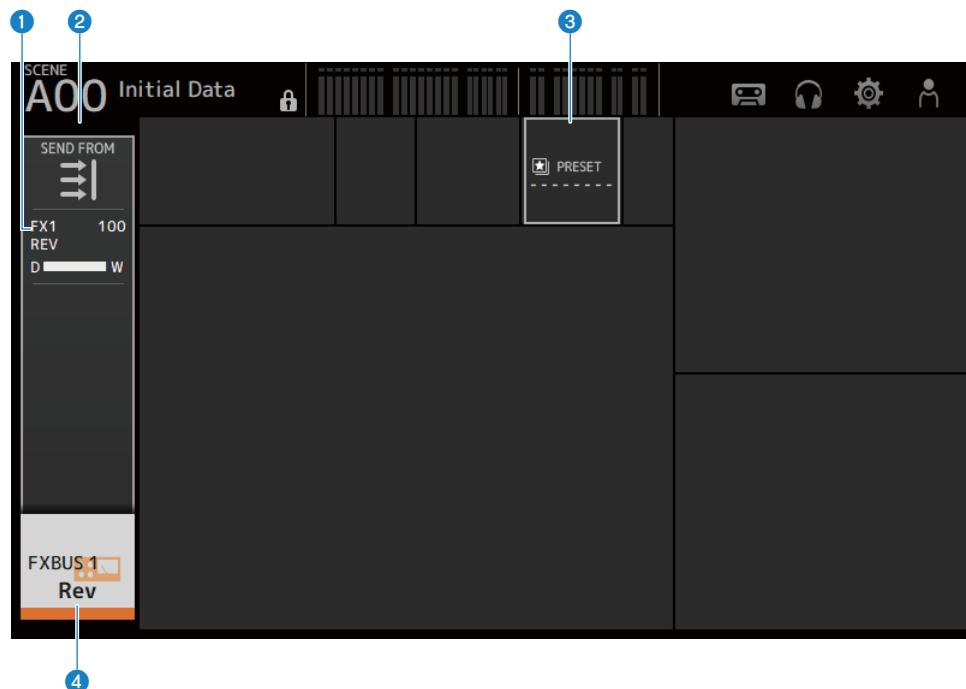
1-knobボタンで1-knobモードとマニュアルモードを切り替えます。

タッチしてフォーカスした状態で[TOUCH AND TURN]ノブを回すと、パラメーターを操作できます。

ジャンプボタンをタッチするとDYN2画面を表示します。(199ページ)

FX BUS1-2

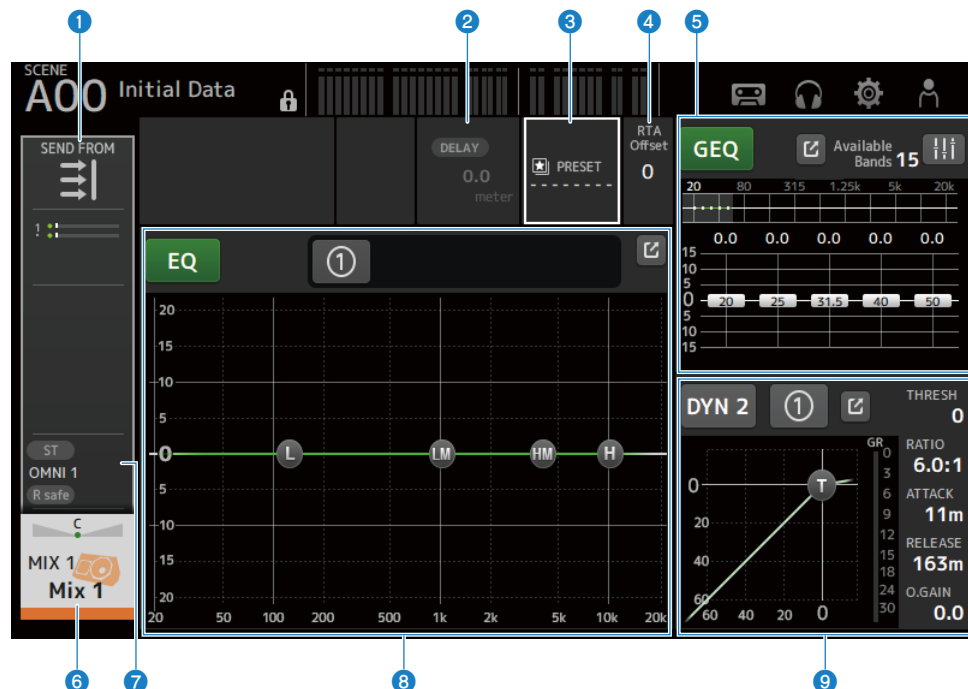
FX1-2チャンネルのSELECTED CHANNELセクションについて説明します。



- 1 FX画面を表示します。(204ページ)
- 2 SEND FROM画面を表示します。(235ページ)
- 3 LIBRARY画面を表示します。(238ページ)
- 4 CH VIEW画面を表示します。(212ページ)

MIX1-6

MIX1-6チャンネルのSELECTED CHANNELセクションについて説明します。



① SEND FROM画面を表示します。(235ページ)

② DELAY画面を表示します。(202ページ)

③ LIBRARY画面を表示します。(238ページ)

④ RTA Offsetを設定します。

RTAの感度を調整します。タッチするとフォーカスされ、[TOUCH AND TURN]ノブで操作できます。

⑤ チャンネルのGEQを設定します。

タッチしてフォーカスした状態で[TOUCH AND TURN]ノブを回すと、パラメーターを操作できます。

GEQ ON FADERマークをタッチしてオンにすると、トップパネルのフェーダーで操作できます。

ジャンプボタンをタッチするとGEQ画面を表示します。(227ページ)

⑥ CH VIEW画面を表示します。(212ページ)

7 OUTPUT画面を表示します。(230ページ)

8 チャンネルのEQを設定します。

1-knobボタンで1-knobモードとマニュアルモードを切り替えます。

1-knob EQモードのタイプ選択やフィルタータイプの切り替えはEQ画面で設定します。

ジャンプボタンをタッチするとEQ画面を表示します。(190ページ)

9 チャンネルのDYN2を設定します。

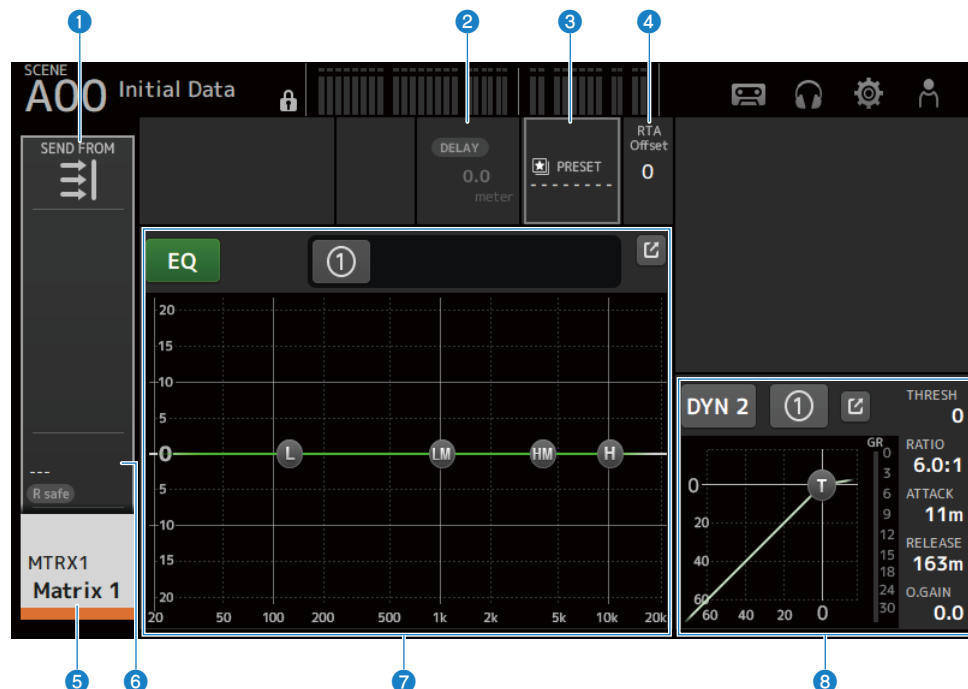
1-knobボタンで1-knobモードとマニュアルモードを切り替えます。

タッチしてフォーカスした状態で[TOUCH AND TURN]ノブを回すと、パラメーターを操作できます。

ジャンプボタンをタッチするとDYN2画面を表示します。(199ページ)

MATRIX1-2

MATRIX1-2チャンネルのSELECTED CHANNELセクションについて説明します。



① SEND FROM画面を表示します。(235ページ)

② DELAY画面を表示します。(202ページ)

③ LIBRARY画面を表示します。(238ページ)

④ RTA Offsetを設定します。

RTAの感度を調整します。タッチするとフォーカスされ、[TOUCH AND TURN]ノブで操作できます。

⑤ CH VIEW画面を表示します。(212ページ)

⑥ OUTPUT画面を表示します。(230ページ)

⑦ チャンネルのEQを設定します。

1-knobボタンで1-knobモードとマニュアルモードを切り替えます。

1-knob EQモードのタイプ選択やフィルタータイプの切り替えはEQ画面で設定します。

ジャンプボタンをタッチするとEQ画面を表示します。(190ページ)

8 チャンネルのDYN2を設定します。

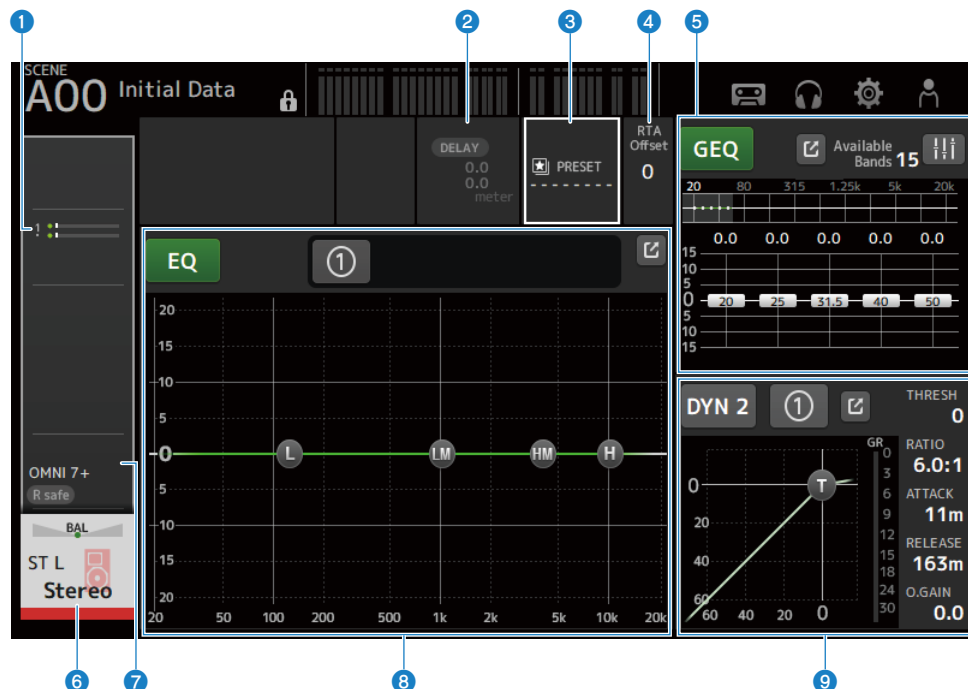
1-knobボタンで1-knobモードとマニュアルモードを切り替えます。

タッチしてフォーカスした状態で[TOUCH AND TURN]ノブを回すと、パラメーターを操作できます。

ジャンプボタンをタッチするとDYN2画面を表示します。(199ページ)

ST L/R

STEREO L/RチャンネルのSELECTED CHANNELセクションについて説明します。



- 1 SEND TO画面を表示します。(208ページ)
- 2 DELAY画面を表示します。(202ページ)
- 3 LIBRARY画面を表示します。(238ページ)
- 4 RTA Offsetを設定します。
RTAの感度を調整します。タッチするとフォーカスされ、[TOUCH AND TURN]ノブで操作できます。
- 5 チャンネルのGEQを設定します。
GEQ ON FADERマークをタッチしてオンにすると、トップパネルのフェーダーで操作できます。
ジャンプボタンをタッチするとGEQ画面を表示します。(227ページ)
- 6 CH VIEW画面を表示します。(212ページ)
- 7 OUTPUT画面を表示します。(230ページ)

8 チャンネルのEQを設定します。

1-knobボタンで1-knobモードとマニュアルモードを切り替えます。

1-knob EQモードのタイプ選択やフィルタータイプの切り替えはEQ画面で設定します。

ジャンプボタンをタッチするとEQ画面を表示します。(190ページ)

9 チャンネルのDYN2を設定します。

1-knobボタンで1-knobモードとマニュアルモードを切り替えます。

タッチしてフォーカスした状態で[TOUCH AND TURN]ノブを回すと、パラメーターを操作できます。

ジャンプボタンをタッチするとDYN2画面を表示します。(199ページ)

CH STRIPセクション

CH Stripセクションについて

CH STRIPセクションは、8チャンネルのパラメーターを一括で表示、設定する画面です。トップパネルの[HOME]キー、または画面内のHOMEボタンを押すことで表示されます。

お知らせ

SETUP画面→PREFERENCE画面にある、Key Function→[HOME] KeyでHOME画面に表示する内容を選択できます。

関連リンク

[「PREFERENCE画面」](#) (94ページ)

CH1-16、ST IN、FX RTN1-2

CH1-16、ST IN、FX RTN1-2チャンネルのCH STRIPセクションについて説明します。

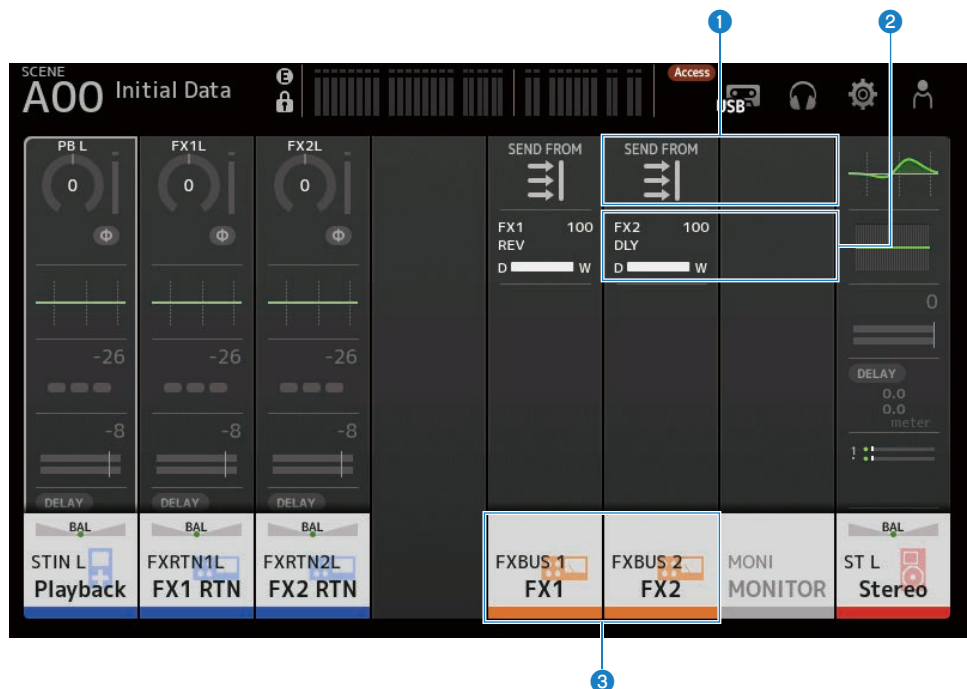


- ① INPUT画面を表示します。(183ページ)
- ② EQ画面を表示します。(190ページ)
- ③ DYN1画面を表示します。(196ページ)
- ④ DYN2画面を表示します。(199ページ)
- ⑤ DELAY画面を表示します。(202ページ)
- ⑥ FX1画面を表示します。(204ページ)

- 7 **FX2画面を表示します。** (204ページ)
- 8 **SEND TO画面を表示します。** (208ページ)
- 9 **ASSIGN画面を表示します。** (210ページ)
- 10 **CH VIEW画面を表示します。** (212ページ)

FX BUS1-2

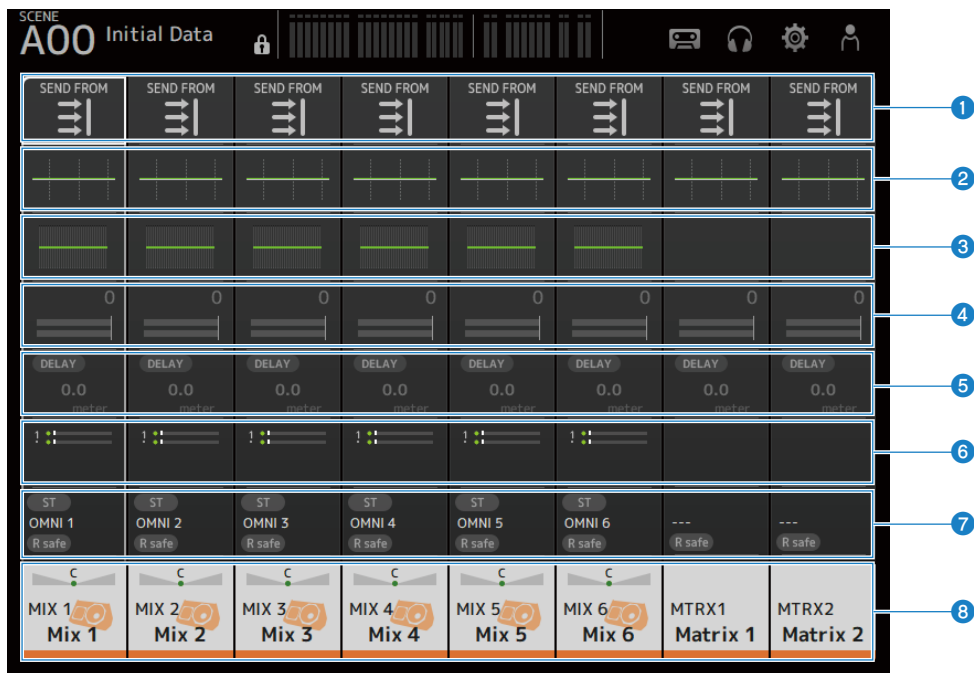
FX BUS1-2チャンネルのCH STRIPセクションについて説明します。



- 1 SEND FROM画面を表示します。(235ページ)
- 2 FX画面を表示します。(204ページ)
- 3 CH VIEW画面を表示します。(212ページ)

MIX1-6、MATRIX1-2

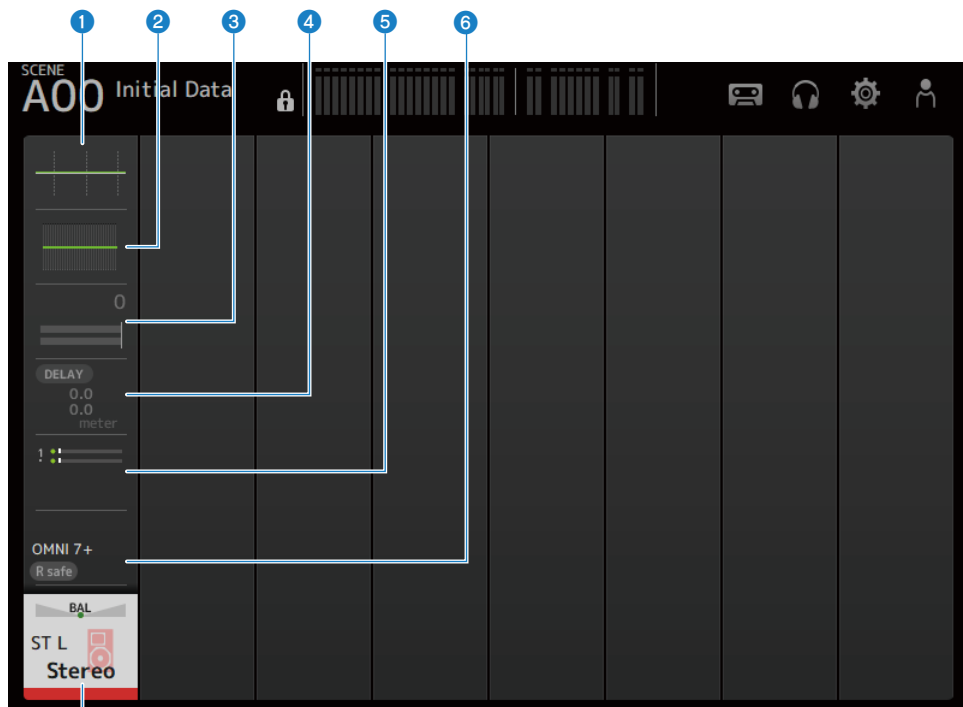
MIX1-6、MATRIX1-2チャンネルのCH STRIPセクションについて説明します。



- 1 SEND FROM画面を表示します。(235ページ)
- 2 EQ画面を表示します。(190ページ)
- 3 GEQ画面を表示します。(227ページ)
- 4 DYN2画面を表示します。(199ページ)
- 5 DELAY画面を表示します。(202ページ)
- 6 SEND TO画面を表示します。(208ページ)
- 7 OUTPUT画面を表示します。(230ページ)
- 8 CH VIEW画面を表示します。(212ページ)

ST L/R

STEREO L/RチャンネルのCH STRIPセクションについて説明します。



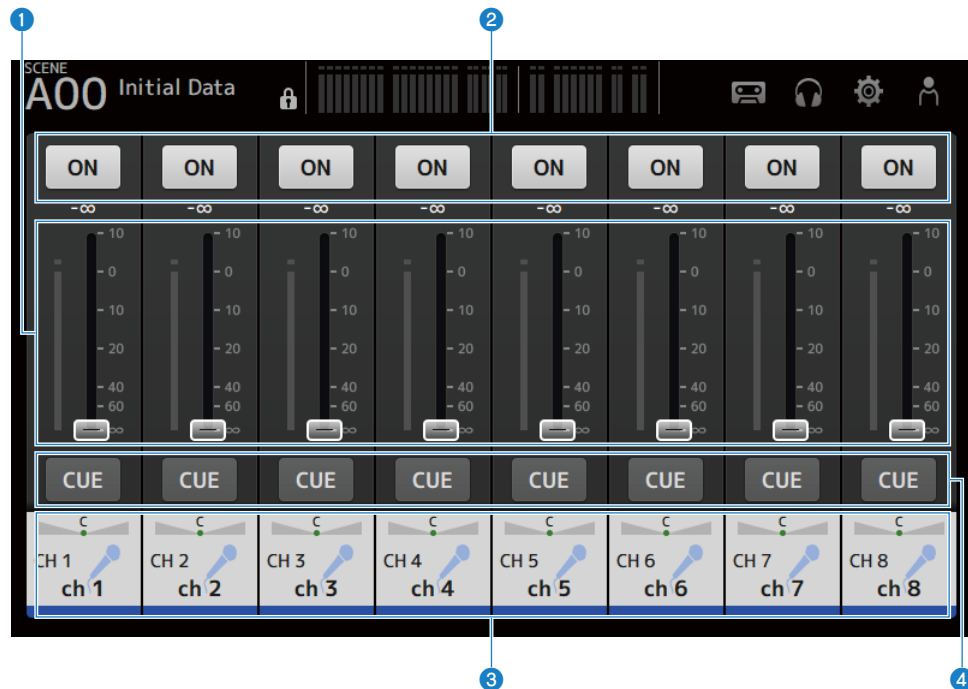
- 1 EQ画面を表示します。(190ページ)
- 2 GEQ画面を表示します。(227ページ)
- 3 DYN2画面を表示します。(199ページ)
- 4 DELAY画面を表示します。(202ページ)
- 5 SEND TO画面を表示します。(208ページ)
- 6 OUTPUT画面を表示します。(230ページ)
- 7 CH VIEW画面を表示します。(212ページ)

FADERセクション

FADERセクションは、チャンネルストリップを8チャンネル表示、設定する画面です。トップパネルの[HOME]キー、または画面内のHOMEボタンを押すことで表示されます。

お知らせ

SETUP画面→PREFERENCE画面にある、Key Function→[HOME] KeyでHOME画面に表示する内容を選択できます。



- ① **フェーダー**
チャンネルのフェーダーレベルを操作します。
- ② **ONボタン**
チャンネルのオン/オフを切り替えます。
- ③ **CH VIEW画面を表示します。** (212ページ)
- ④ **CUEボタン**
チャンネルのCUEのオン/オフを切り替えます。

DAW REMOTE画面

DAW REMOTE画面について

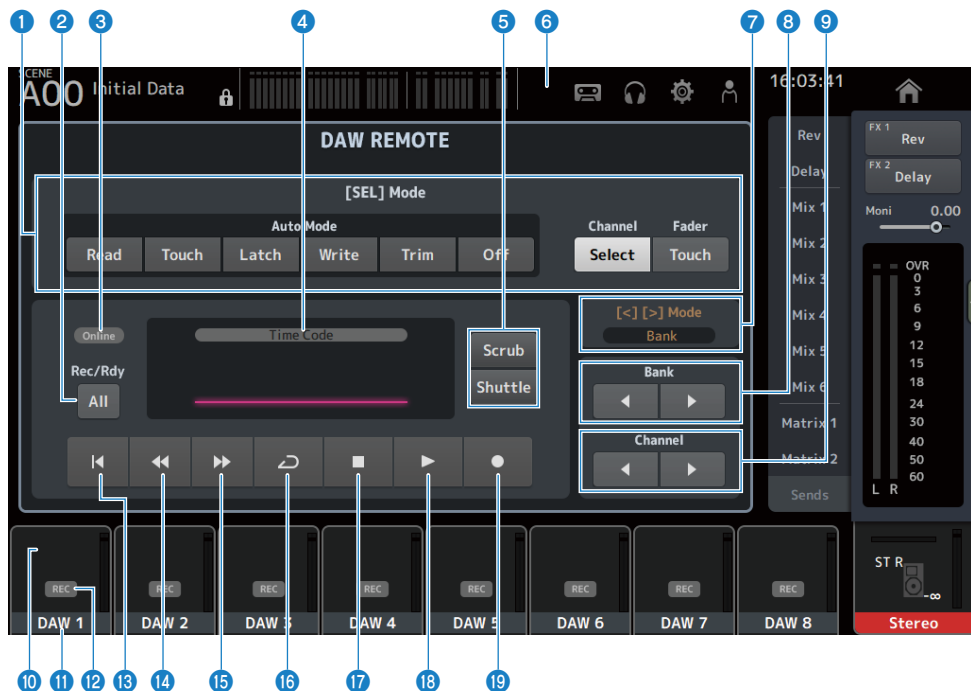
DAW REMOTE画面は、DAWをリモートコントロールする画面です。

トップパネルのCUSTOM 1キーとCUSTOM 2キーを同時に押すと、DAW REMOTE画面が表示されます。Preference → Others → DAW Remote Modeの選択により、表示内容が異なります。

DAW Remote ModeがSteinbergの場合



DAW Remote ModeがOthersの場合



1 [SEL]モード切り替えボタン

[SEL]キーの機能を切り替えます。

• Auto Mode :

オートメーションモードを選択します

- Read :Readモードをオンにします
- Touch :Touchモードをオンにします
- Latch :Latchモードをオンにします
- Write :Writeモードをオンにします
- Trim :Trimモードをオンにします
- Off :オートメーションモードをオフにします

• Channel Select :

チャンネル (トラック) を選択します。

• Fader Touch :

タッチイベントを送信します。

2 Rec/Rdy Allボタン

全トラックの録音アームをオン/オフします。

3 ONLINEインジケーター

DAWとUSB MIDI接続されている場合にONLINEアイコンが表示されます。



4 TIME CODEインジケーター

タイムコードが表示されます。

タイムコードの形式に応じて上部の表記（Time Code、Frames、Beats）が切り替わります。

5 Scrub/Shuttle切り替えボタン

タイムコードにフォーカスがあるときの[TOUCH AND TURN]ノブの動作を、ScrubまたはShuttleから選択します。

6 DAWインジケーター

DAWと接続している場合は、ステータスインジケーターにDAWアイコンが表示されます。

7 [<][>]Mode表示

DAW REMOTEキーの[<][>]キーの機能を表示します。

- **Channel:**

チャンネルのアップ/ダウン

- **Bank:**

バンクのアップ/ダウン

8 バンク移動ボタン

リモートコントロールするチャンネルを8チャンネル単位で移動します

9 Channel移動ボタン

リモートコントロールするチャンネルを1チャンネル単位で移動します。

10 Levelインジケーター

チャンネルのレベルを表示します。

11 チャンネルネーム

チャンネル名（トラック名）を表示します。

12 Recアームボタン

トラックの録音アームをオン/オフします。

13 開始位置ボタン

開始位置に戻ります。

14 早戻しボタン

再生を早戻しします。

15 早送りボタン

再生を早送りします。

16 LOOPボタン

ループモードをオン/オフします。

17 停止ボタン

再生、録音を停止します。

18 再生ボタン

再生を開始します。

19 録音ボタン

録音を開始します。

関連リンク

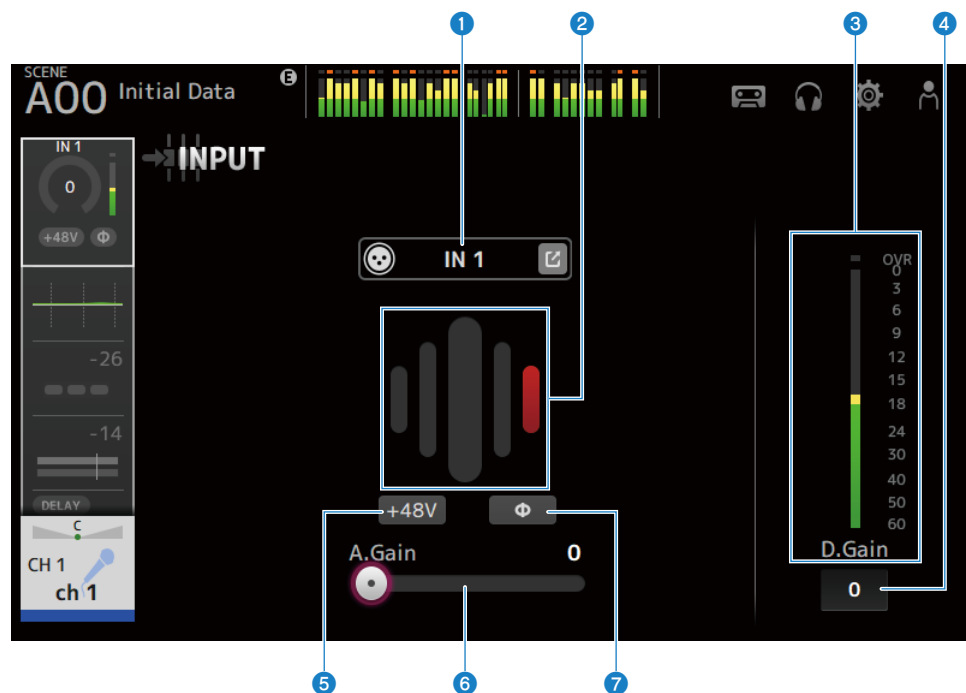
「USB MIDIのポートを設定する」 (288ページ)

チャンネル専用画面

INPUT画面

INPUT画面では、INPUT PATCHの設定、ファンタム電源のオン/オフ、位相の切り替え、入力ゲインを設定します。

■ CH1-16の場合



■ ST IN、FX RTNチャンネルの場合



① INPUT PATCHボタン

インプットチャンネルの入力ソース（入力ポート）を選択します。

- **IN :**

[INPUT]端子に接続した機器からの入力。

- **DANTE :**

Danteポートからの入力。DM3とDante接続されたTio1608-Dなどのステージボックスからの入力の選択に使用してください。

- **USB :**

[USB TO HOST]端子に接続したコンピューターからの入力。

- **FX :**

FX BUSからの入力。

- **PB :**

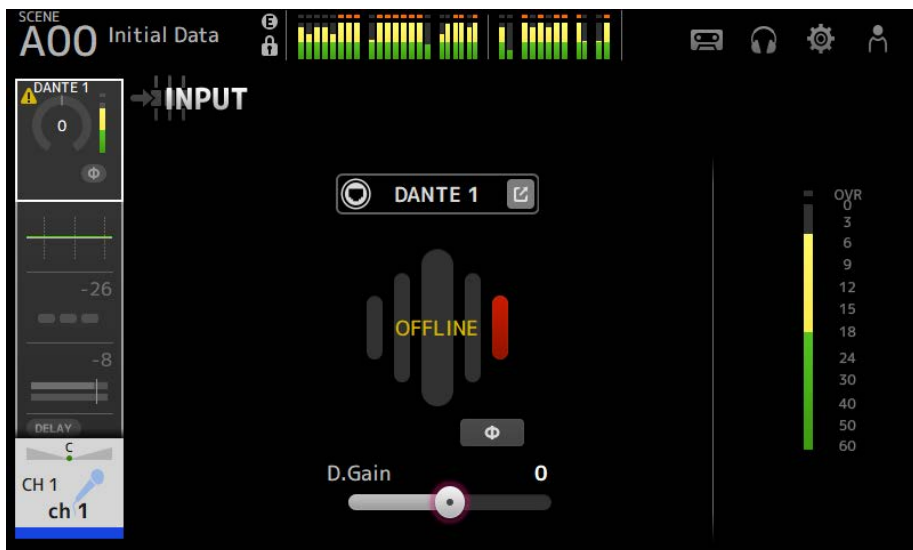
Playbackからの入力。トップパネルのUSB端子に挿入したストレージデバイスなどからの入力を選択します。

ジャンプボタンをタッチすると、INPUT CH PATCH画面を表示します。

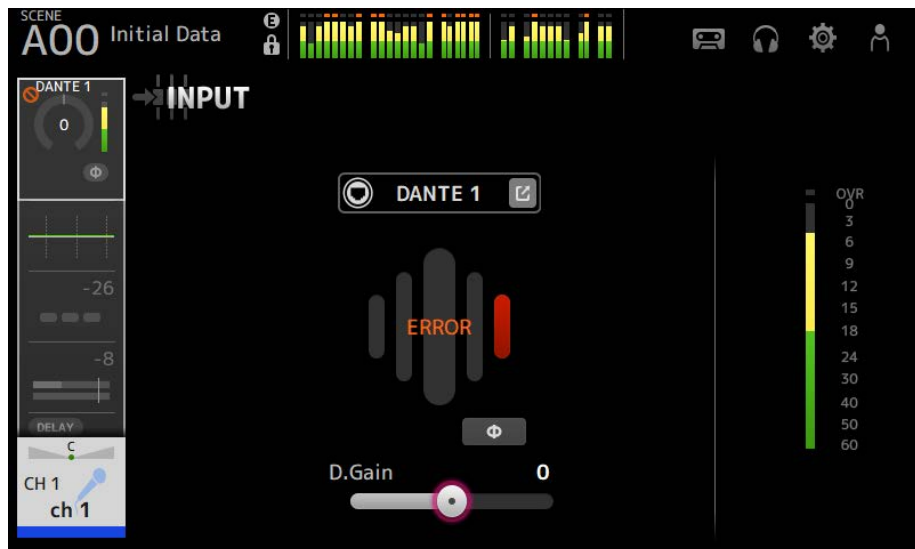
お知らせ

- USBを選択したときは、ゲインスライダーがデジタルゲインとなり、+48Vボタンが非表示になります。
- DM3 STANDARDはDanteを使用できません。
- DANTEを選択した場合、ヘッドアンプの操作ができない機器からの入力のときは、ゲインスライダーがデジタルゲインとなり、+48Vボタンが非表示になります。

入力ソースをDANTEに設定しても、DANTE機器側がオフラインのチャンネルの場合やDANTEがセカンダリポートで動作している場合、OFFLINEが表示されます。



入力ソースをDANTEに設定しても、エラーが発生している場合、ERRORが表示されます。



2 GainFinder (ゲインファインダー)

入力ゲインレベルを表示します。音声を入力したときに、レベル表示が中央に合うように調整すると、入力ゲインを適切な範囲に設定できます。インプット選択でUSBを選択しているときは、デジタル段の入力ゲインレベルが表示されます。

3 レベルメーター

ゲイン調整後のレベルを表示します。

4 デジタルゲインテキストボックス

デジタルゲインを設定します。初期設定では0 dBに設定されています。テキストボックスをタッチし、フォーカスした状態で[TOUCH AND TURN]ノブを回すと値が変化します。また、フォーカスした状態で再度テキストボックスをタッチすると、キーボード画面から値を直接入力できます。

5 +48Vボタン

ヘッドアンプのファンタム電源 (+48V) のオン/オフを切り替えます。

- **オン:**

ファンタム電源をオンにします。

- **オフ:**

ファンタム電源をオフにします。

インプット選択がUSBのときは非表示になります。

ご注意

- ファンタム電源について
ファンタム電源が不要な場合、+48Vボタンをオフにしてください。
ファンタム電源を使用する場合は、本体/外部機器の故障やノイズを防ぐために、次の内容にご注意ください。
- [INPUT]端子にファンタム電源非対応の機器を接続するときは、+48Vボタンをオフにする。
- +48Vボタンをオンにしたまま、ケーブルの抜き差しをしない。
- +48Vボタンのオン/オフは、そのチャンネルのボリュームをすべて最小にした状態で行う。

お知らせ

ファンタム電源を使用中で、[INPUT]端子に接続されている機器のHotとCold間の出力インピーダンスに差がある場合にはノイズが発生することがあります。

6 ゲインスライダー

インプット選択がINPUTのときは、ヘッドアンプのアナログゲインを設定します。

アナログゲインを+17 dBと+18 dBの間で変化させると、PAD (-24 dB) のオン/オフが切り替わります。

インプット選択がUSBのときは、デジタルゲインを設定します。

7 ϕ (フェイズ) ボタン

信号の位相を切り替えます。

オンにすると、入力される信号の位相を反転します。

8 Gain Unlinkボタン

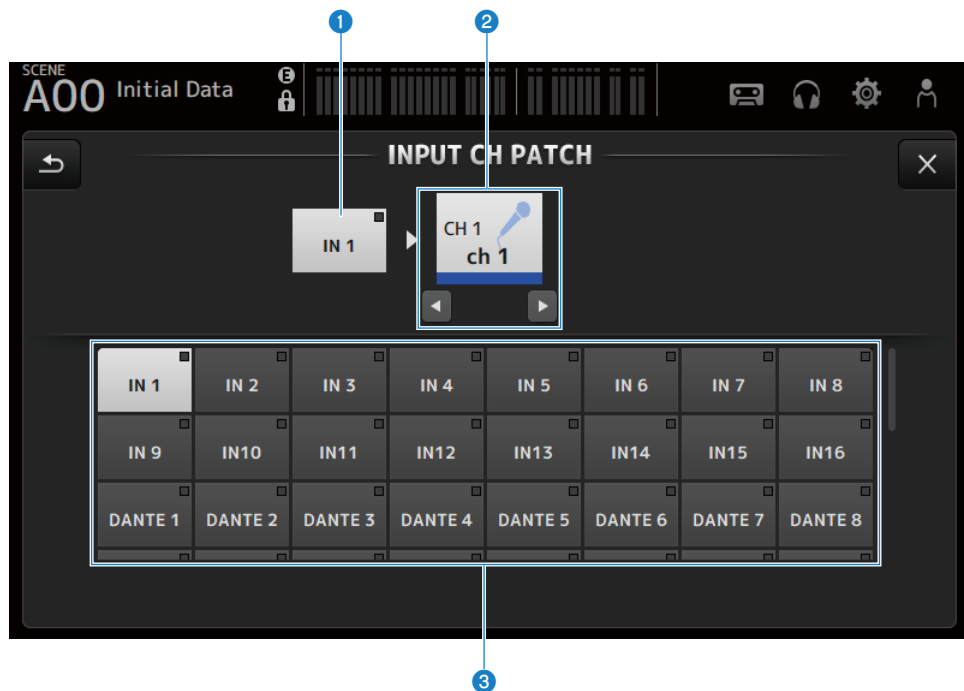
ステレオチャンネルの場合に表示されます。ボタンを押している間、ゲイン操作のリンクが一時的にオフになり、左右のゲインを個別に操作できます。ボタンを離すと、ボタンを離れたときの差分を保ったまま左右のゲインがリンク動作します。

関連リンク

「INPUT CH PATCH画面」 (188ページ)

INPUT CH PATCH画面

INPUT CH PATCH画面は、インプットチャンネルにパッチするポートを設定する画面です。



1 ポートネーム

チャンネルにパッチされているポート名が表示されます。

2 チャンネルネーム

パッチ先のチャンネル名が表示されます。左右ボタンで選択チャンネルをアップ/ダウンできません。

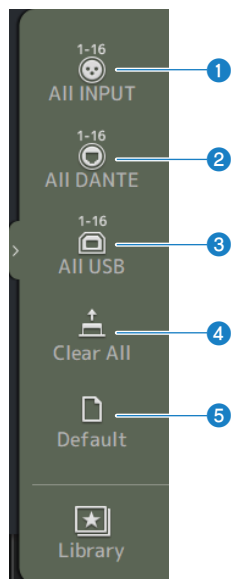
3 ポートボタン

チャンネルにパッチするポートを選択します。

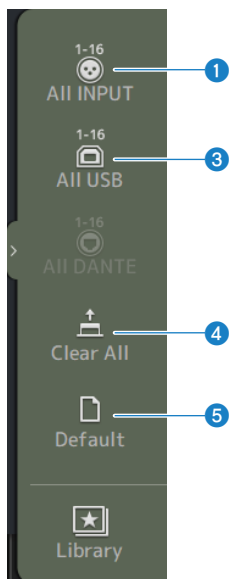
■ INPUT CH PATCH画面のメニュー

INPUT CH PATCH画面右端のメニュースワイプインジケータを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。

DM3の場合



DM3 STANDARDの場合



① All INPUT

CH1-16の入力ソースを[INPUT]端子に一括で切り替えます。

② All DANTE (DM3のみ)

CH1-16の入力ソースをDante機器からの入力に一括で切り替えます。

③ All USB

CH1-16の入力ソースを[USB TO HOST]端子に接続したコンピュータからの接続に一括で切り替えます。

④ Clear All

すべての入力ソースを、一括で解除 (Noneに設定) します。

⑤ Default

選択チャンネルの入力ソースを、初期状態に設定します。

関連リンク

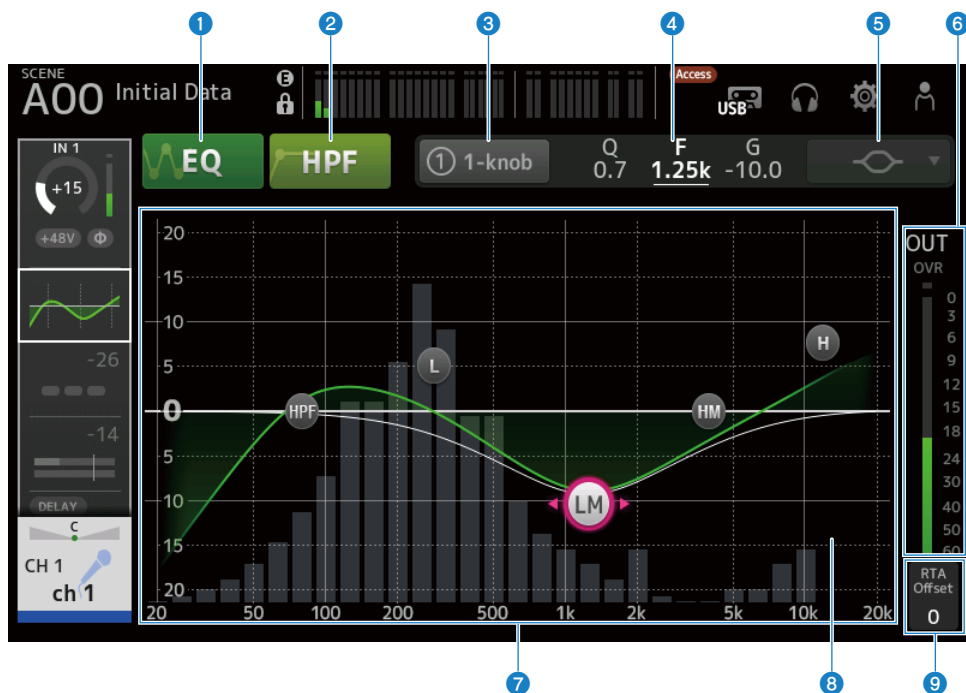
「入出力パッチの初期値」 (364ページ)

EQ画面

EQ画面では、音声の周波数特性を補正します。

CH1-16、ST IN、FX RTN1-2、MIX1-6、STEREO、MATRIX1-2に、4バンドのパラメトリックEQが用意されています。CH1-16では、HPF（ハイパスフィルター）を使用できます。[TOUCH AND TURN]ノブだけで簡単に操作できる1-knobモードと、個別にパラメーターを操作するマニュアルモードの切り替えもこの画面で操作します。

■ 4バンドパラメトリックEQ



① EQボタン

EQのオン/オフを切り替えます。

② HPFボタン

HPF（ハイパスフィルター）のオン/オフを切り替えます。
CH1-16で表示します。

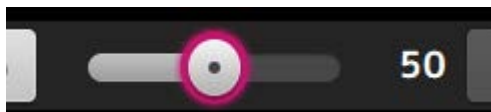
③ 1-knobボタン

1-knob EQモードとマニュアルモードを切り替えます。

1-knob EQモードのときは、ボタンの横に1-knobレベルスライダーが表示されます。

4 1-knobレベルスライダー

1-knob EQのかかり具合を調節します。



マニュアルモードの場合は、選択中のバンドのQ/F/Gの情報が表示されます。

5 EQモードタイプ選択ボタン

マニュアルモードのときは、フィルタータイプを選択します。LOWバンドとHIGHバンドはフィルタータイプを切り替えることができます。

CH1-CH16のLOWバンドは、ローシェルピングとベルタイプを選べます。

それ以外のチャンネルEQ（専用のHPFが装備されていないチャンネルEQ）では、HPF、ローシェルピング、ベルタイプから選べます。

HIGHバンドは、LPF、ハイシェルピング、ベルタイプから選べます。

1-knob EQモードの場合は、1-knob EQのタイプを選択します。ボーカルには「Vocal」を、それ以外の楽器には、「Intensity」を選びます。

「Intensity」の場合は、マニュアルモードで設定した値を中間値として、フラットから設定値をさらに強調した設定の間を操作できます。

出力チャンネルのEQには「Loudness」が用意されています。低域と高域を強調する設定を操作できます。

選択できるタイプは、次のようにチャンネルによって異なります。

	CH1-16 HPF+4Band	ST IN 4Band	FX RTN 4Band	MIX 4Band	STEREO 4Band	MATRIX 4Band
Intensity	○	○	○	○	○	○
Vocal	○	×	×	×	×	×
Loudness	×	×	×	○	○	○

6 EQアウトプットレベルメーター

EQの出力レベルを表示します。

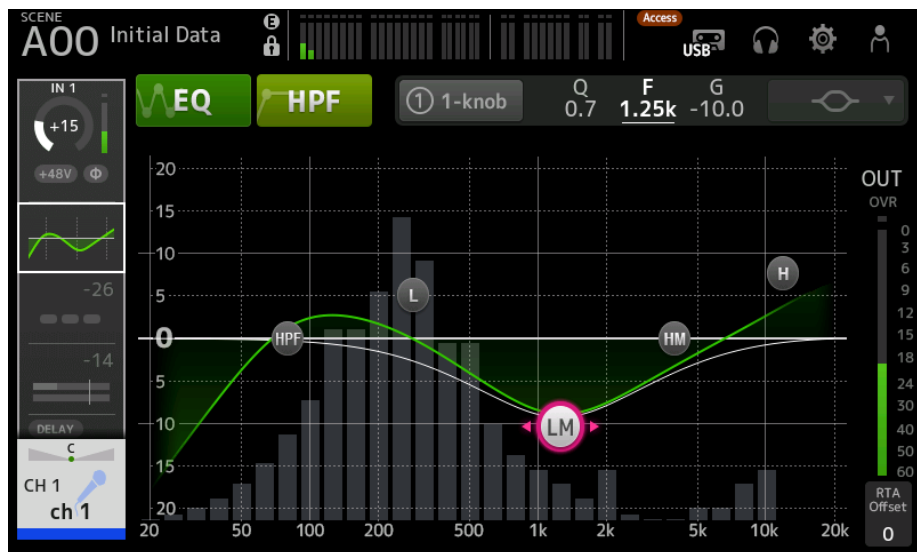
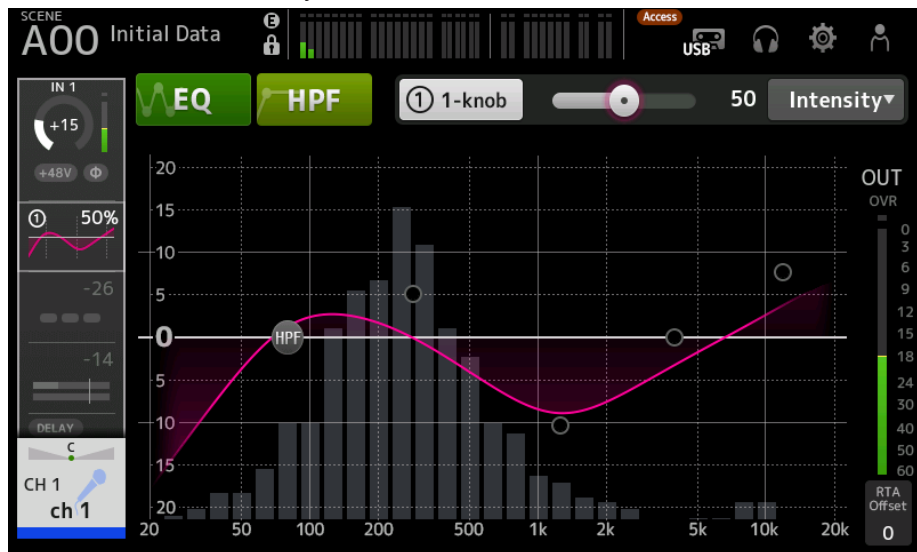
7 周波数特性表示/設定

EQやフィルターのパラメーターの設定値が表示されます。各バンドの周波数やゲインなどの変更に従って、特性カーブが変化します。

1-knob EQモードの場合は、1-knobレベルスライダーをタッチして、[TOUCH AND TURN]ノブまたは1-knobレベルスライダーを操作します。

マニュアルモードでは、カーブ上のハンドルをドラッグして、設定を変更します。

HPFがオンのときは、HPFのハンドルをドラッグして、カットオフ周波数を操作します。HPFは、1-knobのタイプがIntensityのときも独立して操作できます。



8 RTA/鍵盤表示

グラフの下部でパラメーターのない場所をタッチすると、RTA、鍵盤、表示なし、の順に表示が切り替わります。RTAは、入力音がEQで調節されたあとの周波数特性をグラフで表示します。鍵盤表示は、調節する周波数と楽器の音階との関係を視覚的に把握できます。

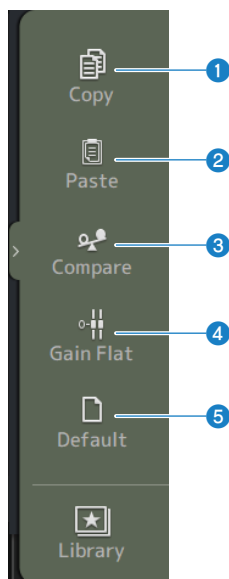


9 RTA Offset

RTAの感度を調節します。タッチするとフォーカスされ、[TOUCH AND TURN]ノブで操作できます。

■ EQ画面のメニュー

EQ画面右端のメニュースワイプインジケータを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。



1 Copy

選択しているチャンネルのEQのパラメーターをコピーします。

2 Paste

コピーしたEQのパラメーターを、選択しているチャンネルにペーストします。

3 Compare

選択しているチャンネルのEQのパラメーターと、コピーしたEQのパラメーターを切り替えて比較します。

4 Gain Flat

選択しているチャンネルのEQゲインをフラットに設定します。

5 Default

EQの設定を初期状態に設定します。

チャンネル専用画面 > EQ画面

関連リンク

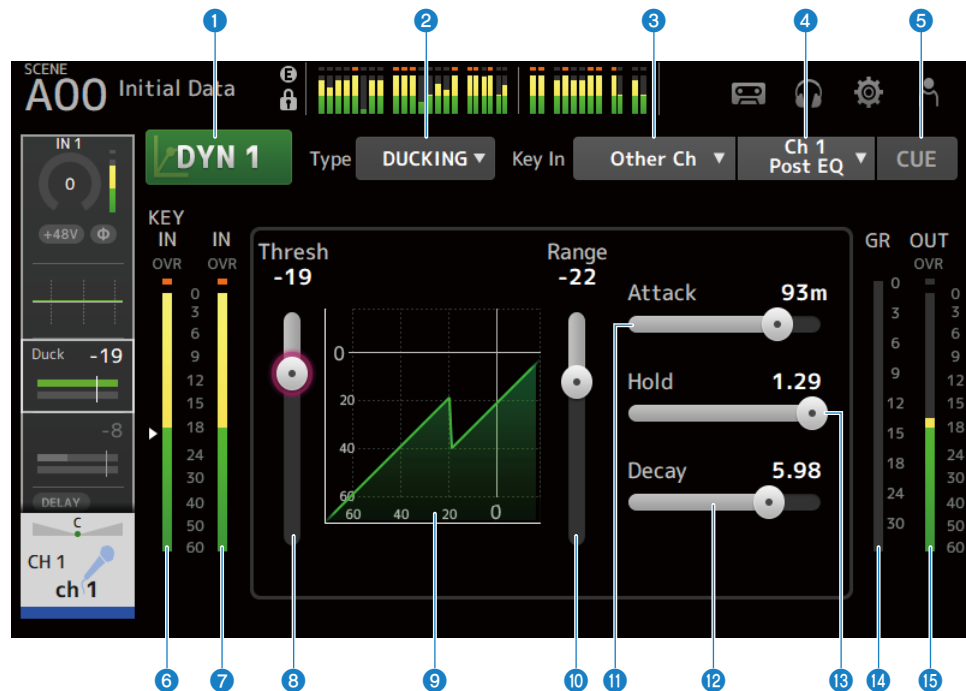
- 「1-knobモードでEQを操作する」 (291ページ)
- 「1-knob EQモードの仕組み」 (367ページ)
- 「HPFを設定する」 (294ページ)

DYN1 (GATE/DUCKING) 画面

DYN1画面では、各チャンネルのダイナミックレンジを補正します。

GATE選択時、スレッシュホルドレベル（しきい値）より小さい信号が入力された場合、出力を一定の値（Range）で小さくします。

DUCKING選択時、スレッシュホルドレベルより大きい信号が入力された場合、出力を一定の値で小さくします。DYN1はCH1-16に搭載されています。



1 DYN1ボタン

DYN1機能のオン/オフを切り替えます。

2 Type選択ボタン

GATE、DUCKINGのどちらかを選択します。

3 Key In選択ボタン

Key In信号を以下の中から選択します。

- Self Pre EQ
- Self Post EQ
- Other Ch
- MIX

4 Key Inチャンネル選択ボタン

Key In選択ボタンで、Other Ch、MIXを選択した場合に有効になります。

Other Chを選択した場合は、CH1-16 Post EQの中から選択します。

MIXを選択した場合は、MIX OUT1-6の中から選択します。

5 CUEボタン

Key In信号のCUEのオン/オフを切り替えます。

6 DYN1 Key Inレベルメーター

Key Inの入力レベルを表示します。

7 DYN1インプットレベルメーター

DYN1の入力レベルを表示します。

8 Thresholdスライダー

GATE/DUCKINGの効果がかかるしきい値のレベルを設定します。

9 GATE/DUCKINGグラフ

GATE/DUCKINGレベルの設定を視覚的に表示します。

10 Rangeスライダー

GATE/DUCKINGの効果がかかっているときの減衰量を設定します。

11 Attackスライダー

GATE選択時、入力信号がスレッシュホールドレベルを超えてから、ゲートが開くまでの時間を設定します。

DUCKING選択時、入力信号がスレッシュホールドレベルを超えてから、ゲートが閉じるまでの時間を設定します。

12 Decayスライダー

GATE選択時、入力信号がHOLDの待ち時間を経たあと、ゲートが閉じるまでの時間を設定します。

DUCKING選択時、入力信号がHOLDの待ち時間を経たあと、ゲートが開くまでの時間を設定します。設定値は、レベルが6 dB変化するのに要する時間で表現します。

13 Holdスライダー

GATE選択時、入力信号がスレッシュホールドレベルを下回ったあとにゲートが閉じ始めるまでの待ち時間を設定します。

DUCKING選択時、入力信号がスレッシュホールドレベルを下回ったあとにゲートが開き始めるまでの待ち時間を設定します。

14 GR (ゲインリダクション) メーター

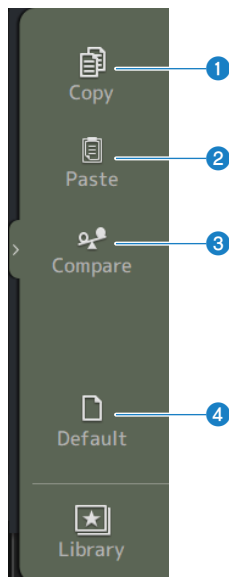
ゲインリダクション量を表示します。

15 OUT (アウトプット) メーター

GATE/DUCKINGの出力レベルを表示します。

■ DYN1画面のメニュー

DYN1画面右端のメニュースワイプインジケーターを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。



1 Copy

選択しているチャンネルのDYN1のパラメーターをコピーします。

2 Paste

コピーしたDYN1のパラメーターを、選択しているチャンネルにペーストします。

3 Compare

選択しているチャンネルのDYN1のパラメーターと、コピーしたDYN1のパラメーターを切り替えて比較します。

4 Default

DYN1の設定を初期状態に設定します。

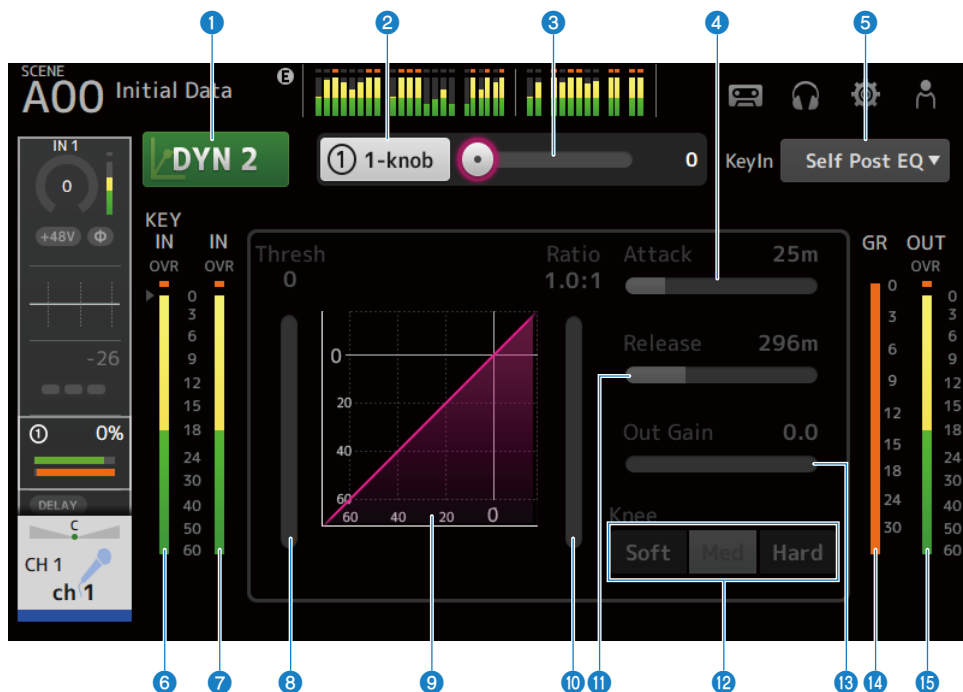
関連リンク

「GATE/DUCKINGを設定する」 (295ページ)

DYN2 (COMP) 画面

DYN2画面では、各チャンネルのコンプレッサーを設定します。

[TOUCH AND TURN]ノブで簡単に操作できる1-knobモードと、個別にパラメーターを操作するマニュアルモードの切り替えも、この画面で操作します。



1 DYN2ボタン

DYN2の機能のオン/オフを切り替えます。

2 1-knobボタン

1-knobモードとマニュアルモードを切り替えます。

3 1-knobレベルスライダ (1-knobモード時のみ表示)

1-knob COMPのかかり具合を調節します。

マニュアルモードのときは、表示されません。

4 Attackスライダ

入力信号がThresholdスライダで設定した値を超えてから、コンプレッサーの効果が最大に達するまでの時間を設定します。

5 Key In選択ボタン

Key In信号を以下の中から選択します。

- Self Pre EQ
- Self Post EQ

6 Key Inレベルメーター

Key Inの入力レベルを表示します。

7 DYN2インプットレベルメーター

DYN2への入力レベルを表示します。

8 Thresholdスライダー

コンプレッサーの効果がかかるしきい値のレベルを設定します。

9 コンプレッサーグラフ

設定状態を視覚的に表示します。

10 Ratioスライダー

コンプレッサーの圧縮量を設定します。

11 Releaseスライダー

入力信号がThresholdスライダーで設定した値以下になったあと、コンプレッサーの効果がなくなるまでの時間を設定します。設定値は、レベルが6 dB変化するのに要する時間で表現します。

12 Kneeボタン

スレッシュホールドレベルでの折れ曲がりの鋭さを選択します。Softではなめらかに、Hardでは急激にコンプレッサーがかかります。

13 Out Gainスライダー

コンプレッサーの出力レベルを調節します。

14 GR (ゲインリダクション) メーター

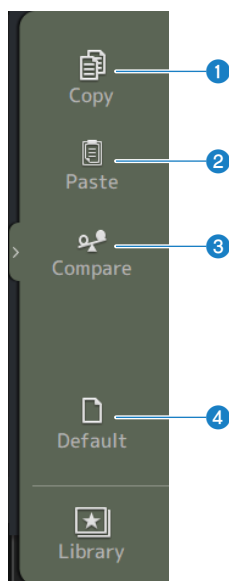
ゲインリダクション量を表示します。

15 OUT (アウトプット) メーター

コンプレッサーの出力レベルを表示します。

■ DYN2画面のメニュー

DYN2画面右端のメニュースワイプインジケーターを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。



1 Copy

選択しているDYN2のパラメーターをコピーします。

2 Paste

コピーしたDYN2のパラメーターを選択しているチャンネルにペーストします。

3 Compare

選択しているチャンネルのDYN2のパラメーターと、コピーしたDYN2のパラメーターを切り替えて比較します。

4 Default

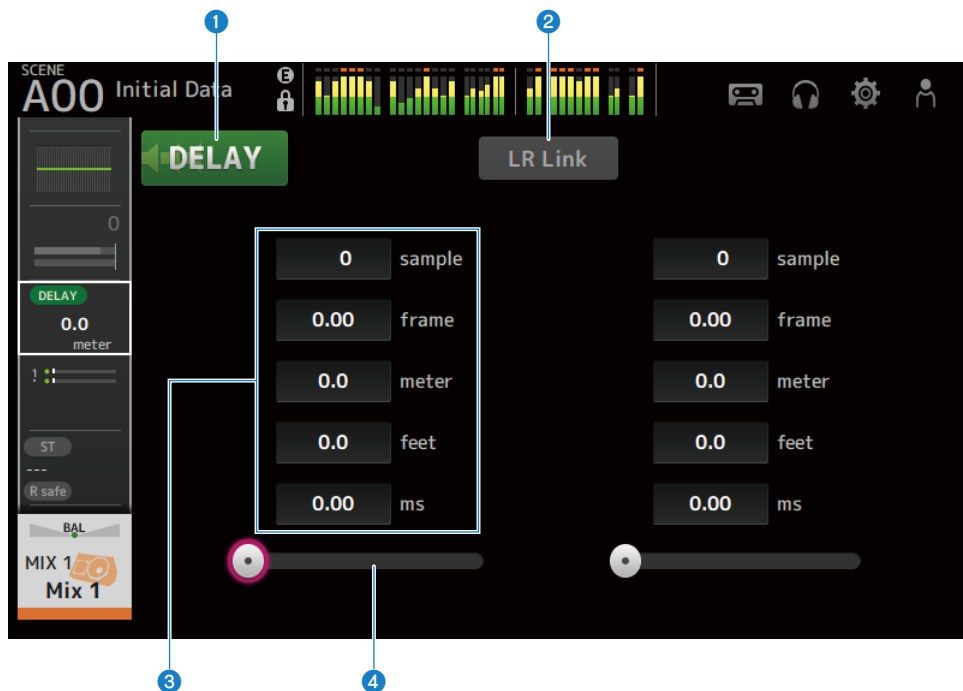
DYN2の設定を初期状態に設定します。

関連リンク

- ・「マニュアルモードでコンプレッサーを操作する」 (296ページ)
- ・「1-knob COMPモードの仕組み」 (368ページ)

DELAY画面

DELAY画面では、MIX、MATRIX、STEREOチャンネルから出力する信号のディレイや、INPUT、ST INチャンネルに入力する信号のディレイを設定します。



1 DELAYボタン

DELAYのオン/オフを切り替えます。

2 LR Linkボタン

DELAYのオン/オフとディレイタイムの操作をリンクします。ディレイタイムが違う値で設定されている場合は、差分を保ったままディレイタイムがリンク動作します。

選択中のチャンネルがステレオチャンネルの場合に表示します。

3 DELAY設定テキストボックス

ディレイを、sample（サンプル）、frame（フレーム）、meter（メートル）、feet（フィート）、ms（ミリ秒）で指定できます。選択状態からタッチすると、数値で入力する画面が表示されます。

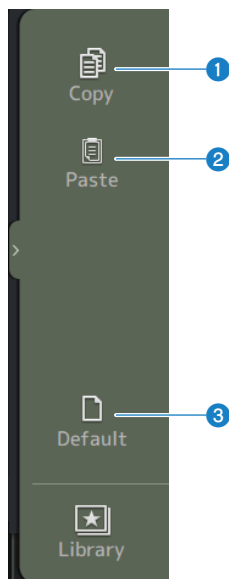
④ DELAYスライダー

ディレイタイムを設定します。

ディレイタイムはsample（サンプル）、frame（フレーム）、meter（メートル）、feet（フィート）、ms（ミリ秒）単位で表示されます。

■ DELAY画面のメニュー

DELAY画面右端のメニュースワイプインジケータを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。



① Copy

選択しているDELAYのパラメーターをコピーします。

② Paste

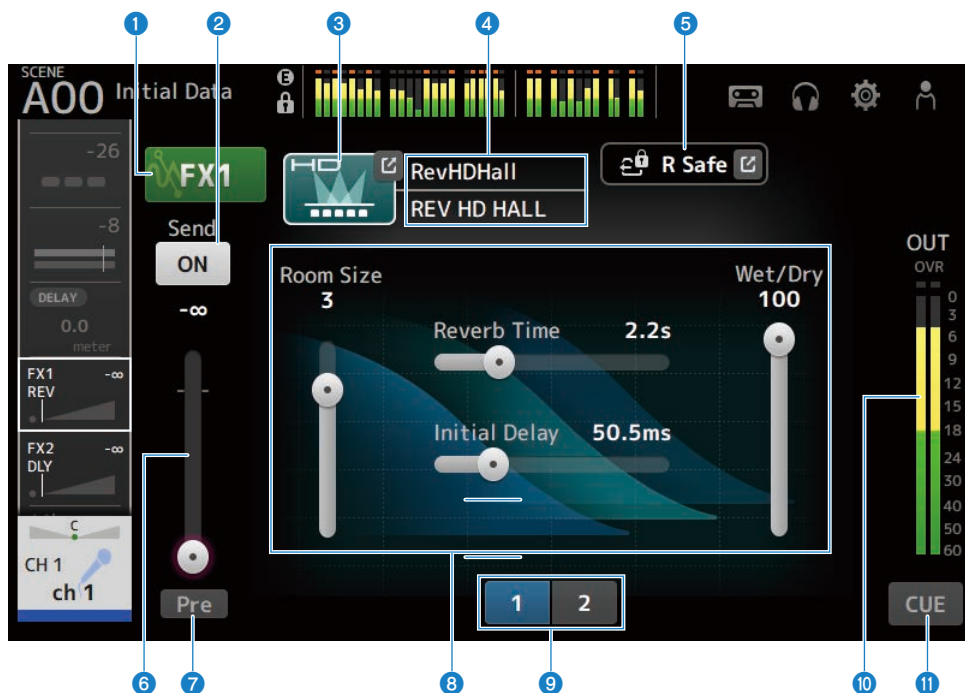
コピーしたDELAYのパラメーターを選択しているチャンネルにペーストします。

③ Default

DELAYの設定を初期状態に設定します。

FX画面

FX画面では、エフェクトの種類やパラメーターを設定します。



- 1 FXボタン**
FXのオン/オフを切り替えます。
- 2 Sendボタン**
CH1-16、ST IN、FX RTN1-2のチャンネルの場合に表示します。
FX BUSへの送りのオン/オフを切り替えます。
- 3 EFFECT TYPEボタン**
タッチすると、エフェクトを選択するEFFECT TYPE画面を表示します。
- 4 タイプ/ライブラリー名表示**
選択しているライブラリーのタイプ、名称を表示します。
- 5 R Safe (リコールセーフ) インジケーター**
FXモジュールのリコールセーフの状態を表示します。
タッチすると、RECALL SAFE画面を表示します。

6 FXセンドレベルスライダー

CH1-16、ST IN、FX RTN1-2のチャンネルの場合に表示されます。

FX BUSへのセンドレベルを調節します。

7 Preボタン

CH1-16、ST IN、FX RTN1-2のチャンネルの場合に表示されます。

FX RTNチャンネルに送る信号をフェーダーの直前または直後のどちらに送るかを選択します。

- オン:

フェーダーの直前

- オフ:

フェーダーの直後

8 パラメータスライダー

それぞれのエフェクトで設定できるパラメーターがスライダーで表示されます。

9 パラメータスライダー切り替えボタン

タッチすると、表示されていないパラメータスライダーを表示します。

10 FXアウトプットレベルメーター

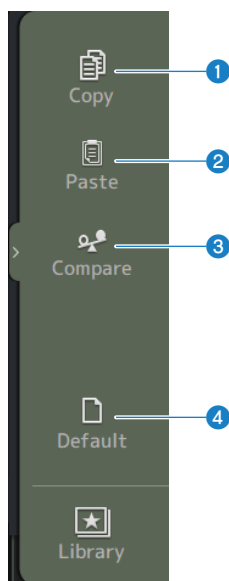
FXモジュールの出力レベルを表示します。

11 CUEボタン

FXモジュールのCUEのオン/オフを切り替えます。

■ FX画面のメニュー

FX画面右端のメニースワイプインジケーターを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。



1 Copy

選択しているエフェクトのパラメーターをコピーします。

2 Paste

コピーしたエフェクトのパラメーターを、選択しているエフェクトにペーストします。

3 Compare

選択しているエフェクトのパラメーターと、コピーしたエフェクトのパラメーターを切り替えて比較します。

4 Default

選択しているエフェクトのパラメーターを初期状態に設定します。

関連リンク

- ・「EFFECT TYPE画面」 (207ページ)
- ・「RECALL SAFE画面」 (113ページ)
- ・「エフェクトを設定する」 (298ページ)
- ・「FX BUSへの送り量を設定する」 (302ページ)
- ・「データリスト」 (387ページ)

EFFECT TYPE画面

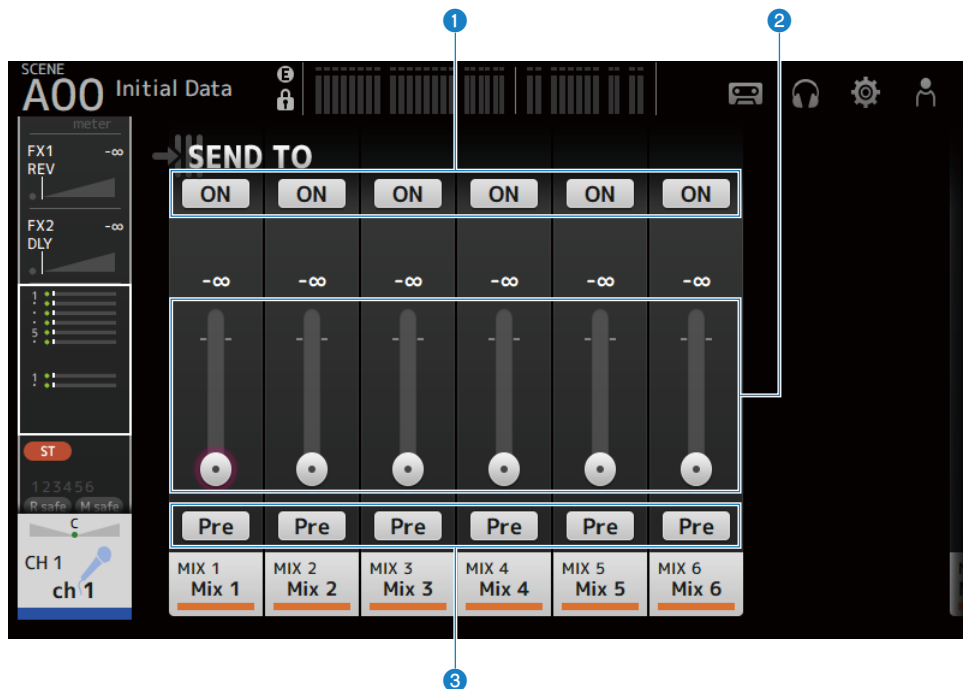
EFFECT TYPE画面では、エフェクトタイプを選択します。

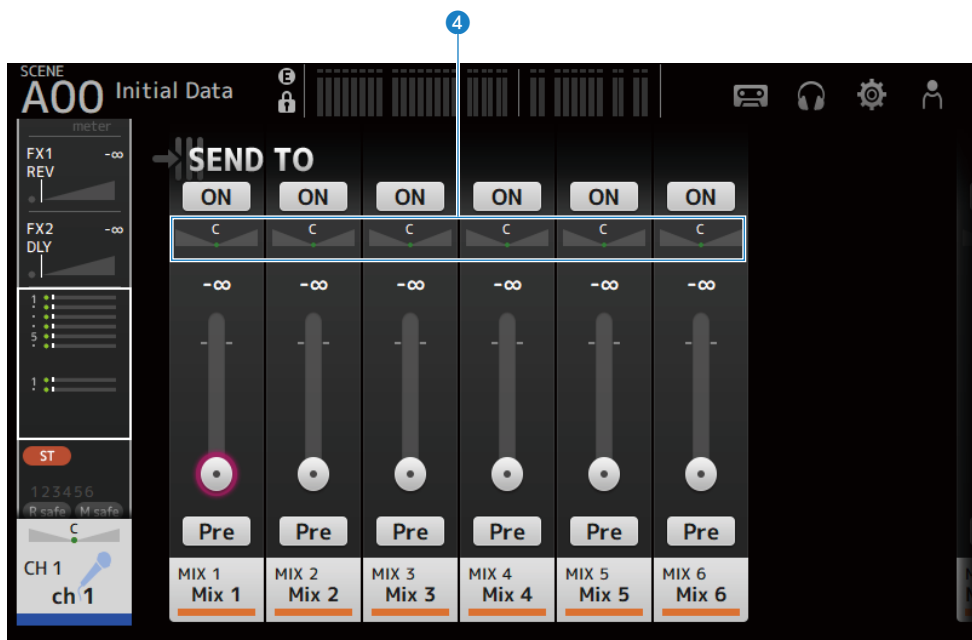
目的のボタンをタッチして、選択します。



SEND TO画面

SEND TO画面では、各チャンネルからMIX/MATRIX BUSへの送り量を設定します。
左右にスワイプすると、表示されていないバスを表示します。





① SEND ONボタン

MIX/MATRIX BUSへの送りのオン/オフを切り替えます。

② SEND LEVELスライダー

MIX/MATRIX BUSへの送り量を調節します。

③ Preボタン

MIX/MATRIX BUSに送る信号をフェーダーの前後のどちらから送るかを選択します。

- ・ **オン:**
フェーダーの前
- ・ **オフ:**
フェーダーの後

オンにした場合、BUS SETUP画面のPre Fader Send Pointで、EQの直前かフェーダーの直前かを選択できます。

④ SEND PANスライダー

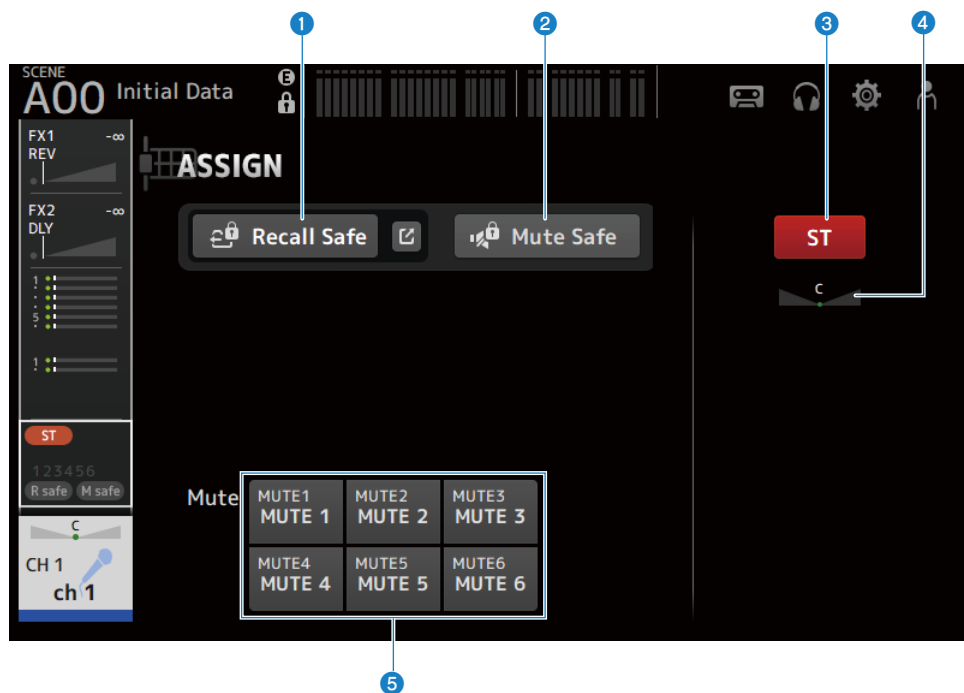
送り先のMIX/MATRIX BUSがステレオのときに表示されます。センドパンを調節します。

関連リンク

- ・ 「BUS SETUP画面」 (115ページ)
- ・ 「MIX/MATRIX BUSへの送り量を設定する」 (300ページ)
- ・ 「フェーダーでFX/MIX/MATRIX BUSへの送りを操作する」 (304ページ)

ASSIGN画面

ASSIGN画面では、リコールセーフやミュートセーフのオン/オフ、STEREOチャンネルやミュートグループへのアサインを設定します。



1 Recall Safeボタン

そのチャンネルのRecall Safeのオン/オフを切り替えます。

Recall Safeボタンの右側にあるジャンプボタンをタッチすると、RECALL SAFE画面を表示します。

2 Mute Safeボタン

ミュートグループに属するチャンネルの中から、特定のチャンネルのみを一時的に除外します。

ミュートセーフに設定したチャンネルは、そのチャンネルの属するミュートグループをミュートしても影響を受けません。

3 STボタン

STEREOチャンネルへのアサインのオン/オフを切り替えます。

4 PANスライダー

チャンネルのPANを調節します。

チャンネル専用画面 > ASSIGN画面

⑤ Muteボタン

MUTEグループ1-6へのアサインのオン/オフを切り替えます。
一つのチャンネルを複数のMUTEグループにアサインできます。

関連リンク

「RECALL SAFE画面」 (113ページ)

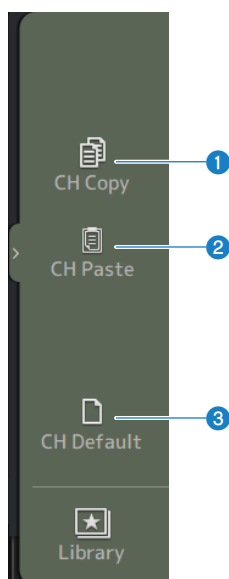
CH VIEW画面

CH VIEW画面について

CH VIEW画面では、チャンネルの設定全体を俯瞰できます。
この画面でも設定できるほか、各専用画面へ移動できます。
チャンネルの種類により、表示する内容は異なります。

■ CH VIEW画面のメニュー

CH VIEW画面右端のメニュースワイプインジケータを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。



1 CH Copy

選択しているチャンネルの設定をコピーします。

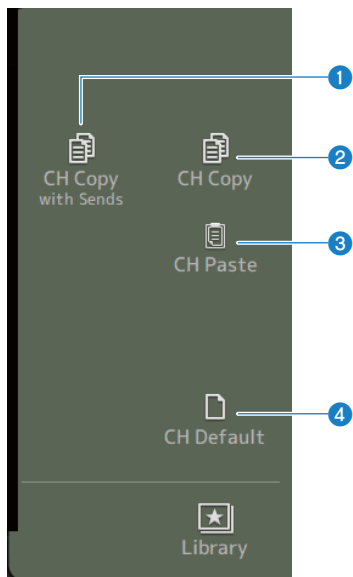
2 CH Paste

選択しているチャンネルに、コピーしたチャンネルの設定をペーストします。

3 CH Default

選択しているチャンネルの設定を初期化します。

■ MIX/MATRIXチャンネル、FX BUSの場合



① CH Copy with Sends

選択しているチャンネルの設定をSendsも含めてコピーします。

② CH Copy

選択しているチャンネルの設定をコピーします。

③ CH Paste

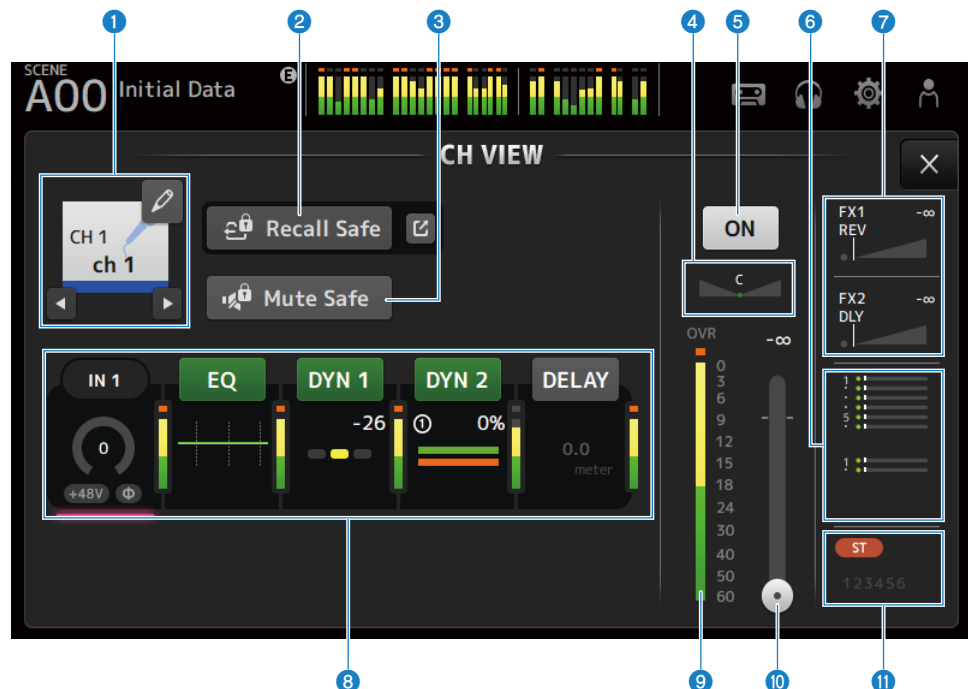
選択しているチャンネルに、コピーしたチャンネルの設定をペーストします。

④ CH Default

選択しているチャンネルの設定を初期化します。

CH1-16、ST IN、FX RTN1-2

CH1-16、ST IN、FX RTN1-2チャンネルのCH VIEW画面について説明します。



1 チャンネルネーム

タッチすると、CH NAME画面を表示します。

左右ボタンをタッチすると、情報を表示するチャンネルを切り替えます。

2 Recall Safeボタン

タッチするとそのチャンネルのRecall Safeのオン/オフを切り替えます。

Recall Safeボタン右側のジャンプボタンをタッチすると、RECALL SAFE画面を表示します。

3 Mute Safeボタン

タッチすると、現在のチャンネルがインプットミュートグループから一時的に除外されます。

ミュートセーフに設定したチャンネルは、インプットミュートグループをミュートしても影響を受けません。

4 PANスライダー

チャンネルのPANを調節します。

5 チャンネルオン/オフボタン

表示中のチャンネルのオン/オフを切り替えます。

6 SEND TOボックス

選択した状態でタッチすると、SEND TO画面を表示します。

選択しているチャンネルからMIX/MATRIXチャンネルへの送り量を白い線で表示します。

センドレベル、選択中のチャンネルのフェーダーレベルを加味した実際のセンドレベルは、横に伸びるバーで表示します。

MIXチャンネルに送る信号が、フェーダーの直前か直後かの情報を表示します。インジケーターが緑色の場合は直前、点灯していない場合は直後です。

7 FX1/2ボックス

FX1/2のタイプを表示します。

選択した状態で[TOUCH AND TURN]ノブを回して、FXセンドレベルを設定できます。また、選択した状態でタッチすると、FX画面を表示します。

選択しているチャンネルからFX BUSへの送り量を白い線で表示します。

センドレベル、選択中のチャンネルのフェーダーレベルを加味した実際のセンドレベルは、三角形のバーで表示します。

FX BUSに送る信号が、フェーダーの直前か直後かの情報を表示します。インジケーターが緑色の場合は直前、点灯していない場合は直後です。

8 ボックス

選択した状態でタッチすると、それぞれ専用画面を表示します。

EQ、DYN1、DYN2、DELAYボックスのボタンは、タッチするとそれぞれオン/オフを切り替えます。

• HAボックス：

INPUT画面を表示します。

• EQボックス：

EQ画面を表示します。

• DYN1ボックス：

DYN1画面を表示します。

• DYN2ボックス：

DYN2画面を表示します。

• DELAYボックス：

DELAY画面を表示します。

9 チャンネル出力レベルメーター

チャンネルの出力レベルを表示します。

10 チャンネルフェーダーレベルスライダー

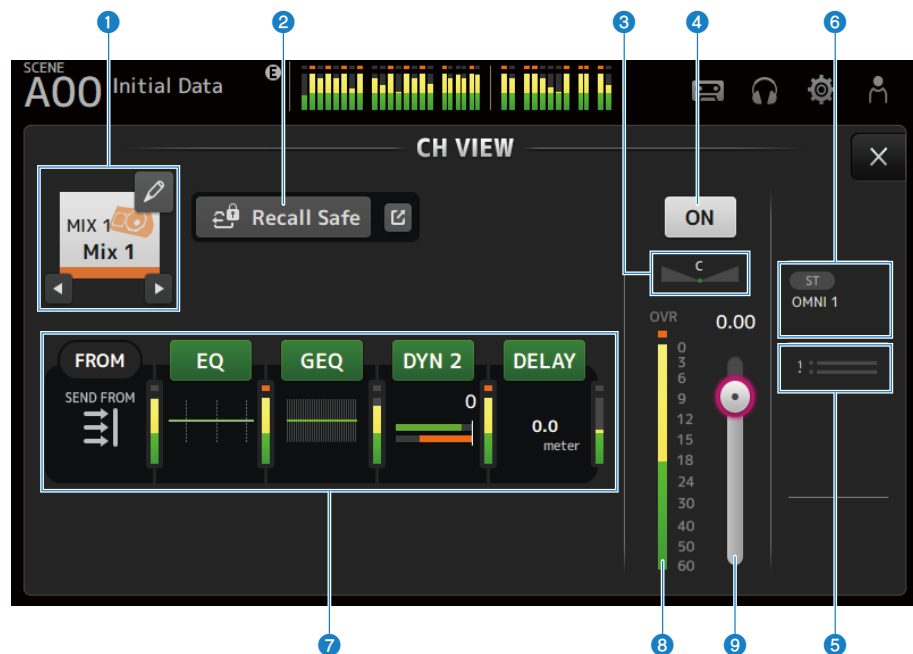
チャンネルのフェーダーレベルを調節します。

⑪ **ASSIGNボックス**

選択した状態でタッチすると、ASSIGN画面を表示します。

MIX1-6

MIX1-6チャンネルのCH VIEW画面について説明します。



1 チャンネルネーム

タッチすると、CH NAME画面を表示します。

左右ボタンをタッチすると、情報を表示するチャンネルを切り替えます。

2 Recall Safeボタン

タッチするとそのチャンネルのリコールセーフのオン/オフを切り替えます。

Recall Safeボタン右側のジャンプボタンをタッチすると、RECALL SAFE画面を表示します。

3 PAN/BALスライダー

チャンネルのPAN/BAL（バランス）を調節します。

4 チャンネルオン/オフボタン

表示中のチャンネルのオン/オフを切り替えます。

5 SEND TOボックス

選択した状態でタッチすると、SEND TO画面を表示します。

選択しているチャンネルからMATRIXチャンネルへの送り量を白い線で表示します。

センドレベル、選択中のチャンネルのフェーダーレベルを加味した実際のセンドレベルは、横に伸びるバーで表示します。

MATRIXチャンネルに送る信号が、フェーダーの直前か直後かの情報を表示します。インジケータが緑色の場合は直前、点灯していない場合は直後です。

6 OUTPUTボックス

選択した状態でタッチすると、OUTPUT画面を表示します。

7 ボックス

タッチすると、それぞれ専用画面を表示します。

EQ、GEQ、DYN2、DELAYボックスのボタンは、タッチするとそれぞれオン/オフを切り替えます。

- **FROMボックス：**

SEND FROM画面を表示します。

- **EQボックス：**

EQ画面を表示します。

- **GEQボックス：**

GEQ画面を表示します。

- **DYN2ボックス：**

DYN2画面を表示します。

- **DELAYボックス：**

DELAY画面を表示します。

8 チャンネル出力レベルメーター

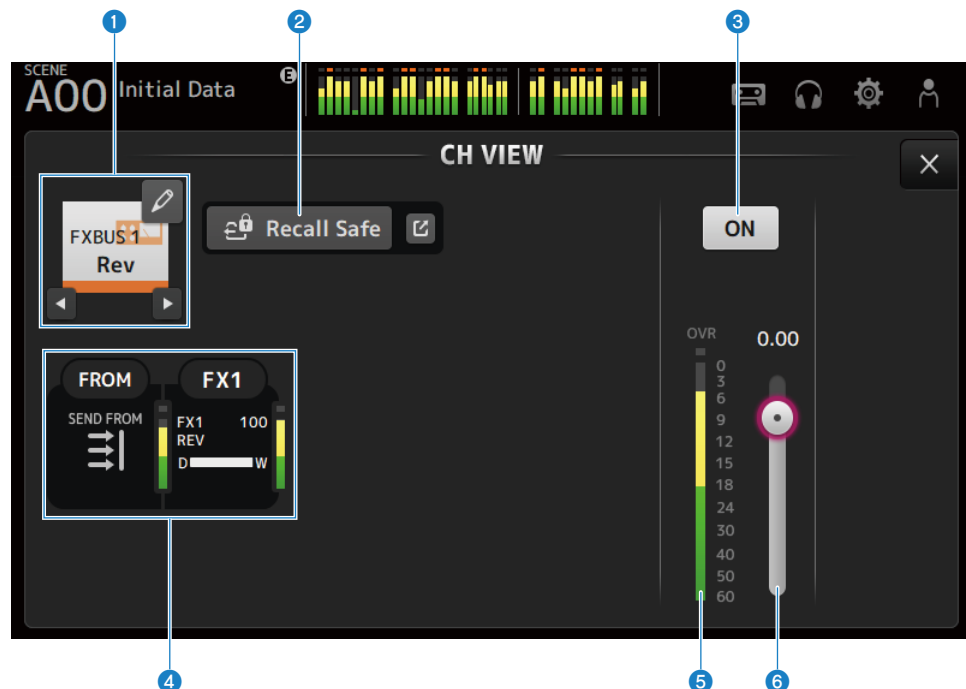
チャンネルの出力レベルを表示します。

9 チャンネルフェーダーレベルスライダー

チャンネルのフェーダーレベルを調節します。

FX BUS1-2

FX BUS1-2のCH VIEW画面について説明します。



1 チャンネルネーム

タッチすると、CH NAME画面を表示します。

左右ボタンをタッチすると、情報を表示するチャンネルを切り替えます。

2 Recall Safeボタン

タッチするとそのチャンネルのリコールセーフのオン/オフを切り替えます。

Recall Safeボタン右側のジャンプボタンをタッチすると、RECALL SAFE画面を表示します。

3 チャンネルオン/オフボタン

表示中のチャンネルのオン/オフを切り替えます。

4 ボックス

選択した状態でタッチすると、それぞれ専用画面を表示します。

• FROMボックス:

SEND FROM画面を表示します。

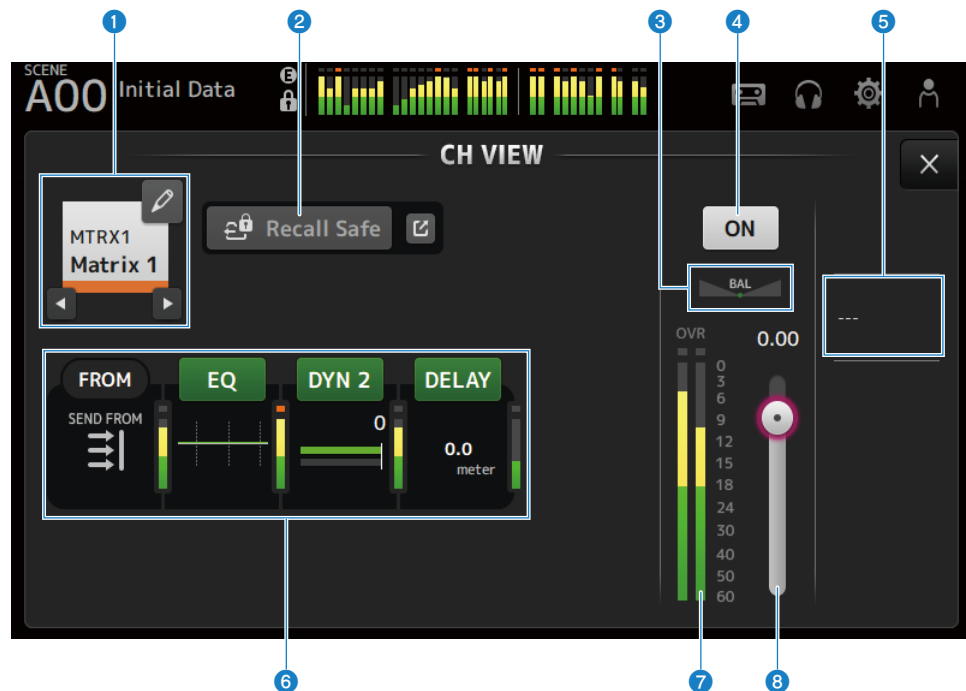
• FXボックス:

FX画面を表示します。

- ⑤ **チャンネル出力レベルメーター**
チャンネルの出力レベルを表示します。
- ⑥ **チャンネルフェーダーレベルスライダー**
チャンネルのフェーダーレベルを調節します。

MATRIX1-2

MATRIX1-2チャンネルのCH VIEW画面について説明します。



1 チャンネルネーム

タッチすると、CH NAME画面を表示します。

左右ボタンをタッチすると、情報を表示するチャンネルを切り替えます。

2 Recall Safeボタン

タッチするとそのチャンネルのリコールセーフのオン/オフを切り替えます。

Recall Safeボタン右側のジャンプボタンをタッチすると、RECALL SAFE画面を表示します。

3 BAL (バランス) スライダー

チャンネルの左右の音量バランスを調節します。

4 チャンネルオン/オフボタン

表示中のチャンネルのオン/オフを切り替えます。

5 OUTPUTボックス

選択した状態でタッチすると、OUTPUT画面を表示します。

6 ボックス

タッチすると、それぞれ専用画面を表示します。

EQ、DYN2、DELAYボックスのボタンは、タッチするとそれぞれオン/オフを切り替えます。

- **FROMボックス：**

SEND FROM 画面を表示します。

- **EQボックス：**

EQ 画面を表示します。

- **DYN2ボックス：**

DYN2画面を表示します。

- **DELAYボックス：**

DELAY画面を表示します。

7 チャンネル出力レベルメーター

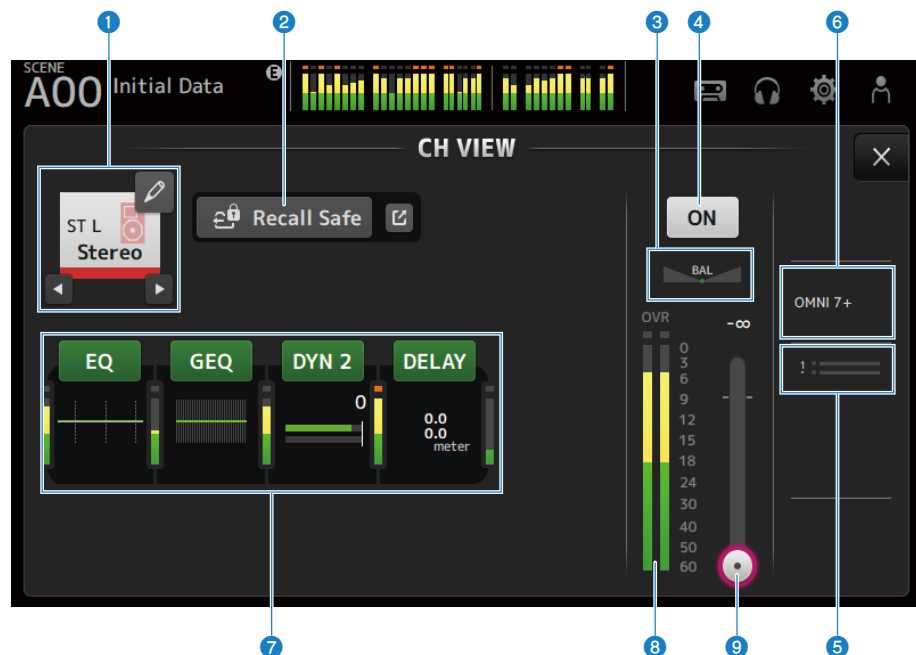
チャンネルの出力レベルを表示します。

8 チャンネルフェーダーレベルスライダー

チャンネルのフェーダーレベルを調節します。

STEREO

STEREOチャンネルのCH VIEW画面について説明します。



1 チャンネルネーム

タッチすると、CH NAME画面を表示します。

左右ボタンをタッチすると、情報を表示するチャンネルを切り替えます。

2 Recall Safeボタン

タッチするとそのチャンネルのリコールセーフのオン/オフを切り替えます。

Recall Safeボタン右側のジャンプボタンをタッチすると、RECALL SAFE画面を表示します。

3 BAL (バランス) スライダー

チャンネルの左右の音量バランスを調節します。

4 チャンネルオン/オフボタン

表示中のチャンネルのオン/オフを切り替えます。

5 SEND TOボックス

選択した状態でタッチすると、SEND TO画面を表示します。

選択しているチャンネルからMATRIXチャンネルへの送り量を白い線で表示します。

センドレベル、選択中のチャンネルのフェーダーレベルを加味した実際のセンドレベルは、横に伸びるバーで表示します。

MATRIXチャンネルに送る信号が、フェーダーの直前か直後かの情報を表示します。インジケーターが緑色の場合は直前、点灯していない場合は直後です。

6 OUTPUTボックス

選択した状態でタッチすると、OUTPUT画面を表示します。

7 ボックス

タッチすると、それぞれ専用画面を表示します。

EQ、GEQ、DYN2、DELAYボックスのボタンは、タッチするとそれぞれオン/オフを切り替えます。

- **EQボックス：**

EQ画面を表示します。

- **GEQボックス：**

GEQ画面を表示します。

- **DYN2ボックス：**

DYN2画面を表示します。

- **DELAYボックス：**

DELAY画面を表示します。

8 チャンネル出力レベルメーター

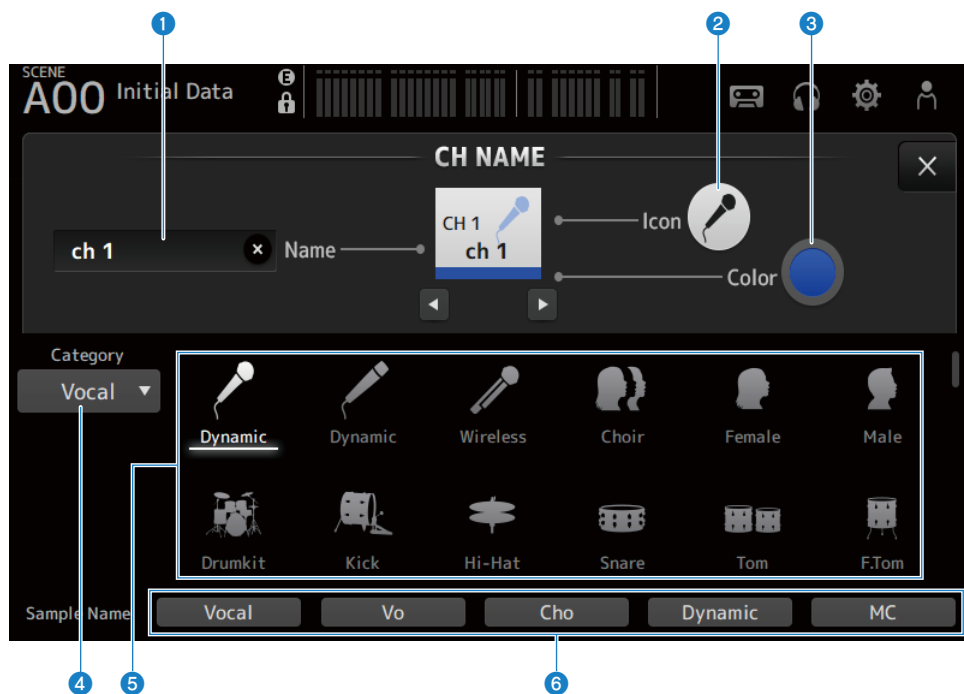
チャンネルの出力レベルを表示します。

9 チャンネルフェーダーレベルスライダー

チャンネルのフェーダーレベルを調節します。

CH NAME画面

CH NAME画面では、チャンネル名に表示する名前、アイコン、チャンネルカラーを設定します。



① Nameテキストボックス

チャンネル名を入力します。

テキストボックスをタッチするとSOFT KEYBOARD画面で直接入力できます。

② Iconボタン

タッチすると、チャンネルアイコンの一覧が画面下側に表示されます。

3 Colorボタン

タッチすると、チャンネルカラーの一覧が画面下側に表示されます。



チャンネルカラーに設定したい色のボタンをタッチすると、チャンネルカラーとして反映されます。

4 Categoryボタン

表示するチャンネルアイコンのカテゴリーを切り替えます。

チャンネルの種類によって表示されるカテゴリーが変わります。

5 チャンネルアイコン選択

アイコンをタッチすると、チャンネルアイコンとして反映されます。

上下にドラッグすると、表示されていないアイコンが表示されます。

6 Sample Nameボタン

選択したチャンネルアイコンと一緒によく使われるチャンネルネームの例を表示します。

チャンネルネームの例が書かれたボタンをタッチすると、チャンネル名として反映されます。

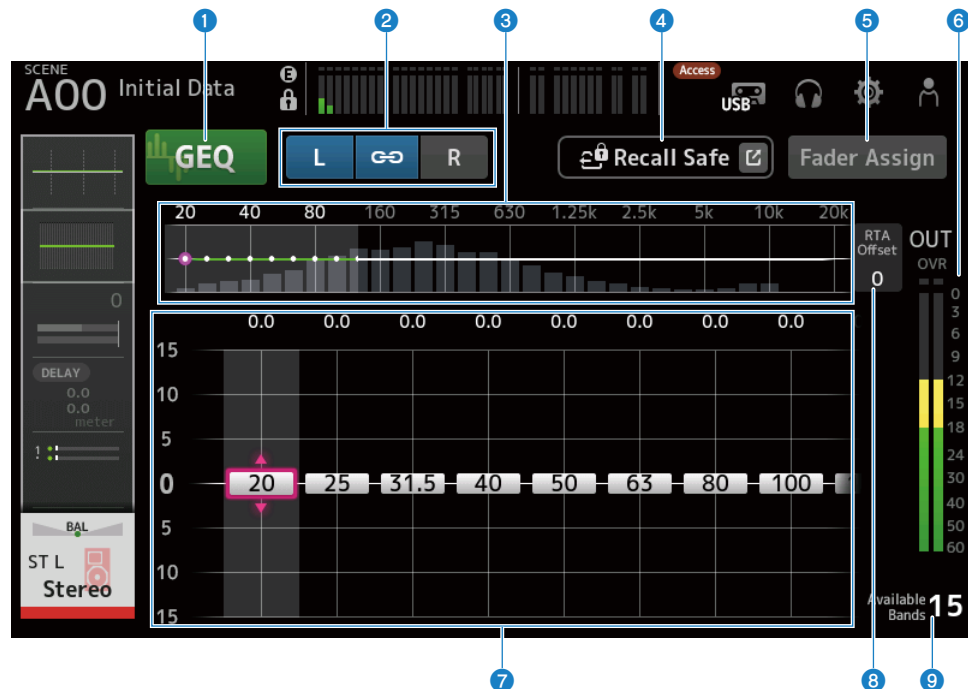
関連リンク

「SOFT KEYBOARD画面」 (50ページ)

GEQ画面

MIX1-6と STEREOチャンネルでは、グラフィックEQ（以下”GEQ”）を使用できます。モノラル仕様の31バンドGEQです。バンド幅は1/3オクターブ刻み、ゲインの可変幅は±15 dBです。

31Band GEQは、31バンドのうち任意の15バンドまでゲインを操作できます。



① GEQボタン

GEQのオン/オフを切り替えます。

② GEQ設定チャンネル/LR Link選択ボタン

シグナルタイプがステレオのMIXチャンネル、またはSTEREOチャンネルを選択した場合は表示されます。

モノラルのMIXチャンネルの場合は表示されません。

・チェーンアイコン：

LR Linkのオン/オフを切り替えます。

・L/R：

選択チャンネルのLとRを切り替えます。

③ 周波数特性、RTA表示、ゲイン操作可能バンド選択

パラメーターの特性/RTAを表示します。

スワイプまたはタッチして、操作するバンドの表示を切り替えます。

Fader Assignがオンのときに、フェーダーで操作するバンドの切り替えもここで行います。

④ Recall Safeボタン

タッチすると、RECALL SAFE画面を表示します。

⑤ Fader Assignボタン

オンにすると、GEQの各バンドをフェーダーで操作できます。

⑥ 出力レベルメーター

GEQの出力レベルを表示します。

⑦ ゲインスライダー

ゲインを上下にドラッグして調整します。

横にスワイプすると、ゲイン操作できるバンドの表示が切り替わります。

スライダーをダブルタッチすると、ゲインの設定が中央 (0.0 dB) に戻ります。

Fader Assignがオンのときに、フェーダーで操作するバンドの切り替えもここで行います。

お知らせ

スライダーがフォーカスされた状態で[TOUCH AND TURN]ノブを押すと、[TOUCH AND TURN]ノブで操作できるパラメーターがスライダー選択とゲイン設定とで切り替わります。

⑧ RTA Offset

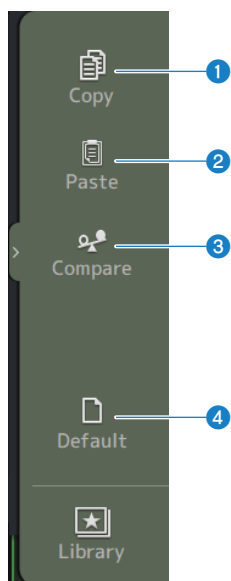
RTAの感度を調節します。タッチするとフォーカスされ、[TOUCH AND TURN]ノブで操作できます。

⑨ 操作可能バンド表示

ゲインを操作できる未使用バンド数を表示します。

■ GEQ画面のメニュー

GEQ画面右端のメニュースワイプインジケータを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。



1 Copy

選択しているチャンネルのGEQのパラメーターをコピーします。

2 Paste

コピーしたGEQのパラメーターを選択しているチャンネルにペーストします。

3 Compare

選択しているチャンネルのGEQのパラメーターと、コピーしたGEQのパラメーターを切り替えて比較します。

4 Default

GEQ全体の設定を初期状態に設定します。

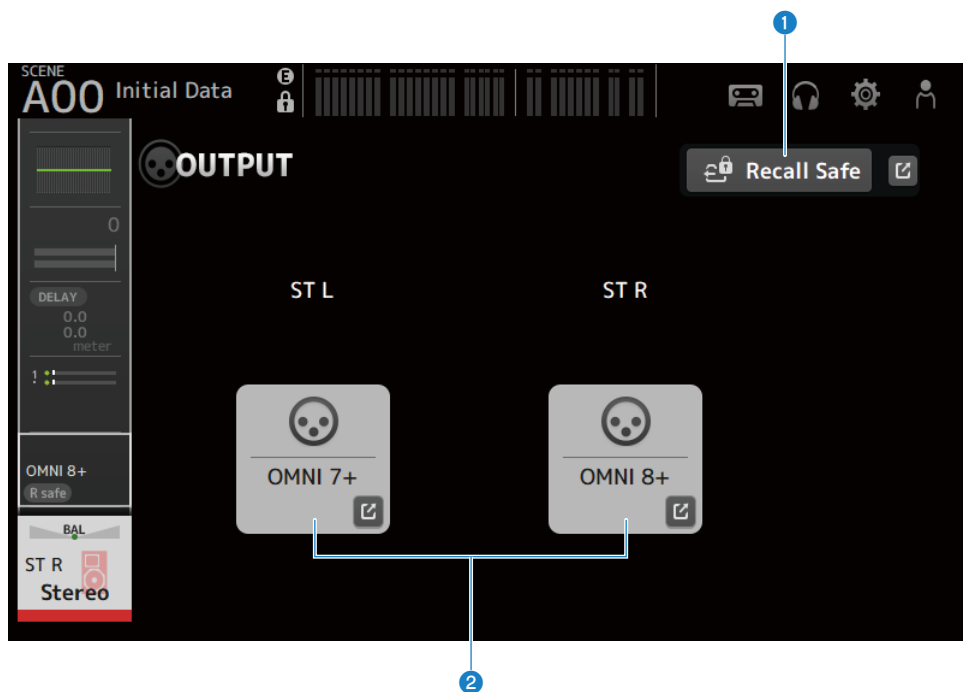
関連リンク

- ・「GEQを使う」 (305ページ)
- ・「フェーダーでGEQを操作する」 (306ページ)

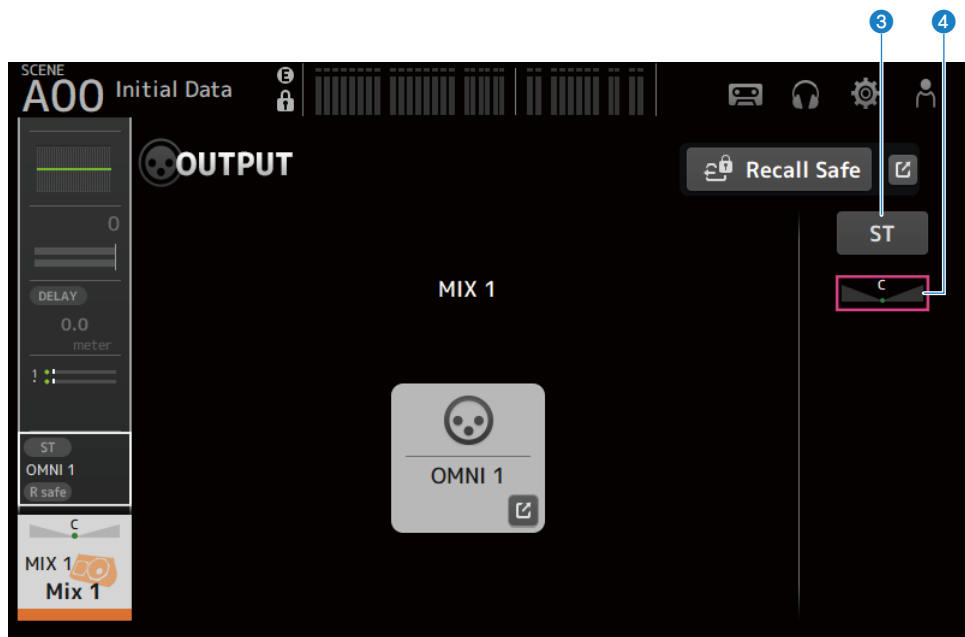
OUTPUT画面

OUTPUT画面では、アウトプットチャンネルの出力に関する設定をします。選択しているアウトプットチャンネルによって、表示するボタンは異なります。

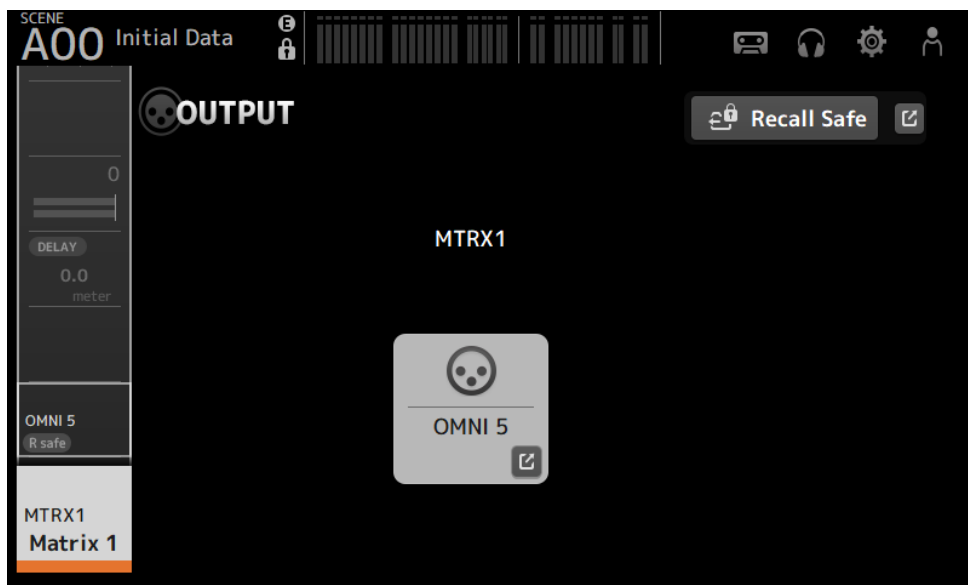
STEREOチャンネルの場合



MIXチャンネルの場合



MATRIXチャンネルの場合



① Recall Safeボタン

タッチするとそのチャンネルのリコールセーフのオン/オフを切り替えます。

Recall Safeボタン右側のジャンプボタンをタッチすると、RECALL SAFE画面を表示します。

② OUTPUT CH PATCHボタン

パッチ先のポートを表示します。

2つめ以降のポートは「+」で表示します。

タッチすると、OUTPUT CH PATCH画面を表示します。

③ STEREO ONボタン

STEREOチャンネルへの送りのオン/オフを切り替えます。

④ PAN/BALスライダー

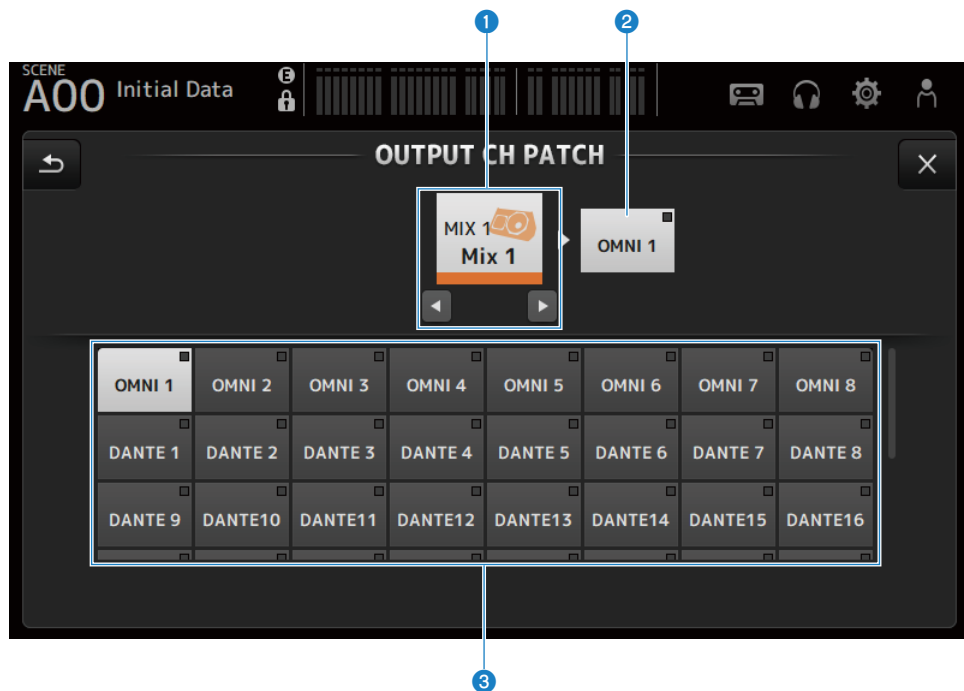
送り先のSTEREOチャンネルの左右のバランスを調節します。

関連リンク

- 「RECALL SAFE画面」 (113ページ)
- 「OUTPUT CH PATCH画面」 (233ページ)

OUTPUT CH PATCH画面

OUTPUT CH PATCH画面は、アウトプットチャンネルにパッチするポートを設定する画面です。



1 チャンネルネーム

選択中のチャンネル名が表示されます。左右ボタンで選択チャンネルをアップ/ダウンできます。

2 パッチ先ポートネーム

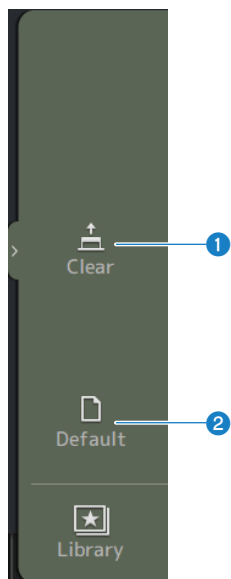
チャンネルからパッチされているポート名が表示されます。

3 ポート選択ボタン

チャンネルからパッチするポートを選択します。

■ OUTPUT CH PATCH画面のメニュー

OUTPUT CH PATCH画面右端のメニュースワイプインジケータを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。



① Clear

すべてのパッチを、一括で解除（Noneに設定）します。

② Default

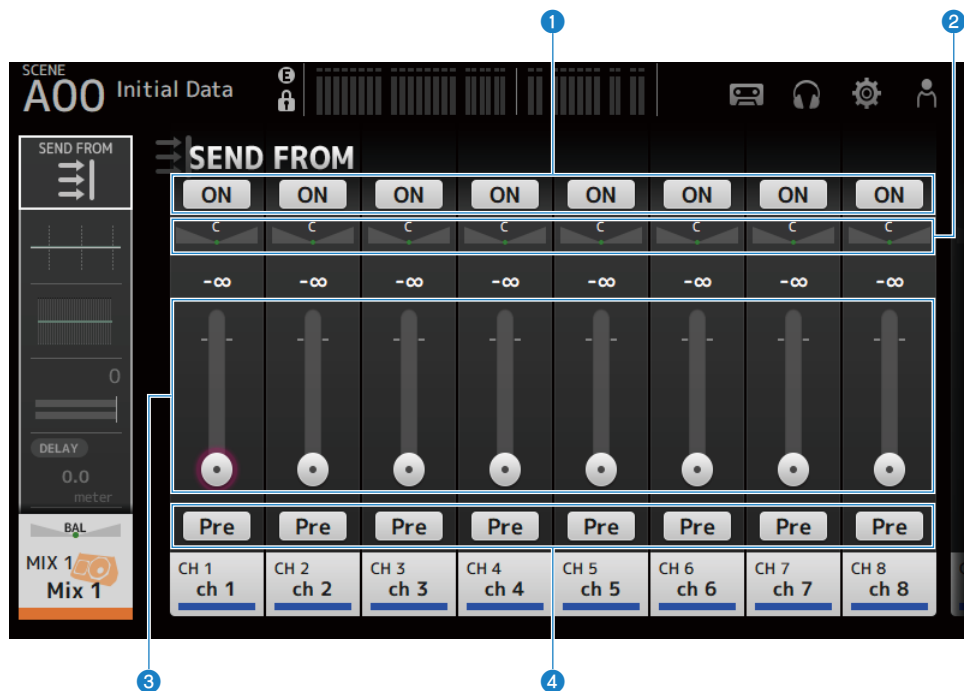
選択チャンネルのパッチを、初期状態に設定します。

関連リンク

「入出力パッチの初期値」 (364ページ)

SEND FROM画面

SEND FROM画面は、各チャンネルからの送りを設定します。



1 ONボタン

各チャンネルからの送りのオン/オフを切り替えます。

2 SEND PANスライダー

各チャンネルからのセンドパンを操作します。

MIX1-6、MATRIX1-2では、Signal TypeがSTEREOのときだけ表示されます。

FX1-2では表示されません。

3 SEND LEVELスライダー

各チャンネルからのセンドレベルを操作します。

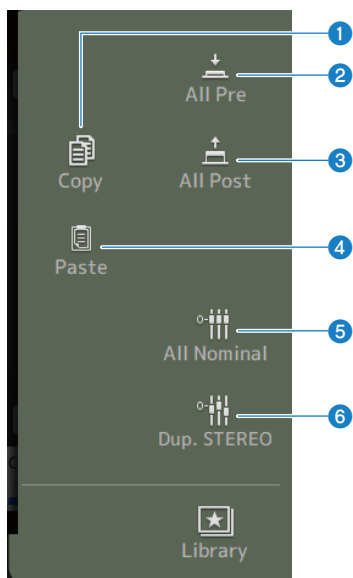
4 Preボタン

各チャンネルから送る信号をフェーダーの前後のどちらから送るかを選択します。

- **オン:**
フェーダーの前
- **オフ:**
フェーダーの後

■ SEND FROM画面のメニュー

SEND FROM画面右端のメニュースワイプインジケータを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。



1 Copy

選択しているMIX/MATRIX/FX BUSへの送レベルをコピーします。

2 All Pre

すべてのPreボタンをオンにします。

3 All Post

すべてのPreボタンをオフにします。

4 Paste

コピーした送レベルを選択しているMIX/MATRIXチャンネルにペーストします。

5 All Nominal

すべてのセンドレベルをノミナル (0.00 dB) に設定します。

6 Dup.STEREO

各チャンネルのフェーダーレベルをセンドレベルにコピーします。

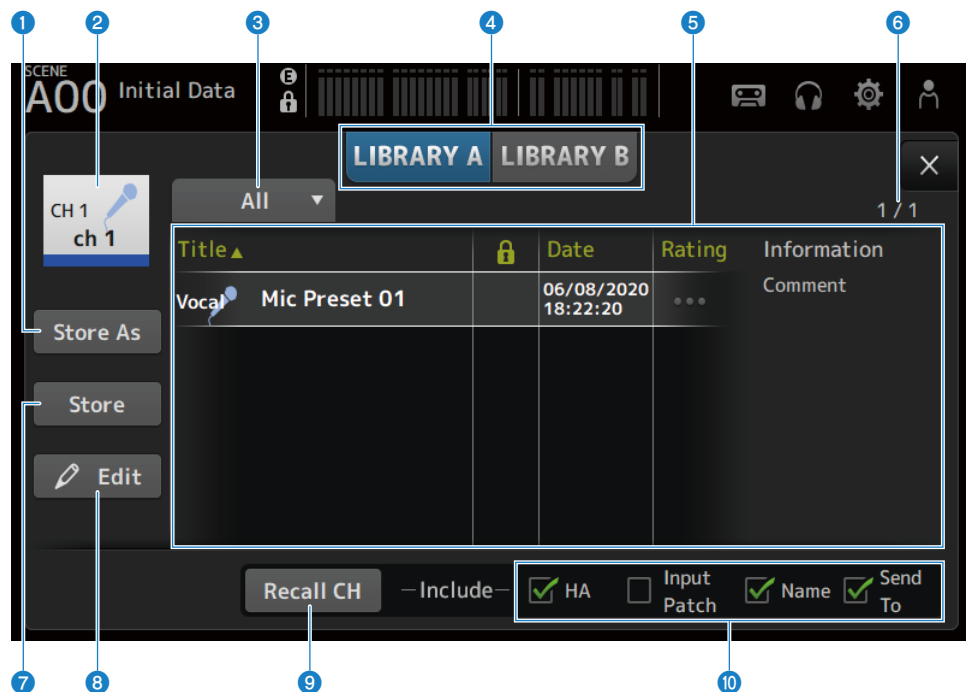
ライブラリー画面

ライブラリー画面は、保存されているプリセットを呼び出します。

プリセットには、特定のマイクやスピーカーなど各ソースに適したチャンネルの設定が保存されています。

プリセットを呼び出して大まかな設定ができた状態から各チャンネルの音作りを始めると、効率よい作業ができます。また、自身でよく使う設定を保存しておくこともできます。

ライブラリー画面は、メニューのライブラリーボタンをタッチしたときに表示されます。



① Store Asボタン

現在のチャンネルの設定を、新規プリセットとして保存します。

タッチすると、プリセット名を入力する画面を表示します（SOFT KEYBOARD画面）。

② チャンネル名表示

チャンネル名情報を表示します。

③ カテゴリー選択ボタン

タッチすると、カテゴリーの選択肢を表示します。

選択したカテゴリーのプリセットをリストに表示します。

4 ライブラリー切り替えボタン

操作の対象にするライブラリーを切り替えます。選択したライブラリーに保存されたプリセットをリストに表示します。

- **LIBRARY A:**

ライブラリーAに保存されたプリセットを表示します。

- **LIBRARY B:**

ライブラリーBに保存されたプリセットを表示します。

5 リスト

リストの項目名をタッチすると、タッチした項目の内容でソートします（Informationを除く）。

プリセットをタッチすると選択できます。選択したプリセットはハイライト表示になり、保存、呼び出し、編集の対象になります。

鍵アイコンの欄をタッチすると、鍵アイコンが付いたり消えたりします。鍵アイコンを付けると、上書きを禁止できます。

Date欄には、最後に保存した日時を表示します。

Ratingの欄をタッチすると、星アイコンの数が変わります。お気に入りほど星の数を多くつけることで、星の数を目安にプリセットをソートすることができます。

6 プリセット数表示

プリセット数を表示します。分母がプリセットの全数、分子がカテゴリー選択ボタンで選択したカテゴリーのプリセット数です。

7 Storeボタン

リストで選択しているプリセットに現在のチャンネルの設定を上書き保存します。

8 Editボタン

タッチすると、タイトルとコメントを編集する画面を表示します（SOFT KEYBOARD画面）。

9 Recall CHボタン

選択中のチャンネルにプリセットをリコールします。

お知らせ

チャンネル専用画面のメニューからライブラリー画面を開くと、ライブラリー画面に下記のボタンが追加で表示されます。

- **Recall EQボタン:**
EQ画面から呼び出したときに表示され、EQの設定のみリコールできます。
- **Recall DYN1ボタン:**
DYN1画面から呼び出したときに表示され、DYN1の設定のみリコールできます。
- **Recall DYN2ボタン:**
DYN2画面から呼び出したときに表示され、DYN2の設定のみリコールできます。
- **Recall FXボタン:**
FX画面から呼び出したときに表示され、エフェクトの設定のみリコールできます。
- **Recall GEQボタン:**
GEQ画面から呼び出したときに表示され、GEQの設定のみリコールできます。

⑩ リコール対象選択

チェックボックスがオンになっているパラメーターはリコールの対象になります。

CH1-16、ST IN、FX RTN

- **HA:**
アナログゲイン/デジタルゲインの設定、ファンタム電源のオン/オフ、フェイズの設定
- **INPUT Patch:**
入力ソースの設定
- **Name:**
チャンネル名、アイコン、チャンネルカラー
- **Send To:**
センドレベル、センドオン、センドパン

MIX1-6、STEREOチャンネル

- **GEQ:**
GEQの設定
- **Name:**
チャンネル名、アイコン、チャンネルカラー

FX BUS1-2

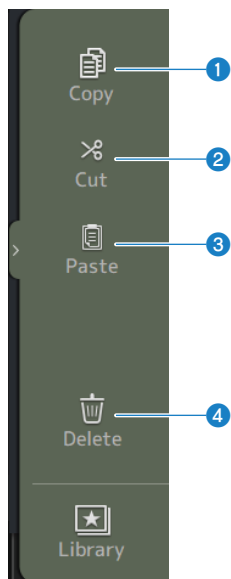
- **FX:**
エフェクトの設定
- **Name:**
チャンネル名、アイコン、チャンネルカラー

MATRIXチャンネル

- **Name:**
チャンネル名、アイコン、チャンネルカラー

■ ライブラリー画面のメニュー

LIBRARY画面右端のメニースワイプインジケーターを左にスワイプすると、以下のメニューが表示されます。



1 Copy

選択しているプリセットをコピーします。

2 Cut

選択しているプリセットを切り取ります。

3 Paste

表示しているリストに、コピーや切り取りしたプリセットをペーストします。

4 Delete

選択しているプリセットを削除します。

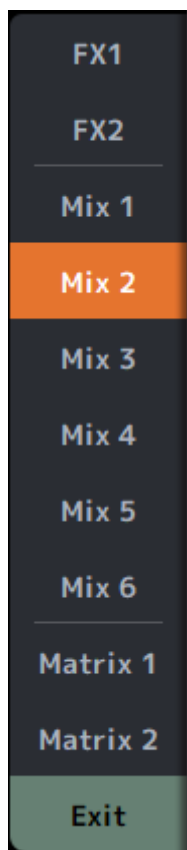
関連リンク

- ・「プリセットをリコールする」 (309ページ)
- ・「プリセットを編集する」 (310ページ)

その他の固定表示エリア

SENDS ON FADERエリア

SENDS ON FADERエリアを使用すると、パネル上の各チャンネルストリップを、一時的に特定のバスへのセンドレベルやセンドのオン/オフのコントロールへと切り替えできます。



SENDS ON FADERボタン

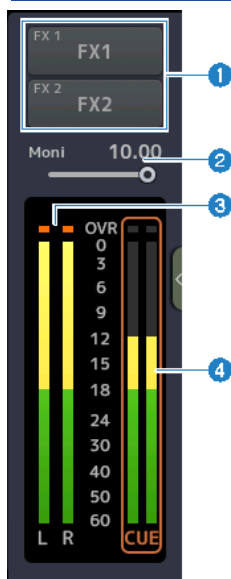
選択したバスへのSENDS ON FADERモードになります。選択中のボタンがハイライト表示になります。もう一度押すと、選択したバスのCUEがオンになります。通常モードに戻るには、Exitを押します。

その他の固定表示エリア > SENDS ON FADERエリア

関連リンク

「MIX/MATRIX BUSへの送り量を設定する」 (300ページ)

ADMINエリア



① FXボタン

タッチするとメインエリアに対応するFX画面が表示されます。
もう一度タッチすると、FX画面が閉じます。

② MONITORレベルスライダー

タッチするとピンク色にフォーカスされます。[TOUCH AND TURN]ノブでレベルを調節します。

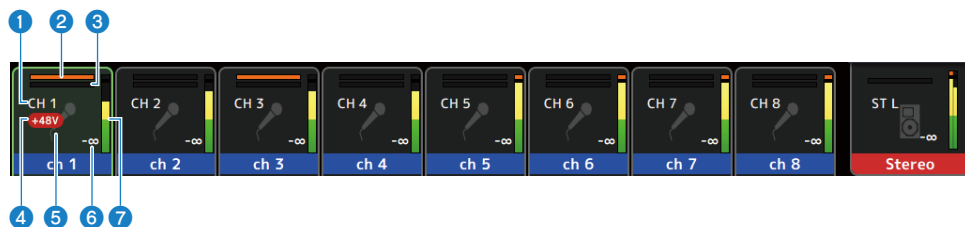
③ STEREOメーター

STEREOチャンネルのレベルを表示します。

④ CUEメーター

CUEアクティブ時にCUEのレベルを表示します。CUEメーターをタッチすると、CUEをクリアします。

CHANNEL NAMEエリア



1 チャンネルID

チャンネルIDを表示します。

2 GATEゲインリダクションインジケータ

チャンネルのGATE/DUCKINGがONの場合に、ゲインリダクション量を表示します。

3 COMPゲインリダクションインジケータ

チャンネルのCOMPがONの場合に、ゲインリダクション量を表示します。

4 +48Vインジケータ

チャンネルに入力されているHAの+48VがONの場合に表示します。

5 チャンネルアイコン

チャンネルのアイコンを背景に表示します。

6 フェーダー値

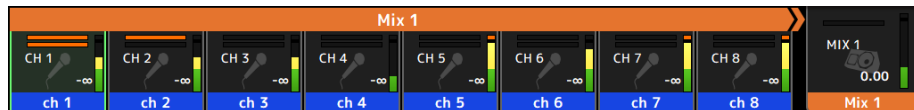
フェーダー値を表示します。

7 レベルメーター

チャンネルのレベルメーターを表示します。ステレオチャンネル（ST IN、FX RTN、STEREO）の場合はL/Rそれぞれ表示します。

SENDS ON FADERモードの場合

送り先のバスのチャンネル名前を上部に表示します。

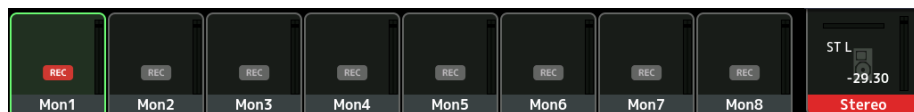


GEQ ON FADERモードの場合

周波数と設定値を8周波数単位で表示します。



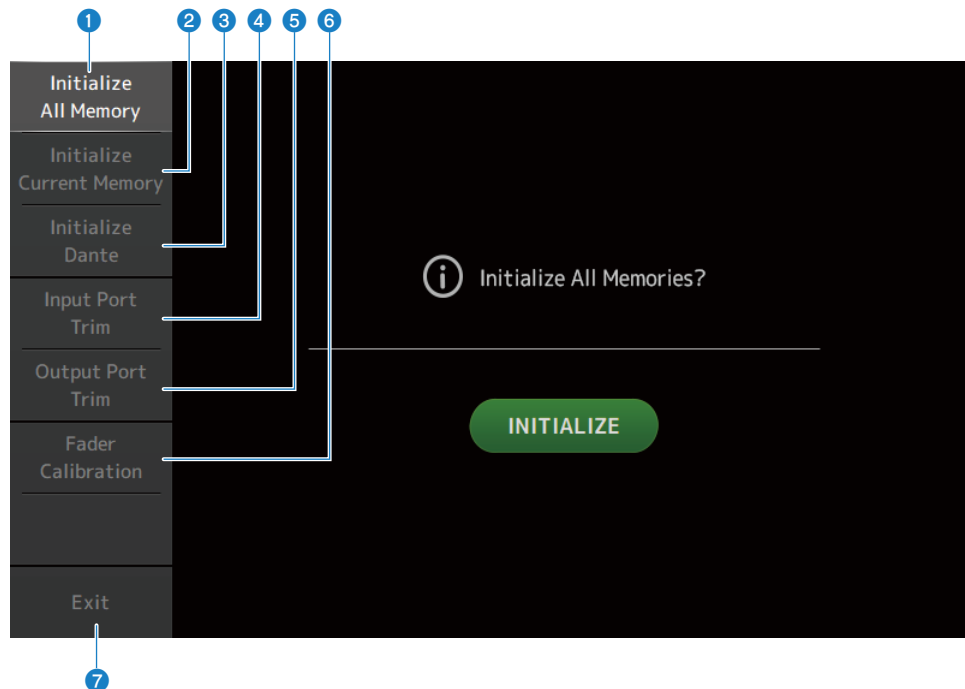
DAW REMOTEの場合



メンテナンス画面

メンテナンス画面について

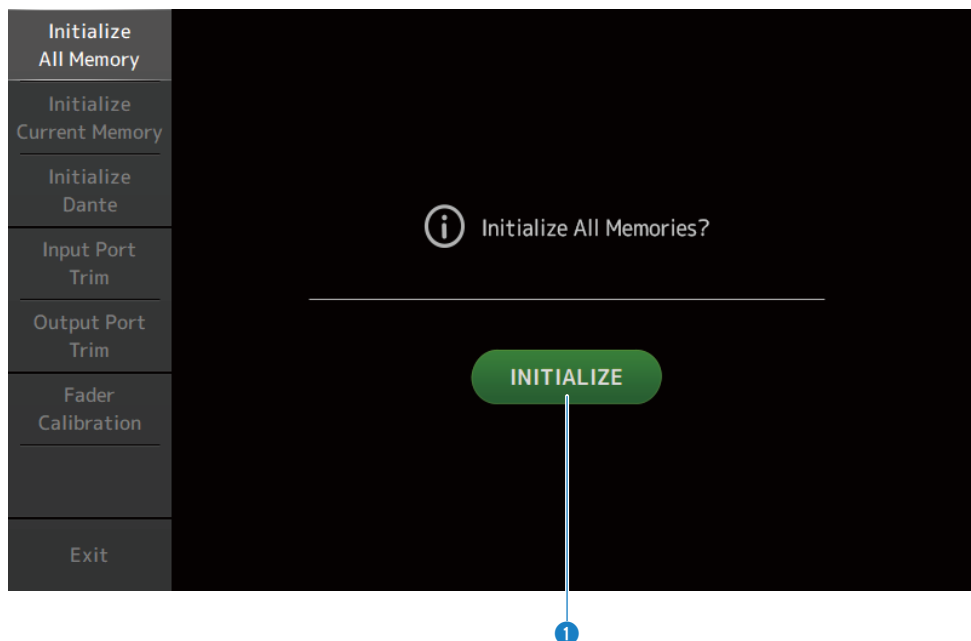
DM3シリーズのメンテナンスを行う画面です。メンテナンス画面を表示するには、[HOME]キーを押しながら電源を入れます。



- 1 Initialize All Memory画面を表示します。(249ページ)
- 2 Initialize Current Memory画面を表示します。(251ページ)
- 3 Initialize Dante画面を表示します。(252ページ)
- 4 Input Port Trim画面を表示します。(253ページ)
- 5 Output Port Trim画面を表示します。(254ページ)
- 6 Fader Calibration画面を表示します。(255ページ)
- 7 メンテナンス画面を閉じます。

Initialize All Memory画面

Initialize All Memory画面では、シーンメモリーやライブラリーを含む、すべてのメモリーを工場出荷時の状態に戻します。



① INITIALIZEボタン

内蔵メモリーを初期化します。

初期化されるデータは、シーンすべて、プリセットすべて、ミキシングデータ、セットアップデータです。

タッチすると、実行を確認する画面を表示します。OKボタンをタッチすると、初期化を実行します。

初期化が終わるまでボタンをタッチしないでください。

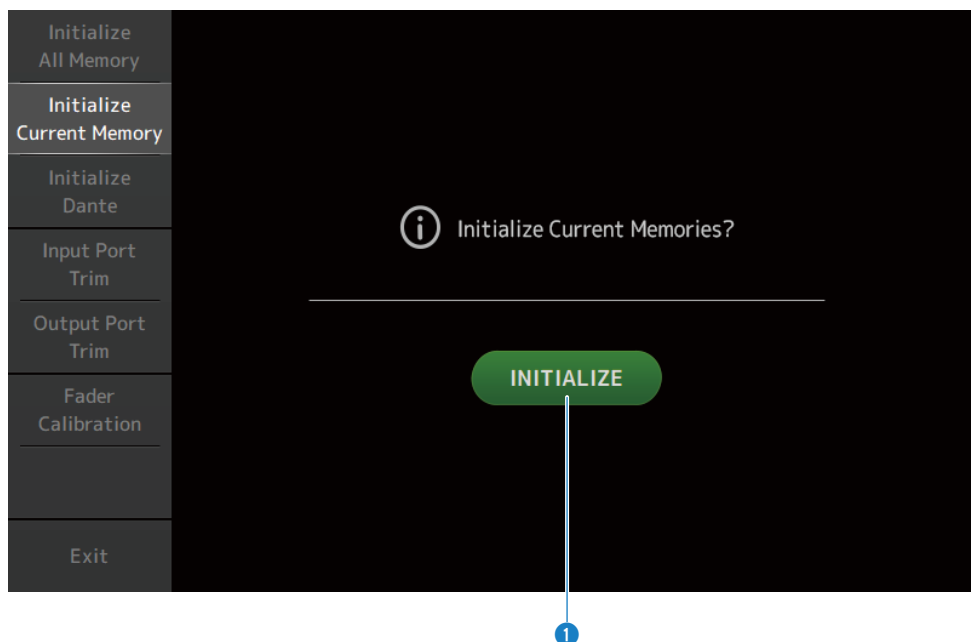
初期化が完了したあとは、Exitボタンをタッチせずに、引き続きほかのメニューを選択することもできます。

お知らせ

- 内蔵メモリーを初期化すると、それまでメモリー内に保存されていた内容が失われますので、慎重に操作してください。
- Network設定も初期化されます。
- Danteモジュールも初期化されます（DM3のみ）。
- 内蔵時計は初期化をしても保持されます。
- Dante機器を接続している場合は、接続されているDante機器との再設定のため、一度電源を入れなおすことをおすすめします。

Initialize Current Memory画面

Initialize Current Memory画面では、シーンメモリーやライブラリーを除くカレントメモリーを工場出荷時の状態に戻します。



① INITIALIZEボタン

カレントメモリーを初期化します。

初期化されるデータは、ミキシングデータとセットアップデータです。

タッチすると、実行を確認する画面を表示します。OKボタンをタッチすると、初期化を実行します。

初期化が終わるまでボタンをタッチしないでください。

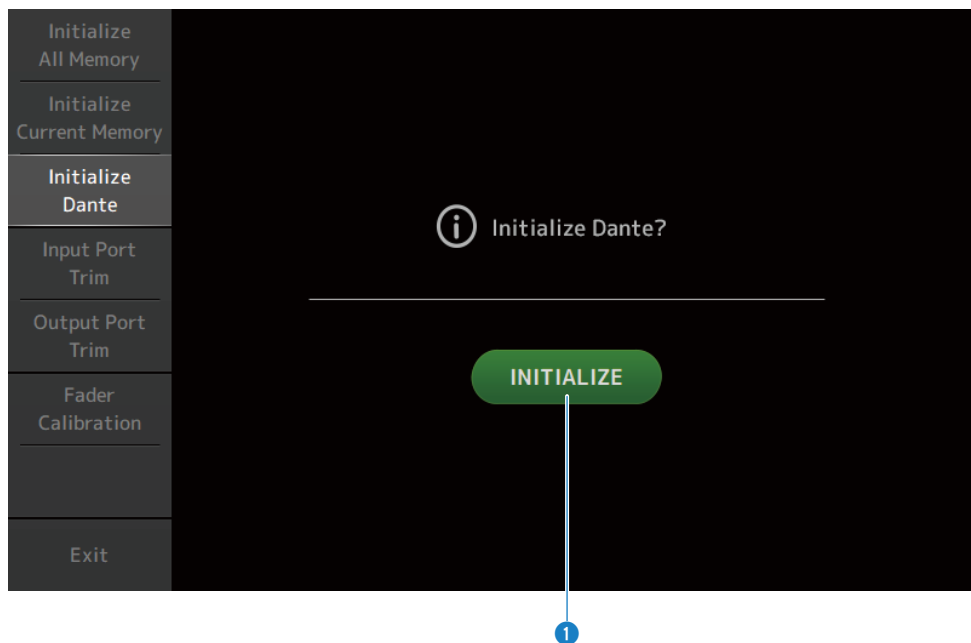
初期化が完了したあとは、Exitボタンをタッチせずに、引き続きほかのメニューを選択することもできます。

お知らせ

カレントメモリーを初期化すると、それまでカレントメモリー内に保存されていた内容が失われますので、慎重に操作してください。

Initialize Dante画面 (DM3のみ)

Initialize Dante画面では、DM3本体のDanteモジュールの設定を初期化します。



① INITIALIZEボタン

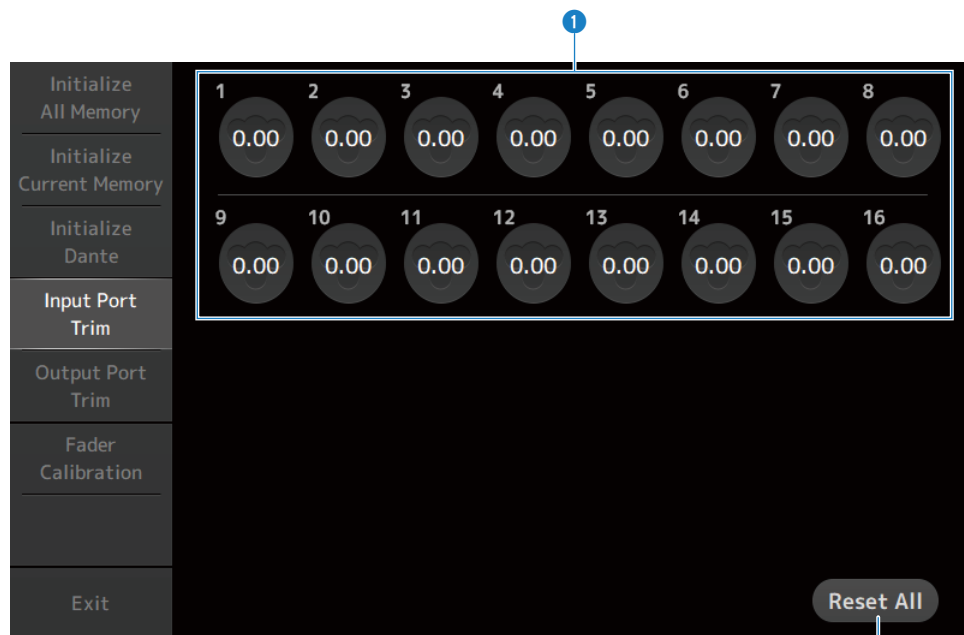
DM3本体のDanteモジュールの設定を初期化します。初期化のあとは、接続されているDante機器との再設定のため、一度DM3本体の電源を入れなおすことをおすすめします。

お知らせ

- Dante Device Lockがかかっても初期化されます。この場合、Dante Device Lockは初期化後に解除されます。
- Dante Domain Managerのドメイン登録が解除されます。
- Receive/TransmitのDante Channel LabelにDM3の入出力チャンネルに対応したラベルが書き込まれます。

Input Port Trim画面

Input Port Trim画面では、指定した入力端子のゲインを0.01 dB単位で微調整します。



① アナログ入力ゲインボタン

調整する入力端子を選択します。

入力端子を選択し、[TOUCH AND TURN]ノブを回すと、値を調整できます。

調整後は、通常モードで起動してください。

② Reset Allボタン

すべて0 dBになります。工場出荷時も0 dBです。

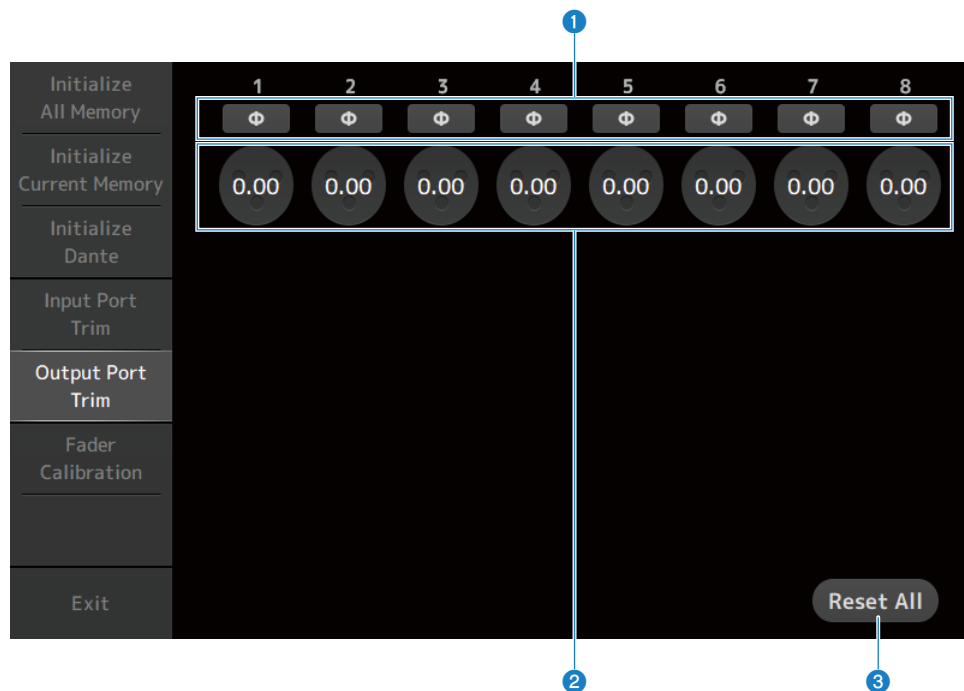
タッチすると、実行を確認する画面を表示します。OKボタンをタッチすると、リセットします。

お知らせ

リセットしたあとは、Exitボタンをタッチせずに、続けて他のメニューを選択できます。

Output Port Trim画面

Output Port Trim画面では、指定したOMNI OUT端子のゲインを0.01 dB単位で微調整します。



① OMNI OUTフェイズボタン

OMNI OUT端子の位相の向きを切り替えます。

② OMNI OUTゲインボタン

調整するOMNI OUT端子を選択します。

OMNI OUT端子を選択し、[TOUCH AND TURN]ノブを回すと、値を調整できます。調整後は、通常モードで起動してください。

③ Reset Allボタン

すべて0 dBになります。工場出荷時も0 dBです。

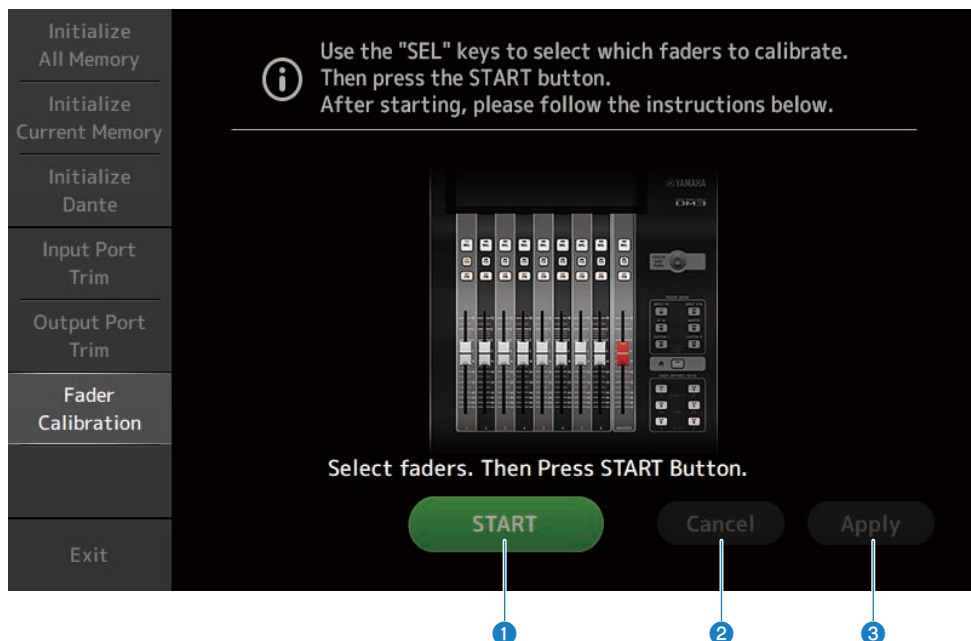
タッチすると、実行を確認する画面を表示します。OKボタンをタッチすると、リセットします。

お知らせ

リセットしたあとは、Exitボタンをタッチせずに、続けて他のメニューを選択できます。

Fader Calibration画面

使用環境によっては、モーターフェーダーの挙動にずれが生じる場合があります。Fader Calibration画面では、この挙動のずれを調整できます。



① STARTボタン

調整を実行します。

タッチすると、実行を確認する画面を表示します。OKボタンをタッチすると、調整を実行します。

② Cancelボタン

調整を中止します。

③ Applyボタン

調整を反映し、終了します。

関連リンク

- ・「フェーダーを調整する」 (312ページ)
- ・「再調整が必要なフェーダーが見つかった場合の対処方法」 (314ページ)

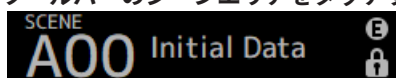
画面の操作

SCENE画面

シーンを保存する

現在のセッティングをシーンとして保存します。

- 1 ツールバーのシーンエリアをタッチする

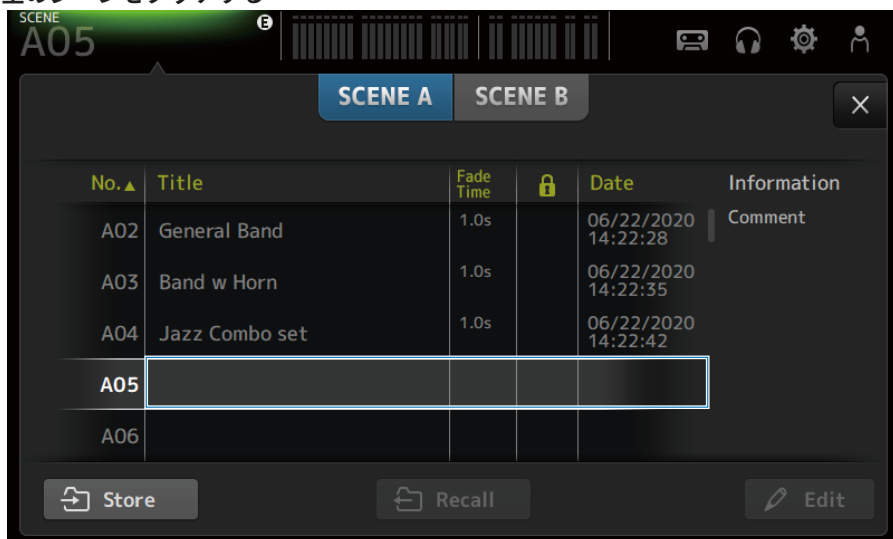


- 2 シーンリスト切り替えボタンをタッチして、シーンを保存するシーンリストを選択する

シーンリストが表示されます。



- 3 空のシーンをタッチする



- 4 Storeボタンをタッチする

タイトル、コメント、フェードタイムを編集する画面を表示します。
目的の項目を編集してください。

- 5 OKボタンをタッチする

現在のセッティングが新しいシーンとして保存されます。

画面の操作 > SCENE画面

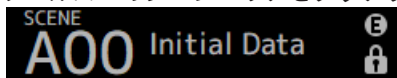
関連リンク

[「SCENE画面」 \(57ページ\)](#)

シーンを呼び出す

シーンに保存されているミキサーの設定をリコールします。

1 ツールバーのシーンエリアをタッチする



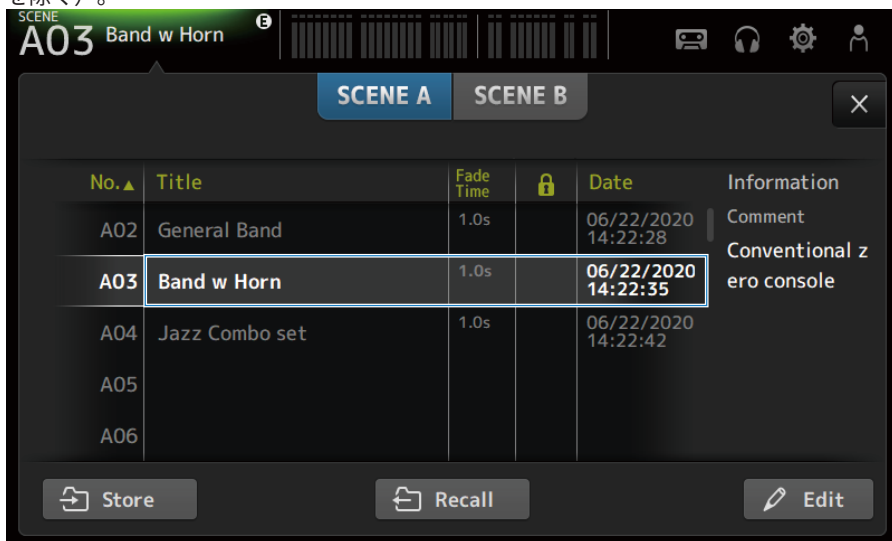
2 シーンリスト切り替えボタンをタッチして、目的のシーンを保存しているシーンリストを選択する



3 目的のシーンをタッチして選択する

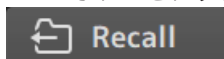
選択したシーンはハイライト表示になります。

リストの項目名をタッチすると、タッチした項目の内容でソートします（Informationを除く）。

A screenshot of the SCENE A03 interface. At the top, it says 'SCENE A03 Band w Horn'. Below this is a list of scenes with columns for 'No.', 'Title', 'Fade Time', a lock icon, 'Date', and 'Information'. The 'A03 Band w Horn' row is highlighted. At the bottom, there are three buttons: 'Store', 'Recall', and 'Edit'.

No.▲	Title	Fade Time	🔒	Date	Information
A02	General Band	1.0s		06/22/2020 14:22:28	Comment
A03	Band w Horn	1.0s		06/22/2020 14:22:35	Conventional z ero console
A04	Jazz Combo set	1.0s		06/22/2020 14:22:42	
A05					
A06					

4 Recallボタンをタッチする



シーンに保存されているミキサーの設定をリコールします。

リコールしたシーン名は、画面の左上に表示されます。

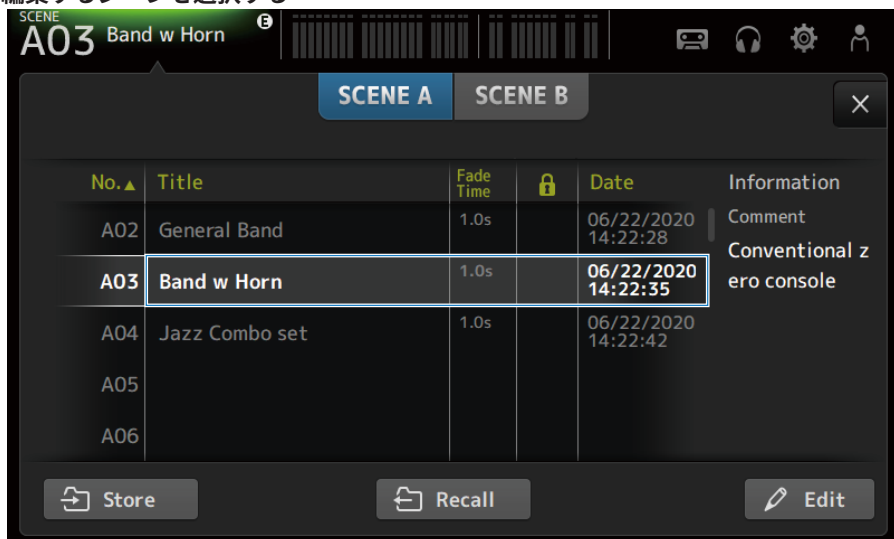
関連リンク

「SCENE画面」 (57ページ)

シーンを編集する

保存されているシーンの名前、コメント、フェードタイムを編集します。

1 編集するシーンを選択する



2 Editボタンをタッチする

タイトル、コメント、フェードタイムを編集する画面を表示します。
目的の項目を編集してください。

3 OKボタンをタッチする

シーンリストで選択しているシーンに上書き保存します。

関連リンク

「SCENE EDIT画面」 (60ページ)

シーンのフェードタイムを設定する

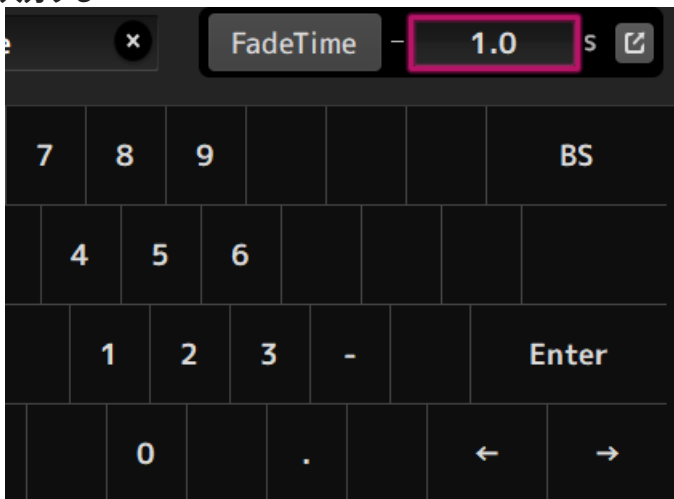
保存されているシーンのフェードタイムを編集します。

シーンが切り替わるとき、音量の設定変更にかける時間を設定できます。

- 1 フェードタイムを設定するシーンを選択する
- 2 Editボタンをタッチする
タイトル、コメント、フェードタイムを編集する画面を表示します。
- 3 フェードタイムをオンにするには、Fade Timeボタンをタッチして、オフにするにはもう一度タッチする



- 4 フェードタイムを設定するには、フェードタイム表示をタッチして、キーボードで入力する

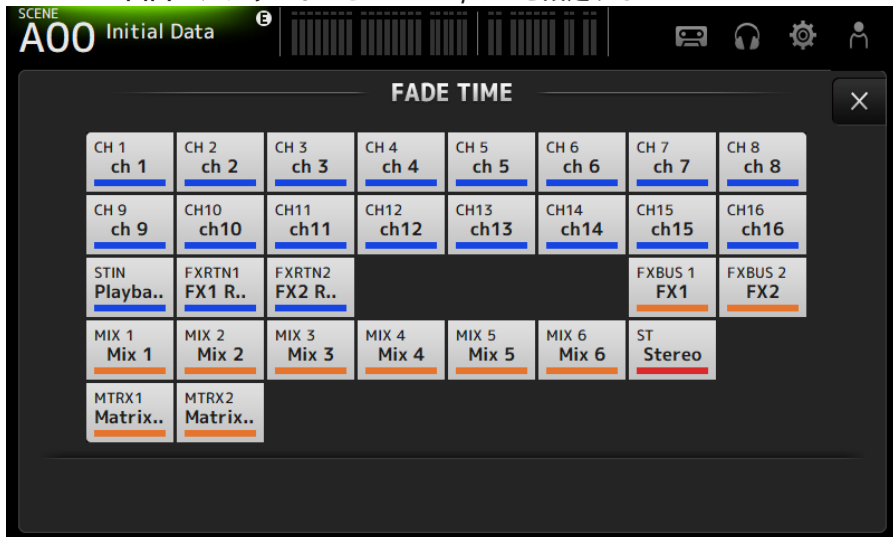


[TOUCH AND TURN]ノブで設定することもできます。

- 5 チャンネルごとにフェードタイムのオン/オフを設定するには、右端のボタンをタッチする

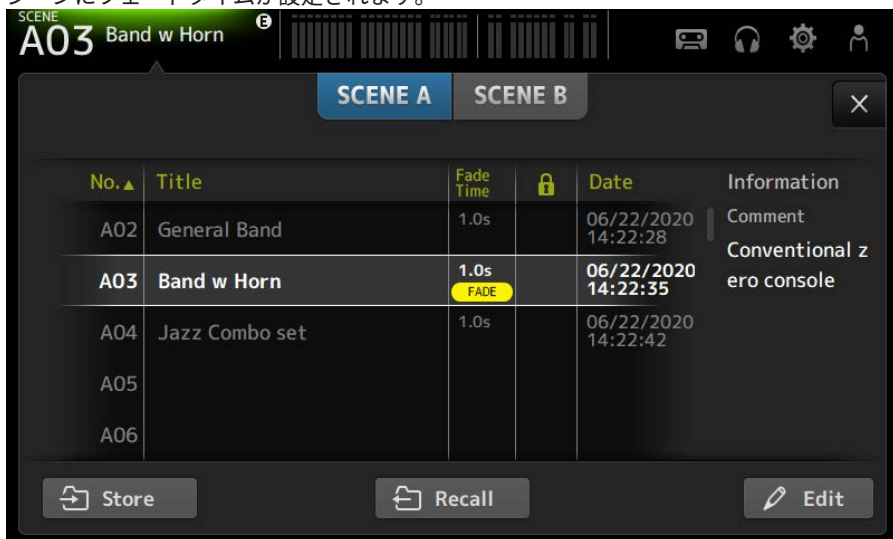


6 FADE TIME画面で、チャンネルごとにオン/オフを設定する



7 OKボタンをタッチする

シーンにフェードタイムが設定されます。



お知らせ

- フェード効果を途中で停止するには、対応する[SEL]キーを押しながら移動中のフェーダーを止めます。
- フェード効果を待たずに完了するには、フェーダー移動中に同じシーンをリコールします。

関連リンク

「FADE TIME画面」 (61ページ)

RECORDER画面

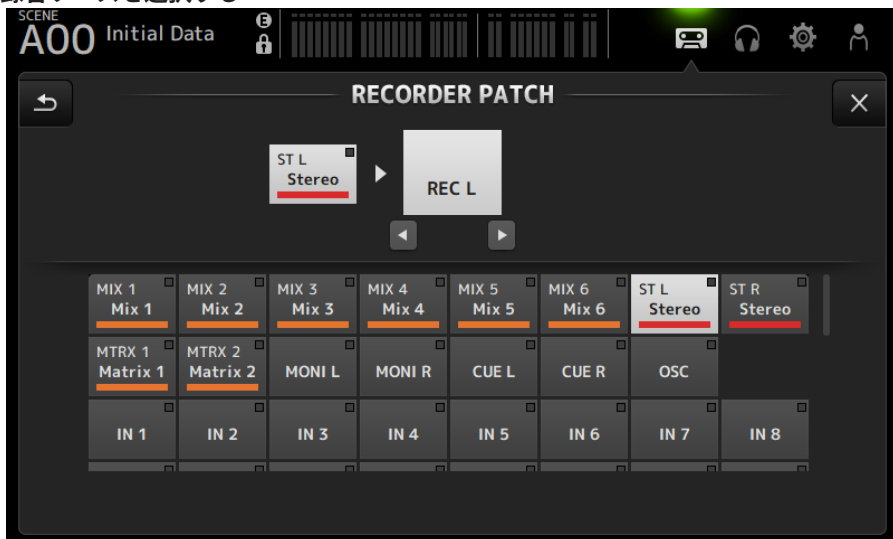
録音の入力を設定する

USBストレージデバイスに録音する録音ソースを設定します。

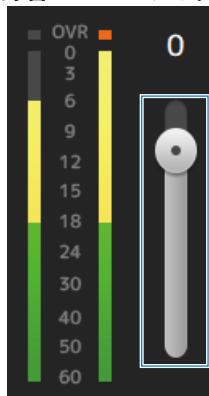
- 1 録音ソース選択ボタンをタッチし、RECORDER PATCH画面を表示する



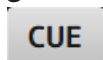
- 2 録音ソースを選択する



3 録音レベルスライダーをドラッグして、録音レベルを設定する



4 録音ソースをモニターして確認するときは、録音CUEボタンをタッチしてオンにする



関連リンク

- 「RECORDER (INPUT/OUTPUT) 画面」 (72ページ)
- 「RECORDER PATCH画面」 (74ページ)

録音する

USB端子に接続したUSBストレージデバイスに2MIXソースを録音します。

- 1 USBストレージデバイスをUSB端子に接続する**
- 2 録音ボタンをタッチする**
録音ボタンが点滅して、録音待機状態になります。
- 3 録音開始のタイミングになったら、再生/一時停止ボタンをタッチする**
録音中は、録音ボタンが点灯します。
再生/一時停止ボタンで、録音の中断/再開ができます。
- 4 録音終了のタイミングになったら、停止ボタンをタッチする**
ファイル名は内蔵時計の日時から自動生成されます。
- 5 必要に応じてファイル名編集ボタンを押して、ファイル名を変更する**

関連リンク

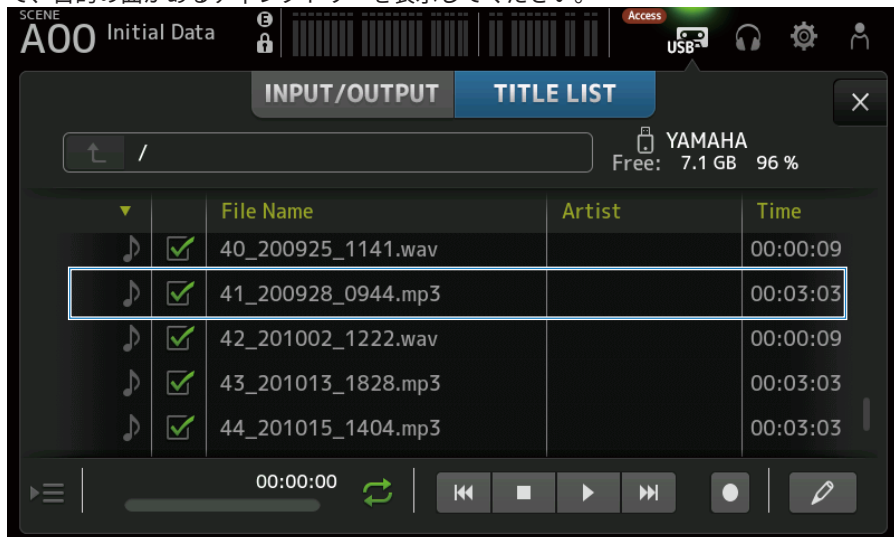
- ・「RECORDER (TITLE LIST) 画面」 (67ページ)
- ・「RECORDER (INPUT/OUTPUT) 画面」 (72ページ)
- ・「PLAYBACK PATCH画面」 (75ページ)

USBストレージの再生

USB端子に接続したUSBストレージデバイスの曲ファイルを再生します。

1 曲名リストの再生する曲をタッチする

異なるディレクトリーの曲を再生する場合は、ディレクトリー移動ボタンをタッチして、目的の曲があるディレクトリーを表示してください。



2 プレイモード設定ボタンをタッチして、プレイモードを選択する

3 再生ボタンをタッチする

再生を開始します。

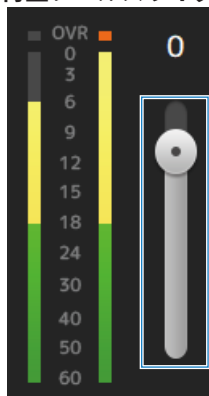
関連リンク

- ・「RECORDER (TITLE LIST) 画面」 (67ページ)
- ・「RECORDER (INPUT/OUTPUT) 画面」 (72ページ)
- ・「PLAYBACK PATCH画面」 (75ページ)

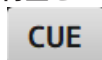
再生の出力を設定する

USBストレージデバイスの再生の出力を確認します。

1 再生レベルスライダーをドラッグして、再生レベルを設定する



2 再生をモニターして確認するときは、再生CUEボタンをタッチしてオンにする



関連リンク

「RECORDER (INPUT/OUTPUT) 画面」 (72ページ)

MONITOR画面

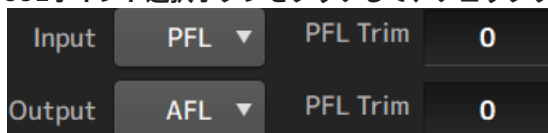
CUEの音声をチェックする

CUEの音声入力を設定します。

- 1 CUE Mode選択ボタンをタッチして、CUE Modeを選択する



- 2 CUEポイント選択ボタンをタッチして、チェックする位置を選択する



- 3 PFL Trim設定テキストボックスをタッチして、CUEモニターの音量を設定する

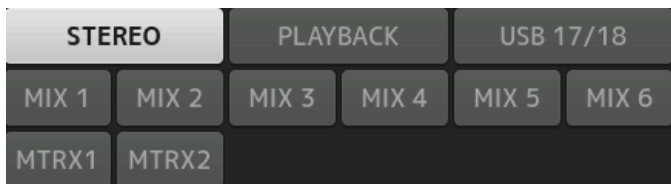
関連リンク

「MONITOR (CUE/MONITOR) 画面」 (77ページ)

MONITORの音声をチェックする

MONITORの音声入力を設定します。

1 モニター選択ボタンをタッチして、モニターソースを選択する



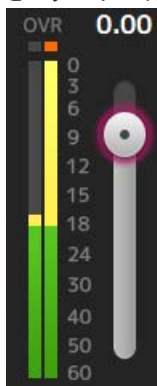
2 Cue Interruptionを選択する

Cue Interruptionボタンをオンにすると、モニターの出力にCUEが割込みます。

3 モニターアウトプットボタンをタッチして、モニター出力のオン/オフを切り替える



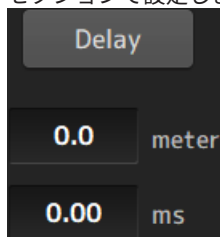
4 モニターレベルスライダーをドラッグしてモニターレベルを調節する



5 デレイ間隔を設定する

デレイ設定テキストボックスをタッチすると、デレイの値を入力する画面を表示します。

sample（サンプル）、frame（フレーム）、meter（メートル）、feet（フィート）、またはms（ミリ秒）で指定できます。フレームレートは、PREFERENCE画面のOthersセクションで設定します。



6 Delayボタンをタッチする

デレイが有効になります。



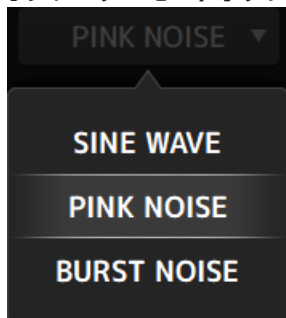
関連リンク

「MONITOR（CUE/MONITOR）画面」（77ページ）

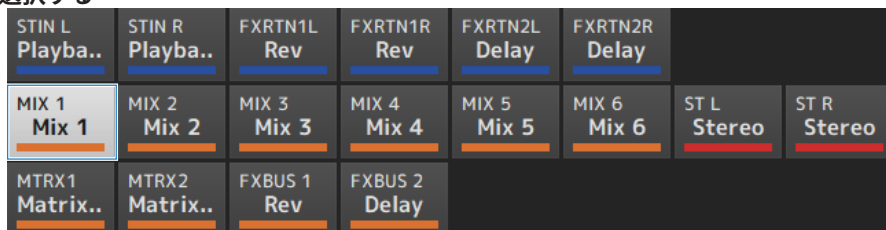
オシレーターを設定する

オシレーターの出力を設定します。

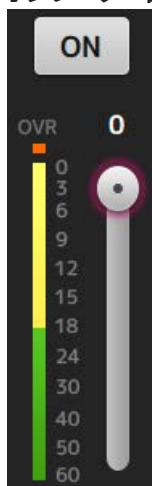
- 1 オシレーターモードボタンをタッチして、動作モードを選択する



- 2 オシレーターアサインボタンをタッチして、オシレーター信号を送るチャンネルを選択する



- 3 オシレーター出力ボタンをタッチして、オシレーターの出力をオンにする



4 オシレーター出力レベルメーターで出力レベルを確認し、オシレーターレベルスライダーをドラッグして、出力レベルを調節する

お知らせ

- オシレーターモードがSINE WAVEのときは、オシレーターの周波数も調節できます。
- オシレーターモードがBURST NOISEのときは、ノイズのオンの長さ (Width) とオフの長さ (Interval) も調節できます。

関連リンク

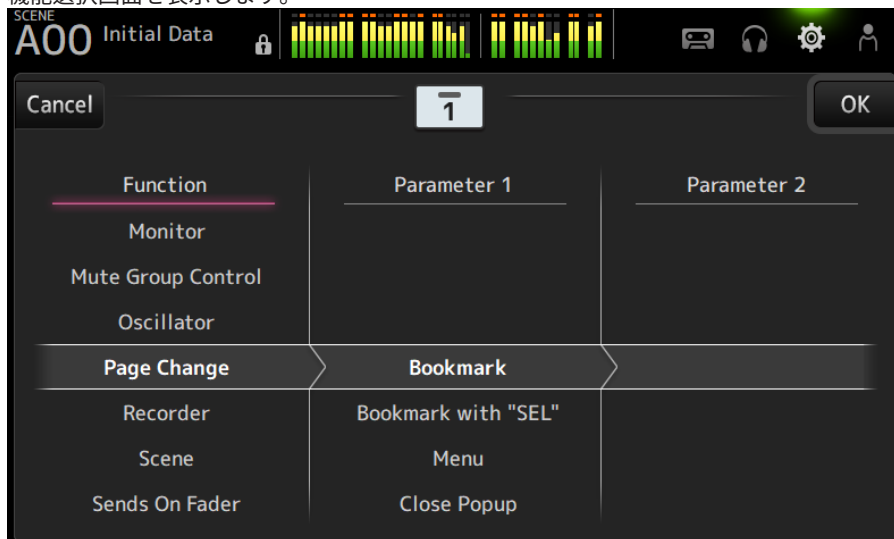
「MONITOR (OSCILLATOR) 画面」 (80ページ)

SETUP画面

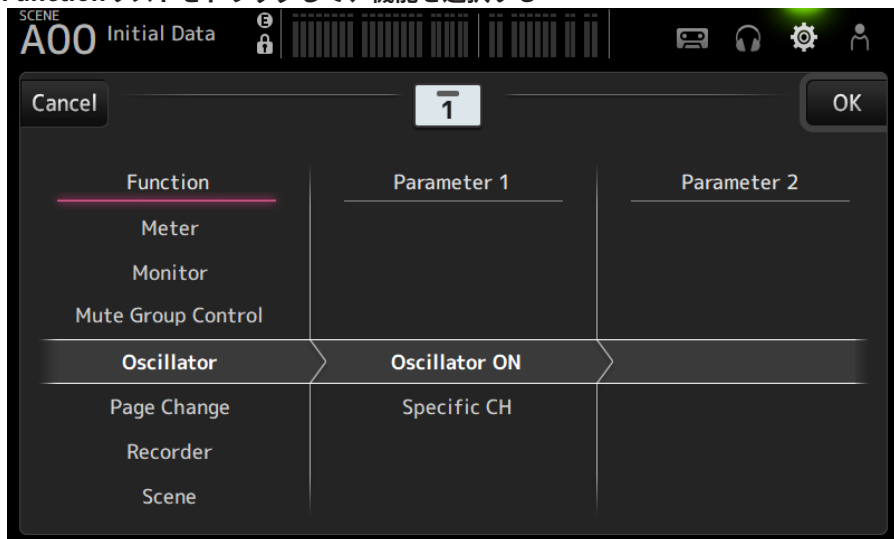
[USER DEFINED KEYS]に機能を割り当てる

以下の手順で、[USER DEFINED KEYS]に機能を割り当てます。

- 1 機能を割り当てるキーのKEYS設定ボタンをタッチする
機能選択画面を表示します。



2 Functionリストをドラッグして、機能を選択する



3 Parameter1リストをドラッグして、パラメーターを選択する

Parameter2リストにパラメーターがある場合は、2つ目のパラメーターが選択できません。

4 OKボタンをタッチする

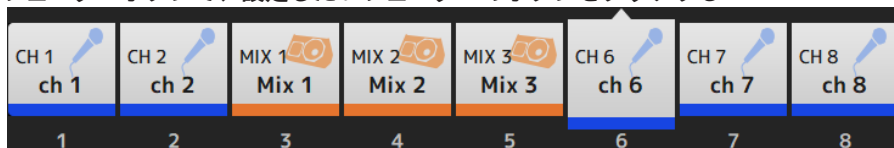
関連リンク

「USER DEFINED KEYS画面」 (86ページ)

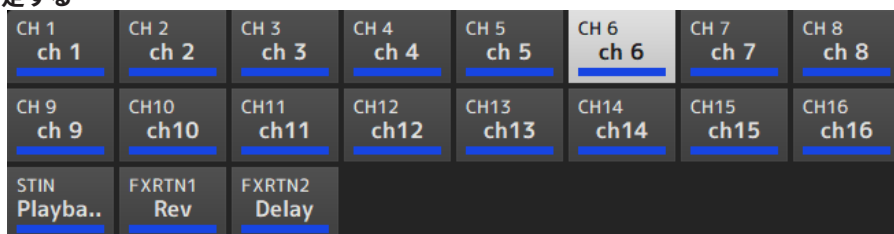
CUSTOM FADER BANKを設定する

以下の手順で、CUSTOM FADER BANKに任意のチャンネルを割り当てます。

1 フェーダーボタンで、設定したいフェーダーのボタンをタッチする



2 チャンネルボタンをタッチして、手順1.で選んだフェーダー番号にチャンネルを設定する



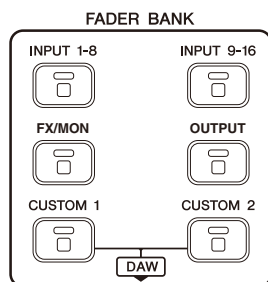
3 手順1.~2.を繰り返して、ほかのフェーダーにもチャンネルを設定する

関連リンク

「CUSTOM FADER BANK画面」 (101ページ)

CUSTOM FADER BANKを呼び出す

トップパネルの[FADER BANK]の[CUSTOM 1]キー、または[CUSTOM 2]キーを押すと、チャンネルストリップにCUSTOM FADER BANKが表示されます。



関連リンク

「CUSTOM FADER BANK画面」 (101ページ)

入出力のパッチ

入出力のパッチの設定について説明します。

■ インプット/アウトプットのパッチ

SETUP→PATCH画面でパッチを設定します。

INPUT→INPUT CH PATCH画面でも入力のパッチを設定できます。また、

OUTPUT→OUTPUT CH PATCH画面でも出力のパッチを設定できます。

■ DM3とI/Oデバイスとのパッチング

DM3とI/Oデバイスのパッチには、Danteオーディオネットワークのパッチと、DM3内部のミキサーへのパッチの2つがあります。

DANTE PATCH画面で、DanteオーディオネットワークのI/OデバイスとDM3をパッチします。

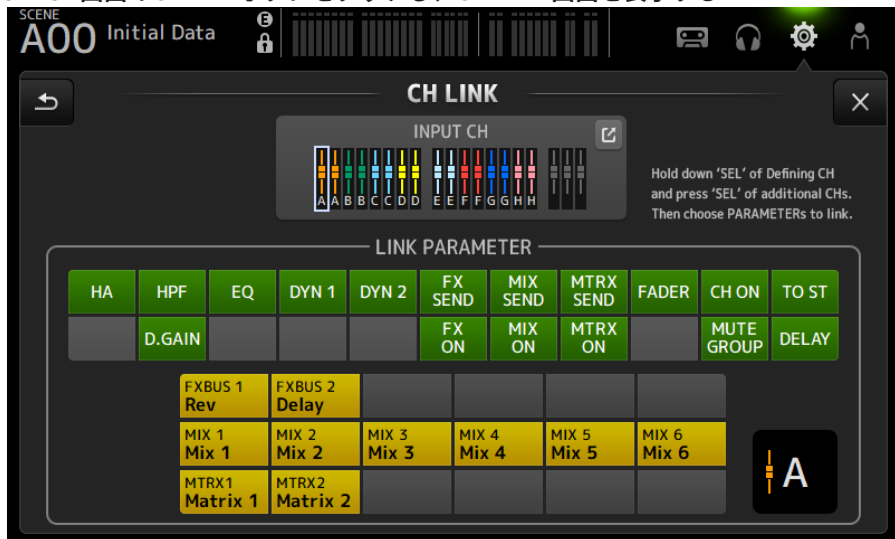
関連リンク

- ・「PATCH画面」 (119ページ)
- ・「INPUT CH PATCH画面」 (188ページ)
- ・「OUTPUT CH PATCH画面」 (233ページ)
- ・「DANTE PATCH画面」 (124ページ)
- ・「Dante Auto Setupのパッチ」 (361ページ)
- ・「入出力パッチの初期値」 (364ページ)

チャンネルのリンクを設定する

インプット系チャンネルの特定のパラメーターをリンクさせる方法を説明します。

1 SETUP画面のCh Linkボタンをタッチし、CH LINK画面を表示する



2 インプット系チャンネルのリンク元の[SEL]キーを押しながら、リンク先の[SEL]キーを押して、チャンネルをリンクさせる

INPUT CHのジャンプボタンから、リンクさせるチャンネルを選ぶこともできます。

3 CH LINK画面のLINK PARAMETERフィールドにある各ボタンを使って、連動させるパラメーターを選ぶ（複数選択可）。

4 手順3でFX ON、MIX ON、MTRX ONの各ボタンをオンにした場合は、SEND PARAMETERフィールドのボタンを使って対象のバスを指定する（複数選択可）。

お知らせ

- ・リンクさせる2つ以上のチャンネルの[SEL]キーを同時に押して離すことでも、CH LINK画面を開けます。
- ・リンクグループに所属するチャンネルの[SEL]キーを押して点灯させると、同じリンクグループに含まれるすべてのチャンネルの[SEL]キーが点滅します。
- ・INPUTチャンネルをST IN/FX RTNチャンネルにリンクさせた場合、ST IN/FX RTNチャンネルに存在しないパラメーターは無視されます。

関連リンク

- ・「CH LINK画面」（136ページ）
- ・「CH LINK SET画面」（139ページ）

リコールセーフ機能を使う

シーンをリコールしたときのリコールセーフを設定する手順を説明します。

リコールセーフは、特定のパラメーター/チャンネルをリコール操作から除外する機能です。

- 1 設定対象チャンネル切り替えボタンをタッチして、リコールセーフの対象にするチャンネルを選択する

CH1-16	ST IN	FX RTN	FX	OUTPUT	OTHER
--------	-------	--------	----	--------	-------

- 2 SAFEパラメーター切り替えボタンをタッチして、リコールセーフの対象を選択する

All	HA	Input Patch	Processing	Send To	Fader	ON	Name
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- 3** 選択したチャンネルのリコールセーフをオンにするには、SAFEボタンをオンにする



- 4** [×]ボタンをタッチして画面を閉じ、リコール操作を行う

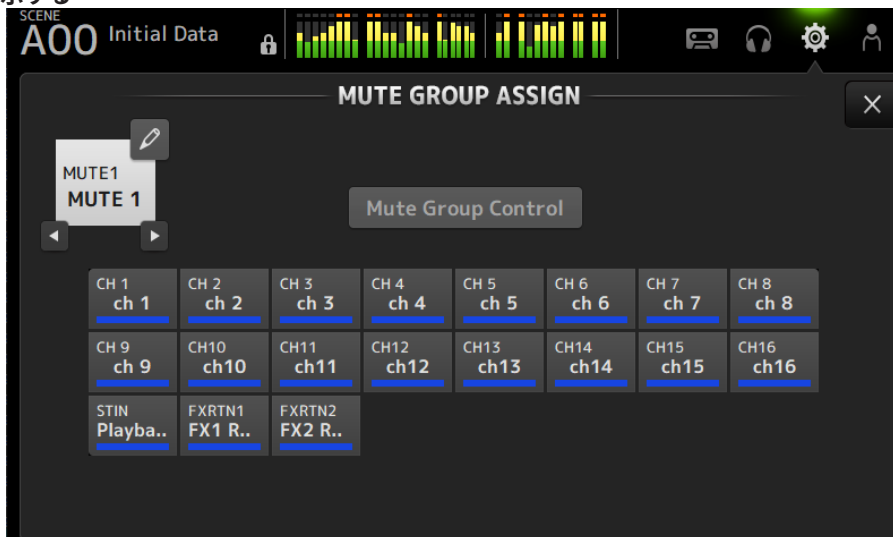
関連リンク

「RECALL SAFE画面」 (113ページ)

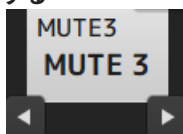
ミュートグループに割り当てるチャンネルを選ぶ

複数チャンネルのミュートのオン/オフを一括して切り替えるミュートグループの設定について説明します。

- 1 SETUP画面のMute Groupボタンをタッチして、MUTE GROUP ASSIGN画面を表示する



- 2 ミュートグループ名の左右ボタンをタッチして、作成するミュートグループを表示する



- 3 Mute Group Controlボタンをタッチしてオンにする

Mute Group Control

4 ミュートグループに割り当てるチャンネルをタッチして選択する

CH 1 ch 1	CH 2 ch 2	CH 3 ch 3	CH 4 ch 4	CH 5 ch 5	CH 6 ch 6	CH 7 ch 7	CH 8 ch 8
CH 9 ch 9	CH10 ch10	CH11 ch11	CH12 ch12	CH13 ch13	CH14 ch14	CH15 ch15	CH16 ch16
STIN Playba..	FXRTN1 Rev	FXRTN2 Delay					

5 必要に応じて、ミュートグループ名のジャンプボタンをタッチして、ミュートグループに名前をつける

6 画面右上のCloseボタンをタッチして終了する

関連リンク

- ・「MUTE GROUP ASSIGN画面」 (117ページ)
- ・「ミュートセーフを設定する」 (307ページ)

LOGIN画面

ゲストユーザーにアクセス制限をかける

GUESTユーザーのアクセス制限を設定する手順を説明します。

- 1** LOGIN画面からAdministratorでログインする
- 2** LOGIN画面からUser Accountアイコンをタッチして、USER ACCOUNT画面を表示する
- 3** USER ACCOUNT画面でGuestユーザーを選択する
- 4** Access Permission Editボタンをタッチして、ACCESS PERMISSION画面を表示する
- 5** ゲストユーザーに許可する操作を選択する
- 6** アクセス制限がかかったかどうかを確認するために、もう一度LOGIN画面を開き、ゲストユーザーでログインする
- 7** アクセス制限をかけた操作子の操作ができないことを確認する

お知らせ

本体を初期化すると、パスワードが解除されます。またゲストユーザーのアクセス制限の設定も初期状態に戻ります。

関連リンク

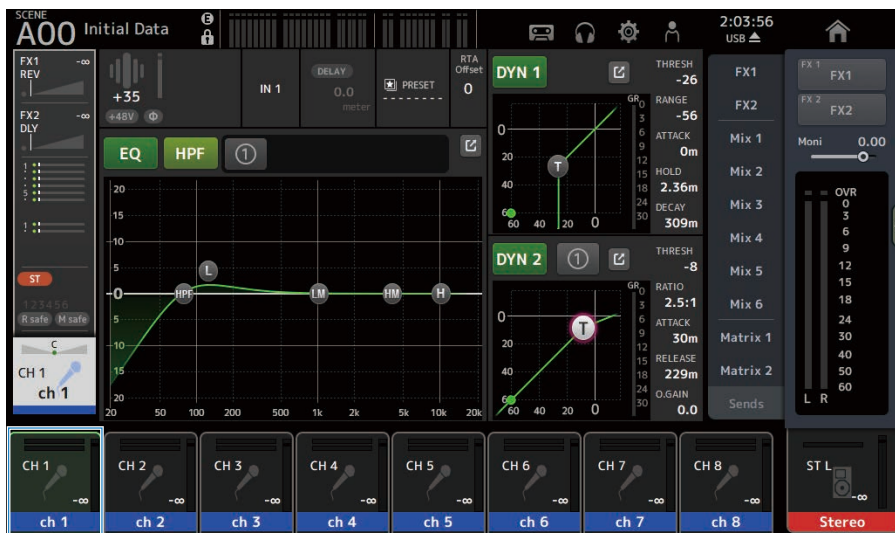
- ・「USER ACCOUNT画面」 (156ページ)
- ・「ACCESS PERMISSION画面」 (158ページ)

HOME画面

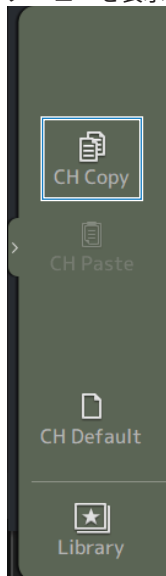
チャンネルの設定をコピーして他のチャンネルにペーストする

特定のチャンネルの設定を一括して他のチャンネルにコピーする方法を説明します。

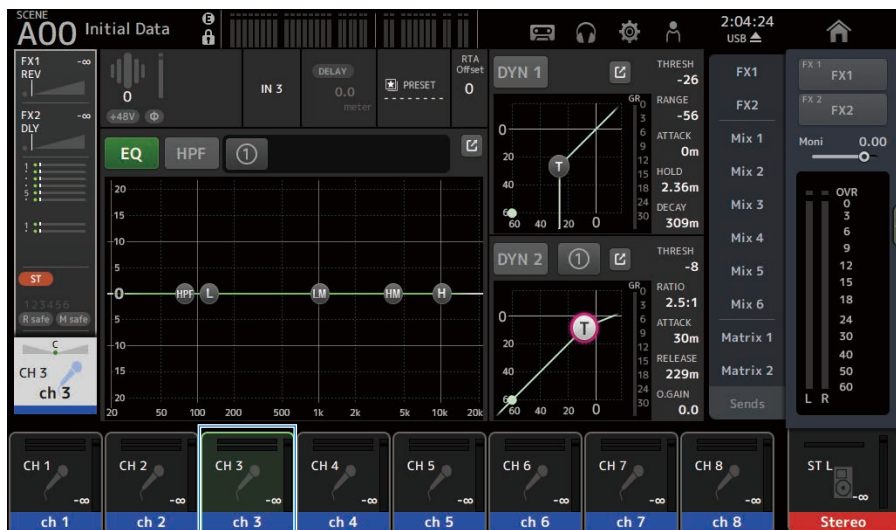
1 コピー元のチャンネルをタッチして選択する



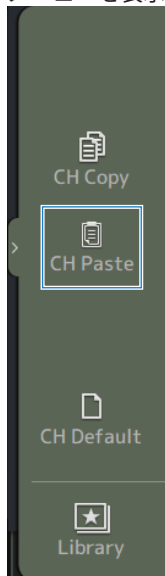
- 画面右端のメニュースワイプインジケータを左にスワイプする
メニューを表示します。



- CH Copyアイコンをタッチする
設定をコピーします。メニューを閉じてください。
- コピー先のチャンネルをタッチして選択する

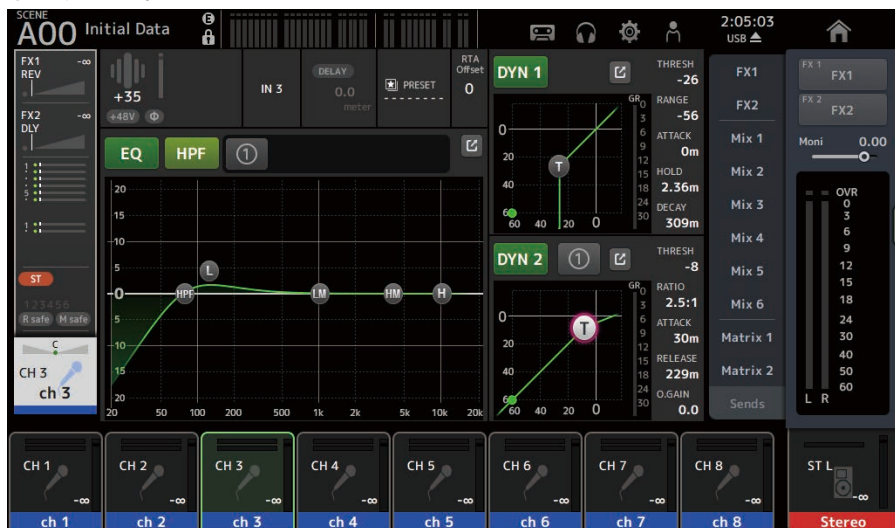


- 5** 画面右端のメニュースワイプインジケータを左にスワイプする
メニューを表示します。



- 6** CH Pasteアイコンをタッチする

コピー元のチャンネル設定がコピー先のチャンネルにペーストされます。メニューを閉じてください。



画面の操作 > HOME画面

関連リンク

[「HOME画面について」](#) (159ページ)

DAW REMOTE画面

USB MIDIのポートを設定する

DAW REMOTEを使用するには、USB MIDIのポートの設定が必要です。

次の手順で操作してください。

1 DM3シリーズの[USB TO HOST]端子とPCをUSBケーブルで接続する

2 DAWのコントロールサーフェスのポートを設定する

コントロールサーフェスのタイプやリモートデバイスには、HUIまたはMackie HUIを選択してください。

MIDIの入出力ポートには、以下のようにDAW REMOTE用のPort2を選択してください。

Windows : Yamaha DM3-2

Mac : Yamaha DM3 Port2

お知らせ

MIDIの入出力ポートのうちPort1は、シーン、フェーダー、チャンネルのオン/オフ制御用のポートです。

関連リンク

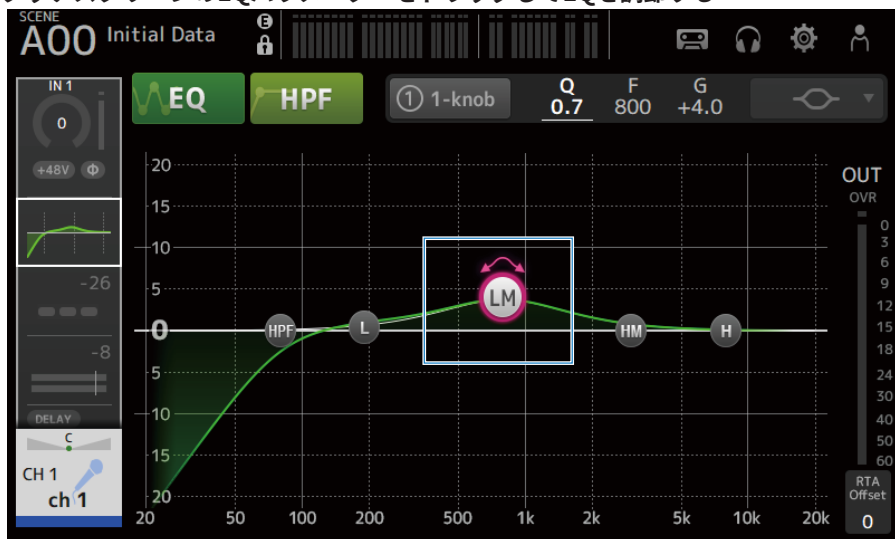
- 「DAW REMOTE画面について」 (179ページ)
- 「MIDI (Setup) 画面」 (103ページ)

チャンネル専用画面

マニュアルモードでEQを操作する

マニュアルモードのEQ操作について説明します。

- 1 EQ画面を表示する
- 2 EQボタンをタッチして、EQをオンにする
- 3 1-knobモードボタンをタッチして、1-knobモードをオフにする
- 4 タッチスクリーンのEQパラメーターをドラッグしてEQを調節する



お知らせ

- EQパラメーターがフォーカスされた状態では、[TOUCH AND TURN] ノブで操作できます。このとき操作するEQパラメーターをタッチするたびに、操作対象がゲイン (G) と周波数 (F) が交互に切り替わります。1-knobボタンの右側に表示されているGとFの値をタッチしても切り替えることができます。
- Qを操作する場合は、タッチスクリーン上でピンチ/ズーム操作をするか、1-knobボタンの右側に表示されているQの値をタッチして[TOUCH AND TURN]ノブで操作します。
- EQパラメーターはバンドによってフィルタータイプを選択できます。選択できるフィルタータイプはチャンネルによって異なります。
 - ・L: ベル型、ローシェルビング型、HPF (ハイパスフィルター) 型
 - ・LM, HM: ベル型
 - ・H: ベル型、ハイシェルビング型、LPF (ローパスフィルター) 型

5 必要に応じてHPFをオンにする

ボーカルマイクなどの場合はHPFをオンにして低音ノイズを低減させます。

関連リンク

「EQ画面」 (190ページ)

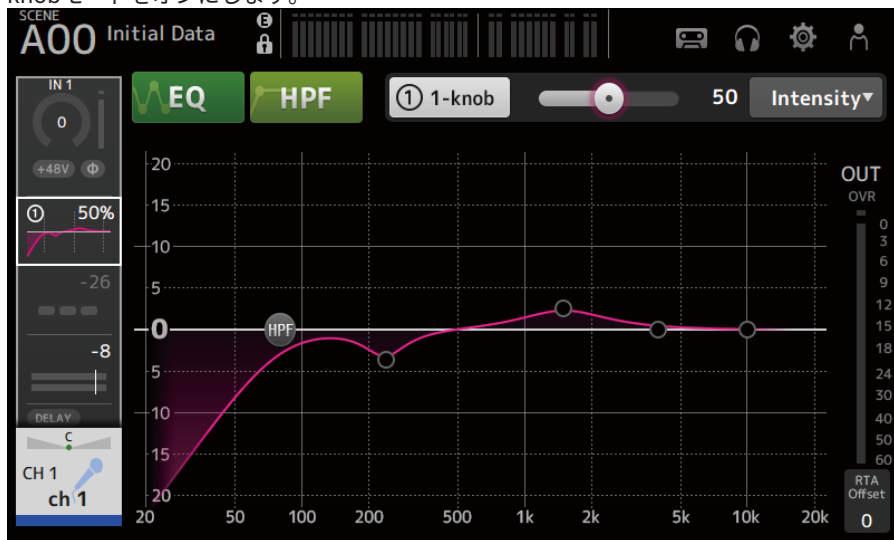
1-knobモードでEQを操作する

1-knobモードのEQ操作について説明します。

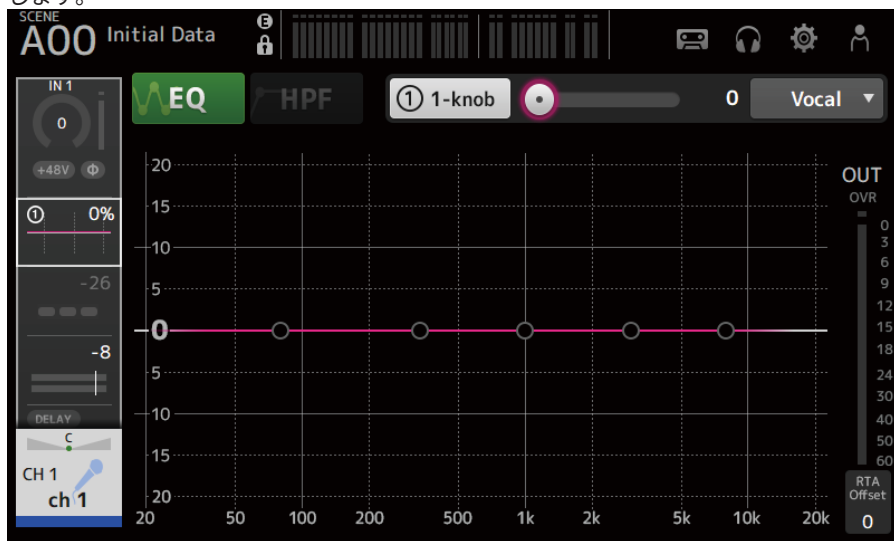
- 1** EQ画面を表示する
- 2** EQボタンをタッチして、EQをオンにする
- 3** 1-knobモードボタンをタッチして、1-knobモードをオンにする

4 1-knobモードのタイプを選ぶ

1-knob EQ (Intensity) を使用するには、マニュアルモードでEQの設定を作ってから1-knobモードをオンにします。



1-knob EQ (VocalまたはLoudness) は、あらかじめ用意されたEQカーブの設定を使用します。



5 [TOUCH AND TURN]ノブでEQを調節する

画面の操作 > チャンネル専用画面

関連リンク

- 「EQ画面」 (190ページ)
- 「1-knob EQモードの仕組み」 (367ページ)

HPFを設定する

HPF（ハイパスフィルター）を設定する方法について説明します。

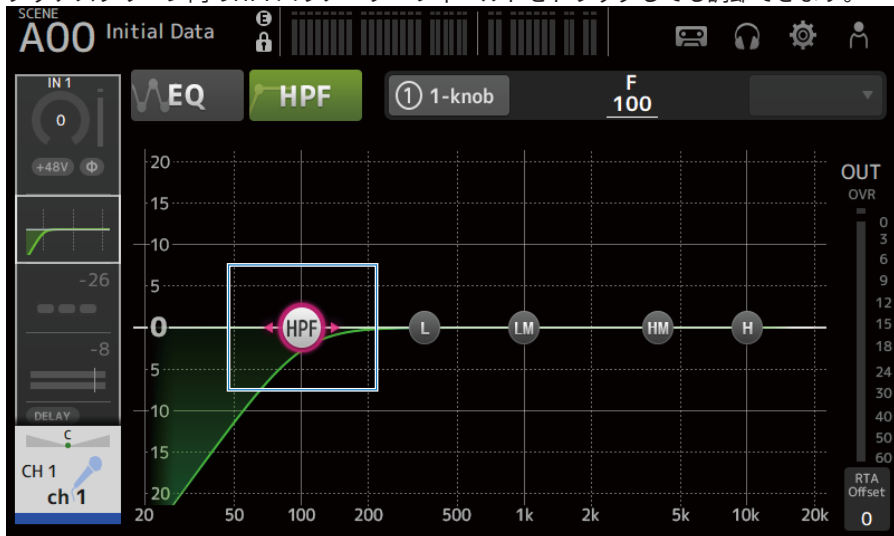
ボーカルマイクなどの場合はHPFをオンにして低音ノイズを低減させます。

- 1 EQ画面を表示する
- 2 HPFボタンをタッチして、HPFをオンにする

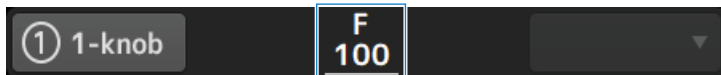


- 3 HPFのハンドルをタッチする
- 4 [TOUCH AND TURN]ノブを回して、HPFを調節する

タッチスクリーン内のHPFパラメーターフィールドをドラッグしても調節できます。



設定した値は、画面右上の表示で確認できます。



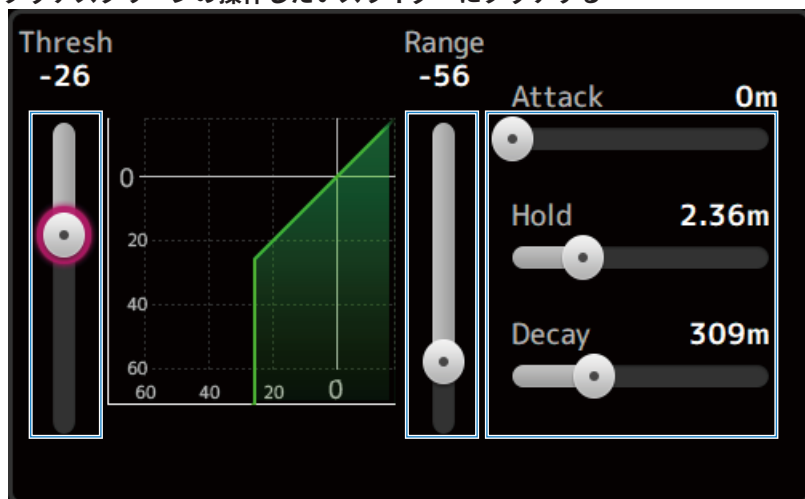
関連リンク

「EQ画面」 (190ページ)

GATE/DUCKINGを設定する

GATE/DUCKINGを設定する方法を説明します。

- 1 DYN1画面を表示する
- 2 DYN1ボタンをタッチして、DYN1をオンにする
- 3 Type、Key Inを選択する
- 4 タッチスクリーンの操作したいスライダーにタッチする



- 5 [TOUCH AND TURN]ノブを回して、値を調節する
ゲートグラフと各メーターで調節の状態を確認してください。
タッチスクリーン内のスライダーをドラッグしても、調節できます。

関連リンク

「DYN1 (GATE/DUCKING) 画面」 (196ページ)

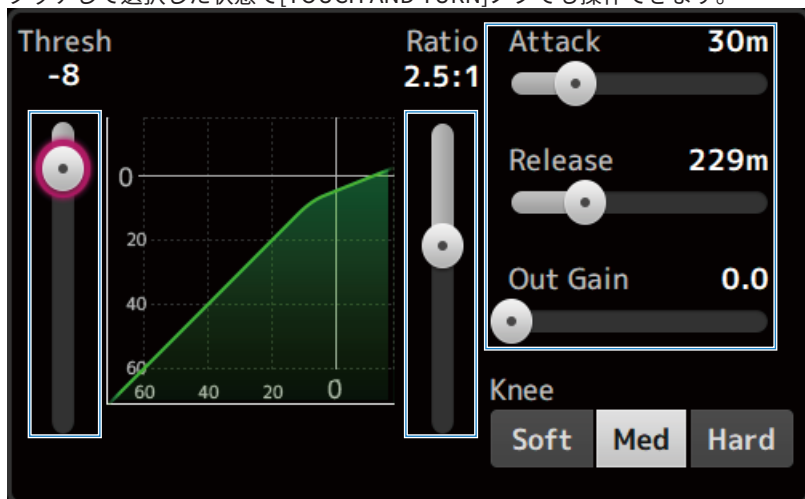
マニュアルモードでコンプレッサーを操作する

マニュアルモードのコンプレッサー操作について説明します。

- 1 DYN2画面を表示する
- 2 DYN2ボタンをタッチして、DYN2をオンにする
- 3 1-knobボタンをタッチして1-knob COMPモードをオフにする

① 1-knob

- 4 操作するパラメーターのスライダーを操作する
スライダーをドラッグして各パラメーターのバランスを調節します。
タッチして選択した状態で[TOUCH AND TURN]ノブでも操作できます。



関連リンク

「DYN2 (COMP) 画面」 (199ページ)

1-knobモードでコンプレッサーを操作する

1-knobモードのコンプレッサー操作について説明します。

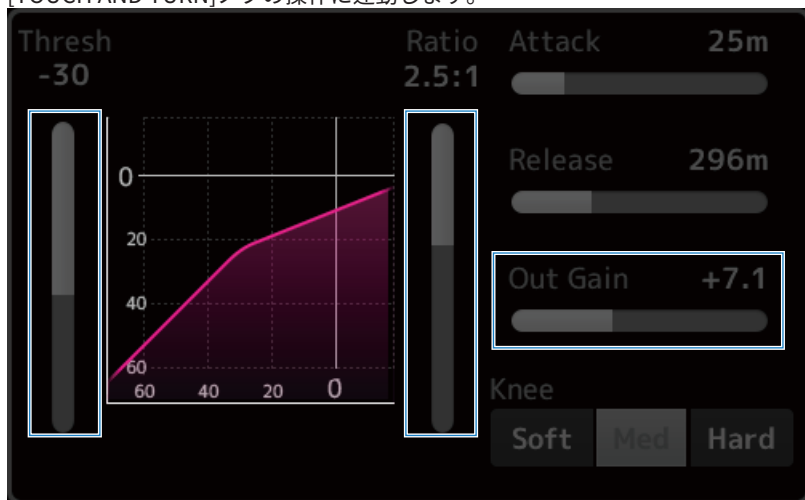
- 1 DYN2画面を表示する
- 2 DYN2ボタンをタッチして、DYN2をオンにする
- 3 1-knobボタンをタッチして1-knob COMPモードをオンにする



DYN2の設定がすべて上書きされます。

- 4 [TOUCH AND TURN]ノブで操作する

Attack 25m、Release 296m、Knee Medに固定され、Threshold、Ratio、Out Gainが[TOUCH AND TURN]ノブの操作に連動します。



関連リンク

「DYN2 (COMP) 画面」 (199ページ)

エフェクトを設定する

エフェクトを設定する方法を説明します。

1 FX画面を表示する

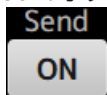


2 エフェクトタイプボタンをタッチする

エフェクトを選択する画面を表示しますので、目的のタイプのボタンをタッチしてください。

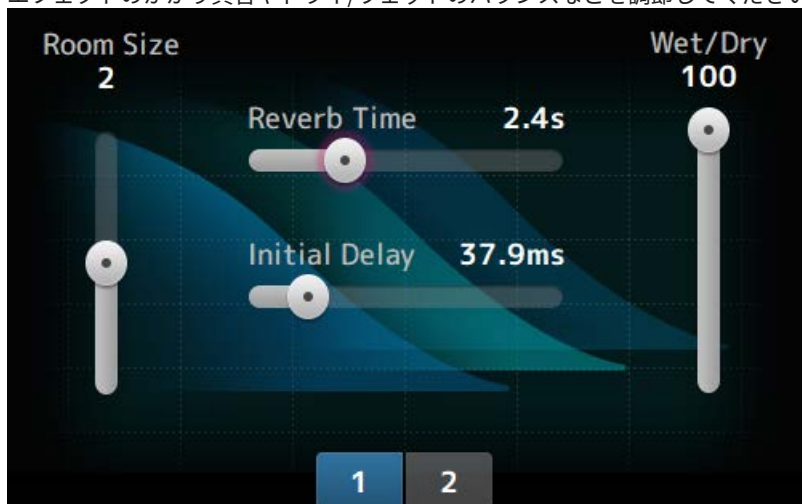


3 Sendボタンをタッチする



4 パラメータスライダーをドラッグする

エフェクトのかかり具合やドライ/ウェットのバランスなどを調節してください。



5 FXセンドレベルスライダーをドラッグする

エフェクトの送り量を調節してください。



6 FX RTNのレベルを調節する

FX RTNチャンネルは、ST INフェーダーバンクにあります。

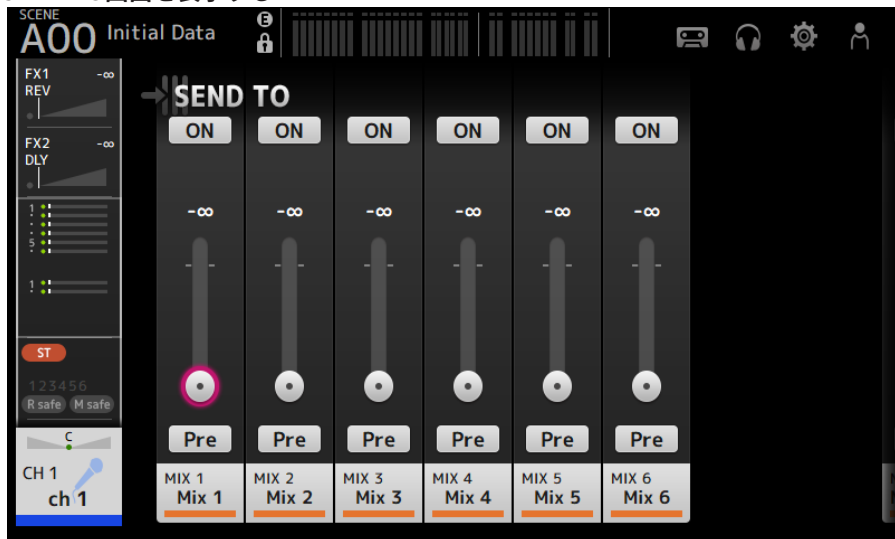
関連リンク

[「FX画面」 \(204ページ\)](#)

MIX/MATRIX BUSへの送り量を設定する

MIX/MATRIX BUSへの送り量の設定方法を説明します。

1 SEND TO画面を表示する



2 目的のチャンネルのレベルスライダーをドラッグする

MIXチャンネルへの送り量を調節してください。



3 Preボタンでフェーダーの直前から送るか、直後から送るかを切り替える

Pre

ステージ用のフロアモニターで使うときはフェーダーの直前にして、メインのミックスバランスとは別のバランスで送ります。

外部エフェクトで使うときや、メインのミックスバランスをそのまま生かしたミックスを送るときはフェーダーの直後にします。

4 ON / OFFボタンをタッチする



オンにすると、MIXチャンネルに信号を送ります。

5 SEND PANスライダーをタッチし、[TOUCH AND TURN]ノブを操作する 送り先のバスがステレオの場合、センドパンを設定してください。

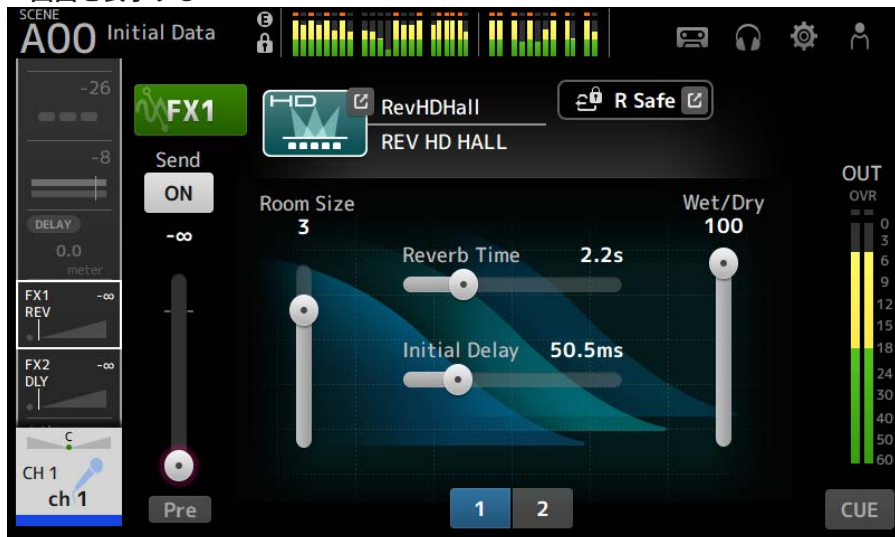
関連リンク

「SEND TO画面」 (208ページ)

FX BUSへの送り量を設定する

FX BUSへの送り量の設定方法を説明します。

1 FX画面を表示する



2 Sendレベルスライダーをドラッグする

FX BUSへの送り量を調節してください。



3 Preボタンでフェーダーの直前から送るか、直後から送るかを切り替える

Pre

ステージ用のフロアモニターで使うときはフェーダーの直前にして、メインのミックスバランスとは別のバランスで送ります。

メインのミックスバランスをそのまま生かしたミックスを送るときはフェーダーの直後にします。

4 ON / OFFボタンをタッチする



オンにすると、FX BUSに信号を送ります。

関連リンク

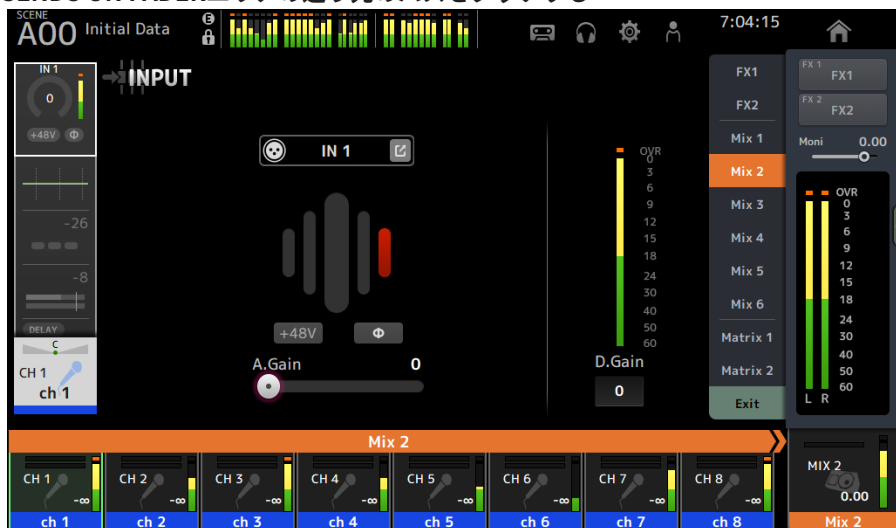
「FX画面」 (204ページ)

フェーダーでFX/MIX/MATRIX BUSへの送りを操作する

フェーダーでFX/MIX/MATRIX BUSへの送りを操作する方法（SENDS ON FADER）を説明します。

SENDS ON FADERを使用すると、パネル上の各チャンネルストリップを、一時的に特定のバスへのセンドレベルやセンドのオン/オフのコントロールへと切り替えることができます。

1 SENDS ON FADERエリアの送り先のバスをタッチする



チャンネル名エリアの上部に、送り先のバスのチャンネル名が表示されます。送り先のバスへのセンドレベルが、トップパネル上のチャンネルストリップセクションのフェーダーに展開されます。

2 トップパネル上のフェーダーを操作して、センドレベルを調節する

チャンネルストリップの[ON]キーを押すと、センドのオン/オフを切り替えることができます。

3 SENDS ON FADERエリアのExitをタッチしてSENDS ON FADERモードを解除する

[HOME]キー/HOMEボタンをタッチしてもSENDS ON FADERモードが解除されます。

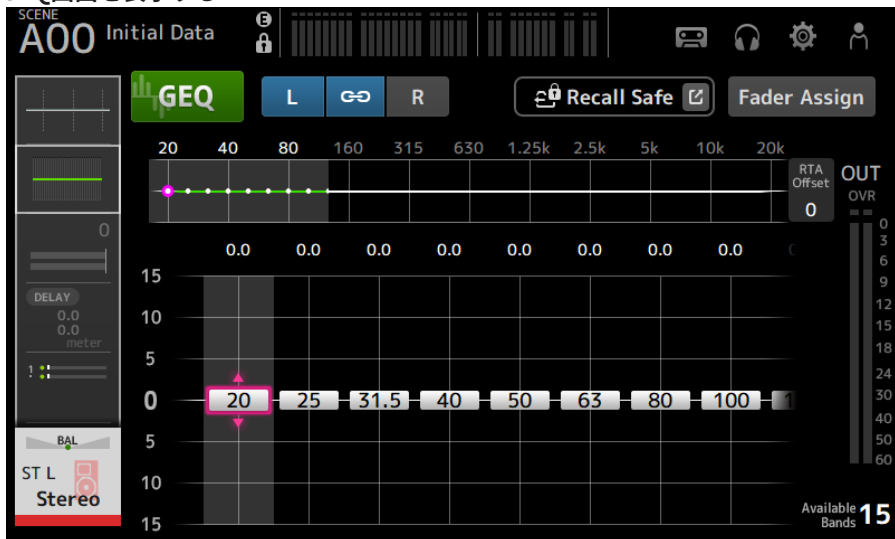
関連リンク

「SEND TO画面」 (208ページ)

GEQを使う

GEQの操作について説明します。

1 GEQ画面を表示する



2 GEQボタンをタッチして、オンにする



3 ゲインスライダーを左右にスワイプして、調整したい周波数を表示する

4 ゲインスライダーを上下にドラッグして、ゲインを調整する

ゲインのレベルは、ゲイン出力レベルメーターで確認できます。

15バンドすべてのゲインを設定すると、設定されていないスライダーはグレーで表示されます。ほかのバンドを調整したい場合は、どこかのバンドのゲインを0に設定してからほかのバンドを操作します。

操作したゲインスライダーを素早く2回タッチすると、0 dB（初期状態）に戻ります。

選択したゲインスライダーは[TOUCH AND TURN]ノブでも操作できます。

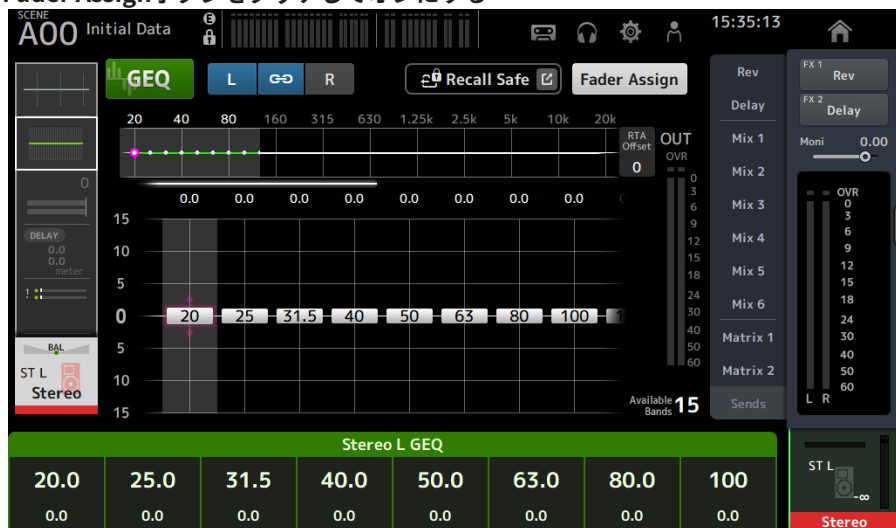
関連リンク

「GEQ画面」 (227ページ)

フェーダーでGEQを操作する

フェーダーでGEQを操作する方法を説明します。

- 1 GEQ画面を表示する
- 2 Fader Assignボタンをタッチしてオンにする



各バンドの現在のゲイン設定値が、トップパネル上のチャンネルストリップセクションのフェーダーに展開されます。ディスプレイのチャンネル名前エリアに、各フェーダーに展開されている周波数とゲイン設定値が表示されます。

- 3 GEQ画面上のゲインスライダー部分を左右にスワイプして、調整したい周波数を切り替える

周波数特性、RTA表示、ゲイン操作可能バンド選択部分を左右にスワイプしても周波数の切り替えができます。

- 4 トップパネル上のフェーダーを操作して、ゲインを調整する

各チャンネルの[ON]キーを押すと、そのチャンネルに展開されている周波数のゲインを0 dBにリセットできます。

- 5 調整が終わったら、Fader Assignボタンをタッチしてオフにする

ほかの画面に切り替えたり、SENDS ON FADERモードにしたりすることもオフになります。

関連リンク

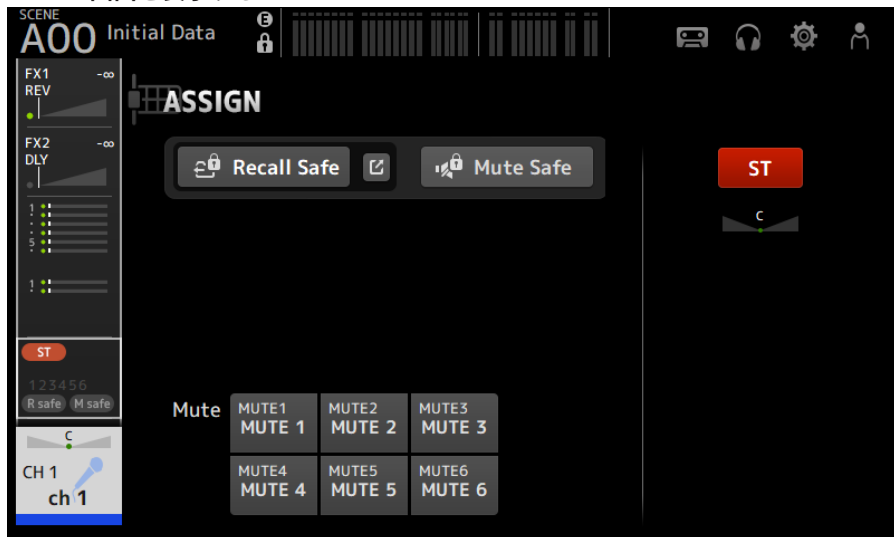
「GEQ画面」 (227ページ)

ミュートセーフを設定する

ミュートセーフは、ミュートグループのアサイン設定に関係なく特定のチャンネルを一時的に除外したいときに使用します。

ミュートセーフに設定したチャンネルは、ミュートグループをミュートしても影響を受けません。

1 ASSIGN画面を表示する



2 Mute Safeボタンをタッチして、ミュートセーフをオンにする

ミュートセーフを解除するには、もう一度Mute Safeボタンをタッチします。

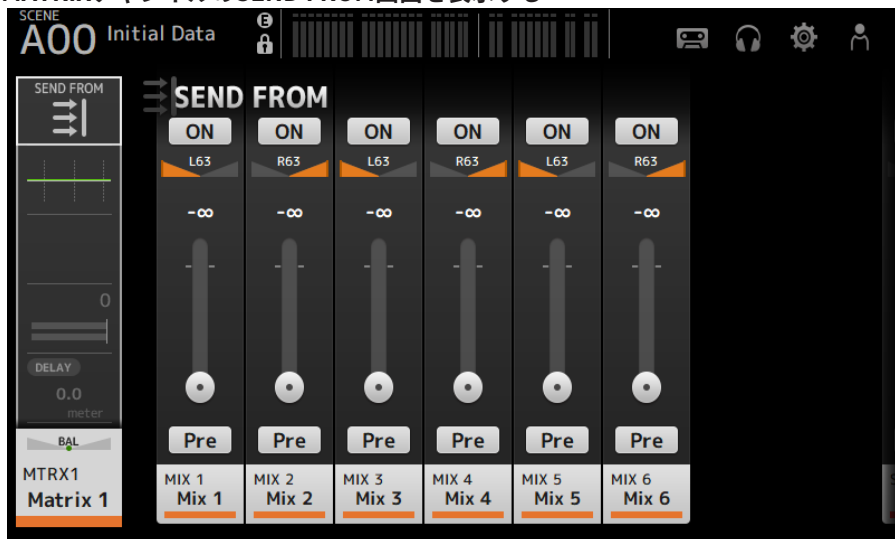
関連リンク

「MUTE GROUP ASSIGN画面」 (117ページ)

アウトプットチャンネル（MIX、STEREO）からMATRIXへのセンドレベル設定をする

MIX/STEREOチャンネルからMATRIX BUSへのセンドレベルの設定について説明します。

1 MATRIXチャンネルのSEND FROM画面を表示する



- 2 設定するMIXチャンネル、STEREOチャンネルのONボタンをタッチして、オンにする（初期設定はオン）
- 3 Preボタンでフェーダーの直前から送るか、直後から送るかを切り替える
- 4 SEND LEVELスライダーをドラッグして、MIXチャンネル、STEREOチャンネルからのセンドレベルを操作する
- 5 MATRIX BUSをステレオに設定している場合は、SEND PANスライダーでパンを操作する

お知らせ

- ステレオに設定したMIXチャンネルやSTEREOチャンネルからのセンドレベルは、Lチャンネル、Rチャンネルが個別の設定になります。
- MATRIX BUSをステレオに設定している場合、ステレオに設定したMIXチャンネルやSTEREOチャンネルのSEND PANスライダーはBAL（バランス）スライダーになります。
- MATRIX BUSのステレオ/モノの切り替えは、SETUP画面にあるBUS SETUP画面で設定します。

関連リンク

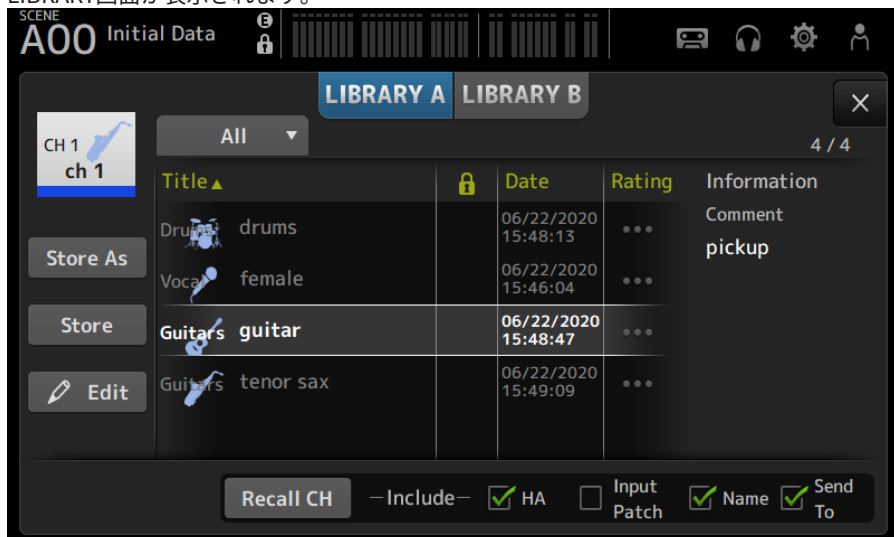
「SEND FROM画面」（235ページ）

プリセットをリコールする

本体に保存されているプリセットをリコールする方法を説明します。

1 メニューを表示し、Libraryボタンをタッチする

LIBRARY画面が表示されます。



2 ライブラリー切り替えタブをタッチして、目的のプリセットを格納しているタブを選択する

プリセットのリストが表示されます。

リストの項目名をタッチすると、タッチした項目の内容でソートします（Informationを除く）。

3 目的のプリセットをタッチして選択する

選択したプリセットはハイライト表示になります。

4 リコール対象を選択する

各設定をリコールするかどうかをチェックボックスで選びます。

5 Recall CHボタンをタッチする

選択中のチャンネルにプリセットをリコールします。

関連リンク

「ライブラリー画面」 (238ページ)

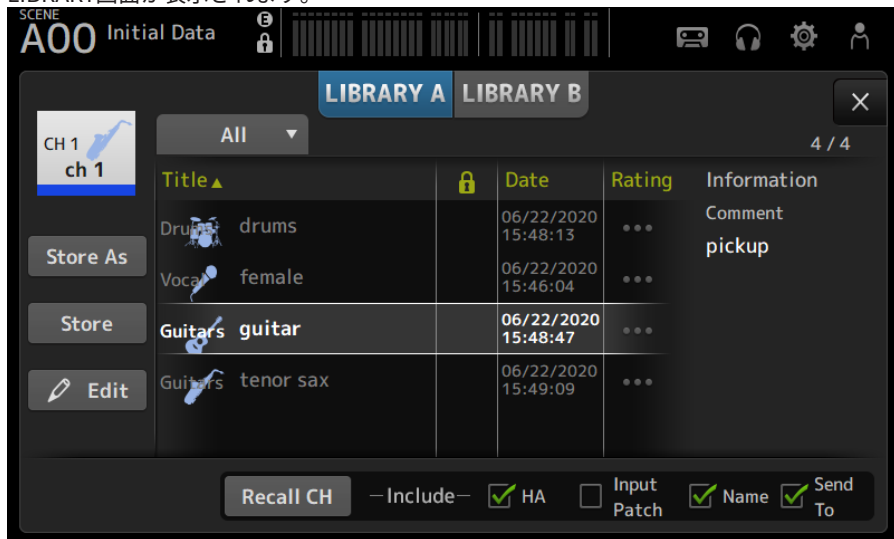
プリセットを編集する

現在のチャンネルの設定をプリセットとして保存できます。

プリセットの保存方法について説明します。

1 メニューを表示し、Libraryボタンをタッチする

LIBRARY画面が表示されます。



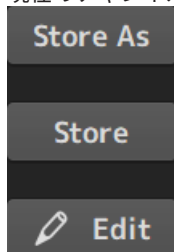
2 StoreボタンまたはStore Asボタンをタッチする

Storeボタン:

リストで選択しているプリセットに現在のチャンネルの設定を上書き保存します。

Store Asボタン:

現在のチャンネルの設定を、新規プリセットとして保存します。



Editボタンをタッチすると、タイトルとコメントを編集できます。

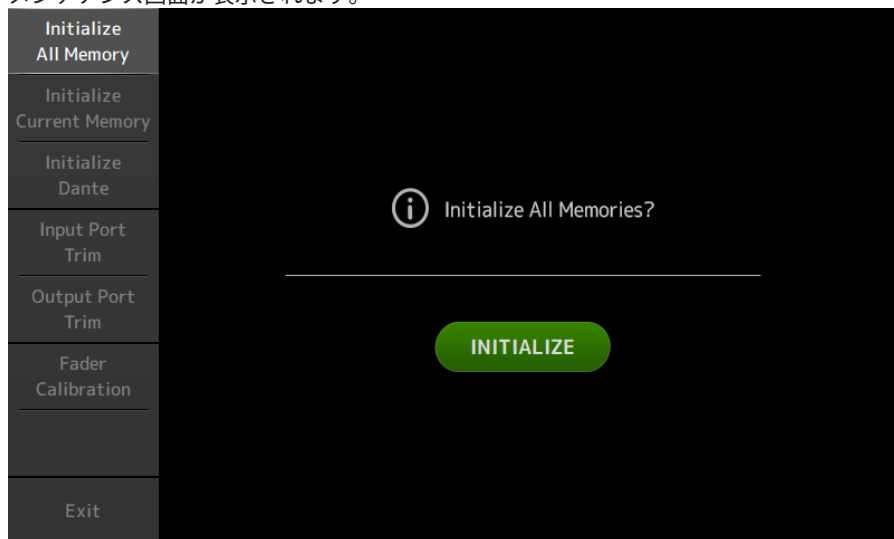
関連リンク

「ライブラリー画面」 (238ページ)

メンテナンス画面

メンテナンス画面の表示と操作のしかた

- 1 トップパネルの[HOME]キーを押した状態で電源を入れる
メンテナンス画面が表示されます。



各ボタンをタッチすると専用画面を表示します。
Exitボタンをタッチすると元の画面に戻ります。

関連リンク

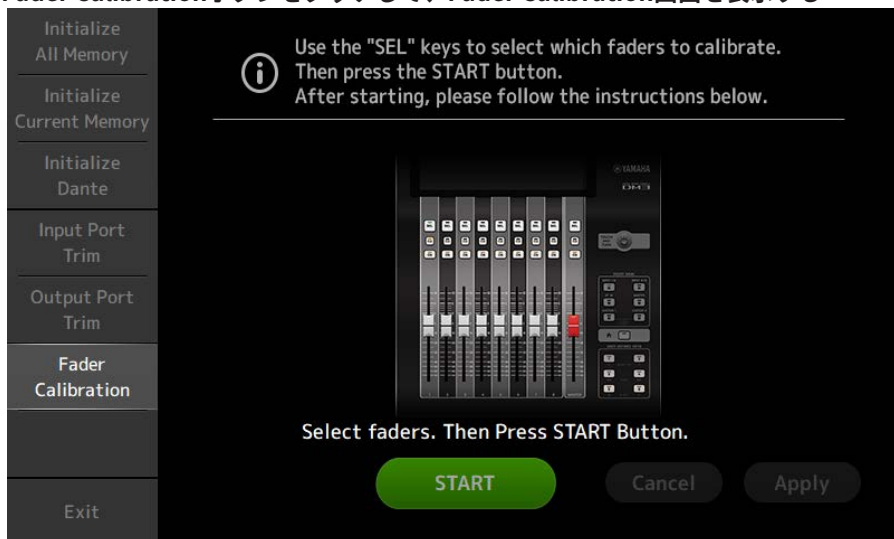
「メンテナンス画面について」 (248ページ)

フェーダーを調整する

使用環境によっては、モーターフェーダーの挙動にずれが生じる場合があります。Fader Calibrationで、この挙動のずれを調整できます。

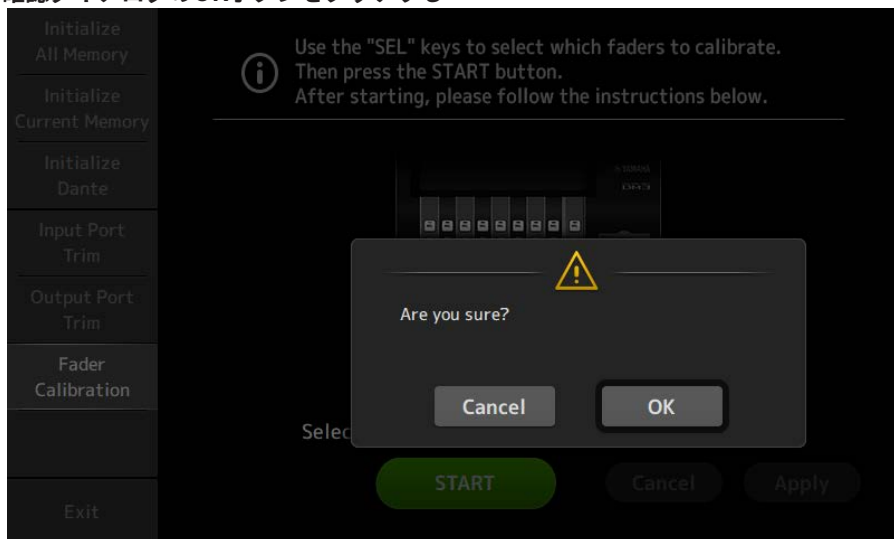
指定したチャンネルストリップセクション、メインセクションのフェーダーに対して、自動でキャリブレーションを行います。

- 1 トップパネルの[HOME]キーを押した状態で電源を入れる
メンテナンス画面が表示されます。
- 2 Fader Calibrationボタンをタッチして、Fader Calibration画面を表示する



- 3 トップパネルの[SEL]キーを押してキャリブレーションするフェーダーを選択する
- 4 FADER CALIBRATION MODE画面のSTARTボタンをタッチする

5 確認ダイアログのOKボタンをタッチする



6 キャリブレーションが終了したら、Applyボタンをタッチする

7 起動メニューのExitボタンをタッチして、通常モードで起動する

お知らせ

フェーダーキャリブレーションが完了したあとは、Exitボタンをタッチせずに、引き続きほかのメニューを選択できます。

関連リンク

「Fader Calibration画面」 (255ページ)

再調整が必要なフェーダーが見つかった場合の対処方法

フェーダーキャリブレーションで再調整が必要なフェーダーが見つかった場合は、該当するフェーダーの[ON]または[CUE]キーが点滅します。

次の手順で操作してください。

- 1 ディスプレイに表示されている「Found faders requiring adjustment. Please calibrate the faders again.」ポップアップ画面を、Closeボタンを押して閉じる**
- 2 ディスプレイ内のApplyボタンを押す**
再調整が必要なフェーダーの[SEL]キーが点灯します。
- 3 該当のフェーダーを手で上下いっぱいまで数回動かす**
フェーダーの動作に、引っ掛かりなどがいないかを確認します。
- 4 上記の「フェーダーを調整する」の手順2からを再実行する**
数回やり直しても同じポップアップ画面が表示される場合は、お買い上げの販売店または取扱説明書の巻末に記載のヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

関連リンク

- ・「Fader Calibration画面」 (255ページ)
- ・「フェーダーを調整する」 (312ページ)

DM3 Editor

DM3 Editorについて

DM3 Editorは、コンピューター上でDM3シリーズ本体の設定をあらかじめ準備したり（オフラインエディット）、本体と接続し本体の設定を監視/操作（オンラインモニタリング/オペレーション）したりするソフトウェアです。

DM3 EditorとDM3シリーズは、ネットワーク経由で接続します。DM3シリーズ本体とDM3 Editorをインストールしているコンピューターが同じネットワーク内にあると接続できます。ネットワークの設定については、DM3 Editorインストールガイドをご参照ください。

DM3 Editorの多くの画面は、本体のディスプレイと同じ画面で構成されており、DM3 Editorと本体の操作性には高い親和性があります。

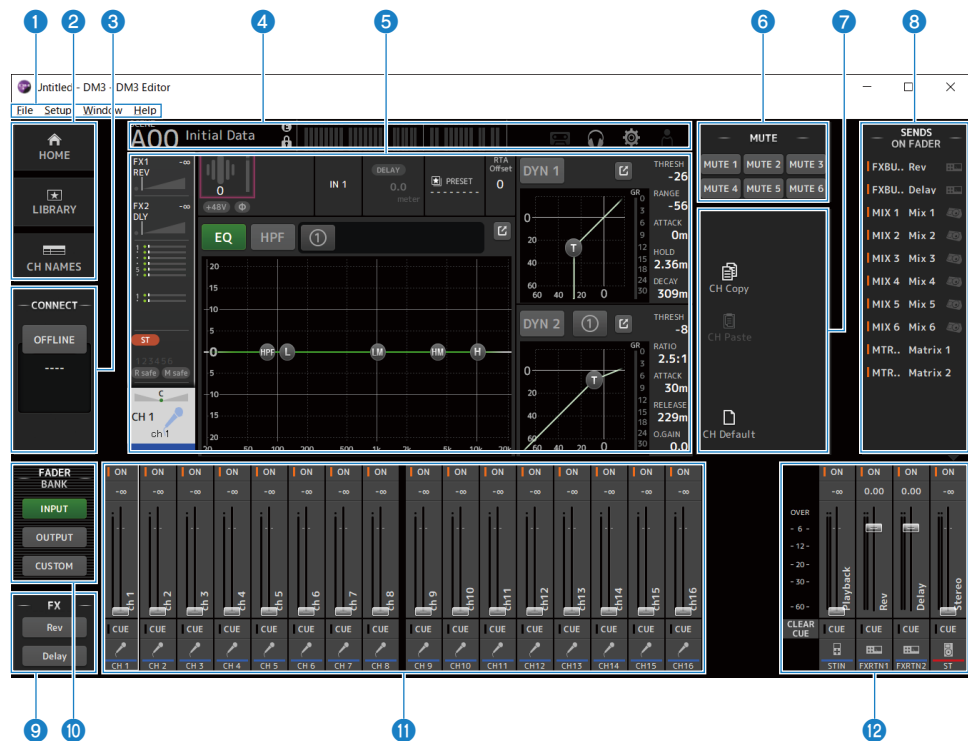
お知らせ

- 1台のコンピューター上で、複数のDM3 Editorは起動できません。
- DM3 EditorとDM3 StageMixは、合計3台まで同時に使用できます。ただし、DM3 Editorはそのうち1台までです。
- このソフトウェアでは、一部にオープンソースソフトウェアを使用しています。各ソフトウェアの使用許諾については、Legal画面をご覧ください。

ご注意

- このソフトウェアおよびPDF形式の取扱説明書の著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- このソフトウェアおよびPDF形式の取扱説明書の一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- 市販の音楽データは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- このソフトウェアおよびPDF形式の取扱説明書を運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- このPDF形式の取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、最終仕様と異なる場合がありますのでご了承ください。
- アプリケーションのバージョンアップなどに伴うシステムソフトウェアおよび一部の機能や仕様の変更については、ヤマハプロオーディオウェブサイトをご参照ください。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- MacまたはMacintoshは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- その他記載の社名および製品名は、各社の商標および登録商標です。

Editorの各部の名称



1 メニューバー

2 HOME/LIBRARY/CH NAMESエリア (330ページ)

3 CONNECTエリア (331ページ)

4 ツールバー

DM3シリーズ本体のディスプレイと同じ操作ができます。

5 メインエリア

DM3シリーズ本体のディスプレイと同じ操作ができます。

お知らせ

- ・ ツールバーとメインエリアは、DM3 Editorでは操作できない機能があります。
- ・ DM3 Editorで操作できない機能は、ボタンがグレイアウトされ、タッチできません。

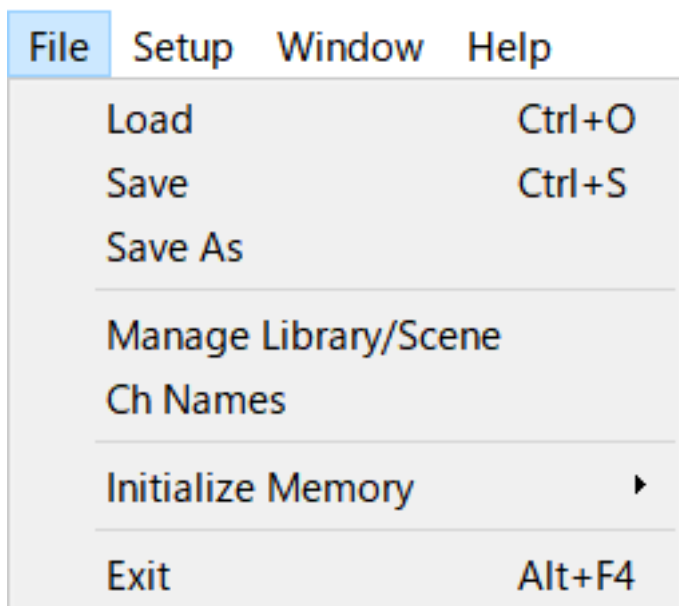
6 MUTEエリア (334ページ)

- 7 **MENUエリア** (335ページ)
- 8 **SENDS ON FADERエリア** (336ページ)
- 9 **FXエリア** (333ページ)
- 10 **FADER BANKエリア** (332ページ)
- 11 **CH STRIPエリア** (337ページ)
- 12 **MAIN/FX RTN/ST IN STRIPエリア** (339ページ)

メニューバー

Fileメニュー

Fileメニューは、ファイル操作をするメニューです。



DM3 Editorで扱うファイル形式は次の通りです。

拡張子	内容
.DM3P	ライブラリーのPresetデータのひとつを、1ファイルに保存したデータです。
.DM3S	シーンデータのひとつを、1ファイルに保存したデータです。
.DM3F	ミキサーの設定全体を保存した一括データです。

お知らせ

- DM3 Editorで作成した.DM3Fファイルは、コンピューターに接続したUSBストレージデバイスに保存して、DM3シリーズ本体のUSB端子経由で直接読み込みできます。同様に、DM3シリーズ本体でUSBストレージデバイスに保存した.DM3Fファイルも、DM3 Editorで読み込みできます。
- .DM3Pファイルは、DM3 Editorの画面上からドラッグ&ドロップでセーブ/ロードができます。

各項目の機能は次の通りです。

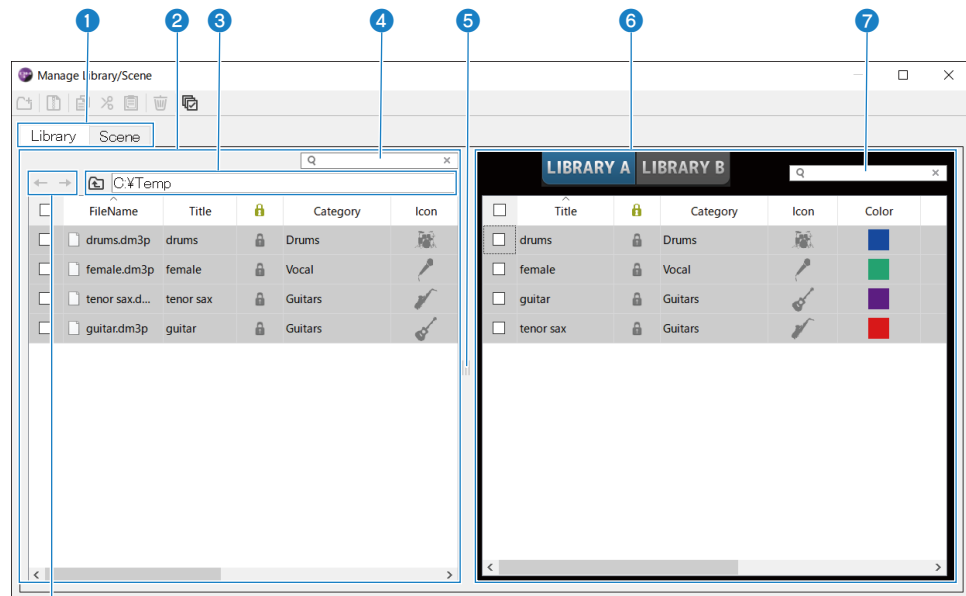
- **Load :**
保存されている.DM3Fファイルを読み込みます。
- **Save :**
.DM3Fファイルを上書き保存します。
- **Save As :**
.DM3Fファイルを別名で保存します。
- **Manage Library/Scene :**
DM3 Editor内のライブラリーやシーンのデータを一括で管理するManage Library/Scene画面を表示します。
DM3シリーズ本体と接続中（ONLINE時）は使用できません。
- **Ch Names :**
インプットチャンネルとアウトプットチャンネルのアイコン、ネーム、カラーを設定するCh Names画面を表示します。
- **Initialize Memory :**
DM3シリーズ本体と接続中（ONLINE時）は使用できません。
 - **Current Memory :**
DM3 Editorのカレントメモリーを初期化します。
初期化されるデータは、ミキシングデータとセットアップデータです。
 - **All Memory :**
DM3 Editorの全メモリーを初期化します。
初期化されるデータは、シーンすべて、プリセットすべて、ミキシングデータ、セットアップデータです。
- **Exit :**
DM3 Editorを終了します。

Manage Library/Scene画面

Manage Library/Scene画面は、DM3 Editor内のシーンデータ、ライブラリーデータを一括で管理する画面です。

ライブラリーデータやシーンデータの編集ができるほか、.DM3Fファイルに保存されているライブラリーデータやシーンデータを個別ファイルとして扱うこともできます。

DM3シリーズ本体との接続がオフラインのときに、ファイルメニューからManage Library/Sceneを選択して開きます。



1 Libraryタブ/Sceneタブ

表示する画面を切り替えます。

2 左ペイン

コンピューター上にあるフォルダー、.DM3Pファイル（ライブラリーデータ）、.DM3Sファイル（シーンデータ）、.DM3Fファイルを表示します。

チェックボックスで複数行を選択して操作できます。選択された状態でクリックすると、テキストの直接入力やプルダウンメニューで編集できます。

表示されているファイルをドラッグして、右ペイン（DM3 Editor内）やひとつ下のディレクトリーへコピーや移動ができます。

3 バス表示

左ペインに表示されているリストのディレクトリーパスを表示します。パスを直接入力することもできます。

左横のボタンをクリックすると、ひとつ上の階層に移動します。

4 テキスト検索ボックス

File Name、Title、Commentの項目に対してテキストで検索して表示をフィルタリングできます。

5 セパレーター

セパレーターのハンドルを左右に動かして、左右のペインの表示サイズを変更します。

お知らせ

- ・タッチパネルディスプレイで素早い操作を繰り返すと、タッチパネル操作ができなくなる場合があります。この場合は、マウスやタッチパッドで一旦操作するか、アプリケーションからフォーカスを外してください。
- ・左ペインに表示されるファイル数が多くなると、ソートや選択操作が遅くなることがありますが、不具合ではありません。プログラムが反応するまでお待ちください。左ペインに表示するファイル数は1000ファイル以内にするをおすすめします。
- ・Manage Library/Scene画面を開いている状態で、左ペインに表示しているフォルダー内を、コンピューターのエクスプローラーやFinderから直接操作しないでください。Manage Library/Scene画面の表示を更新するのに長時間かかる場合があります。

6 右ペイン

DM3 Editor内のデータをバンクごとに表示します。

操作方法は左ペインと同様です。

Protectの項目は、選択状態にかかわらずクリックするとオン/オフが切り替わります。オンの状態では編集ができなくなります。

Protectがオンのプリセットは、背景がグレーで表示されます。

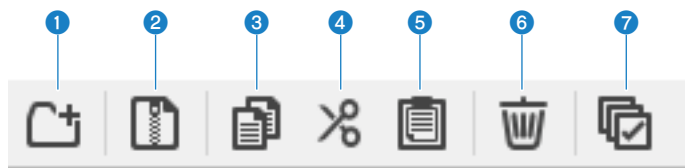
7 テキスト検索ボックス

Title、Commentの項目に対してテキストで検索して表示をフィルタリングできます。

8 ←/→ボタン

クリックすると、前の階層/次の階層に移動します。

■ ツールバー



右クリックすると同様のメニューが表示されます。

1 New Folder

左ペインに表示されているコンピューターのディレクトリーに新規フォルダーを作成します。

2 Extract ProjectFile

.DM3Fファイルを展開して、中のデータを個別ファイルで扱えるようにします。クリックすると、展開先を指定するダイアログが表示されます。実行すると、展開先にLibraryフォルダーとSceneフォルダーが作成され、バンクごとに個別ファイルに展開されます。

3 Copy

選択中のデータをコピーします。

4 Cut

選択中のデータを切り取りします。

5 Paste

CopyまたはCutしたデータを貼り付けます。

6 Delete

選択中のデータを削除します。

7 Select All

表示中のデータをすべて選択します。

お知らせ

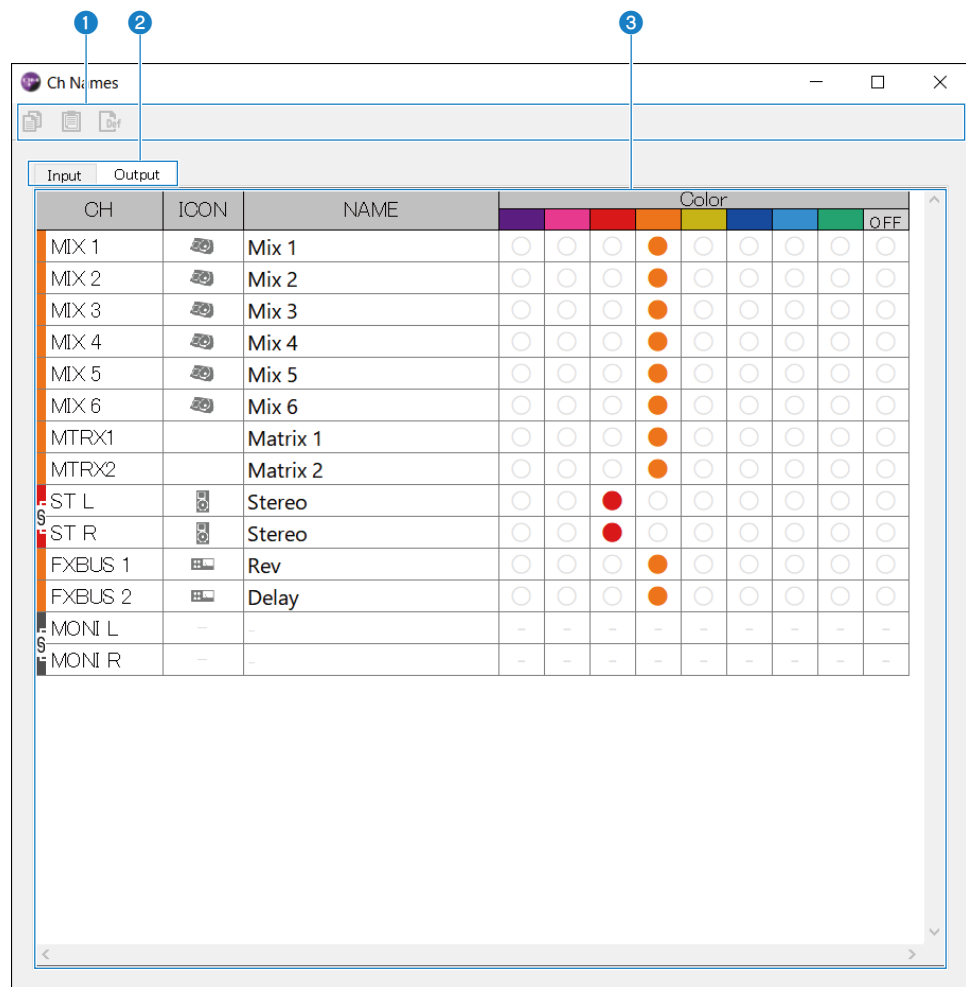
- Manage Library/Scene画面では、個別ファイルを直接コンピューターのデスクトップなどへのドラッグ&ドロップが使用できません。
- 複数のシーンファイルをコンピューターからコピー/移動する場合は、コピー/移動先として選択した行から順にコピーされます。このとき、上書きするデータにプロテクトがかかっているときは、プロテクトがかかっている行に対してはコピー/移動ができません。
- コピー/移動先のバンクにあるシーンの数が、コピー/移動することで最大数（100個）を超える場合は、最大数（100個）になるところまでコピー/移動します。
- ライブラリーのコピー/移動先のバンクが最大数（1000個）を超える場合はコピー/移動ができません。

Ch Names画面

Ch Names画面は、インプットチャンネルとアウトプットチャンネルのアイコン、ネーム、カラーを設定する画面です。

① ② ③

CH	ICON	NAME	Color								
			Purple	Pink	Red	Orange	Yellow	Blue	Cyan	Green	OFF
CH 1	🔌	ch 1	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
CH 2	🔌	ch 2	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
CH 3	🔌	ch 3	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
CH 4	🔌	ch 4	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
CH 5	🔌	ch 5	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
CH 6	🔌	ch 6	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
CH 7	🔌	ch 7	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
CH 8	🔌	ch 8	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
CH 9	🔌	ch 9	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
CH10	🔌	ch10	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
CH11	🔌	ch11	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
CH12	🔌	ch12	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
CH13	🔌	ch13	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
CH14	🔌	ch14	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
CH15	🔌	ch15	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
CH16	🔌	ch16	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
STIN L	📞	Playback	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
STIN R	📞	Playback	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
FXRTN1L	📺	Rev	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
FXRTN1R	📺	Rev	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
FXRTN2L	📺	Delay	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
FXRTN2R	📺	Delay	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>



1 ツールバー

- **Copyボタン:**

選択したチャンネル行、パラメーター列、セルの内容をコピーします。

- **Pasteボタン:**

コピーした内容を選択した箇所にペーストします。

- **Defaultボタン:**

選択した内容を初期値に戻します。

パラメーターのタイトル部分をクリックすると、そのパラメーターの列がすべて選択されます。この状態でDefaultボタンをクリックすると、選択されたチャンネルの該当パラメーターがすべて初期値に戻ります。

② 表示切り替えタブ

Editエリアに表示する内容を、Input、Outputに切り替えます。

③ Editエリア

表示しているチャンネルのチャンネル名、チャンネルアイコン、チャンネルカラーを設定します。チャンネルの種類によって、表示されるパラメーターが変わります。

ここでの編集内容は、DM3 Editorのメインウィンドウと同期します。また、DM3シリーズ本体と接続中は、編集内容が本体とも双方向で同期します。

Editエリア内で右クリック (Windows) /Ctrl+クリック (Mac) するとメニューが表示されません。

Editエリアで編集できるパラメーター

• Stereo Link :

Stereo Linkの設定/解除は、メニューから操作します。チャンネルを選択した状態で右クリック (Windows) /Ctrl+クリック (Mac) するとメニューが表示されます。

リンクしたチャンネルの間には鎖アイコンが表示されます。

• Channel Icon :

クリックするとメニューが表示され、チャンネルアイコンを選択できます。

• Channel Name :

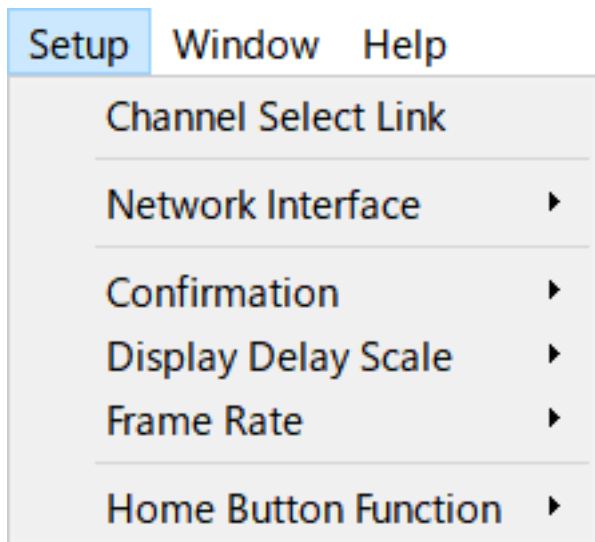
クリックするとテキスト入力ができます。

• Channel Color :

該当する色のセルをクリックすると、チャンネルカラーが設定されます。

Setupメニュー

Setupメニューは、DM3 Editorを使用するときの環境を設定します。



各項目を選択するとチェックマークが表示されて、その機能が有効になります。もう一度選択するとチェックが外れて、機能が無効になります。

- **Channel Select Link :**

DM3シリーズ本体と同期中に、チャンネル選択を本体と同期させるかどうかを設定します。

- **Network Interface :**

DM3シリーズ本体とコンピューターが通信するネットワークポートを選択します。
お使いの環境に合わせて表示内容は異なります。

- **Confirmation :**

Store、Recall、INPUT Patch、OUTPUT Patchの各機能を操作したときに、確認ダイアログを表示するかどうかを設定します。
チェックを入れると確認ダイアログが有効になります。

- **Display Delay Scale :**

DELAYボックスに表示するディレイタイムの単位を、sample（サンプル）、frame（フレーム）、meter（メートル）、feet（フィート）、ms（ミリ秒）から選択します。

- **Frame Rate :**

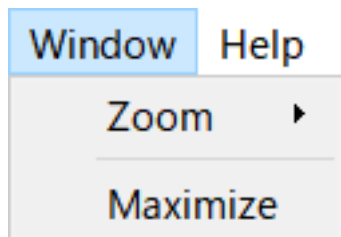
frame単位でディレイ設定のフレームレートを選択します。

- **Home Button Function :**

HOMEボタンをクリックしたときに表示するセクションを選択します。「CH STRIP & Selected Channel」を選択したときは、HOMEボタンをクリックするたびにCH STRIPセクションとSelected Channelセクションが切り替わって表示されます。

Windowメニュー

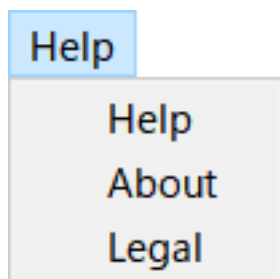
Windowsメニューは、画面表示についての設定をします。



- **Zoom :**
アプリケーションの表示サイズを、100%、150%、200%にします。
- **Maximize :**
DM3 Editorの表示サイズをディスプレイ上で最大化します。

Helpメニュー

Helpメニューは、DM3 Editorのマニュアル、バージョン、ライセンスの情報を表示します。



- **Help :**
Webブラウザを起動して、マニュアルライブラリーを表示します。
- **About :**
DM3 Editorのバージョンを表示するAbout画面を表示します。
- **Legal :**
DM3 EditorのLicense画面を表示します。

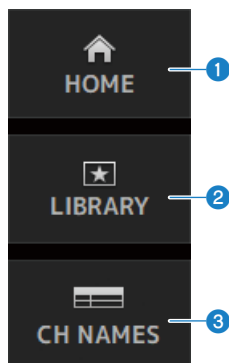
お知らせ

マニュアルライブラリーの表示には、インターネット接続が必要です。

Editorのエリア

HOME/LIBRARY/CH NAMESエリア

HOME/LIBRARY/CH NAMESエリアは、DM3 Editorの表示を切り替えるショートカットボタンです。



① HOMEボタン

メイン表示エリアにHOME画面を表示します。

② LIBRARYボタン

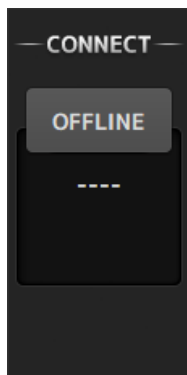
メイン表示エリアにLIBRARY画面を表示します。

③ CH NAMESボタン

Ch Names画面を表示します。

CONNECTエリア

CONNECTエリアは、DM3 EditorとDM3シリーズ本体の接続をコントロールします。



ステータスボタン

このボタンをクリックするたびにONLINE/OFFLINEの状態が切り替わります。



DM3 EditorとDM3シリーズ本体が正しく接続されていると、ボタンがこの表示になります。この状態のとき、DM3 EditorとDM3シリーズ本体のパラメーターが連動します。



DM3 EditorとDM3シリーズ本体が接続されていない場合、接続に問題がある場合、またはオフラインエディットが選択されている場合にボタンがこの表示になります。

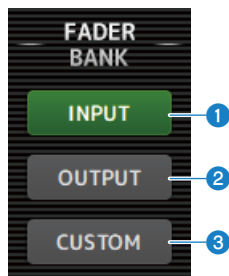
この状態のときはDM3 EditorとDM3シリーズ本体のパラメーターは連動しません。

お知らせ

DM3 EditorとDM3シリーズ本体のチャンネル選択を連動させるかどうかを設定できます。Setupメニュー→Channel Select Linkで設定します。

FADER BANKエリア

DM3 EditorのFADER BANKエリアは、DM3 EditorのCH STRIPに表示するフェーダーバンクを切り替えます。



① INPUTバンク

CH1-16がCH STRIPエリアに展開されます。

② OUTPUTバンク

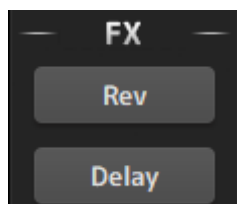
MIX1-6、MATRIX1-2、FX BUS、MONITORがCH STRIPエリアに展開されます。

③ CUSTOMバンク

設定されているカスタムフェーダーバンクが展開されます。

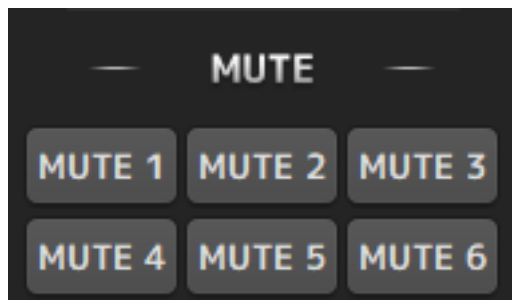
FXエリア

DM3 EditorのFXエリアのFXボタンをタッチすると、メインエリアにFX画面を表示します。



MUTEエリア

MUTEエリアは、DM3シリーズ本体のミュートのオン/オフを一括で操作します。



ミュートグループボタン

DM3シリーズ本体のインプットチャンネルを一括でミュートします。ミュートがオンのときに点灯します。

お知らせ

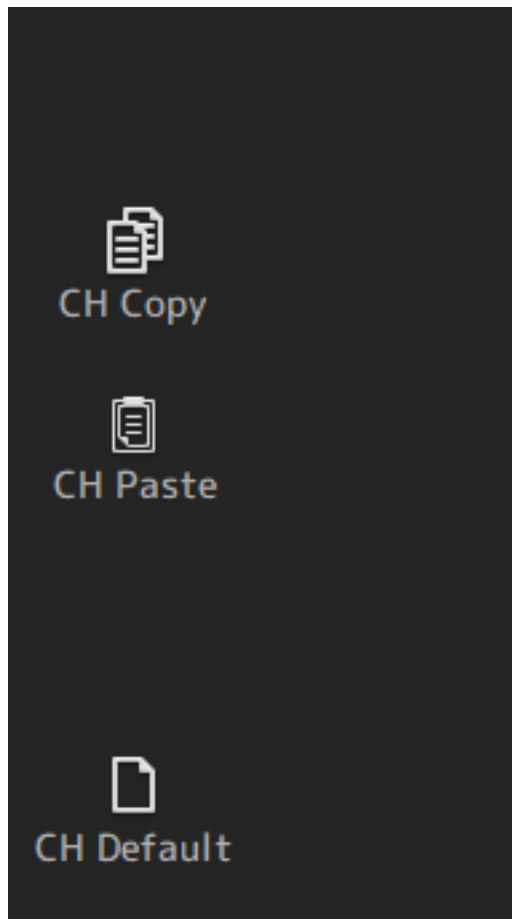
インプットチャンネルのミュートセーフをオンにすると、ミュートグループから除外できます。

MENUエリア

MENUエリアには、メニューが表示されます。

メイン表示エリアに表示されている画面によって操作できるメニューを表示します。

表示されるメニューの内容については、各画面の説明をご参照ください。

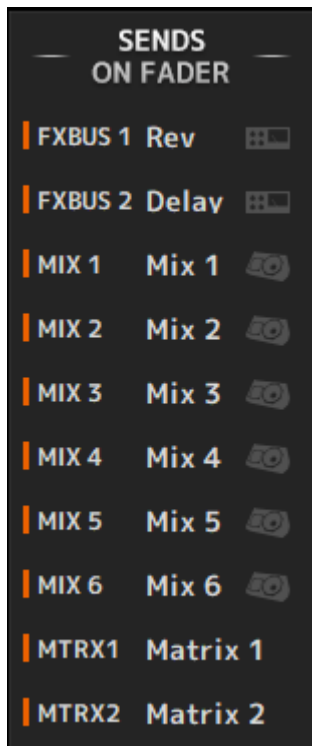


SENDS ON FADERエリア

SENDS ON FADERエリアは、CH STRIPエリアを、一時的に特定のバスへのセンドレベルやセンドのオン/オフのコントロールへと切り替えます。

バスをクリックすると選択されてハイライト表示になり、SENDS ON FADERモードになります。

選択されているバスをもう一度クリックすると、SENDS ON FADERモードを解除します。



CH STRIPエリア

CH STRIPエリアには、DM3 EditorのFADER BANKの選択に対応したチャンネルストリップを表示します。



1 ONボタン

チャンネルのオン/オフを切り替えます。オンのチャンネルは、ボタンが点灯します。SENDS ON FADERモードでは、そのチャンネルから現在選ばれているMIX BUS、MATRIX BUS、FX BUSに送られる信号のオン/オフを切り替えます。

2 フェーダー値表示

現在のフェーダー値を表示します。

クリックすると選択枠がピンク色になり、マウスホイールで操作できます。もう一度クリックするとコンピューターキーボードで数値を直接入力できます。コンピューターのエンターキーを押すと値を確定します。エンターキーを押さずに、他のパーツをクリックしたり、DM3シリーズ本体のフェーダーを操作すると、編集前の値に戻ります。

3 フェーダー

チャンネルの信号レベルを調節します。SENDS ON FADERモードでは、そのチャンネルから現在選ばれているMIX BUS、MATRIX BUS、FX BUSへのセンドレベルを調節します。

クリックすると選択枠がピンク色になり、マウスホイールで操作できます。

SENDS ON FADERモードのときは、フェーダーノブの色が送り先のチャンネルカラーに替わります。

4 CH表示

チャンネルのID、カラー、アイコンが表示されます。クリックするとそのチャンネルが選択状態になります。

5 CUEボタン

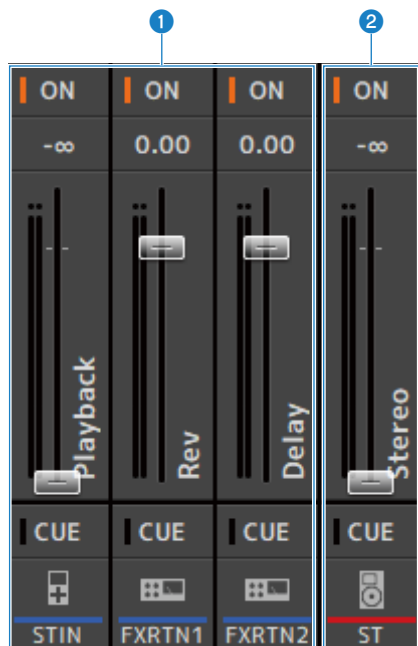
CUEでモニターするチャンネルを選びます。オンのときに点灯します。

6 CLEAR CUEボタン

すべてのチャンネルのCUEを一括でオフにします。

MAIN/FX RTN/ST IN STRIPエリア

DM3 EditorのMAIN/FX RTN/ST IN STRIPエリアは、MAIN/FX RTN/ST INのチャンネルストリップが常に表示されているエリアです。



① FX RTN/ST IN STRIP

FX RTNチャンネルとST INチャンネルを操作します。

SENDS ON FADERモードのときは、フェーダーノブが送り先のチャンネルカラーになります。

② MAIN STRIP

STEREO BUSを操作します。

SENDS ON FADERモードのときは、MAINストリップとして送り先のチャンネルが表示されます。また、フェーダーノブの色が送り先のチャンネルカラーになります。

Editorの操作

Editorの操作概要

マウスやキーボードを使用したDM3 Editorの操作方法について説明します。

マウスホイールでの操作

マウスホイールを使って、本体の[TOUCH AND TURN]ノブと同様の操作ができます。

PCキーボードでの操作

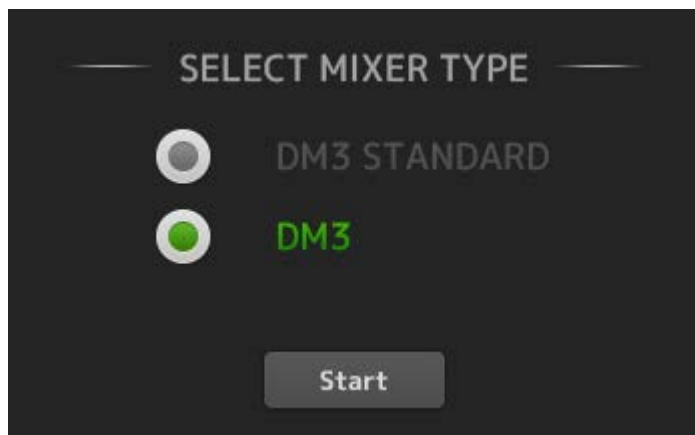
PCキーボードでは、本体のSOFT KEYBOARD画面と同様のテキスト入力ができます。

タッチスクリーンでの操作

タッチパネルPCなどでは、ディスプレイのタッチによる操作ができます。

Editorの起動時の操作

DM3 Editorを起動したときは、DM3シリーズの機種を選択する画面が表示されます。



機種を選んで[Start]ボタンをクリックすると、HOME画面が表示されます。

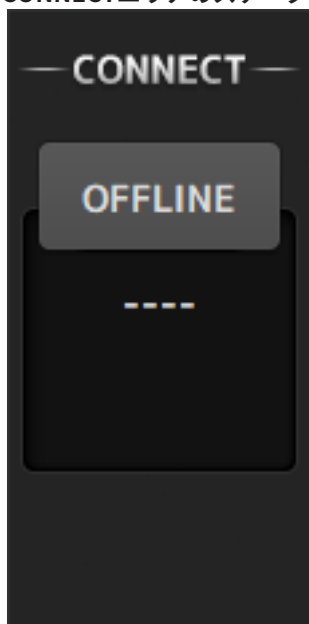
次回以降は、ここで選択した機種の設定で起動します。

Editorと本体の同期

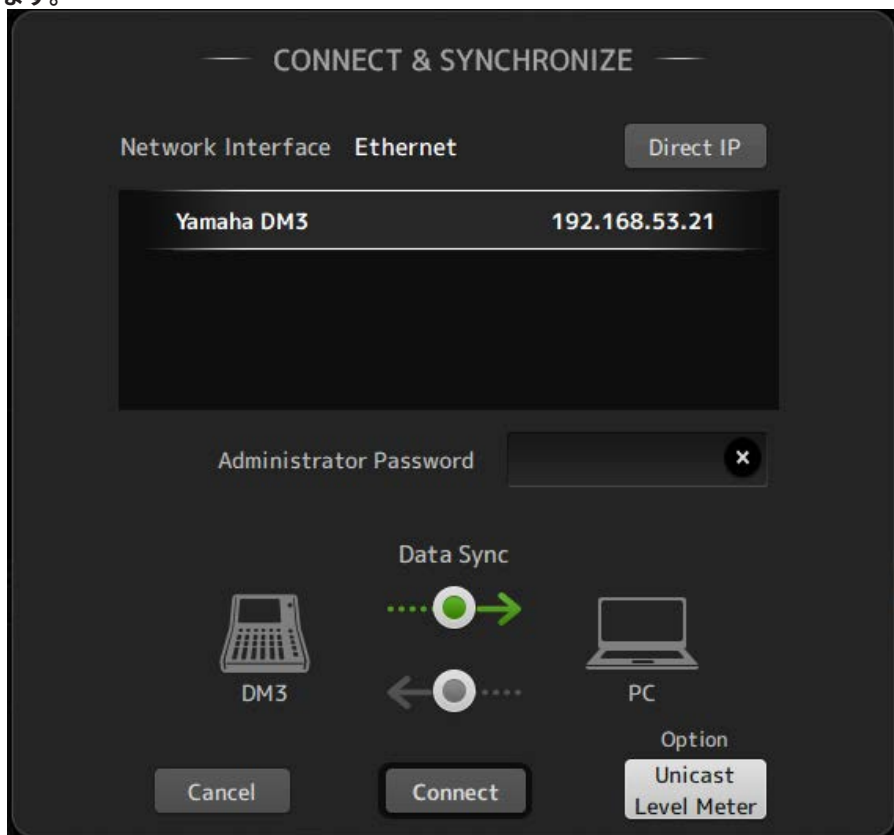
DM3 Editorを起動した時点では、DM3シリーズ本体とDM3 Editorでパラメーターの設定が異なります。このため、最初にDM3シリーズ本体とDM3 Editorの設定を同期する必要があります。

同期をする前に、ネットワークインターフェースを設定します。

- 1** SETUP→Network Interfaceを選択します。
- 2** 使用するネットワークインターフェースを一覧から選択します。
- 3** OKをクリックします。
- 4** CONNECTエリアのステータスボタンをクリックします。



5 CONNECT画面で、同期する対象となるDM3シリーズ本体と、同期する方向を選びます。



同期対象のDM3シリーズは、DM3 Editorを起動するときに設定した機種を選択できません。

DIRECT IPボタンを使用すると、自動検索ではなくIPアドレスを直接指定できます。

Unicast Level Meterボタンを使用すると、DM3が異なるサブネット上にあってもレベルメーター情報を表示できます。

DM3シリーズ本体に接続されているDM3 EditorやDM3 StageMixがすでに最大数（合計3台）に達している場合は、IP Addressの左横に禁止マークが表示されます。また、禁止マークが表示されていないDM3シリーズ本体を選んでCONNECTボタンを押しても、他のDM3 EditorやDM3 StageMixとの接続状況によっては、接続できなかったことを示すメッセージが表示される場合があります。

同期する方向は下記の通りです。

DM3→PC DM3シリーズ本体のパラメーター設定をDM3 Editorにコピーします。

DM3←PC DM3 Editorのパラメーター設定をDM3シリーズ本体にコピーします。

- 6** DM3シリーズ本体に、Administratorのパスワードを設定している場合は、パスワードを入力します。
- 7** CONNECTボタンをクリックします。
同期中はDM3シリーズ本体を操作しないでください。

Editorのオフラインエディット機能

DM3シリーズ本体とDM3 Editorを連動させない場合は、CONNECTエリアのステータスボタンをクリックしてOFFLINEに切り替えます。オフラインエディットで編集した内容をDM3シリーズ本体に反映させたいときは、もう一度ステータスボタンをクリックして、「DM3←PC」で同期をとります。

付録

パラメーター

SAVE/LOADの対象データ

SAVE/LOADの対象データは以下のとおりです。

対象	内容
Scene Memory	全 Sceneと Current Scene
Channel Library	全 Channel Preset
Dante Patch Library	
+48V Active	
Mute Safe	
Mute Group Control	
Cue	各チャンネルのCueは除く
Oscillator	Oscillator ON 以外
Monitor	
Meter	
Recall Safe	
User Defined Keys	
Custom Fader Bank	
Preference	[HOME] Key以外
Dante Setup	
User Account	

付録 > パラメーター

対象外	内容
Cue	各チャンネルのCue
Oscillator	Oscillator ON
Brightness	
Preference	[HOME] Key
Date Time	
Network	
Console Lock	
Input Port Trim	
Output Port Trim	
Fader Calibration	
FAN Setting	
画像ファイル	Console Lock、Screen Lockで表示する画像ファイル

USER DEFINED KEYSに割り当てられる機能

FUNCTION	PARAMETER1	PARAMETER2	機能説明
No Assign			機能の割り当てなし
Brightness	Bank Change		Brightness設定のバンクを切り替える
CH ON	Specific CH	CH 1-16 ST IN FX RTN 1-2 MIX 1-6 FX 1-2 STEREO MATRIX 1-2	PARAMETER2で選択したチャンネルをオン/オフする
		Inc	PARAMETER1で選択した方向にチャンネルを順次切り替える
	Dec		PARAMETER1で選択した方向にチャンネルを順次切り替える
CH Select	Specific CH	CH 1-16 ST IN FX RTN 1-2 MIX 1-6 FX 1-2 STEREO MATRIX 1-2	PARAMETER2で選択したチャンネルに切り替える
		CUE	Specific CH
Effect	Bypass	FX 1-2	PARAMETER2で選択したエフェクトをバイパスする
EQ	Band Select	HPF LPF	PARAMETER2で設定したバンドを選択する
		Low Low-Mid High-Mid High	

FUNCTION	PARAMETER1	PARAMETER2	機能説明
Meter	Peak Hold ON		METERのピークホールド機能をオン/オフする
	Output		モニターアウトをオン/オフする
Monitor	Source Select	STEREO PLAYBACK USB 17/18 MIX 1-6 MATRIX 1-2	PARAMETER2で選択したモニターソースに切り替える
Mute Group Control	MUTE GROUP 1-6		PARAMETER1で選択したミュートグループをオン/オフする
	Oscillator On		オシレーターをオン/オフする
Oscillator	Specific CH	MIX 1-6 STEREO L,R MATRIX 1-2 FX 1-2 CH 1-16 ST IN L,R FX RTN 1-2 L,R	PARAMETER2で選択したチャンネルへのオシレーターアサインをオン/オフする
Page Change	Bookmark		2秒以上の長押しで表示中の画面をブックマークに保存する 2秒未満の場合は保存してあった画面を呼び出す
	Bookmark with "SEL"		選択チャンネルも込みで、ブックマークに保存する その他はBookmarkと同じ
	Menu		メニュー画面を表示する
	Close Popup		ポップアップ画面を閉じる
Recorder	Transport	Play/Pause	RECORDER画面の再生/一時停止ボタンと同じ機能
		Stop	RECORDER画面の停止ボタンと同じ機能
		Next	RECORDER画面のNextボタンと同じ機能
		Previous	RECORDER画面のPreviousボタンと同じ機能
		Rec	RECORDER画面の録音ボタンと同じ機能
		Auto Rec	録音を停止し、新しいファイルで次の録音を開始する
		Rec & Start	ワンタッチで録音を開始する
SCENE	Inc		一つ大きい番号のSCENEを選択する

FUNCTION	PARAMETER1	PARAMETER2	機能説明
SCENE	Dec		一つ小さい番号のSCENEを選択する
	Store		選択した番号にカレント設定を上書きストアする
	Recall		選択した番号のSCENEをリコールする
	Inc Recall		一つ番号の大きいSCENEをリコールする
	Dec Recall		一つ番号の小さいSCENEをリコールする
	Direct Recall/ Store	No.A00-A99 No.B00-B99	PARAMETER2で選択した番号のSCENEをリコールする 2秒以上長押しした場合は、その番号にカレント設定を上書きストアする
Sends On Fader	MIX 1-6 MATRIX 1-2 FX 1-2	Normal With Cue	PARAMETER1で選択したバスのSENDS ON FADERモードをオン/オフする
TAP TEMPO			エフェクトのタップテンポを設定する
DAW Remote	Transport	Play	DAW REMOTE画面の再生ボタンと同じ機能
		Stop	DAW REMOTE画面の停止ボタンと同じ機能
		Rewind	DAW REMOTE画面の巻き戻しボタンと同じ機能
		Fast Forward	DAW REMOTE画面の早送りボタンと同じ機能
		Rec	DAW REMOTE画面の録音ボタンと同じ機能
		Return to Zero	DAW REMOTE画面の開始位置ボタンと同じ機能
	Loop	DAW REMOTE画面のLOOPボタンと同じ機能	
DAW Remote			DAW Remoteモードをオン/オフする

コントロールチェンジにアサインできるパラメーターリスト

Mode	Parameter1	Parameter2
No Assign		
Fader H	Input	CH 1-16 ST IN FX RTN 1-2
	Output	FX BUS 1-2 MIX 1-6 STEREO MATRIX 1-2
Fader L	Input	CH 1-16 ST IN FX RTN 1-2
	Output	FX BUS 1-2 MIX 1-6 STEREO MATRIX 1-2
CH ON	Input	CH 1-16 ST IN FX RTN 1-2
	Output	FX BUS 1-2 MIX 1-6 STEREO MATRIX 1-2

エフェクトパラメーター

REVERB HD HALL, REVERB HD ROOM, REVERB HD PLATE

ヤマハ直系の密度の高いリバーブシミュレーションです。

- ・ HD HALLは、コンサートホールをシミュレートしたリバーブ
- ・ HD ROOMは、ルームアコースティックをシミュレートしたリバーブ
- ・ HD PLATEは、プレートエコーをシミュレートしたリバーブ

Parameter	Range	Description
Reverb Time	0.3s - 30.0s	リバーブの残響の長さ
Room Size	0 - 4	(HALL, ROOMのみ) 音が鳴っている空間の大きさ
Plate Type	0 - 2	(PLATEのみ) 響き具合
Initial Delay	0.1ms - 200.0ms	リバーブの初期反射音が出るまでの遅延時間
High Damp Freq	1.0kHz - 20.0kHz	高域の減衰を調整する
High Ratio	0.1 - 1.0	リバーブの高域成分の残響時間のReverb Timeに対する比率
HPF	Thru, 21.2Hz - 8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz - 16.0kHz, Thru	ローパスフィルターのカットオフ周波数

REV R3 HALL, REV R3 ROOM, REV R3 PLATE

プロフェッショナルリバーブ専用機ProR3直系のアルゴリズムを採用したリバーブです。

- ・ R3 HALLは、コンサートホールをシミュレートしたリバーブ
- ・ R3 ROOMは、ルームアコースティックをシミュレートしたリバーブ
- ・ R3 PLATEは、プレートエコーをシミュレートしたリバーブ

Parameter	Range	Description
Reverb Time	0.3s - 30.0s	リバーブの残響の長さ
Initial Delay	0.1ms - 200ms	リバーブの初期反射音が出るまでの遅延時間
High Ratio	0.1 - 1.0	リバーブの高域成分の残響時間のREV TIMEに対する比率
Diffusion	0 - 10	リバーブ音の左右の広がり
Density	0 - 4	リバーブの密度
HPF	Thru, 21.2Hz - 8.00kHz	ハイパスフィルタのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz - 16.0kHz, Thru	ローパスフィルタのカットオフ周波数
Reverb Delay	0.1ms - 200.0ms	初期反射音からリバーブ音までのディレイタイム
ER/Rev Balance	E63>R - E<R63	初期反射音とリバーブ音のレベルバランス
Feedback Gain	-99% - +99%	イニシャルディレイのフィードバック量

EARLY REF

1 IN/2 OUTのアーリーリフレクションです。残響の初期反射音のみを取り出したエフェクトです。

Parameter	Range	Description
Type	S-Hall, L-Hall, Random, Reverse, Plate, Spring	初期反射音のパターンのタイプ
Room Size	0.1 - 20.0	部屋の大きさ（反射音の間隔）
Liveness	0 - 10	反射音の減衰のしかた（0: dead, 10: Live）
Initial Delay	0.1ms - 200.0ms	初期反射音が出るまでの遅延時間
Diffusion	0 - 10	反射音の左右の広が
Density	0 - 3	反射音の密度
Feedback Gain	-99% - +99%	フィードバックの量
High Ratio	0.1 - 1.0	フィードバックの高域成分
HPF	Thru, 21.2Hz - 8.00kHz	ハイパスフィルタのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz - 16.0kHz, Thru	ローパスフィルタのカットオフ周波数

GATE REVERB

1 IN/2 OUTのゲートリバーブです。

Parameter	Range	Description
Type	Type-A, Type-B	初期反射音のパターンのタイプ
Room Size	0.1 - 20.0	部屋の大きさ（反射音の間隔）
Liveness	0 - 10	反射音の減衰のしかた（0: dead, 10: Live）
Initial Delay	0.1ms - 200.0ms	初期反射音が出るまでの遅延時間
Diffusion	0 - 10	反射音の左右の広が
Density	0 - 3	反射音の密度
Feedback Gain	-99% - +99%	フィードバックの量
High Ratio	0.1 - 1.0	フィードバックの高域成分
HPF	Thru, 21.2Hz - 8.00kHz	ハイパスフィルタのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz - 16.0kHz, Thru	ローパスフィルタのカットオフ周波数

MONO DELAY

1 IN/2 OUTのベーシックなりピートディレイです。

Parameter	Range	Description
Delay	1.0 - 2700.0ms	ディレイタイム
Feedback Gain	-99 - +99	フィードバックの量
High Ratio	0.1 - 1.0	フィードバックの高域成分の量
HPF	Thru, 21.2Hz - 8.00kHz	ハイパスフィルタのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz - 16.0kHz, Thru	ローパスフィルタのカットオフ周波数
Sync	OFF, ON	テンポパラメーター同期のオンオフ
Note	----, *1 - *14	テンポからDELAYを換算するための値

STEREO DELAY

2 IN/2 OUTのベーシックなステレオディレイです。

Parameter	Range	Description
Delay L	1.0 - 1350.0ms	Lチャンネルのディレイタイム
Delay R	1.0 - 1350.0ms	Rチャンネルのディレイタイム
Feedback Gain L	-99 - +99	Lチャンネルのフィードバックの量
Feedback Gain R	-99 - +99	Rチャンネルのフィードバックの量
High Ratio	0.1 - 1.0	フィードバックの高域成分の量
HPF	Thru, 21.2Hz - 8.00kHz	ハイパスフィルタのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz - 16.0kHz, Thru	ローパスフィルタのカットオフ周波数
Sync	OFF, ON	テンポパラメーター同期のオンオフ
Note L	----, *1 - *14	テンポからDELAY Lを換算するための値
Note R	----, *1 - *14	テンポからDELAY Rを換算するための値

DELAY LCR

1 IN/2 OUTの3タップディレイです。

Parameter	Range	Description
Delay L	1.0 - 2700.0ms	Lチャンネルのディレイタイム
Delay C	1.0 - 2700.0ms	センターチャンネルのディレイタイム
Delay R	1.0 - 2700.0ms	Rチャンネルのディレイタイム
Delay FB	1.0 - 2700.0ms	フィードバックのディレイタイム
Feedback Gain	-99 - +99	フィードバックの量
High Ratio	0.1 - 1.0	フィードバックの高域成分の量
HPF	Thru, 21.2Hz - 8.00kHz	ハイパスフィルタのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz - 16.0kHz, Thru	ローパスフィルタのカットオフ周波数
Level L	-100 - +100	Lチャンネルのレベル
Level C	-100 - +100	センターチャンネルのレベル
Level R	-100 - +100	Rチャンネルのレベル
Sync	OFF, ON	テンポパラメーター同期のオンオフ
Note L	----, *1 - *14	テンポからDELAY Lを換算するための値
Note C	----, *1 - *14	テンポからDELAY Cを換算するための値
Note R	----, *1 - *14	テンポからDELAY Rを換算するための値
Note FB	----, *1 - *14	テンポからDELAY FBを換算するための値

ECHO

2 IN/2 OUTのクロスフィードバックループ付きステレオディレイです。

Parameter	Range	Description
Delay L	1.0 - 1350.0ms	Lチャンネルのディレイタイム
Delay R	1.0 - 1350.0ms	Rチャンネルのディレイタイム
Delay FB L	1.0 - 1350.0ms	Lチャンネルのフィードバックディレイタイム
Delay FB R	1.0 - 1350.0ms	Rチャンネルのフィードバックディレイタイム
Feedback Gain L	-99 - +99	Lチャンネルのフィードバックの量
Feedback Gain R	-99 - +99	Rチャンネルのフィードバックの量
XFeedback Gain	-99 - +99	L->R, R->Lのフィードバック量
High Ratio	0.1 - 1.0	フィードバックの高域成分の量
HPF	Thru, 21.2Hz - 8.00kHz	ハイパスフィルタのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz - 16.0kHz, Thru	ローパスフィルタのカットオフ周波数
Sync	OFF, ON	テンポパラメーター同期のオンオフ
Note L	----, *1 - *14	テンポからDELAY Lを換算するための値
Note R	----, *1 - *14	テンポからDELAY Rを換算するための値
Note FBL	----, *1 - *14	テンポからDELAY FB Lを換算するための値
Note FBR	----, *1 - *14	テンポからDELAY FB Rを換算するための値

CHORUS

2 IN/2 OUTのコーラスエフェクトです。

Parameter	Range	Description
Frequency	0.05Hz - 10.00Hz	モジュレーションのスピード
AM Depth	0% - 100%	振幅変調の深さ
PM Depth	0% - 100%	ピッチ変調の深さ
MOD. Delay	1.0ms - 500.0ms	モジュレーションのディレイタイム
Sync	Off, On	テンポパラメーター同期のオンオフ
Note	*1 - *14	テンポからFrequencyを換算するための値

FLANGE

2 IN/2 OUTのフランジエフェクトです。

Parameter	Range	Description
Frequency	0.05Hz - 10.00Hz	モジュレーションのスピード
Depth	0% - 100%	モジュレーションの深さ
MOD. Delay	1.0ms - 500.0ms	モジュレーションのディレイタイム
Feedback Gain	-99% - +99%	フィードバックの量
Sync	Off, On	テンポパラメーター同期のオンオフ
Note	*1 - *14	テンポからFrequencyを換算するための値

SYMPHONIC

2 IN/2 OUTのシンフォニックエフェクトです。

Parameter	Range	Description
Frequency	0.05Hz - 10.00Hz	モジュレーションのスピード
Depth	0% - 100%	モジュレーションの深さ
MOD. Delay	1.0ms - 500.0ms	モジュレーションのディレイタイム
Sync	Off, On	テンポパラメーター同期のオンオフ
Note	*1 - *14	テンポからFrequencyを換算するための値

PHASER

2 IN/2 OUTの16ステージエフェクトです。

Parameter	Range	Description
Frequency	0.05Hz - 10.00Hz	モジュレーションのスピード
Depth	0% - 100%	モジュレーションの深さ
Feedback Gain	-99% - +99%	フィードバックの量
Stage	2 - 16	フェイズシフトの段数
HPF	Thru, 21.2Hz - 8.00kHz	ハイパスフィルタのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz - 16.0kHz, Thru	ローパスフィルタのカットオフ周波数
Sync	Off, On	テンポパラメーター同期のオンオフ
Note	*1 - *14	テンポからFREQ.を換算するための値

PING PONG DELAY

1 IN/2 OUT のピンポンディレイです。ディレイ音が左右交互に等間隔で繰り返されるディレイエフェクトです。









Parameter	Range	Description
Delay	1.0ms - 1350.0ms	ディレイタイム
Feedback Gain	-99% - +99%	フィードバックの量
High Ratio	0.1 - 1.0	フィードバックの高域成分の量
HPF	Thru, 21.2Hz - 8.00kHz	ハイパスフィルタのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz - 16.0kHz, Thru	ローパスフィルタのカットオフ周波数
Sync	Off, On	テンポパラメーター同期のオンオフ
Note	----, *1 - *14	テンポからDELAYを換算するための値

DUAL PITCH

2 IN/2 OUT のピッチシフトエフェクトです。

Parameter	Range	Description
Pitch 1	-24 - +24	Ch1のピッチ (半音単位)
Fine 1	-50 - +50	Ch1のピッチ (1セント単位)
Level 1	-100 - +100	Ch1の音量
Pan 1	L63 - R63	Ch1のパン
Delay 1	1.0ms - 1000.0ms	Ch1のディレイタイム
Feedback Gain 1	-99 - +99	Ch1のフィードバックレベル
Pitch 2	-24 - +24	Ch2のピッチ (半音単位)
Fine 2	-50 - +50	Ch2のピッチ (1セント単位)
Level 2	-100 - +100	Ch2の音量
Pan 2	L63 - R63	Ch2のパン
Delay 2	1.0ms - 1000.0ms	Ch2のディレイタイム
Feedback Gain 2	-99 - +99	Ch2のフィードバックレベル
Sync	Off, On	テンポパラメーター同期のオンオフ
Note1	----, *1 - *14	テンポからDELAY 1を換算するための値
Note2	----, *1 - *14	テンポからDELAY 2を換算するための値

DELAYの音符

- *1:

- *2:

- *3:

- *4:

- *5:

- *6:

- *7:

- *8:


付録 > パラメーター

• *9:

↓

• *10:

↓.

• *11:

↓

• *12:

↓.

• *13:

□

• *14:

□□

Dante Auto Setupの対応モデル

Dante Auto Setup機能が対象とするDante機器は以下の通りです。

- Tio1608-D
- Rio1608-D
- Rio3224-D
- Rio1608-D2
- Rio3224-D2
- DZR10-D
- DZR12-D
- DZR15-D
- DZR315-D
- DXS15XLF-D
- DXS18XLF-D

Dante Auto Setupのパッチ

Auto SetupはDanteネットワーク上のAuto Setup対応機器に対して、以下のようにパッチします。

DM3 Dante Port	UNIT ID	対応モデル	シグナル
In 01	Y001	Tio1608-D Rio1608-D Rio3224-D Rio1608-D2 Rio3224-D2	Tx 01
In 02			Tx 02
In 03			Tx 03
In 04			Tx 04
In 05			Tx 05
In 06			Tx 06
In 07			Tx 07
In 08			Tx 08
In 09			Tx 09
In 10			Tx 10
In 11			Tx 11
In 12			Tx 12
In 13			Tx 13
In 14			Tx 14
In 15			Tx 15
In 16			Tx 16
Out 01	Y001	Tio1608-D Rio1608-D Rio3224-D Rio1608-D2 Rio3224-D2	Rx 01
Out 02			Rx 02
Out 03			Rx 03
Out 04			Rx 04
Out 05			Rx 05
Out 06			Rx 06
Out 07			Rx 07
Out 08			Rx 08
Out 09	Y001	DZR10-D DZR12-D DZR15-D DZR315-D DXS15XLF-D DXS18XLF-D	Rx 01
Out 10	Y002		Rx 01
Out 11	Y003		Rx 01
Out 12	Y004		Rx 01
Out 13	Y005		Rx 01
Out 14	Y006		Rx 01
Out 15	Y007		Rx 01
Out 16	Y008		Rx 01

お知らせ

- Tio/Rio/Rio-D2のいずれか1台とDZR/DXSを複数台接続できます。
- UNIT IDが同じモデルが複数ある場合は、先に発見された機器がパッチされます。

入出力パッチの初期値

DM3シリーズが初期状態のとき、それぞれのインプット系チャンネルには以下の入力ポート（端子/ポート/バス）がパッチされています。

インプット系チャンネル	入力ポート（端子/ポート/バス）
CH 1-16	INPUT 1-16
ST IN L/R	PLAYBACK L/R
FX RTN 1-2 L/R	FX 1-2 L/R

DM3シリーズが初期状態のとき、それぞれの出力ポート（端子/ポート）は、以下のチャンネルにパッチされています。DANTEはDM3のみ使用できます。

出力ポート（端子/ポート）	チャンネル
OMNI OUT 1-6	MIX 1-6
OMNI OUT 7-8	STEREO L/R
DANTE 1-6	MIX 1-6
DANTE 7-8	STEREO L/R
DANTE 9-10	MATRIX 1-2
DANTE 11-12	MONITOR L/R
DANTE 13-16	NONE
USB 1-16	INPUT 1-16
USB 17-18	STEREO L/R
RECORDER INPUT L/R	STEREO L/R

解説

Danteについて

DM3は、オーディオ信号を伝送するプロトコルとしてDanteを採用しています。Danteとは、Audinate社が開発したプロトコルで、ギガビットイーサネット対応のネットワーク環境で、サンプリング周波数/ビットレートが違う複数のオーディオ信号や、機器のコントロール信号を同時に扱える特長を持っています。そのほか、下記のようなメリットがあります。

- ・理論上はギガビットイーサネット環境で最大512イン/512アウトで合計1024チャンネルの音声を伝送ができます。
- ・ネットワーク内の機器を自動的に検出・設定し、機器名も自由に設定できます。
- ・高精度のネットワークシンクロ技術の採用により、低レイテンシー、低ジッター、高サンプル精度を実現します。
- ・プライマリー回線とセカンダリー回線による、万が一の障害に強いリダンダント接続に対応しています。
- ・イーサネットでコンピューターと接続し、オーディオインターフェース機器なしで音声を直接入力/出力することができます。
- ・CAT5eのネットワークケーブルを使用した機器間で最長約100mの長距離伝送ができます。但し、ケーブルの種類によって、使用できるケーブルの長さは異なります。

Danteの詳細については、Audinate社のウェブサイトをご参照ください。

<https://www.audinate.com/>

また、ヤマハプロオーディオのウェブサイトにも、Danteに関するさまざまな情報を掲載しています。

<https://www.yamahaproaudio.com/>

Dante Controllerについて

Dante Controllerは、Danteネットワークの設定とオーディオのルーティングをするためのアプリケーションソフトです。Danteネットワーク上の複雑な信号経路を設定する場合は、Dante Controllerを使います。下記のウェブサイトには情報が掲載されています。

<https://www.yamahaproaudio.com/>

お知らせ

- ・Danteを使用できるのはDM3のみです。DM3 STANDARDは使用できません。
- ・DM3のオーディオ信号の伝送は、16イン/16アウトで、24ビット/32ビットを選択できます。
- ・DM3のレイテンシーは、0.25msec/0.5msec/1.0msec/2.0msec/5.0msecの5タイプから選択できます。

Danteネットワーク内では、ネットワークスイッチのEEE機能(*)を使用しないでください。

EEE機能に対応したスイッチ間では、消費電力の相互設定が自動で調整されますが、相互設定の調整が正しく機能しないスイッチもあります。これにより、Danteネットワーク内の不適切な場面でスイッチのEEE機能が有効になってしまう可能性があり、クロック同期性能が悪化して音声途切れる場合があります。そのため、以下の点にご注意ください。

- マネージドスイッチを使う場合、Danteを使用するすべてのポートのEEE機能をオフにしてください。EEE機能がオフにできないスイッチは使用しないでください。
- アンマネージドスイッチを使う場合、EEE機能に対応したスイッチを使用しないでください。これらのスイッチはEEE機能をオフにできません。

*EEE (Energy Efficient Ethernet) 機能とは、ネットワークのトラフィックが少ないときにイーサネット機器の消費電力を減らす技術です。グリーンイーサネットやIEEE802.3azとも呼ばれています。

1-knob EQモードの仕組み

1-knob EQモードにすると、複数のパラメーターを同時にひとつのノブで操作できます。これにより、複雑なEQの調節を簡単に操作できます。本体にあらかじめ保存されているPresetには、それぞれの楽器に合ったEQが設定されています。このEQ設定を1-knob EQモードでひとつのノブで操作することで、全体のバランスを損なうことなくEQのかかり具合を調節できます。

マニュアルモードでEQの設定を作って1-knob EQモード (Intensity) に移行すると、マニュアルモードで作った設定を50% (中間の値) として、0% (EQがかかっていない状態) ~ 100% (マニュアルモードで作った設定をさらに強調した状態) の間でEQの設定を [TOUCH AND TURN] ノブで操作できます。あらかじめ作ったEQの設定の微調整を、ひとつのノブで操作できるので便利です。

1-knob EQのモードタイプをVocalやLoudnessに変更すると、あらかじめ用意されたEQカーブで0% (EQがかかっていない状態) ~ 100% (EQのかかり具合が最大の状態) の間で操作できます。

1-knob COMPモードの仕組み

1-knob COMPモードでは、コンプレッサーのかかり具合をひとつのノブで簡単に操作できます。

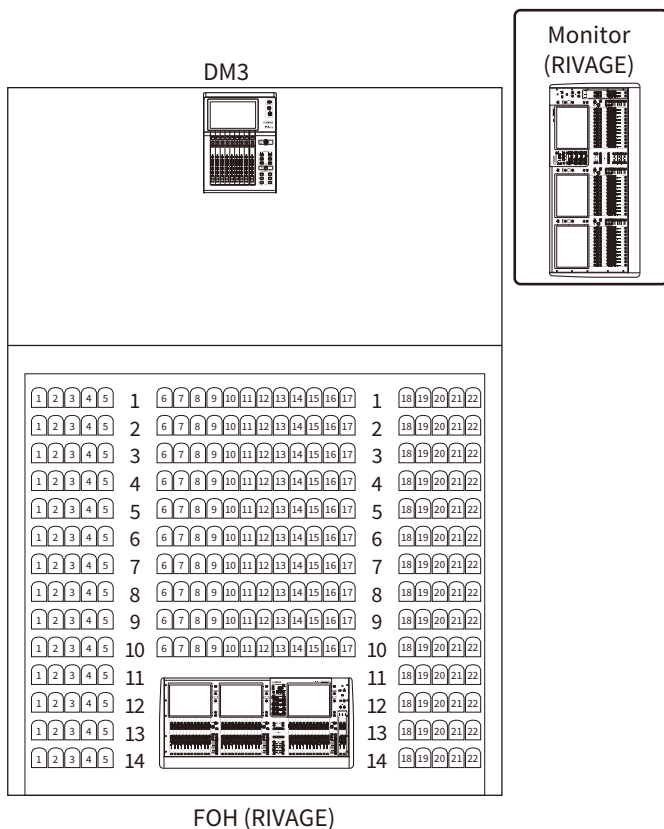
1-knobレベルスライダーを右に動かす、または[TOUCH AND TURN]ノブを右に回すほど、コンプレッションが強くなり、それに応じてレベルが上がります。この機能は、音量差のある音の粒を揃えて、音が前面に出てくるような効果が得られます。例えば、フェーダーやゲインによる音量調整だけでは、レベルオーバーしてしまう場合に有効です。

Threshold、Ratio、Out Gainのバランスを自動的にコントロールすることで、難しいコンプレッサーの設定を気にすることなく操作できます。

Port to Port機能について

Port to Port機能は、入出力ポート間の直接的なパッチングを可能にします。この機能により、DM3シリーズのアナログ入出力は、DM3のミキサー部を経由せずに外部Dante機器と直接ルーティングすることができます。

例えば、ドラム演奏者がモニターのバランスを自ら調整する場合、パーソナルモニター用ミキサーとI/Oデバイスの両方の機能を実現することができるので、必要な機材が減らせます。リモートI/OデバイスとしてDM3シリーズを設定することにより、FOHコンソールとヘッドアンプを共有してリモートコントロールすることができます。



資料

製品仕様

一般仕様

ミキシングキ ャパシティ	インプットチャン ネル	16 Mono、1 Stereo、2 FX Return
	バス	1 Stereo、6 Mix、2 FX、2 Matrix (Input to Matrixに対応)
	アナログ入力	16 Mic/Line (12 XLR + 4 XLR/TRS Phones Combo)
	アナログ出力	8 (XLR)
ローカルコネ クター	Dante I/O (DM3の み)	2 (etherCON : Primary/Secondary), 16 In/Out
	Ethernet	1 (RJ-45)
	USB to Host	1 (USB Type-B)
	USB to Device	1 (USB Type-A)
	Phones	1 (TRS Phones)
	DC電源入力	1 (XLR 4pin)
ユーザーインターフェース		9-inch multi-touch screen
		9 x 100 mm motorized fader (Resolution=1024 steps) (8 channels + 1 main)
		1 x Rotary Encoder (Touch and Turn)
録音/再生機能	PC (via USB to Host) (USB 2.0)	録音18トラック 再生18トラック
	USBストレージデ バイス	録音2トラック (USBハードディスク/SSD/フラッシュメモリ ー) 再生2トラック (USBハードディスク/SSD/フラッシュメモリ ー)
サンプリング周波数		96 kHz/48 kHz
シグナルディレイ		Less than 1.3 ms (CH INPUT to OMNI OUT @Fs=96 kHz)
周波数特性		+0.5、-1.0 dB 20 Hz-20 kHz、reference to the nominal output level@1 kHz、INPUT to OMNI OUT
全高調波歪率 *1		Less than 0.01% 20 Hz - 20 kHz@+4 dBu into 10 kΩ、INPUT to OMNI OUT、Input Gain= Min
ハム&ノイズ *2		-126 dBu typ.、Equivalent Input Noise、Input Gain= Max. -84 dBu、Residual output noise、ST main off
ダイナミックレンジ		110 dB typ.、DA Converter、 106 dB typ.、INPUT to OMNI OUT、Input Gain=Min.

クロストーク @1 kHz *3	-100 dB、adjacent INPUT/OMNI OUT channels、Input Gain=Min.
電源条件	DC24 V/2.5 A、PA-L500 (100 V-240 V、50 Hz/60 Hz)
消費電力	43 W
寸法 (W x H x D)	320 mm × 140 mm × 455 mm
質量	6.5 kg
温度範囲	動作温度範囲：0 ~40°C 保管温度範囲：-20 ~60°C
付属品	取扱説明書、電源アダプター（PA-L500 電源コード含む）、 DOWNLOAD INFORMATION
オプション	ラックマウントキットRK-DM3

*1. 全高調波歪率の測定には、80 kHz、-18 dB/Octのフィルターを用いています。

*2. ハム&ノイズレベルの測定にはA-Weightフィルターを用いています。

*3. クロストークの測定には、22 kHz、-30 dB/Octのフィルターを用いています。

アナログ入力規格

INPUT1-16

入力インピーダンス		10 k Ω
ソースインピーダンス		50-600 Ω Mics & 600 Ω Lines
入力レベル (GAIN : +64 dB)	感度 *1	-80 dBu (78 μ V)
	規定レベル	-60 dBu (0.775 mV)
	最大ノンクリップレベル	-40 dBu (7.75 mV)
入力レベル (GAIN : 0 dB)	感度 *1	-16 dBu (123 mV)
	規定レベル	+4 dBu (1.23 V)
	最大ノンクリップレベル	+24 dBu (1.23 V)
コネクタ		CH 1-12: XLR-3-31 *3 (Balanced)
		CH13-16: Combo Jack *3, *4 (Balanced)

*1. 感度とは、すべてのフェーダーとレベルコントロール類を最大に設定したときに、+4 dBu (1.23 V) もしくは規定レベルを出力するために必要な入力レベルです。

*2. XLR-3-31 コネクタはバランスタイプ (1=GND, 2=HOT, 3=COLD) です。

*3. TRS phoneコネクタはバランスタイプ (Tip=HOT, Ring=COLD, Sleeve=GND) です。

アナログ出力規格

OMNI OUT1-8

出カインピーダンス		75 Ω
負荷インピーダンス		10 kΩ Lines
出力レベル	規定レベル	+4 dBu (1.23 V)
	最大ノンクリップレベル	+24 dBu (12.3 V)
コネクタ		XLR-3-32 *1 (Balanced)

*1. XLR-3-32 コネクタはバランスタイプ (1=GND, 2=HOT, 3=COLD) です。

PHONES

出カインピーダンス		10 Ω
負荷インピーダンス		40 Ω Phones
出力レベル	規定レベル	2.5 mW
	最大ノンクリップレベル	100 mW
コネクタ		Stereo Phone Jack (TRS) *1 (Unbalanced)

*1. Stereo Phone Jack (TRS) コネクタはアンバランスタイプ (Tip=LEFT, Ring=RIGHT, Sleeve=GND) です。

デジタル入出力規格

Dante Primary/Secondary (only DM3)

フォーマット	Dante
データ長	24-bit/32-bit
レベル	1000BASE-T
オーディオ	16 ch input/16 ch output
コネクタ	etherCON (CAT5e) x2

USB TO HOST (for DAW)

フォーマット	USB 2.0
データ長	32-bit
レベル	USB 2.0
オーディオ	18 ch input/18 ch output
コネクタ	USB Type-B

USB TO DEVICE (for 2Tr REC/PLAY)

フォーマット	USB 2.0
データ長	24-bit
レベル	USB 2.0
オーディオ	Playback: MP3 or WAV file data Record: MP3 or WAV file data
コネクタ	USB Type-A

コントロール入出力規格

NETWORK端子

フォーマット	IEEE802.3
レベル	10BASE-T/100BASE-TX
コネクタ	RJ-45

メッセージ一覧

メッセージ	内容
Operation Failed!	実行に失敗した（汎用的なエラー）。
Invalid Name!	命名規則に違反している。
Invalid Value!	入力範囲を超えている。
Operation Ignored	User Defined Keyにアサインされた機能が、今の状態では使えない。
SCENE #XX is Empty!	リコールしようとしたシーンにデータがストアされていない、またはデータがこわれていてリコールできない。
SCENE #XX is Read Only!	読み込み専用のシーンに対して上書きでストアしようとした。
Cannot Store!	シーンメモリーやライブラリーのストアに失敗した。
Cannot Recall!	シーンメモリーやライブラリーのリコールに失敗した。
LIBRARY is Read Only!	ロックされたライブラリーを編集しようとした。
Operation Failed. Library X Memory Full.	最大数に達した状態でデータの追加をした。XにはAまたはBが入ります。
Wrong Word Clock sample rate! (Dante)	Sample Rate設定が不適切なため、DM3が同期できない。
Turn Off 1-knob Mode to Adjust.	1-knobモードが有効（オフにしてください）。
Nothing to Paste!	コピーバッファが空の状態でペーストされた。
Cannot Bookmark This Screen	この画面はブックマーク登録できない。
Page Does not Exist	ページが存在していない。
Not Bookmarked	まだBookmarkされていない。
Cannot Close This Popup.	ポップアップを閉じることができない。
File Busy! Operation Denied	USBストレージデバイスにアクセス中のため、処理できなかった。
Unsupported File Format!	USBストレージデバイスから、非対応フォーマットのファイルを読み込もうとした。
Saving Aborted	ファイルの保存に失敗した。
Loading Aborted	ファイルのロードに失敗した。
Storage Not Found!	USBストレージデバイスが認識できなかった。
Couldn't Write File	USBストレージデバイスにファイルを保存できなかった。
File Protected!	USBストレージデバイス上のファイルが書き込み禁止になっているため上書きできなかった。
Already Exists!	ディレクトリー作成、または名前を変更するときに、既に同じ名前のディレクトリーが存在する。
Couldn't Access File	USBストレージデバイス上のファイルが何らかの理由でアクセスできなかった。

メッセージ	内容
File Error!	内部的なファイルアクセスエラー。
Format Error!	フォーマットに失敗した。
Word Clock Error! Recorder Stopped!	Word Clockエラーのため、Recorderの処理を停止した。
USB Storage Unmounted! Recorder Stopped	USB Recorder動作中にUSBストレージデバイスを抜いたため、Recorderの処理を停止した。
USB Storage Full! Recorder Stopped	USB Recorder動作中にUSBストレージデバイスの容量が不足したため、Recorderの処理を停止した。
USB Storage Busy: Recorder Stopped!	USBストレージデバイスの処理に時間がかかり、録音/再生を停止した。
Illegal Storage Format!	不正なUSBストレージデバイスがUSB端子に挿入された。
Auto Rec Failed. Overed Maximum Songs 150.	150曲を超えてAuto Recしようとした。
Low Battery!	バックアップバッテリーの電圧が下がっている。
Illegal IP Address!	IPアドレスやゲートウェイアドレスの設定が不正である。
USB Sample Rate Mismatch on USB. Console is set to 48000Hz.	USB TO HOST端子で接続されたPCとDM3との間でSample Rateが異なっている。(コンソール: 48 kHz PC: 96.0 kHz) PCのSample Rateの設定を48 kHzに設定してください。
USB Sample Rate Mismatch on USB. Console is set to 96000Hz.	USB TO HOST端子で接続されたPCとDM3との間でSample Rateが異なっている。(コンソール: 96 kHz PC: 48.0 kHz) PCのSample Rateの設定を96 kHzに設定してください。
This device is not found	Danteに対応した機器がない。
Dante Module Error!	DM3やTio1608-DなどのDanteモジュールのエラー。
Illegal MAC Address!	DM3のMAC Addressが不適切で、通信不可能。
Device Fan has Malfunctioned!	Danteネットワークに接続されている機器でファンのエラーが発生している。
Memory Error!	Tio1608-DなどのDanteモジュールのメモリーエラー。
Unit ID Duplicated!	Danteネットワークに接続されている機器でUnit IDが重複している機器が存在している。
Illegal DIP Switch Setting	Danteネットワークに接続されている機器でDIP Switchの設定が間違っている。
Version Mismatch	Danteネットワークに接続されている機器でDanteのバージョンの整合性が取れていない。
Dante audio resource overflow. Please reduce Dante flows.	Danteネットワークに許容量以上の音声データが送信されている。

メッセージ	内容
	Tio1608-Dなどのパネルのスイッチの設定と実際の動作が異なる状態になっている。
Dante setting mismatch	Tio1608-Dなどに対してDante Device Lockが有効になっていて、パネルのUNIT IDスイッチと実際のUNIT IDが異なったときや、電源を投入したあとにUNIT IDを操作したときなどに表示されます。
Under Synchronization	Danteネットワークに接続されているTio1608-Dなどに対する設定を実行中。
Wrong Word Clock!	Sample Rate設定が不適切なため、DM3と同期できない。
Wrong Word Clock! (Dante Device)	Danteネットワークに接続されている機器のSample Rate設定が適切でないので、DM3と同期できない。
Dante port does not have connection	Danteポートが未接続になっている。
Dante Connection Error!	Danteネットワークに接続されている機器が存在しない。
Dante is working at 100Megabit, not 1Gigabit!	1Gbpsでリンクアップしていない。ネットワークスイッチが(1000BASE-T)に対応していない。
Dante has changed to Secondary Port!	Danteネットワーク接続されているポートがPRIMARYポートからSECONDARYポートに切り替わった。
Error occurred at Secondary Port	リダンダンシーネットワークのときに、SECONDARYポートが外れている。
Operating as the word clock leader	DM3がワードクロックのリーダーとして動作している。
Dante Module Restarted!	DM3のDanteモジュールが再起動した。
Dante Module Error! Please Restart the Console.	DM3のDanteモジュールにコンソールの再起動が必要なエラーが発生した。 この場合はコンソールを再起動してください。
Dante Connection Error! Please Restart the Console.	DM3のDanteモジュールとの通信に失敗した。 この場合はコンソールを再起動してください。
This console is enrolled in a Dante Domain.	DM3がDante Domain Managerによってドメインに登録されているため操作が無視された。
Dante Patch Timed out	Danteパッチ処理がタイムアウトで終了した。
Cannot Select 96k - AES67 Mode Enabled. To select 96k, disable AES67 Mode using Dante Controller.	DM3がAES67モードで動作しているため、Word Clockを96kHzに設定する事ができなかった。
Invalid Address Configuration : Subnet mismatched.	DM3のDante IPアドレスのサブネットが一致していない。
Permission Denied!	この操作をする権限が与えられていないため無視された。
Operation ignored, you are not logged-in.	ログインしていないため操作ができない。
Incorrect password entered	入力したパスワードが間違っている。

メッセージ	内容
Failed to finish the process! Please restart the Console and try again.	以下の初期化処理が120秒以内に終了しなかった。 <ul style="list-style-type: none"> • Initialize All Memory • Initialize Current Memory • Initialize Dante
Store Failed. Overed Maximum Size 1000.	ライブラリーの最大数1000を超えて保存しようとした。
Paste Failed. Overed Maximum Size 1000.	ライブラリーの最大数1000を超えてペーストしようとした。
File System is Not Ready. This Operation can Overwrite Existing Files or Directories.	ファイルシステムの準備ができていない。 このまま継続するとファイルまたはディレクトリを上書きする可能性がある。
Save Failed.This File is Set to Read-only.	読み込み専用のファイルだったため、保存に失敗した。
Paste Failed.This File is Set to Read-only.	読み込み専用のファイルだったため、ペーストに失敗した。
Delete Failed.This Directory is Set to Read-only.	読み込み専用のディレクトリだったため、削除に失敗した。
Delete Failed.This File is Set to Read-only.	読み込み専用のファイルだったため、削除に失敗した。
This File is Set to Read-only	読み込み専用のファイルだったため、編集に失敗した。
This Directory is Set to Read-only	読み込み専用のディレクトリだったため、編集に失敗した。
Exceed Maximum Number Library A :X items, Library B :X items	ライブラリーAの最大数を超えている。
Exceed Maximum Number Library B :X items	ライブラリーBの最大数を超えている。
Exceed Maximum Number Library A :X items, Library B :X items	ライブラリーA、Bの最大数を超えている。
Error Occurred During Firmware Update. Please Restart the Mixer and Execute the UpdateOnce Again.	ファームウェアのアップデートに失敗した。 再度ファームウェアのアップデートを実行してください。
Error Occurred During Dante Firmware Update. Please Restart the Mixer and Rewrite Firmware Using Failsafe Recovery in Dante Updater.	ファームウェアのアップデートに失敗した。 再度ファームウェアのアップデートを実行してください。 Dante Updaterを使用してフェールセーフリカバリーを実行してください。

メッセージ	内容
Dante is locked.Unlock the Dante using the Dante Controller.	DM3のDanteがロックされている。 Dante Controllerを使用してロックを解除してください。
This Mixer is enrolled in a Dante Domain. Un-enroll the Dante using the Dante Domain Manager.	DM3のDanteはDante Domainにエンロールしている。 Dante Domain Managerでエンロールを解除してください。
Recorder supports a maximum of 150 items in a folder. Please remove some files from this folder to continue.	Recorderがサポートしているソング数150を超えている。
USB Storage Not Ejected Properly! Recorder Stopped.	USBストレージ取り出しボタンを押さずにUSBストレージデバイスを抜いた。
Recorder Ready	Recorder異常停止後に再び使用できる状態になった。
Invalid IP address	ホストアドレスの正当性チェックに失敗した。
Invalid Subnet Mask	ネットマスクの正当性チェックに失敗した。
Link-Local IP addressing is not permitted	リンクローカルアドレスを設定しようとして失敗した。

トラブルシューティング

問題と原因	対策
音が出ない	
入力チャンネルの入力ソース（入力ポート）の設定が適切でない。	INPUT画面の入力ソース（入力ポート）の選択を確認してください。
該当チャンネルの[ON]キーがオフになっている。	オンにしてください。
該当チャンネルのフェーダー/ボリュームが上がっていない。	フェーダー/ボリュームを上げてください。
コンデンサーマイクにファンタム電源を供給していない。	SETUP画面で+48V Activeをオンにして、各INPUT画面でファンタム電源をオンにしてください。
ミュートがオンになっている。	ミュートグループのアサインとMute Group Controlの設定を確認してください。
ゲートがかかり過ぎている。	DYN1画面で設定を確認してください。
音が小さい	
ゲインの設定が適切でない。	INPUT画面でゲインを調整してください。
ゲートやコンプレッサーがかかり過ぎている。	DYN1画面やDYN2画面で設定を確認してください。
音が歪む	
ゲインの設定が適切でない。	INPUT画面でゲインを調整してください。
入力レベルが大きすぎる。	入力ソースの音量を下げてください。
DM3シリーズに直接接続したPCと通信ができない	
DM3シリーズとコンピューターのサブネットマスクが異なる。	Static IPモードでIPアドレスの設定を合わせてください。DHCPモードで使う場合は、DHCPサーバー機能を持つルーターを使用して、コンピューターのDHCP機能を有効にしてください。
フェーダーが動作しない	
モーターフェーダーの挙動にずれが生じている。	トップパネルのホームキーを押した状態で電源を入れ、MAINTENANCE画面でフェーダーのキャリブレーションを行ってください。

MIDIデータフォーマット

DM3シリーズが解釈して送受信できるデータのフォーマットについて説明します。

Control Change (Bn)

任意にアサインしたパラメーターの送受信ができます。

《受信》

Control Change RxがONでRx Chが一致したときに受信し、Control Change Eventの設定にしたがって、パラメーターを制御します。

《送信》

Control Change Eventで設定されているパラメーターを操作したときにControl Change TxがONであれば、Tx Chのチャンネルで送信します。

Control Change No. 0と32は、Program ChangeのBank Selectで使用するため、パラメーターをアサインできません。

STATUS	1011nnnn	Bn	Control change
DATA		00	Control number (00)
	0vvvvvvv	vv	Bank Select MSB
STATUS	1011nnnn	Bn	Control change
DATA		20	Control number (32)
	0vvvvvvv	vv	Bank Select LSB
STATUS	1011nnnn	Bn	Control change
DATA	0nnnnnnn	nn	Control number (1-31, 33-95, 102-119) *
	0vvvvvvv	vv	Control value (0-127)

* 96~101は使用できません。

Control valueからパラメーターデータへの変換

- アサインしたパラメーターがCH ONの場合

《受信》

0-63: Off, 64-127: On

《送信》

Off: 0, On: 127

- アサインしたパラメーターがFader HまたはFader Lの場合

Control value H	Control value L	パラメーター値
0	0	0
0	16	1
0	32	2
0	48	3
0	64	4
0	80	5
0	96	6
0	112	7
1	0	8
1	16	9
	:	
64	0	512
	:	
127	96	1022
127	127	1023

Program Change (Cn)

《 受信 》

Singleが選択されている場合、Program Change RxがONで、Rx Chが一致したときに受信します。ただしOmniがONの場合には、チャンネルに関係なく受信します。受信したらProgram Change Eventの設定に従って、シーンメモリーをリコールします。

《 送信 》

Program Change TxがONの場合、シーンメモリーがリコールされたときにProgram Change Eventの設定に従って送信します。Singleが選択されている場合、Tx Chのチャンネルで送信します。Multiが選択されている場合、リコールしたシーンメモリーが複数のProgram Change No.に割り当てられているときは、MIDI Chごとに一番小さいProgram Change No.で送信します。

Modeの設定でSingleかMultiかを選択できます。

Singleの場合

Rx ChとOmni Ch、Tx Chを選べます。BankをONにするとBank SelectでBankを指定できます。Bankは16まで設定できます。

Multiの場合

Rx ChとTx Chは同じになります。アサイン表はMIDI Chごとの設定になります。Bank Selectは使用できません。MIDI Chは16まで設定できます。

```
STATUS 1100nnnn   Cn  Program change
DATA    0nnnnnnn  nn  Program number (0-127)
```

チャンネルネームに使用できる言語

下記の言語表示に対応しています。

- Arabic
- Bulgarian
- Chinese
- Chinese TW
- Croatian
- Czech
- Danish
- Dutch
- English
- French
- German
- Hindi
- Hungarian
- Indonesian
- Italian
- Japanese
- Korean
- Persian
- Polish
- Portuguese
- Romanian
- Russian
- Serbian
- Slovenian
- Spanish
- Swedish
- Tagalog
- Thai
- Turkish
- Vietnamese

DM3 Editorショートカットキー

メニュー		キー操作	
		Windows	Mac
File	Load	Ctrl+O	Cmd+O
	Save	Ctrl+S	Cmd+S
	Quit	Alt+F4	Cmd+Q
Home	screen	ESC	ESC
SEL CH	Left	Ctrl+←	Cmd+←
	Right	Ctrl+→	Cmd+→
FADER BANK	INPUT	Ctrl+1	Cmd+1
	OUTPUT	Ctrl+2	Cmd+2
	CUSTOM	Ctrl+3	Cmd+3
SCENE	screen	Ctrl+5	Cmd+5
Meter	screen	Ctrl+6	Cmd+6
LIBRARY	screen	Ctrl+L	Cmd+L
Menu	Copy	Ctrl+Shift+C	Cmd+Shift+C
	Paste	Ctrl+Shift+V	Cmd+Shift+V
	Cut	Ctrl+Shift+X	Cmd+Shift+X
CH NAME	screen	F2	F2
TOUCH AND TURN	Inc/Dec	マウスホイール ↑/↓	マウスホイール ↑/↓
	Inc/Dec(Fine)	Shift+マウスホイール ↑/↓ Shift+ ↑/↓	Shift+マウスホイール ↑/↓ Shift+ ↑/↓
Window → Zoom	100%	Ctrl+Alt+1	Cmd+Option+1
	150%	Ctrl+Alt+2	Cmd+Option+2
	200%	Ctrl+Alt+3	Cmd+Option+3
Manage Library/ Scene	検索	Ctrl+F	Cmd+F
	Copy	Ctrl+C	Cmd+C
	Cut	Ctrl+X	Cmd+X
	Paste	Ctrl+V	Cmd+V
	Select All	Ctrl+A	Cmd+A
	ドラッグによる移動	Shift+ドラッグ	Cmd+ドラッグ
	ドラッグによるコピー	Ctrl+ドラッグ	Option+ドラッグ
	ひとつ階層を上げる	Backspace	Cmd+ ↑
	ひとつ階層を下がる	Enter	Cmd+ ↓
	dm3fファイルの展開	ダブルクリック	Cmd+O、ダブルクリック

メニュー	キー操作	
	Windows	Mac
削除	Delete	Cmd+Delete
コンテキストメニュー	Shift+F10、右クリック	Ctrl+右クリック

データリスト

DM3シリーズのその他のデータリストは下記のヤマハウェブサイトをご覧ください。

<https://manual.yamaha.com/pa/mixers/dm3/dl/>

データリストには以下の情報などが含まれます。

- Scene/Preset対象パラメーターリスト
- MIDI Implementation Chart

ブロックダイアグラム

DM3シリーズ ブロックダイアグラムは下記のヤマハウェブサイトをご覧ください。
<https://manual.yamaha.com/pa/mixers/dm3/bd/>

ヤマハ プロオーディオウェブサイト
<https://www.yamahaproaudio.com/>

ヤマハダウンロード
<https://download.yamaha.com/>

© 2021 Yamaha Corporation

2023年4月発行 NV-A1